

一般	必修	コミュニケーション	0079	学修単位	1	<input type="text"/>	ジェイ スカー													
専門	選択	地域活動ゼミ	0060	履修単位	1	<input type="text"/>	手島 裕 詞													
専門	必修	一般物理	0061	学修単位	2	<input type="text"/>	大隅 秀 晃													
専門	必修	工学基礎概論	0062	学修単位	2	<input type="text"/>	松永 陽 一郎													
専門	必修	数値プログラミング	0063	学修単位	1	<input type="text"/>	松谷 茂 樹													
専門	必修	情報通信	0064	学修単位	2	<input type="text"/>	唐沢 俊 一													
専門	必修	システム・プログラム論	0065	学修単位	2	<input type="text"/>	寺山 康 教													
専門	必修	電子制御工学	0066	学修単位	2	<input type="text"/>	坂口 彰 浩													
専門	必修	工学実験・実習	0067	学修単位	3	<input type="text"/>	中村 嘉 男,兼 田 一 幸, 志久 嶋, 修 樹 田 英 樹, 坂口 彰浩, 手島 裕詞, 前田 貴信, 榎田 諭,唐 沢 俊 一, 川下 智幸													
専門	必修	卒業研究	0068	履修単位	10	<input type="text"/>	中村 嘉 男,兼 田 一 幸, 志久 嶋, 修 樹 田 英 樹, 坂口 彰浩, 手島 裕詞, 前田 貴信, 榎田 諭,唐 沢 俊 一													
専門	選択	ロボット工学	0069	学修単位	1	<input type="text"/>	山本 郁 夫													
専門	選択	制御工学特論	0070	学修単位	1	<input type="text"/>	川下 智 幸													
専門	選択	情報通信特論	0071	学修単位	2	<input type="text"/>	中村 嘉 男													
専門	選択	知識工学	0072	学修単位	1	<input type="text"/>	佐藤 雅 紀													
専門	選択	画像工学	0073	学修単位	1	<input type="text"/>	志久 修													
専門	選択	システム工学	0074	学修単位	2	<input type="text"/>	寺山 康 教													

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	0027		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	『改訂版国語総合』(筑摩書房) / 『意味から学ぶ常用漢字ワイド版』(第一学習社)				
担当教員	田崎 弘章				
到達目標					
<p>1. 評論文を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解することができる。</p> <p>2. 近代の小説を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解することができる。</p> <p>3. 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。</p> <p>4. 語句の意味、常用漢字、ことわざ、慣用句などの基礎知識についての理解を深め、その特徴を認識することができる。</p> <p>5. 代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	高校1年生相応の漢字熟語や慣用表現等の語彙を習得し、正確に表記・使用できる。	習得している語彙が高校1年生相応には不足しているが、身につけようとする意識が高い。	習得している語彙が高校1年生相応に達しておらず、身につけようとする意識も乏しい。		
評価項目2	比喩的、象徴的な表現に込められた含意を理解し、文学作品を鑑賞できる。	比喩的、象徴的な表現に込められた含意の理解に関心があり、文学作品を鑑賞できる。	比喩的、象徴的な表現に込められた含意の理解に関心がなく、文学作品を鑑賞できない。		
評価項目3	文語文法、漢文訓読の基礎を習得し、初歩的な古典教材を読解、鑑賞することができる。	文語文法、漢文訓読の基礎の習得に努め、初歩的な古典教材の内容を理解することができる。	文語文法、漢文訓読の基礎を習得できず、初歩的な古典教材の内容についても理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	近現代の優れた文学作品を味読・鑑賞し、比喩的、象徴的な表現に込められた含意を汲み取り、日本語による表現の可能性を探る。現代評論、中でも科学技術に関する評論を読み、論旨を正確に理解し、工業高等専門学校で学ぶ知識、技術を社会的な文脈に位置づける。現代文の読解を通して、自らが使用できる日本語の語彙・表現を増やし、漢字熟語の読み書きを正確なものとする。文学作品の読解、現代評論の理解については、感想文等の提出を求める。また、古文・漢文の読解の基礎を習得し、入門的な古典教材の読解を通じて、我が国が長い歴史の中で育んできた文化、美意識、価値観、倫理観等を学ぶ。				
授業の進め方・方法	原則として週に1回、授業の開始時に漢字熟語・慣用句等の小テストを実施する。その後、座学形式で教材文の読解を進めていく。適宜、発問をし回答を求める。学生は教科書、補助教材に加えて、ノート、辞書(電子辞書可)を準備して授業に臨むこと。				
注意点	漢字・慣用句等の小テストは、成績評価に10%分加味する。また、感想文等の提出物は成績評価に10%分加味する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 内田樹「話を複雑にすることの効用」	授業の概要や到達目標、評価方法・基準などを理解できる。 現代文の効果的学習法を知る。	
		2週	〃	現代評論を読み、逆説的な表現について知る。	
		3週	古典文法1(歴史的仮名遣い、品詞の種類、用言) 「いろは歌」	歴史的仮名遣いを習得し、文語と口語の違いを理解できる。 古典の効果的学習法を知る。	
		4週	『宇治拾遺物語』より入門用教材	品詞の分類・用言の活用について理解できる。	
		5週	〃	基本的な古語の意味を理解し、口語訳ができる。	
		6週	川上弘美「神様」「神様2011」	川上弘美の二つの作品を読み、創作の背景を理解する。	
		7週	〃	小説の舞台設定や登場人物の行動、心情の変化を理解する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	西江雅之「『食べ物』と『伝統』」	現代評論を読み、物事を新しい視点から見つめ直すことの大切さを学ぶ。	
		10週	〃	教材に関連した内容を扱っている他の文章を読み、思索を広げる。	
		11週	古典文法2(主要な助詞・助動詞) 『伊勢物語』「芥川」「東下り」	主要な助詞・助動詞の意味を理解し、口語訳ができる。	
		12週	〃	時代的な背景を踏まえて『伊勢物語』を鑑賞する。	
		13週	林京子「空き缶」	長崎原爆による被爆体験を題材とした小説を読み、時代背景と作品との関係を知る。	
		14週	〃	小説の舞台設定や登場人物の行動、心情の変化を理解する。	
		15週	〃	小説の感想をまとめる。	
		16週	定期試験		
後期	3rdQ	1週	宇野重規「(私)時代のデモクラシー」、湯浅誠「貧困は自己責任なのか」	現代社会を論じた文章に用いられる語句、表現を理解する。	
		2週	〃	文章の構成を理解し、評論文の主題を把握する。	
		3週	〃	二つの現代評論を関連付けて読むことにより、それぞれの文章に対する読みを深める。	

4thQ	4週	古典文法3（用言の活用と助詞・助動詞の接続） 『土佐日記』『門出』『帰京』	古文における用言の活用と助詞・助動詞の接続について、基礎的な文法を理解できる。
	5週	〃	『土佐日記』の日本文学史上の位置を理解する。
	6週	「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」	「土佐日記」の筆者・紀貫之の業績を学び、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集中の和歌を鑑賞する。
	7週	〃	日本文学における和歌の歴史を知る、
	8週	中間試験	
	9週	山田登世子「贅沢の条件」、春木良目「情報が世界を動かす」	現代社会を論じた文章に用いられる語句、表現を理解する。
	10週	〃	文章の構成を理解し、評論文の主題を把握する。
	11週	〃	二つの現代評論を関連付けて読むことにより、それぞれの文章に対する読みを深める。
	12週	漢文訓読の基礎 入門期教材（故事等）	漢文学習の意義を学び、漢文訓読のきまりを知る。
	13週	〃	漢文の基本的な句法を学ぶ、
	14週	論語	訓点に従って漢文を書き下し文に改め、意味を理解する。
	15週	〃	「論語」にみられる思想・文化を理解する。
	16週	定期試験	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・提出物	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	10	0	0	0	100
基礎的能力	80	10	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地理
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	新詳地理B(帝国書院), 新詳高等地図 (帝国書院)				
担当教員	牧野 一成				
到達目標					
<p>1.自分自身, 家族など自分の周りにいる人たち, 地域社会の人々, 国民, 世界中の人々, さらには将来の世代を含めた人類の幸福のために, 行動できることを究極の目標とする。</p> <p>2.到達目標1.に近づくために必要な資質・能力を高めることにつながる地理的な知識, 地理的な見方・考え方を修得する。</p> <p>3.世界の地形や気候などの自然環境について理解し, 概略を説明できる。</p> <p>4.世界および日本の人口問題について理解し, 私たちの社会がこれから直面する課題に対して考え, 行動することができる。</p> <p>5.資源やエネルギー, 農業や食糧などの問題について理解し, 私たちの社会がこれから直面する課題に対して考え, 行動することができる。</p> <p>6.地形図の演習を通して, 空間認識能力を高める</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自分自身, 家族など自分の周りにいる人たち, 地域社会の人々, 国民, 世界中の人々, さらには将来の世代を含めた人類の幸福のために, 行動できる		到達目標1の意義, すなわち何のために学ぶのかを理解できる。		未到達レベルの目安 評価項目3...不可 評価項目1 (到達目標1)自分自身, 家族など自分の周りにいる人たち, 地域社会の人々, 国民, 世界中の人々, さらには将来の世代を含めた人類の幸福のために, 行動できる到達目標1の意義, すなわち何のために学ぶのかを理解できる。到達目標1の意味を理解できない
評価項目2	到達目標2, 3, 4, 5が達成できている		到達目標2, 3, 4, 5の達成に向けて学び続ける意思を持っている。到達2, 3, 4, 5をある程度達成できている		到達目標2, 3, 4, 5を達成できていない
評価項目3	地形図上で, ダムの建設適地を探するなど, 応用的な地形図演習問題にも対応出来る 流域の概念を正しく理解し, 流域の設定などの基本的な地形図演習問題ができる		地形図 (比較的侵食作用が進んだ山地域) に描かれた等高線を見て, 尾根線・谷線を描くことができる		立体的な地形模型を見ても, どこが尾根で, どこが谷であるかを理解できない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代世界が抱える諸課題, 具体的には環境問題や資源・エネルギー問題, 食糧問題, 人口問題などについて学ぶ。さらに, 授業に並行して地形図演習を実施する。				
授業の進め方・方法	講義, 演習, ビデオ視聴 教科書・地図帳・地形図の教材や筆記用具に加えて準備するもの: ノート(B5版, ルーズリーフでないもの), 方眼紙 (1mmメッシュ, A4版, 準備する時期は授業で案内するので, 最初は不要)				
注意点	評価は年4回の定期試験と随時提出を求めるレポート類で総合評価し, 60点以上を合格とする。試験のみで60点以上の場合は, 試験100%を原則とする。試験で60点未満の場合は, 試験70%~100%, レポート類30%~0%の範囲で評価する。レポート類が未提出や不完全な場合は, 最大30%までの範囲で, 試験の成績からのマイナス評価とする。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の基本方針・概要説明	学習目標や授業方法について理解できる	
		2週	地形図概説と地形図演習の準備	地形図の基本的な事項について理解できる	
		3週	地理情報と地図, 地図の歴史や投影法	地理情報や地図に関する基本的な事項を理解できる	
		4週	丸い地球を理解する	時差やサマータイム制度の意味について理解できる	
		5週	内的営力と外的営力	地形が内的営力と外的営力の作用で変化することを理解できる	
		6週	内的営力による地形	プレートテクトニクス, 地殻変動, 火山活動について理解できる	
		7週	外的営力による地形 (河川・海岸・氷河)	河川や海岸, 氷河による侵食・堆積地形について理解できる	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	プレートテクトニクスの発展学習	プレートが動く証拠を何によって示せるか, 理解できる	
		10週	九州の火山地形と災害	身近な地域の地形と火山災害の関係を理解できる	
		11週	世界の気候	気候に関する基本的な概念を理解できる	
		12週	世界の気候区分 (ケッペンの気候区分)	気候区分の考え方や区分の基準について理解できる	
		13週	世界各地の気候環境	各気候帯の植生や農牧業などについて理解できる	
		14週	気候安定化のシステム	地球の気候を安定化させる働きを理解できる	
		15週	異常気象と災害	異常気象と災害について理解できる	
		16週			
後期	3rdQ	1週	世界の人口問題, 人口爆発	人口爆発など, 世界の人口問題の基本的事項を理解できる	
		2週	人口増加と環境問題	人口増加が地球環境に及ぼす影響について理解できる	

		3週	人口増加と食糧問題	人口や環境の問題と食糧・農業問題との関連を理解できる	
		4週	人口増加と資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題と今後の課題について理解できる	
		5週	人口増加に直面する途上国	発展途上国が抱える諸問題について理解できる	
		6週	南北問題と援助	先進国と途上国との間の望ましい関係について理解できる	
		7週	メディアリテラシー	メディアリテラシーを高めることの意義について理解できる	
		8週	中間試験		
		4thQ	9週	地形図演習（尾根と谷，流域）	等高線の屈曲から，地形の3次元的な形態を理解できる
			10週	日本の人口問題	日本の人口構成の現状について理解できる
	11週		日本の少子高齢化と人口減少社会	今後の日本社会が抱える問題について理解できる	
	12週		世界の農業と私たちの暮らし	私たちの命を支える食が世界と繋がっていることを理解できる	
	13週		食糧増産の歩み	これまでの農業の発展過程について理解できる	
	14週		農産物市場の国際化と日本の農業問題	日本の農業が置かれている現状と課題を理解できる	
	15週		よりよい未来を拓くには	私たちはどう生きてゆけば良いのか，考えることができる。	
	16週				

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	代数
科目基礎情報					
科目番号	0029		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	基礎数学 (森北出版) / 基礎数学問題集 (森北出版)				
担当教員	中村 真一				
到達目標					
1. 2次方程式・高次方程式・連立方程式を解くことができる 2. 無理方程式・分数方程式・2次不等式を解くことができる 3. 2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる 4. 指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、基本的な指数方程式・指数不等式を解くことができる 5. 対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、基本的な対数方程式・対数不等式を解くことができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
2次方程式・高次方程式・連立方程式	2次方程式・高次方程式・連立方程式の意味を理解し、解法を正しく説明できる	2次方程式・高次方程式・連立方程式の解を求めることができる	2次方程式・高次方程式・連立方程式の解を求めることができない		
無理方程式・分数方程式・2次不等式	無理方程式・分数方程式・2次不等式の意味を理解し、解法を正しく説明できる	無理方程式・分数方程式・2次不等式の解を求めることができる	無理方程式・分数方程式・2次不等式の解を求めることができない		
2次関数のグラフと最大値・最小値	2次関数の性質をよく理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる	2次関数のグラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる	2次関数のグラフをかくことや最大値・最小値を求めることができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	高学年の数学や専門科目を理解するための基礎となる科目で、代数計算・複素数・恒等式・因数定理・2次関数の性質・分数関数・無理関数・指数関数・対数関数等について学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校までに学習した数学の内容 講義室：ホームルーム 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：演習用ノート、配付プリント保管ファイル				
注意点	評価の方法：中間・期末に行う計4回の試験の得点の平均点を90%、小テスト5%、実力テスト5%で評価し、60% (60点) 以上を合格とする。 自己学習の指針：授業で課題を出すので、必ず自力で解いておくこと。試験前にはノート・プリントを整理し、課題・練習問題が理解できている状態にしておくこと。 オフィスアワー：月曜日 16:00から17:00、木曜日 16:00から17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実数・複素数の性質	実数と複素数の性質を理解し、その加減乗除が計算できる	
		2週	整式の加減乗の計算	整式に対して、その加法・減法・乗法が計算できる	
		3週	因数分解	基本的な整式の因数分解ができる	
		4週	剰余の定理と因数定理	剰余の定理と因数定理が理解できる	
		5週	分数式	分数式の加減乗除が計算できる	
		6週	2次方程式と解の判別式	2次方程式の解を解くことができ、解の判別ができる	
		7週	2次方程式と解の判別式	2次方程式の解を解くことができ、解の判別ができる	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	高次方程式と因数定理	高次方程式を因数定理を用いて解くことができる	
		10週	連立方程式、分数・無理方程式	基本的な連立方程式、分数・無理方程式をとくことができる	
		11週	集合とドモルガンの法則	集合について理解し、ドモルガンの法則の意味が理解できる	
		12週	命題と条件、必要・十分条件	命題とは何かを理解し、必要・十分条件が理解できる	
		13週	逆・裏・対偶命題	命題の逆・裏・対偶命題の意味を理解することができる	
		14週	恒等式の性質と部分分数分解	恒等式の意味が理解でき、部分分数分解に応用できる	
		15週	等式の証明	等式が成り立つことを計算により証明できる	
		16週	不等式の証明と相加・相乗平均の不等式	不等式が成り立つことを計算により証明できる	
後期	3rdQ	1週	2次関数の性質とグラフ	2次関数の性質を理解することができ、グラフがかけられる	
		2週	2次関数の最大値と最小値	2次関数の最大値・最小値を求めることができる	
		3週	2次関数と2次方程式・2次不等式	2次関数を利用して、2次方程式・不等式を解くことができる	
		4週	関数とそのグラフの移動	関数のグラフの平行移動の意味が理解できる	
		5週	分数関数とそのグラフ	分数関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる	
		6週	無理関数とそのグラフ	無理関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる	
		7週	合成関数、逆関数とグラフ	基本的な関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる	

		8週	中間試験	
4thQ	9週	累乗と指数法則の拡張	累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に応用できる	
	10週	指数関数とグラフ	指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる	
	11週	指数関数を含む方程式と不等式	指数関数を含む基本的な方程式・不等式を解くことができる	
	12週	対数とその基本的性質	対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる	
	13週	対数関数とそのグラフ	対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる	
	14週	対数関数を含む方程式	対数関数を含む基本的な方程式を解くことができる	
	15週	対数関数を含む不等式	対数関数を含む基本的な不等式を解くことができる	
	16週	常用対数	常用対数の意味を理解し、計算に応用できる	

評価割合				
	試験	小テスト	実力テスト	合計
総合評価割合	90	5	5	100
基礎的能力	90	5	5	100

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	幾何
科目基礎情報					
科目番号	0030	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	基礎数学 (森北出版) / 基礎数学問題集 (森北出版)				
担当教員	堂平 良一				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 三角比・三角関数の定義を理解し、幾何学的な問題や三角関数のグラフを取り扱うことができる。 2. 加法定理およびそれから導出される様々な公式を使うことができる。 3. 三角方程式・三角不等式を解くことができる。 4. 直線の方程式、2次曲線の方程式を理解し、そのグラフや、不等式で表される領域を図示できる。 5. 基本的な場合の数を順序立てて求めることができる。 					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標 1, 2, 3)		三角関数について十分理解し、それらの応用問題が解ける。	三角関数についてほぼ理解し、それらの基本的問題が解ける。	三角関数について理解が不十分で、それらの基本的問題も解けない。	
評価項目2 (到達目標 4)		直線や2次曲線の方程式について十分理解し、それらの応用問題が解ける。	直線や2次曲線の方程式について理解し、それらの基本的問題が解ける。	直線や2次曲線の方程式について理解が不十分で、それらの基本的問題も解けない。	
評価項目3 (到達目標 5)		場合の数について十分理解し、それらの応用問題が解ける。	場合の数について理解し、それらの基本的問題が解ける。	場合の数について理解が不十分で、それらの基本的問題も解けない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	工学で最も重要な関数である三平方の定理の拡張である三角関数を学ぶ。楕円や双曲線などの2次曲線など性質を学ぶ。起こりうる事柄を順序だてて効率よく数える数え方を学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校までに学習した数学の内容 講義室：ホームルーム 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：演習用ノート、配付プリント保管ファイル				
注意点	評価の方法：中間考査・期末考査の4回と実力試験が90%、課題10%で評価し60点以上を合格とする。 自己学習の指針：ほぼ毎回の授業で課題を出すので、次の授業までに必ず解いておくこと。試験前にはノート・プリントを整理し、課題・練習問題が理解できている状態にしておくこと。 オフィスアワー：月曜日 16:30から17:30、水曜日 16:00から17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	三角形と三角関数	三角比の定義を理解し、値を求めることができる。	
		2週	正弦定理	正弦定理を理解し、応用問題が解ける。	
		3週	余弦定理	余弦定理を理解し、応用問題が解ける。	
		4週	三角形の面積	三角比を利用して図形の面積を求めることができる。	
		5週	一般角・弧度法	一般角と弧度法を理解して、角度を表すことができる。	
		6週	正弦と余弦	正弦関数と余弦関数を理解し、値を求めることができる。	
		7週	正弦と余弦の関数のグラフ	正弦関数と余弦関数のグラフを描くことができる。	
		8週	正接	正接の定義を理解し、値を求めることやグラフを描くことができる。	
	2ndQ	9週	中間試験		
		10週	三角関数の基本公式	三角関数の基本公式を理解し、応用問題を解くことができる。	
		11週	三角関数の方程式	三角関数の方程式を解くことができる。	
		12週	三角関数の不等式	三角関数の不等式を解くことができる。	
		13週	加法定理	加法定理を理解し、応用することができる。	
		14週	加法定理から導かれる公式	加法定理から導かれる様々な公式を理解し、応用できる。	
		15週	三角関数の合成	三角関数の合成ができ、方程式、関数の最大値・最小値を求めることに応用できる。	
		16週	前期定期試験		
後期	3rdQ	1週	点の座標	直線上の点、平面上の点の座標について理解し、内分点・外分点などの座標を求めることができる。	
		2週	直線の方程式と2直線の関係	直線の方程式を理解し、条件に合った直線の方程式を求めることができる。	
		3週	複素平面と極座標	平面座標と複素数の対応を理解し、極座標表示ができる。	
		4週	円の中心と半径	円の方程式を理解し、応用問題が解ける。	
		5週	楕円	楕円の幾何学的な意味を理解し、応用問題が解ける。	
		6週	双曲線と放物線	双曲線と放物線の幾何学的な意味を理解し、応用問題が解ける。	

4thQ	7週	2次曲線と直線	2次曲線と直線に関する問題が解ける。
	8週	中間試験	
	9週	不等式の表す領域	不等式の表す領域を図示することができる。
	10週	領域における最大値と最小値	線形計画法の問題が解ける。
	11週	場合の数と順列	場合の数の基本的な性質を使って場合の数を求めることができる。
	12週	いろいろな順列	順列や順列を応用していろいろな場合の数を求めることができる。
	13週	組み合わせ	組み合わせの数を求めることができる。
	14週	同じ種類のものを含む順列	組み合わせの考え方を順列の計算に応用することができる。
	15週	二項定理	二項定理を理解し、応用問題が解ける。
	16週	後期定期試験	

評価割合

	試験	課題提出	実力テスト	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学
科目基礎情報					
科目番号	0031		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	化学基礎/化学(東京書籍), フォトサイエンス化学図録(数研出版), センサー総合化学(啓林館)				
担当教員	原田 喜信				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の構造を正しく理解し, 説明することができる。 2. 種々の化学結合を正しく理解し, 説明することができる。 3. 化学の基礎法則を正しく理解し, 説明することができる。 4. molの概念, 化学反応式, 化学量論を正しく理解し, これらを問題解決のために使うことができる。 5. 酸・塩基の理論を正しく理解し, これらを問題解決のために使うことができる。 6. 実験器具の使い方を正しく理解し, 安全に実験を行うことができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1, 2, 3)	物質の探究をするために, 物質の分類, 物質の構造・状態・化学結合と物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則などの知識が必要であることを理解している。また, その知識で物質の構成に関する問題が解ける。	物質の探究をするために, 物質の分類, 物質の構造・状態・化学結合と物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則などの知識が必要であることを理解している。	物質の探究をするために, 物質の分類, 物質の構造・状態・化学結合と物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則などの知識が必要であることをほとんど理解していない。		
評価項目2 (到達目標4, 5)	物質量と化学反応式, 化学反応式が示す量的関係, 濃度, 酸と塩基に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 基本的な知識を身につけている。また, それらの問題を適切に解くことができる。	物質量と化学反応式, 化学反応式が示す量的関係, 濃度, 酸と塩基に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 基本的な知識を身につけている。	物質量と化学反応式, 化学反応式が示す量的関係, 濃度, 酸と塩基に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則をほとんど理解していない。		
評価項目3 (到達目標6)	化学的な事象・現象についての観察, 実験を通して, 自然科学に対する関心や探求心を持つ。このため安全に実験が行えるように, 薬品や火気の取り扱いなどを理解し, 模範に沿って代表的な器具の取り扱い, 基本操作が上手にできる。	化学的な事象・現象についての観察, 実験を通して, 自然科学に対する関心や探求心を持つ。このため安全に実験が行えるように, 薬品や火気の取り扱いなどを理解し, 模範に沿って代表的な器具の取り扱い, 基本操作ができる。	化学的な事象・現象についての観察, 実験を通して, 自然科学に対する関心や探求心を持つ。このため安全に実験が行えるように, 薬品や火気の取り扱いなどを理解し, 模範に沿って代表的な器具の取り扱い, 基本操作をほとんど身につけていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我々の身の回りに満ちあふれている「物質」を科学的に考察し, 特に物質の構造と化学変化を理解するための基礎理論を学習する。これらの知識をもとに実験・演習を数多く経験することにより, 将来必要となる化学的思考力・問題解決力を身につける。				
授業の進め方・方法	予備知識: 中学3年までに習得した理科・数学に関する知識を整理・復習しておくこと。 講義室: 1M・E・S教室(実験を行う際は化学実験室) 授業形式: 講義と演習, 学生実験, 適宜教師実験も行う。 学生が用意するもの: ノート(100枚綴), 関数電卓, レポート用紙, A4サイズファイル				
注意点	評価方法: 中間・期末の定期試験(4回)を80%, 演習・レポート等を20%により評価し, 60点以上を合格とする。 自己学習の指針: 授業の前日までに教科書を熟読し, 疑問点などをノートしておく。教科書の間, 練習問題などを自力で解いて完全に理解しておく。また, 演習問題および小テストなどを予習し, 解説終了後, 更に復習すること。 オフィスアワー: 水曜日 16:00~17:00, 金曜日 16:00~17:00				
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	化学的なものの見方, 元素, 単体, 化合物, 同素体	元素, 単体, 化合物, 同素体について理解している。	
		2週	純物質, 混合物, 原子, 主な元素の元素名と元素記号	純物質, 混合物, 原子, 主な元素の元素名と元素記号を説明できる。	
		3週	原子核, 陽子, 中性子, 電子, 原子番号, 原子の構造と同位体	原子の構造と同位体を理解している。	
		4週	電子殻, 閉殻, 価電子, 原子の電子配置	電子殻, 閉殻, 価電子, 原子の電子配置を理解している。	
		5週	イオンの生成, イオン式, 多原子イオン, イオン結合	イオンとイオン結合の概念を理解し, イオン式, 多原子イオンを理解している。	
		6週	イオン化エネルギー, イオン結合性物質の組成式	イオン化エネルギー, イオン結合性物質の組成式を理解している。	
		7週	電気的中性の原理, 周期律と周期表の構造	電気的中性の原理, 周期律と周期表の構造を理解している。	
	8週	共有結合, 共有電子対, 不対電子	共有結合の概念を理解し, 共有電子対, 不対電子を理解している。		
	2ndQ	9週	中間試験		
		10週	非共有電子対, 主な分子の電子式と構造式	非共有電子対, 主な分子の電子式と構造式を理解している。	
		11週	化学の基礎法則	化学の基礎法則を理解している。	
		12週	配位結合, 極性	配位結合, 極性を理解している。	
		13週	電気陰性度, 水素結合, 金属結合	電気陰性度, 水素結合, 金属結合を理解している。	
14週		体心立方格子, 面心立方格子, 六方最密充填構造	金属の結晶の構造について理解している。		

		15週	化学結合の分類, 原子量	化学結合の分類, 原子量を理解している。
		16週		
後期	3rdQ	1週	分子量・式量, molの考え方	分子量・式量, molの考え方を理解し, 式を用いて計算できる。
		2週	物質量とアボガドロ定数, 気体分子 1 molの体積	物質量とアボガドロ定数, 気体分子 1 molの体積を理解し, 式を用いて計算できる。
		3週	molに関する演習	molの概念を理解し, 式を用いて計算できる。
		4週	化学変化と物理変化, 化学反応式の作り方, 係数の意味	化学反応を理解し, 化学反応式が作れる。
		5週	係数決定法(計算法, 直観法)演習	化学反応式が作れる。
		6週	化学反応式が表す量的関係(I)	化学反応式が表す量的関係を理解している。
		7週	化学反応式が表す量的関係(II)	化学反応式が表す量的関係を理解している。
		8週	中間テスト	
	4thQ	9週	酸・塩基とはなにか, 酸・塩基の性質 I	酸・塩基の性質を理解し, 説明できる。
		10週	酸・塩基の性質 II、ブレンステッドの酸・塩基, 酸性(塩基性)酸化物	酸・塩基の性質を理解し, 説明できる。ブレンステッドの酸・塩基の定義, 酸性(塩基性)酸化物を理解し, 説明できる。
		11週	酸・塩基の価数, 電離度, 弱酸・弱塩基の電離平衡	酸・塩基の価数, 電離度, 弱酸・弱塩基の電離平衡について理解し, 説明できる。
		12週	酸・塩基の電離定数, 酸・塩基の強弱	酸・塩基の電離定数, 酸・塩基の強弱について理解し, 説明できる。
		13週	水のイオン積, 水素イオン指数(pH), pHの計算	水のイオン積, 水素イオン指数(pH) について理解し, pHの計算ができる。
		14週	塩の分類, 塩の加水分解	塩の分類, 塩の加水分解について理解している。
		15週	中和に関する量的関係, 中和滴定	中和に関する量的関係, 中和滴定について理解している。
		16週		

評価割合

	試験	演習問題・小テスト	ノート	出席	合計
総合評価割合	80	10	5	5	100
基礎的能力	80	10	5	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	生物
科目基礎情報					
科目番号	0033		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	改訂生物基礎(第一学習社)、最新図説生物(neo)、クリア生物基礎				
担当教員	植垣 研二				
到達目標					
<p>1. 生物には共通性と多様性があることに気づき、細胞の働きによってすべての生物の生命活動が維持されていることを理解し、説明することができる。</p> <p>2. DNAの構造と機能の概要を学習し、生物の特徴が遺伝子の働きによって決まることを理解し、説明することができる。</p> <p>3. 生物には体内環境を一定の状態に維持するしくみがあることを理解し、体内環境の維持と健康の関係について考えることができる。</p> <p>4. バイオームの概念を学習し、生物が多様な環境に適応して生活していることを理解し、説明することができる。</p> <p>5. 生態系の成り立ちとその保全の重要性について理解し、自分なりに考えることができる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標1)		生物には共通性と多様性があることに気づき、細胞の働きによってすべての生物の生命活動が維持されていることを理解し、説明することができる。	生物には共通性と多様性があることに気づき、細胞の働きによってすべての生物の生命活動が維持されていることを理解している。	生物には共通性と多様性があることに気づくことができず、細胞の働きによってすべての生物の生命活動が維持されていることを理解していない。	
評価項目2 (到達目標2)		DNAの構造と機能の概要を学習し、生物の特徴が遺伝子の働きによって決まることを理解し、説明することができる。	DNAの構造と機能の概要を学習し、生物の特徴が遺伝子の働きによって決まることを理解している。	DNAの構造と機能の概要についての学習が十分ではなく、生物の特徴が遺伝子の働きによって決まることを理解していない。	
評価項目3 (到達目標3)		生物には体内環境を一定の状態に維持するしくみがあることを理解し、体内環境の維持と健康の関係について考えることができる。	生物には体内環境を一定の状態に維持するしくみがあることを理解している。	生物には体内環境を一定の状態に維持するしくみがあることを理解していない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	生物や生命現象にみられる特性のなかで、生物に共通する特徴や代謝、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生態系の成り立ちと働きといった現代生物学の基礎となる内容を学習し、その基本的な概念や原理・法則を理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学までに習得した理科に関する学習内容と生活経験による知識 講義室：1MESC教室 授業形式：講義と演習及び簡単な実験(各章終了時に必要に応じ演習や小テスト・ノート検査を実施) 学生が用意するもの：教科書、最新図説生物(neo)、クリア生物基礎、大学ノート				
注意点	評価方法：中間・期末の定期試験(4回)を80%、演習・小テスト・課題を20%により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：毎時間、使用するテキスト・問題集の予習に取り組み、授業に備えてください。授業で学習した内容を復習し、質問があれば積極的に質問してください。また、復習と理解の確認のために課題を15回課すので、毎回自分の力で解いて提出すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生物基礎の学習をはじめにあたって	生物基礎を学習する意義を理解できる。	
		2週	生物の多様性と共通性	生物は共通の祖先から進化し多様化したことを理解できる。	
		3週	細胞にみられる多様性と共通性	細胞の構造の多様性と共通性、およびその働きを理解し、説明できる。	
		4週	代謝とエネルギー	代謝に伴うエネルギーの移動とATPの役割を理解できる。	
		5週	代謝と酵素	代謝は酵素によって円滑に進められていることを理解できる。	
		6週	光合成	光合成のしくみを理解し、説明できる。	
		7週	呼吸	呼吸のしくみを理解し、説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	遺伝子の本体の構造	DNAの二重らせん構造について理解できる。	
		10週	遺伝情報の複製と分配	細胞分裂に伴う遺伝情報の複製と分配について理解できる。	
		11週	遺伝情報とタンパク質の合成	タンパク質の合成に遺伝情報が関係していることを理解し、説明できる。	
		12週	遺伝子とゲノム	遺伝子とゲノム、および遺伝子の発現について理解できる。	
		13週	体液とその働き	体内環境である体液の種類と働きについて理解し、説明できる。	
		14週	腎臓の構造と働き	体液成分の濃度の調節に関わる腎臓の働きを理解できる。	
		15週	肝臓の構造と働き	体液成分の調節に関わる肝臓の働きを理解できる。	
		16週	定期試験		
後期	3rdQ	1週	自律神経系による調節	自律神経系の働きによる体内環境維持のしくみを理解し、説明できる。	

		2週	内分泌系による調節	ホルモンの働きによる体内環境維持のしくみを理解できる。
		3週	血糖濃度の調節	血糖濃度の調節のしくみを理解し、説明できる。
		4週	体温の調節	体温調節のしくみを理解し、説明できる。
		5週	免疫	ヒトには、病原体を排除するしくみが備わっていることを理解できる。
		6週	自然免疫と獲得免疫	自然免疫と獲得免疫が相互に活性化し、協調的に作用するしくみを理解できる。
		7週	免疫に関する疾患と医療	免疫に関する身近な疾患と医療について理解し、健康について考えることができる。
		8週	中間試験	
		4thQ	9週	植生の多様性と分布
	10週		植生の成り立ちと遷移	植生の成り立ちと遷移の過程について理解できる。
	11週		バイオームとその分布	バイオームの種類・分布と気候の関係を理解できる。
	12週		生態系の成り立ち	生態系の構成や物質の生産と消費の関係を理解し、説明できる。
	13週		物質循環とエネルギーの流れ	炭素循環と窒素循環、およびエネルギーの流れを理解できる。
	14週		生態系のバランス	生態系のバランスと人間活動による影響について理解し、説明できる。
	15週		生態系の保全	生態系保全の重要性とその取り組みについて理解し、自分なりに考えることができる。
	16週		定期試験	

評価割合

	試験	演習・小テスト・課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育
科目基礎情報					
科目番号	0034		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	最新スポーツルール (大修館) / 必要に応じてプリント、ビデオ等を使用する。				
担当教員	大山 泰史				
到達目標					
1. 集団行動において基本的な行動様式が実践できる。 2. ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、サッカーの基本動作ができる。 3. 新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができる。 4. 身体組成、有酸素能力等の測定により健康と体力について理解できる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
集団行動において基本的な行動様式が実践できる。		基本的な集団行動規範に基づいて行動でき、他者(チームやクラス)への指示や協力ができる。 授業や各種目のルールに則って安全に進行ができる。また、授業で使う道具や施設の準備を行ったり、それらを安全に配置することができる。他者との協力協調してチームのために参加・応援・補助をすることができる。	整列、体操、実技中の行動において、基本的な集団行動規範に基づいて行動できる。 授業や各種目のルールに則って安全に行動ができる。また、授業で使う道具や施設を適切に使用することができる。自分本位な活動にならないように参加・応援・補助をすることができる。	整列、体操、実技中の行動において、基本的な集団行動規範に基づいて行動できない。 授業や各種目のルールに則った行動や安全に配慮したプレー・活動ができない。また、授業で使う道具や施設を安全に適切に使用できない。個人活動の割合が多くなったり、自分本位な活動ばかりを行う。	
ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、サッカーの基本動作ができる(ラジオ体操第二を含む)。		基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、積極的に練習や試合を運営することができる。経験者もしくは合格者はチームやクラスメイト学生(未経験者)に指導をし、その学生の技能を高めることができる。	基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、練習や試合に参加できる。経験者もしくは合格者はチームやクラスメイト学生(未経験者)に技能向上に関する指導をすることができる。また、競技やゲーム運営の手法として活動することができる。	基本的な技術を身につけたり、ルールを覚えることが殆ど出来ず、練習や試合に対して消極的な態度で参加して。経験者でありながらチームやクラスメイト学生(未経験者)に技能向上に関する指導や競技やゲーム運営及び補助を行わない。	
新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができる。		新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を大きく上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。全国統一の評価表に基づいて、平均値を超えるパフォーマンスを発揮することができる。	新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。全国統一の評価表に基づいて、平均値に到達することができる。	新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を上回っていくことができない。自己の体力を調べるために、測定に全力をもって挑んでいない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各運動種目の基本技能を習得するとともに、体力の向上を目指す。また、健康、安全、運動について理解する。				
授業の進め方・方法	授業場所 : 第二体育館がグラウンドにて行う。その他、必要に応じて総合グラウンドや教室でも実施する。 授業形式 : 実技を中心に進め、前期と後期にそれぞれ講義と筆記試験を1回ずつ実施する。 用意するもの : 指定の体操服と体育館シューズ、グラウンドシューズを用意しておくこと。指定服装以外での授業参加は認めない。 主な授業内容 : <前期> 1. 集団行動等 : 整列、行進等の行動様式を身につける。ラジオ体操第2、体育祭練習を行う。 2. ソフトボール : 送球、捕球、打撃の基本技能を身につける。ルールを理解し、基本的なゲームを行う。 3. バレーボール : オーバー、アンダーパスの基本技能を身につける。ルールを理解し、基本的なゲームを行う。 4. 新体力テスト : (屋内種目) 握力、反復横跳び、長座体前屈、上体起こしの記録測定を行う。 5. 保健理論 : 身体組成について学び、自身の測定調査も行う。身体組成に関する筆記試験を行う。 <後期> 1. 新体力テスト : (屋外種目) 50m走、立ち幅跳、ハンドボール投げ、持久走の記録を測定する。 2. バスケットボール : パス、ドリブルの基本技能を身につける。ルールを理解し、基本的なゲームを行う。 3. サッカー : パス、ドリブルの基本技能を身につける。ルールを理解し、基本的なゲームを行う。 4. 保健理論 : 有酸素運動について学び、筆記試験を行う。12分間走を実施し、有酸素能力を推定する。				
注意点	評価方法 : 実技試験、体力テスト、12分間走による評価70%、筆記試験、レポート等15%、授業への取り組み等15%で評価を行い、60点以上を合格とする。 自己学習の指針 : 最新スポーツルール(大修館)を活用し、授業内容の理解がより深まるように各種目の技術やルールを予習・復習する。また、生涯を通じてスポーツに親しむ(する・見る・支える)資質を養うために、各種目の起源(歴史)や特徴(楽しさ)を学ぶ。 その他 : 担当者により、授業内容の順序・授業方法・評価方法に違いがあるので、授業最初のガイダンスで確認すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション(授業の概要、受講上の注意)、掃除の仕方、集団行動	年間の授業の流れを把握し、評価方法、受講方法を確認する。集合・整列方法を理解する。	
		2週	集団行動、ラジオ体操第2 ①	ラジオ体操第2の方法を理解する。	
		3週	ラジオ体操第2 ② ソフトボール④(※雨天時はバレーボール)	キャッチボール、バッティングを学ぶ	

後期	2ndQ	4週	ラジオ体操第2 ③ ソフトボール② (※雨天時はバレーボール)	中継プレー, 連携プレーを学ぶ。	
		5週	ラジオ体操第2 ④ ソフトボール③ (※雨天時はバレーボール)	ゲームの運営方法を学ぶ。	
		6週	体育祭の練習、ソフトボール④	体育祭の練習を通して、協調性を高める。実技試験の課題をクリアする。実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。	
		7週	体育祭の練習、ソフトボールの試験	体育祭の練習を通して、協調性を高める。実技試験の課題をクリアする。	
		8週	ソフトボールの試験、新体力テストの練習	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・持久走の練習をする。	
		9週	新体力テスト (握力、反復横跳び、長座体前屈、上体起こし)	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・持久走の測定を行い自身の体力を知る。	
		10週	バレーボール ①、身体組成測定	パス, スパイク, サーブ, レセプションを学ぶ。	
		11週	バレーボール ②	ローテーション, ゲームの方法を学ぶ。	
	12週	バレーボール ③、身体組成に関する講義	ゲームの運営方法を学ぶ。身体組成の知識を深める。		
	13週	バレーボール ④	実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。		
	14週	バレーボールの試験	実技試験の課題をクリアする。		
	15週	筆記試験 (身体組成)	身体組成に関する知識・理解度を確認する。		
	16週	筆記試験解説、実技試験予備日	身体組成に関する知識・理解を深める。		
	後期	3rdQ	1週	オリエンテーション (後期授業の概要、受講上の注意)	後期の授業の流れを把握し、評価方法、受講方法を再確認する。
			2週	サッカー ①	3人パス、5人パス、ミニゲームができる。
			3週	サッカー ②	ドリブルドリル、ミニゲームができる。
4週			サッカー ③	ゲームができる。	
5週			サッカー ④	実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。	
6週			競技大会の練習	競技大会に向けてクラスで協力し技能を高める。	
7週			サッカーの試験、新体力テストの練習	実技試験の課題をクリアする。50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・持久走の練習をする	
8週			新体力テスト (50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、持久走の記録測定)	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・持久走の測定を行い自身の体力を知る。	
4thQ		9週	バスケットボール ①	パス, ツーメンパス, ドリブル, レイアップができる。	
		10週	バスケットボール ②	四角パス, ゴール下シュート, ゲームができる。	
		11週	バスケットボール ③	スクリーン, ゲームができる。	
		12週	バスケットボール ④、有酸素運動に関する講義	実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。有酸素運動 (能力) に関する知識を深める。	
		13週	バスケットボールの試験	実技試験の課題をクリアする。	
		14週	12分間走の練習、筆記試験 (有酸素運動)	12分間走の練習を行う。有酸素運動に関する知識・理解度を確認する。	
		15週	12分間走の測定	12分間走の測定を行い、自身の体力 (有酸素能力) を知る。	
		16週	筆記試験解説、実技試験予備日	有酸素運動に関する知識・理解を深める。	

評価割合

	実技試験	筆記試験	取り組み・態度	合計
総合評価割合	70	15	15	100
基礎的能力	70	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語	
科目基礎情報						
科目番号	0035	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3			
開設学科	電子制御工学科	対象学年	1			
開設期	通年	週時間数	前期:2 後期:2			
教科書/教材	『BIG DIPPER English Communication I』, 『BIG DIPPER English Communication I ワークブック』, 『BIG DIPPER English Communication I ベシクノート』 (以上数研出版), 『EG 3000英単語・熟語』(いづな書店)					
担当教員	大里 浩文					
到達目標						
<p>① 中学校で習得した、また高専1年次で学習する文法事項を理解し、自分の意思を英語で表現することができる。</p> <p>② 英文を聞き、あるいは読み、大意をとらえ、情報や考えを的確に理解することができる。</p> <p>③ 内容を理解した英文について、発音に留意しながら表現し、その内容を英語で書くことができる。</p> <p>④ 1800語レベルまでの語彙を習得し、読解や聞き取りに活用できる。</p> <p>⑤ 自学自習の習慣を確立し、英検3級を取得するとともに、英検準2級を目指す。</p>						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 (到達目標①)	進出の文法事項を用いて、既習事項も踏まえながら自分の考えや意図を表現することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解できない。			
評価項目2 (到達目標②)	英文を聞き、あるいは読み、情報や考えを的確に理解することができる。	英文を聞き、あるいは読み、大意をとらえることができる。	英文を聞いても、あるいは読んでも大意をとらえることができない。			
評価項目3 (到達目標③)	内容を理解した英文について、聞き手に伝わるように適切なリズム・イントネーションで表現することができる。また、その内容を読み手にわかりやすい適切な英語で書くことができる。	内容を理解した英文について、発音やリズム・イントネーションに留意しながら音読することができる。また、その内容を英語で表現することができる。	まとまりのある英文について、発音やリズム等に留意しながら音読をしたり、その内容を英語で表現したりすることができない。			
評価項目4 (到達目標④)	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に十分に活用することができる。	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に辞書等を使用しながら最低限活用することができる。	語彙習得に対する自学自習の習慣が確立されていない。			
評価項目5 (到達目標⑤)	英検準2級に合格する。	英検3級を取得し、英検準2級合格に向けて自学自習の習慣を確立する。	英検3級を取得するための学習習慣が確立されていない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	文法事項の確認をしながら、書き手の意図を把握できるリーディング能力を育成するためのタスク活動に取り組む。また、音読・再生を通して既習内容の定着を図る。更に、定期的に単語小テストや英検準2級を目指した活動を行う。					
授業の進め方・方法	予備知識：中学校3年間で習得した文法事項・語彙、またそれを簡単な情報のやり取りのコミュニケーションに用いる技術。 講義室：各HR教室 授業形式：講義・演習 学生が用意するもの：配布資料、板書ノート、英和辞書（電子辞書を含む）					
注意点	評価方法：後期中間試験は定期試験70点、課題テスト10点、小テストや各課題の取り組み状況など20点で評価し、その他3回は定期試験80点、小テストや各課題の取り組み状況など20点で評価する。4回の平均が60点以上で合格とする。 自己学習の指針：毎授業、英単語の意味調べや本文の内容把握などの予習をしておくこと。また、学習した内容は教科書レベルであれば自己表現できるように復習にも取り組むこと。 オフィスアワー：月・水 16:10～17:10					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび学習方法の説明	・学習の到達目標、学習内容、留意点を理解できる。		
		2週	Lesson 1 High School Life at Home and Abroad Part 1 ・現在形と過去形	・日本の制服が留学生にどのように見えているかについて理解できる。 ・現在形と過去形を認識できる。		
		3週	Lesson 1 High School Life at Home and Abroad Part 2 ・現在進行形 <be動詞+~ing>	・日本の学校行事が留学生にどのように見えているかについて理解できる。 ・現在進行形 <be動詞+~ing>を認識できる。		
		4週	Lesson 1 High School Life at Home and Abroad Part 3 ・未来を表す表現 <will+動詞の原形>	・日本の教室掃除が留学生にどのように見えているかについて理解できる。 ・未来を表す表現 <will+動詞の原形>を認識できる。		
		5週	Lesson 2 Giant Pandas: Everyone's Favorite Part 1 ・S+V+C, S+V+O	・なぜパンダがかわいいのかを理解できる。 ・S+V+C, S+V+Oを認識できる。		
		6週	Lesson 2 Giant Pandas: Everyone's Favorite Part 2 ・動名詞 (名詞用法)	・パンダを取り巻く諸問題を理解できる。 ・動名詞 (名詞用法)を認識できる。		
		7週	Lesson 2 Giant Pandas: Everyone's Favorite Part 3 ・不定詞 (名詞・形容詞・副詞用法)	・パンダ保護に対する中国の取り組みができる。 ・不定詞 (名詞・形容詞・副詞用法)を認識できる。		
		8週	中間試験			

2ndQ	9週	中間試験の返却と解説 Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman Part 1 ・受動態 <be動詞+過去分詞>	・アンパンマンとはだれかを理解できる。 ・受動態 <be動詞+過去分詞>を認識できる。
	10週	Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman Part 2 ・S+V+O+O, S+V+O+C	・やなせ氏のアイデアが「残酷」と言われた理由について理解ができる。 ・S+V+O+O, S+V+O+Cを認識できる。
	11週	Lesson 3 Yanase Takashi: The Creator of Anpanman Part 3 ・S+V+O+O (=that節, 疑問詞+to不定詞)	・アンパンマンを最初に気に入った人はだれかについて理解できる。 ・S+V+O+O (=that節, 疑問詞+to不定詞)+Cを認識できる。
	12週	Lesson 4 The History of the Telephone Part 1 ・現在完了形 <have/has+過去分詞>	・携帯電話のない生活を想像できる。 ・現在完了形 <have/has+過去分詞>を認識できる。
	13週	Lesson 4 The History of the Telephone Part 2 ・関係代名詞 (who・which・that)	・携帯用電話がいつ発明されたかについて理解できる。 ・関係代名詞 (who・which・that)を認識できる。
	14週	Lesson 4 The History of the Telephone Part 3 ・分詞 (現在分詞・過去分詞)の形容詞用法	携帯電話にまつわる諸問題を理解できる。 ・分詞 (現在分詞・過去分詞)の形容詞用法を認識できる。
	15週	Lesson 3およびLesson 4の復習	
16週			
3rdQ	1週	Lesson 5 Universal Design: Why Is It Important for You? Part 1 ・形式主語 <It is~to do...>	・自動販売機に見るユニバーサルデザインについて理解できる。 ・形式主語 <It is~to do...>を認識できる。
	2週	Lesson 5 Universal Design: Why Is It Important for You? Part 2 ・比較級 <比較級+than~>	・ユニバーサルデザインを考える上で重要になることについて理解することができる。 ・比較級 <比較級+than~>を認識できる。
	3週	Lesson 5 Universal Design: Why Is It Important for You? Part 3 ・原級 <as ~ as...>	・バリアフリーとユニバーサルデザインの違いについて理解できる。 ・原級 <as ~ as...>を認識できる。
	4週	Lesson 5 Universal Design: Why Is It Important for You? Part 4 ・最上級 <the+最上級>	・ユニバーサルデザインの基本的な考えについて理解することができる。 ・最上級 <the+最上級>を認識できる。
	5週	Lesson 6 J.K Rowling: Everyone Has Hidden Power Part 1 ・would / used to	・ハリー・ポッターがどのように誕生したかについて理解できる。 ・would / used toを認識できる。
	6週	Lesson 6 J.K Rowling: Everyone Has Hidden Power Part 2 ・過去完了 <had+過去分詞> (完了・結果)	・ハリー・ポッターの世界観について理解できる。 ・過去完了 <had+過去分詞> (完了・結果)を認識できる。
	7週	Lesson 6 J.K Rowling: Everyone Has Hidden Power Part 3 ・過去完了 <had+過去分詞> (継続)	・ハリー・ポッターの完成までに乗り越えた問題点について理解できる。 ・過去完了 <had+過去分詞> (継続)を認識できる。
	8週	中間試験	
4thQ	9週	中間試験の返却と解説 Lesson 7 The Bicycle: An Old Friend and a New Friend Part 1 ・現在分詞の分詞構文 (理由)	・自転車は流行遅れかについて考えることができる。 ・現在分詞の分詞構文 (理由)を認識できる。
	10週	Lesson 7 The Bicycle: An Old Friend and a New Friend Part 2 ・現在分詞の分詞構文 (付帯状況)	・人々がどのように自転車を用いるのかについて理解できる。 ・現在分詞の分詞構文 (付帯状況)を認識できる。
	11週	Lesson 7 The Bicycle: An Old Friend and a New Friend Part 3 ・S+V+O+C (V=知覚動詞, C=現在分詞)	・自転車に関わる問題点を理解できる。 ・S+V+O+C (V=知覚動詞, C=現在分詞)を認識できる。
	12週	Lesson 7 The Bicycle: An Old Friend and a New Friend Part 4 ・S+V+O+O (V=使役動詞, C=原形不定詞)	・自転車に関わる問題点の解決法について理解できる。 ・S+V+O+O (V=使役動詞, C=原形不定詞)を認識できる。
	13週	Lesson 8 From Child to Adult: When Do You Change? Part 1 ・S+V+O+O (V=使役動詞, C=原形不定詞)	・成長するとはどのようなことかについて考えることができる。 ・S+V+O+O (V=使役動詞, C=原形不定詞)を認識できる。
	14週	Lesson 8 From Child to Adult: When Do You Change? Part 2 ・形式主語 <It is(was) ~ that...>	・法律が定義する成人期について理解できる。 ・形式主語 <It is(was) ~ that...>を認識できる。
	15週	Lesson 8 From Child to Adult: When Do You Change? Part 3 ・関係副詞 (where)	・成人年齢を下げるべきかについて考えることができる。 ・関係副詞 (where)を認識できる。
	16週		

後期

評価割合			
	試験	小テストや課題への取り組み状況	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英作文
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	be English Expression I Standard, be English Grammar 46 & Workbook, 総合英語 be 3rd Edition (以上、いいずな書店), プリント教材				
担当教員	原口 和子				
到達目標					
<p>① 中学校で習得した、また高専1年次で学習する文法事項を理解し、それを用いて自分の意思を英語で表現することができる。</p> <p>② 英文を聞き、あるいは読み、情報や考えを的確に理解することができる。</p> <p>③ 内容を理解した英文について、発音に留意しながら表現し、その内容を英語で書くことができる。</p> <p>④ 1800語レベルまでの語彙を習得し、読解や聞き取りに活用できる。</p> <p>⑤ 自学自習の習慣を確立し、英検3級を取得するとともに、英検準2級を目指す。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標①)	進出の文法事項を用いて、既習事項も踏まえながら自分の考えや意図を表現することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解できない。		
評価項目2 (到達目標②)	英文を聞き、あるいは読み、情報や考えを的確に理解することができる。	英文を聞き、あるいは読み、大意をとらえることができる。	英文を聞いても、あるいは読んでも大意をとらえることができない。		
評価項目3 (到達目標③)	内容を理解した英文について、聞き手に伝わるように適切なリズム・イントネーションで表現することができる。また、その内容を読み手にわかりやすい適切な英語で書くことができる。	内容を理解した英文について、発音やリズム・イントネーションに留意しながら音読することができる。また、その内容を英語で表現することができる。	まとまりのある英文について、発音やリズム等に留意しながら音読をしたり、その内容を英語で表現したりすることができない。		
評価項目4 (到達目標④)	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に十分に活用することができる。	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に辞書等を使用しながら最低限活用することができる。	語彙習得に対する自学自習の習慣が確立されていない。		
評価項目5 (到達目標⑤)	英検準2級に合格する。	英検3級を取得し、英検準2級合格に向けて自学自習の習慣を確立する。	英検3級を取得するための学習習慣が確立されていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語の学習において必要不可欠な英文法の基本的なルールを体系的に習得し、これからの高専における英語学習の基礎を築くことを目的とする。また理解度を確認するために、定期的に小テストを行う。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校で習得した文法事項・語彙、またそれを簡単な英文で表現するために用いる技術。講義室：各HR教室 授業形式：講義、演習 学生が用意するもの：ノート、(電子)辞書				
注意点	評価方法：定期試験90%、提出物10%で評価する。それら4回の平均点が60点以上を合格とする。自己学習の指針：授業で説明したことの復習に基づき、指示された箇所の演習問題や課題に取り組んでください。また、次の授業の予習も行ってください。わからない箇所があったら、参考書などを使って自学自習に努めてください。オフィスアワー：月・水 16:10~17:10 備考：1・2年で完結するコースなので教科書は2年でも継続使用する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 1 英語の語順 (1)	基本5文型に関して、基本的な事項を認識できる。	
		2週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 1 英語の語順 (1)	演習を通して、基本5文型について理解を深める。	
		3週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 2 英語の語順 (2)	there is構文、接続詞、自動詞、他動詞に関して、基本的な事項を認識できる。	
		4週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 2 英語の語順 (2)	演習を通して、there is構文、接続詞、自動詞、他動詞について理解を深める。	
		5週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 3 文の種類	否定文、疑問文、命令文、感嘆文に関して、基本的な事項を認識できる。	
		6週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 3 文の種類	演習を通して、否定文、疑問文、命令文、感嘆文について理解を深める。	
		7週	復習	前期中間までの文法事項を復習し理解度を高める。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	試験返却と解説 be English Expression I Lesson 1 現在形	現在形および現在進行形に関して、基本的な事項を認識できる。	
		10週	be English Expression I Lesson 2 過去形・未来形	過去形および未来形に関して、基本的な事項を認識できる。	
		11週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 4 時制 (1) Lesson 5 時制 (2)	演習を通して、現在形、過去形、未来形について理解を深める。	
		12週	be English Expression I Lesson 3 現在完了形	現在完了形に関して、基本的な事項を認識できる。	
		13週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 6 完了形 (1)	演習を通して、現在完了形について理解を深める。	
		14週	be English Expression I Lesson 4 過去完了形	過去完了形・未来完了形に関して、基本的な事項を認識できる。	
		15週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 7 完了形 (2)	演習を通して、過去完了形・未来完了形について理解を深める。	

		16週	前期定期試験	
後期	3rdQ	1週	試験返却と解説 be English Expression I Lesson 5 助動詞①	さまざまな助動詞に関して、基本的な事項を認識できる。
		2週	be English Expression I Lesson 6 助動詞②	さまざまな助動詞に関して、基本的な事項を認識できる。
		3週	be English Expression I Lesson 7 助動詞③	さまざまな助動詞に関して、基本的な事項を認識できる。
		4週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 8 助動詞(1) Lesson 9 助動詞(2) Lesson 10 助動詞(3)	演習を通して、助動詞について理解を深める。
		5週	be English Expression I Lesson 8 受動態	受動態に関して、基本的な事項を認識できる。
		6週	be English Expression I Lesson 9 動詞の後の語順	受動態に関して、基本的な事項を認識できる。
		7週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 11 受動態(1) Lesson 12 受動態	演習を通して、受動態について理解を深める。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却と解説 be English Expression I Lesson 10 不定詞①	不定詞に関して、基本的な事項を認識できる。
		10週	be English Expression I Lesson 11 不定詞②	不定詞に関して、基本的な事項を認識できる。
		11週	be English Expression I Lesson 12 不定詞③	不定詞に関して、基本的な事項を認識できる。
		12週	be English Grammar 46 およびWorkbook Lesson 13 不定詞(1)~Lesson 16 不定詞(4)	演習を通して、不定詞について理解を深める。
		13週	be English Expression I Lesson 13 動名詞	演習を通して、英語の受動態について理解を深める(1)。
		14週	be English Expression I Lesson 17 動名詞(1)	演習を通して、英語の受動態について理解を深める(2)。
		15週	復習	後期期末までの文法事項を復習し理解度を高める。
		16週	後期定期試験	

評価割合

	試験	課題への取り組み	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	0037		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	English Firsthand Success (Pearson/Longman Publishing)				
担当教員	ジェイ ストッカー				
到達目標					
1. Students will learn colloquial American spoken English.. 2. Students will be able to carry out simple conversation in English. 3. Students will gain confidence in speaking English in classroom. 4. Students will feel comfortable using the language they know, while also practicing new vocabulary and grammatical structures. 5. Students will become familiar with native pronunciation of conversational English.					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1, 2, 3)	短い会話について、自分の言いたいことを伝えることができる。	簡単な会話において、大きな間違いをすることなく、おおよそのアウトラインを伝えることができる。	会話において、自分の言いたいことを伝えることができない。		
評価項目2 (到達目標 4)	短い会話に必要な語彙や構文を正しく理解し、適切に使うことができる。	会話に必要な語彙や構文をおおよそ理解し、大きな間違いをすることなく利用することができる。	会話に取り組むのに必要は語彙や構文を理解することができない。		
評価項目3 (到達目標 5)	短い会話を聞いて、その内容の概要を正しく理解することができる。	簡単な会話を聞いて、大きな間違いをすることなく、おおよその内容を理解することができる。	会話を聞いて、その内容を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	This communication class will help students to improve English through a variety of conversational tasks. Grammatical structure will be given with its meaning by linking them with appropriate social language and context.				
授業の進め方・方法	予備知識： Students are expected to know how to start daily conversation and to carry out easy verbal interaction without much trouble. 講義室： L L 教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの」テキスト・配布プリント				
注意点	評価方法： 20% quizzes, 20% In class activities, 60% midterm and final exams 自己学習の指針： Using textbooks, students are expected to engage in review and preview of what they learn. オフィスアワー： 授業の前後、または個別に指定された時間 (英語科森下へ連絡) *授業計画における中間試験実施週は早まる場合があります。その際は、授業の中で連絡をします。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Course Introduction and Unit 1: What's your name?	Students can introduce themselves to others.	
		2週	Unit1:	Students can talk about their favorite food and misuc.	
		3週	Unit 1 and Unit 2: I love fashion!	Students can explain what their name means in English.	
		4週	Unit 2: and Exam preparation	Students can describe what other people wear.	
		5週	Mid-term examination	In class test	
		6週	Unit 2:	Students can describe what other people wear.	
		7週	Unit 3: How do you stay healthy?	Students can talk about activities for their health and offer advice to help others.	
		8週	Final-examination	In class test	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週	Unit 4: How do I get there?	Students can give directions and follow directions to places of their interests on a map.	
		2週	Unit 4:	Students can talk about the location of places.	
		3週	Unit 5: What's that?	Students can describe objects and the materials they are made from.	
		4週	Mid-term Examination	In class test	
		5週	Unit 5: and Unit 6: What's your dream?	Students can talk about their goals and dreams for the future.	
		6週	Unit 6:	Students can talk about what they are doing this year, in 5 years and in 10 years.	
		7週	Final examination	In class test	

	4thQ	8週		
		9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	クイズ	インクラス活動	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	生産加工 I
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	機械工作1 (実教出版), 機械工作2 (実教出版)				
担当教員	槇田 諭				
到達目標					
1. 工業材料の機械的性質を理解できる。 2. 機械工業における各種の加工方法の特徴と用途がわかる。 3. 機械材料の性質と種類を把握し、特徴と用途がわかる。 4. 金属組織と状態変化が理解できる。 5. 加工方法とその目的が理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1, 3)	工業材料の機械的性質, その他の性質を理解し, 目的に応じた材料の選定方法を説明できる。	工業材料の機械的性質, その他の性質をおおよそ理解し, それを説明できる。	工業材料の機械的性質, その他の性質を十分に理解できていない。		
評価項目2 (到達目標3, 4)	金属組織の状態変化, 熱処理の原理が理解でき, それらを説明できる。	金属組織の状態変化, 熱処理の原理がおおよそ理解できる。	金属組織の状態変化, 熱処理の原理が十分に理解できていない。		
評価項目3 (到達目標2, 5)	機械工業における各種の加工方法の特徴と用途が理解でき, 目的に応じた加工法の選定を説明できる。	機械工業における各種の加工方法の特徴と用途がおおよそ理解でき, それらの手順を説明できる。	機械工業における各種の加工方法の特徴と用途が十分に理解できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	機械工業における生産技術について, 各種の加工法の原理と方法を学び, それぞれの特徴と用途を理解する。加えて, 加工の対象となる機械材料の性質と種類を理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識: 物理, 化学の基礎, および機械工業に対する理解 講義室: 1S教室 授業形式: 講義 学生が用意するもの: 参考書「機械工作法 (独立行政法人 雇用・能力開発機構 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター)」				
注意点	評価方法: 演習・レポート (30%) と, 中間・期末試験 (各35%) を行い, 60点以上を合格とする。 自己学習の指針: 教科書をよく読み, 内容をよく理解するとともに, 重要な項目を自身でまとめる。また, 関連分野について積極的に調べ, 知識を蓄積する。おおよそ授業時間と同時間の予習・復習を実施することが望ましい。 オフィスアワー: 金 16:00-17:00				
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	概要説明, 機械工業のあゆみ, 機械材料の種類	機械工業とその製品, 材料の概要を把握できる。	
		2週	材料の機械的性質	引張強さ, 硬さ, 疲労, 破壊などの概念を説明できる。	
		3週	金属・合金の結晶と状態変化	金属材料の状態変化, 変形のメカニズムを説明できる。	
		4週	炭素鋼の性質, 熱処理	炭素鋼の機械的および化学的な性質および熱処理の原理を説明できる。	
		5週	合金鋼, 鋳鉄	合金鋼および鋳鉄の種類とその特徴を説明できる。	
		6週	非鉄金属材料	アルミニウム, 銅, チタンなどの性質と用途を説明できる。	
		7週	非金属材料	セラミックス, プラスチックなどの性質と用途を説明できる。	
	8週	中間試験	機械工業材料の種類, 特徴を網羅的に説明できる。		
	4thQ	9週	鋳造	砂型鋳造法, その他の鋳造法の原理と手順, 用途を説明できる。	
		10週	溶接 (1)	ガス溶接法, アーク溶接法の原理と手順, 用途を説明できる。	
		11週	溶接 (2)	抵抗溶接法, 鍛接, ろう接の原理と手順, 用途を説明できる。	
		12週	塑性加工	塑性加工の基本的な工程と特徴や用途を説明できる。	
		13週	切削加工 (1)	切削加工の特徴とその用途, 旋盤, フライス盤などの工作機械を説明できる。	
		14週	切削加工 (2)	切削工具とその材料の特徴を説明できる。	
		15週	切削加工 (3)	切りくずの発生原理や切削油剤の用途を説明できる。	
16週					
評価割合					
	試験	演習・レポート	合計		
総合評価割合	70	30	100		
基礎的能力	0	0	0		
専門的能力	70	30	100		
分野横断的能力	0	0	0		

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	図学
科目基礎情報					
科目番号	0022		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	基礎応用 第三法図学 第2版 (岩井実ほか、森北出版), 電子製図 (実教出版), 第三法図学演習 (岩井実ほか、森北出版), 基礎電気・電子製図練習ノート (実教出版)				
担当教員	榎田 諭				
到達目標					
1. 空間にある点、線、平面の位置関係が理解できること 2. 三角定規、コンパスを用いて基礎的な作図ができること 3. 図形の投影図が理解できること 4. 第三法と等角投影法の変換ができること 5. 3次元CADの基本的な使い方ができること					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	空間にある点、線、平面の位置関係が理解でき、三角定規、コンパスを用いた応用的な作図ができる。	空間にある点、線、平面の位置関係がおおよそ理解でき、三角定規、コンパスを用いた基礎的な作図ができる。	空間にある点、線、平面の位置関係が理解できず、三角定規、コンパスを用いた応用的な作図ができない。		
評価項目2	図形の投影図が十分に理解でき、第三法と等角投影法の変換ができる。	図形の投影図がおおよそ理解でき、第三法と等角投影法の変換がほとんどできる。	図形の投影図が十分に理解できず、第三法と等角投影法の変換ができない。		
評価項目3	3次元CADの応用的な使い方ができ、自発的に作図できる。	3次元CADの基本的な使い方ができ、指定の作図ができる。	3次元CADの基本的な使い方ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	空間にある点、線、平面および立体などの間の関係を平面上の図形として表し、その位置関係や大きさを図形的に求める能力を身につける。また、後に学ぶ製図に必要な第三法図法などの投影法について、図の見方を習得する。				
授業の進め方・方法	予備知識：数学、幾何学（図形問題）の基礎 講義室：教室、ICT 授業形式：講義・演習 学生が用意するもの：製図道具一式、USBフラッシュメモリなどの保存媒体				
注意点	評価方法：演習課題 50%、期末試験 50% として評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：教科書をよく読み、内容をよく理解する。また、関連分野について積極的に調べ、知識を蓄積する。 補助教材の練習を参考に、教科書の演習、章末問題を自分で解いてみる。 オフィスアワー：金 16:00-17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	図学・製図の概要	図学・製図がものづくりの基本であることを理解できる。	
		2週	製図道具の使用方法、線の練習	製図道具・パソコンなどの基本的な使い方を理解できる。	
		3週	投影図、線、記号、文字	投影の考え方を理解し、かんたんな正投影図がかけられる。	
		4週	直線、角の等分割	定規とコンパスによる基本的な作図ができる。	
		5週	正n角形の作図	コンパスを用いて近似的に多角形の作図ができる。	
		6週	立体の基礎	投影の種類、正投影、第三法法の考え方を説明できる。	
		7週	立体の投影図（投影図）	第三法法による投影図と等角投影図を相互に変換できる。	
		8週	立体の投影図（3次元CAD）	3次元CADの簡単な操作法を理解できる。	
	2ndQ	9週	総合演習	演習により図学の基礎に関して理解する。	
		10週	点と直線の投影	第三法法による直線や点の投影図を作図できる。	
		11週	線分の実長、傾角	斜めに置かれた直線の投影図を理解できる。	
		12週	二直線の関係（交わり、平行）	2本の直線の空間的位置関係を理解できる。	
		13週	平面の投影	平面の表現の仕方を理解できる。	
		14週	平面と直線の交わり、距離	平面と直線の交点を求めることができる。	
		15週	二平面の関係	2つの平面の交点や交線および陰線が理解できる。	
		16週			
評価割合					
		試験	演習課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		0	0	0	
専門的能力		50	50	100	
分野横断的能力		0	0	0	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	製図	
科目基礎情報						
科目番号	0023		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	後期:1		
教科書/教材	電子製図					
担当教員	前田 貴信					
到達目標						
1. 第三角法で立体の投影図が描け、さらに投影図から立体図が描ける。 2. 製図に関する規格、規約などを正しく理解できる。 3. 製作図の線を正しく使用し、寸法等も正確に記入して、作図ができる。 4. 3D CADの特性・特長を理解し、製作図が作成できる。						
ルーブリック						
	(優)	(良)	(不可)			
第三角法で立体の投影図が描け、さらに投影図から立体図が描ける	十分にできる	ある態度できる	できない			
製図に関する規格、規約などを正しく理解できる	十分にできる	ある態度できる	できない			
製作図の線を正しく使用し、寸法等も正確に記入して、作図ができる	十分にできる	ある態度できる	できない			
3D CADの特性・特長を理解し、製作図が作成できる	十分にできる	ある態度できる	できない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	製図に関する規格と基礎的な知識および CAD の使用方法を習得する。立体物などを正しく製図し、かつ、読図することのできる能力を養う。					
授業の進め方・方法	予備知識：図学、幾何学の基礎 講義室：ICT演習室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：製図道具一式、電卓					
注意点	評価方法：演習（演習ノート、製図）への取り組み姿勢および演習課題の成果物で評価し、60点以上を合格とする。なお、演習課題は全て提出を必須とする。 自己学習の指針：教科書をよく読み、製図のための基礎知識を十分に蓄積、理解する。また、CAD の使用方法を積極的に習得し、自在に扱えるようにする。おおよそ授業時間と同時間の予習・復習を実施する。 オフィスアワー：月曜、水曜16:00～17:00					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	概要説明、製図の規格、用語	製図の重要性と作図のための規格・用語を理解できる		
		2週	製図の基礎、線、記号（1）	製図のための各種の線とその用途を理解できる		
		3週	製図の基礎、線、記号（2）	製図のための各種の線・記号とその用途を理解できる		
		4週	3D CAD の使用法、練習（1）	3D CAD を用いた基本的な作図（スケッチから押し出しまで）ができる		
		5週	3D CAD の使用法、練習（2）	3D CAD を用いた基本的な作図（各種チュートリアルを利用）ができる		
		6週	3D CAD の使用法、練習（3）	複数の部品を組み合わせて1つの部品を作ることができる（アセンブリ）		
		7週	製図：機械部品（1）	手書きで機械部品の作図ができる		
		8週	製図：機械部品（2）	機械部品の寸法を正しく記述できる		
	4thQ	9週	製図：機械部品（3）	3D CAD を用いて、機械部品の作図ができる		
		10週	製図：機械部品（4）	3D CAD を用いて、機械部品の作図および2Dの図面への変換ができる		
		11週	スケッチ、寸法測定	ノギスなどを使用して、各種の部品・製品の寸法を計測できる		
		12週	製図：機械要素、製品など（1）	作成したスケッチから立体物を作図できる		
		13週	製図：機械要素、製品など（2）	作図に必要な3D CAD の機能を適切に使用できる		
		14週	製図：機械要素、製品など（3）	仕上げ・着色・アセンブリなどの高度な機能を活用できる		
		15週	総合演習	3D CAD を有効に活用できる		
		16週				
評価割合						
	課題・提出物	発表	相互評価	態度	提出物	合計
総合評価割合	90	0	0	10	100	200
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	0	0	10	100	200
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報処理
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	後期:1	
教科書/教材	新・明解 C言語 入門編 柴田望洋 S Bクリエイティブ (株)				
担当教員	松谷 茂樹				
到達目標					
1. プログラミングの考え方を理解し、所望のフロー図の作成方法を習得する(A-2) 2. 変数の定義方法を理解し、条件や分岐、反復処理のプログラムの作成方法を習得する(A-2) 3. C言語での関数の扱いを理解し、戻り値、引数のある関数を使ったプログラムの作成方法を習得する(A-2) 4. 配列の利用方法を理解している(A-2) 5. C言語を用いて、基礎的なプログラムを作成する方法を習得する(A-2)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	プログラミングの考え方を理解し、仕様に従って最も合理的なフロー図を作成できる	プログラミングの考え方を理解し、所望のフロー図を作成できる	プログラミングの考え方を理解し、所望のフロー図を作成できる		
評価項目2	変数の定義方法を理解し、条件や分岐、反復処理のプログラムの複数の作成方法を提示できる	変数の定義方法を理解し、条件や分岐、反復処理のプログラムを作成できる	変数の定義方法を理解し、条件や分岐、反復処理のプログラムを作成できない		
評価項目3	C言語での関数の扱いを理解し、戻り値、引数のある関数を使ったプログラムを複数の作成できる	C言語での関数の扱いを理解し、戻り値、引数のある関数を使ったプログラムを作成できる	C言語での関数の扱いを理解し、戻り値、引数のある関数を使ったプログラムを作成できない		
評価項目4	配列の利用方法を理解して、関連するプログラムが作成できる	配列を利用したプログラミングが作成できる	配列を利用したプログラミングが作成できない		
評価項目5	与えられた問題に対する解決方法(アルゴリズム)を複数あげ、最適なものを選択し、プログラミングできる	与えられた問題に対する解決方法(アルゴリズム)をプログラミングできる	与えられた問題に対する解決方法(アルゴリズム)をプログラミングできない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	C言語を用いて、プログラミングの基礎を習得する				
授業の進め方・方法	予備知識： 特になし 講義室： I C T 1 授業形式： 講義と演習 学生が用意するもの： ファイルバイナリー、USBメモリ				
注意点	評価方法： 授業中に課す演習課題(40%)・前期、中間、期末及び後期、中間、期末試験(60%)により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針： 毎回の授業で課題を課すので、自分で解けるようにすること 試験時には、例題及び課題を理解できていること オフィスアワー： 月曜日 14:30~17:00 金曜日 14:30~17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	プログラムの考え方	プログラム言語の考え方を理解している	
		2週	プログラムの基本形と文字表示	C言語の基本形と文字表示を理解している	
		3週	整数型、実数型変数の宣言と使い方 プログラムとフローチャート	整数型、浮動小数点型変数の宣言と使い方プログラムとフローチャートとの関係を習得する	
		4週	条件分岐1 (if文、if-else文と比較演算)	if文、if-else文と比較演算の考え方を理解している	
		5週	条件分岐2 (if文、if-else文と論理演算)	if文、if-else文と論理演算の考え方を理解している	
		6週	条件分岐3 (switch文)	switch文による条件分岐ができる	
		7週	反復処理1 (while文、do-while文)	while文、do-while文による反復処理ができる	
		8週	反復処理3 (for文)	for文を使った反復処理ができる	
	4thQ	9週	後期中間試験	これまでの学習内容に関する問題が解ける	
		10週	反復処理4 (多重ループとbreak)	多重ループ、break、continue、go toの利用方法を習得する	
		11週	1次元配列	1次元配列が扱える	
		12週	関数とは	C言語における関数を理解している	
		13週	戻り値・引数のある関数	戻り値・引数のある関数が使え	
		14週	戻り値・引数のない関数・プロトタイプ宣言	戻り値・引数のない関数とプロトタイプ宣言が使え	
		15週	総合演習	これまでの学習内容に関する問題が解ける	
		16週			
評価割合					
		試験	課題・レポート	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		30	20	50	

専門的能力	30	20	50
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎電気工学
科目基礎情報					
科目番号	0025	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	電気基礎 (コロナ社)				
担当教員	唐沢 俊一				
到達目標					
1. 直流回路について、オームの法則やキルヒホッフの法則/原理などについて説明/計算ができる。(A3) 2. 電流と磁気について、磁界、電流による磁界、電磁力、磁気回路と磁性体について説明/計算ができる。(A3) 3. 電磁誘導についてファラデー/レンツの法則、フレミングの右手の法則、誘導起電力について説明/計算ができる。(A3) 4. インダクタンスの基礎として自己インダクタンス、相互インダクタンス、直列接続、電磁結合、変圧器、コイルに蓄えられる電磁エネルギーなどについて説明/計算ができる。A3					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
原子と自由電子、電荷、電流、電圧の理解。	説明ができる。電荷・電流・時間の関係式も導出ができる。	一部できる。	できない。		
オームの法則、電流、電圧、抵抗の関係の理解。	オームの法則の説明、電流・電圧・抵抗を計算できる。	並列/直列などの単純な回路の計算はできる。	説明も計算もできない。		
直流回路の合成抵抗の理解。	複雑な直並列回路の計算やブリッジの平衡条件が計算ができる。	部分的な説明および計算ができる。	単純な回路の計算もできない。		
直流電圧計の直列抵抗器と倍率、および直流電流計の分流器と倍率の関係の理解。	説明ができ、倍率の式の導出もできる。	部分的な説明や一部の計算はできる。	部分的な説明や計算ですらできない。		
キルヒホッフの法則の理解と応用。	キルヒホッフの法則を用いて複雑な回路網の電流、電圧を計算できる。	第一法則および第二法則の式は立てられるが計算できない。	できない。		
抵抗値、抵抗率の理解。	抵抗率、導体の長さ、断面積から抵抗値を計算できる。	部分的にできる。	できない。		
導体の抵抗温度係数の理解。	温度上昇と抵抗値の関係を説明でき、抵抗温度係数の式の導出ができる。	部分的にできる。	できない。		
電力、電力量、ジュールの法則の理解。	電流の作用について説明、計算ができる。	部分的にできる。	できない。		
電池の原理、種類の理解。	電池の内部抵抗、種類、使い方について説明ができる。	部分的にできる。	できない。		
磁界、磁石、磁気力、クーロンの法則、磁界の強さ、磁力線の理解。	磁界について理解し、説明、計算ができる。	部分的にできる。	できない。		
アンペア右ねじの法則、ビオサバールの法則、アンペア周回路の法則、磁界の大きさの求め方の理解。	電流による磁界について理解し、説明、計算ができる。	部分的にできる。	できない。		
フレミング左手の法則、平行電流間のカ、コイルに働くトルク、直流電動機の原理の理解。	説明、計算ができる。	部分的にできる。	できない。		
磁気回路と磁性体の理解。	磁化曲線、ヒステリシス曲線について理解し、説明ができる。	部分的にできる。	できない。		
電磁誘導の理解。ファラデー/レンツの法則、フレミング右手の法則の理解、誘導起電力の計算、直流発電機の原理など電磁誘導に関する理解。	各法則の説明、および誘導起電力の計算ができる。	部分的にできる。	できない。		
インダクタンスの基礎についての理解。	自己インダクタンス、環状/円筒コイルの自己インダクタンス、相互インダクタンス、電磁結合、変圧器、コイルに蓄えられるエネルギーについて理解し説明、計算ができる。	部分的にできる。	できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<ul style="list-style-type: none"> 電気工学の基本である、電流、電圧、電荷について学ぶ。 複雑な直流回路の計算ができるようにオームの法則、キルヒホッフの法則を学ぶ。 電力、電力量、ジュールの法則などについて学ぶ。 磁界、磁気力、電流の及ぼす作用について学習する。ビオサバール、アンペアール、フレミング左手/右手の法則などを学ぶ。 誘導起電力、ファラデーの法則、レンツの法則、フレミングの右手の法則などについて学ぶ。 自己/相互インダクタンスについて学ぶ。 				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校で習った理科・数学に関する知識を整理・復習しておく。 講義室：1S教室 授業形式：教科書に沿って説明するが、演習を実施し学生の理解度を確認しつつ進める。				
注意点	評価方法：4回の試験を70%、演習・課題等を30%で評価し、60点以上を合格とする 自己学習の指針：毎回の授業で自習課題を課すので、自分で解けるようにすること。試験時には、例題及び自習課題を理解できていること。 オフィスアワー：唐沢 (水曜日16:00~17:00、金曜日16:00~17:00)				
授業計画					

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---	---

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	創作実習		
科目基礎情報							
科目番号	0026	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	電子制御工学科	対象学年	1				
開設期	後期	週時間数	後期:1				
教科書/教材	特になし						
担当教員	兼田 一幸, 嶋田 英樹, 坂口 彰浩						
到達目標							
1. 基礎的なロボットを創作して、高学年での計算機ハードウェア・ソフトウェアの基礎部分の理解に役立てる。(D4) 2. 物作りやソフト作成を行い、設計を行い、創造の楽しさや考える習慣づけを養う。(D4) 3. プレゼンテーション能力の育成を図る。(D4、D1)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
基礎的なロボットを創作して、高学年での計算機ハードウェア・ソフトウェアの基礎部分の理解に役立てる。	十分にできる	ある程度できる	できない				
物作りやソフト作成を行い、設計を行い、創造の楽しさや考える習慣づけを養う。(D4)	十分にできる	ある程度できる	できない				
プレゼンテーション能力の育成を図る。(D4、D1)	十分にできる	ある程度できる	できない				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各人が選択したテーマによる少人数教育を通して、物作り（ロボットの作成、パソコンの組立、プログラム作成）を体験し、考える習慣づけや創造性の育成に役立てる。実習内容を発表し、初歩的なプレゼンテーション能力の向上を図る。						
授業の進め方・方法	予備知識：特になし 講義室：制御A棟、専攻科棟、CAD室または情報処理センター 授業形式：講義、実習、発表会（プレゼン） 学生が用意するもの：実習服						
注意点	評価方法・評価基準：態度、服装20点、制作物20点、最後の発表60点の100点で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：実験書を前もってよく読んでおくこと。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	テーマの概要説明、実施方法、班分けの決定	実習テーマの概要とすべきことが理解できる。			
		2週	パソコンの組立て	パソコンを各パーツから組立てられていることを理解する。			
		3週	パソコンの組立て	各パーツから組立て、OSのインストール作業まで行うことで、計算機ハードウェアの構造と構成、その動作の仕組みが理解できる。			
		4週	パソコンの組立て	作成されたパソコンを用いて、簡易ソフトを利用することができる。			
		5週	パソコンの組立て	簡単なアルゴリズムの初歩を理解し、プログラムを作成できる。			
		6週	ロボコンワールドへようこそ	ロボコン製作で用いるモータを使った「足（台車）」と、それを操縦する「リモコン」の重要性を説明することができる。			
		7週	ロボコンワールドへようこそ	仕様（速さ重視か、坂道が得意か等）に沿って、ロボットを設計することができる。			
		8週	ロボコンワールドへようこそ	ロボットを設計作成し、回転数から速度の計算を行うことができる。			
	4thQ	9週	ロボコンワールドへようこそ	作成したロボットの速度と、設計段階の速度を比較し、誤差の原因を説明できる。			
		10週	マイコン搭載カーのプログラム制御	マイコンを搭載した簡単なマイコンカーの機構を説明することができる。			
		11週	マイコン搭載カーのプログラム制御	マイコンを搭載した簡単な車を作成することができる。			
		12週	マイコン搭載カーのプログラム制御	マイコンを搭載した簡単な車をC言語で制御することができる。			
		13週	マイコン搭載カーのプログラム制御	マイコンカーにオリジナルな動作をさせることができる。			
		14週	テーマについての発表会	この実習を通じて、考える習慣づけや創造性の育成ならびにプレゼンテーション能力の育成を図る			
		15週	テーマについての発表会	この実習を通じて、考える習慣づけや創造性の育成ならびにプレゼンテーション能力の育成を図る			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度、服装	ポートフォリオ	作品	合計
総合評価割合	0	60	0	20	0	20	100
基礎的能力	0	60	0	20	0	20	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報セキュリティ基礎
科目基礎情報					
科目番号	0038		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	「最新情報の科学 新訂版」実教出版、「30時間でマスター Office2013」実教出版、「低学年向け情報セキュリティ」教材				
担当教員	前田 隆二, 濱田 裕康, 横山 溫和				
到達目標					
1. インターネットでのコミュニケーション（ウェブ、メール、SNS等）を実現する技術知識を学習する 2. 高専生として習得すべき（ユーザーとしての）ネット・コンピュータ知識を学習する 3. 社会における身近な分野において、情報技術の利用やIT技術の発展にともなう影響を考える 4. パソコンの基本的操作を行うことができる 5. Word、Excel、PowerPointの基本的操作をすることができ、簡単な文章、表、グラフやプレゼンテーション資料を作成できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	インターネットを実現する技術の構成を説明できる - コンピュータの仕組み：（良）に加え、5大装置に対応した具体的な製品と周辺機器を挙げることができる - デジタル表現：文字コードを説明できる - インターネット：IPアドレス、Web上のサービスを実現するサーバの種類を説明できる	インターネットを実現する技術の構成を説明できる - コンピュータの仕組み：ハードとソフト、5大装置 - デジタル表現：ビットとバイト、代表的なファイル形式、基数変換 - インターネット：Web上のサービスの種類	インターネットを実現する技術の構成を説明することができない		
評価項目2	高専生として習得すべき（ユーザーとしての）ネット・コンピュータ知識を習得する - ネットワーク・情報モラル：（良）に加え、情報モラルを遵守するルールを作り、他に伝えることができる - PC(IT機器)の利用：（良）に加え、PCおよび周辺機器を性能を見て選択できる、適切なファイル形式（容量）を選択できる	高専生として習得すべき（ユーザーとしての）ネット・コンピュータ知識を習得する - ネットワーク・情報モラル：定められたルールの意図を理解し遵守することができる - PC(IT機器)の利用：周辺機器を適切に使用することができる、メールを適切に利用できる、代表的な拡張子を説明できる	（ユーザーとしての）習得すべきネット・コンピュータ知識を習得していない		
評価項目3	社会における身近な分野において、情報技術の利用やIT技術の発展にともなう影響を考える基盤がある - 情報社会：自分の専門分野で使われている情報システムとその機能を想像し説明することができる - 情報セキュリティ：情報セキュリティを守るための行動とその技術的背景を説明することができる - 最新技術：ITの最新技術が自分の専門分野におよぼす影響を自分の言葉で説明できる（正誤は問わない）	社会における身近な分野において、情報技術の利用やIT技術の発展にともなう影響を考える基盤がある - 情報社会：自分の身近で使われている情報システムを挙げられる - 情報セキュリティ：情報セキュリティを守るための行動を知っており、行動をとることができる - 最新技術：ITの最新技術の用語を知っている	社会における身近な分野において、情報技術の利用やIT技術の発展にともなう影響を考える基盤知識がない		
評価項目4	授業で扱ったパソコンの操作方法を応用して、様々な操作を行うことができる	授業で扱ったパソコンの操作方法を行うことができる	授業で扱ったパソコンの操作方法を自分で行うことができない		
評価項目5	授業で扱ったWord、Excel、PowerPointの操作方法を応用して、様々な操作（プレゼンテーションに伴う技術全般、レポート作成に必要な技術全般等）を行うことができる	授業で扱ったWord、Excel、PowerPointの操作方法を行うことができる	授業で扱ったWord、Excel、PowerPointの操作方法を自分で行うことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	情報セキュリティの基本的な技術知識を習得する前提としての必要なIT知識と情報モラルを習得する。 (1)インターネットでのコミュニケーション（ウェブ、メール、SNS等）を実現する技術知識を学習する - コンピュータの仕組み、デジタル情報、ネットワーク、インターネットの仕組み (2)高専生として習得すべきネット・コンピュータ知識を学習する - ネットワーク、情報モラル、PC(IT機器)の利用 (3)社会における身近な分野において、情報技術の利用やIT技術の発展にともなう影響を考える - 情報社会、情報セキュリティ、最新技術 また、パソコンやWord、Excel、PowerPointの基本的な使い方についても学習する				
授業の進め方・方法	予備知識：特になし 講義室：ICT、情報セキュリティ演習室 授業形式：講義/実習 学生が用意するもの：配布プリント保管用のファイル				

注意点	評価方法： 自己学習の指針： 授業を受ける前にBlackboardを用いて、指定されたe-Learningコンテンツを視聴しておくこと。ほぼ毎回の授業で、理解度をはかる確認テストを実施する。課題が提示された場合には期限内に遅れないように提出すること。
	オフィスアワー： 濱田 月曜日 16:00～17:00 金曜日 16:00～17:00 前田 木曜日 16:00～17:00 金曜日 16:00～17:00 横山 水曜日 16:00～17:00 金曜日 16:00～17:00

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス 演習： ・パソコンのログイン、ログアウト方法の確認 ・パスワード変更 ・Blackboard、配布回収フォルダの使い方	この授業の進め方を理解している。 パソコンのログイン、ログアウトができる。 Blackboardへログインすることができ、e-Learningコンテンツを利用できる準備が整っている。
		2週	インターネットとは 演習： メール送受信	電子メールの仕組みを理解したうえで、マナーを守ったやり取りを行う。 また、危険性について注意し、メールを適切に取り扱える。
		3週	高度情報化社会に関する諸問題1 講義： LHRで実施される情報モラル講習会を振り返る 演習： 高度情報化社会に伴う様々な問題について話し合う	情報化に伴う問題点について事例を挙げて説明できる。
		4週	Web 情報検索とWeb 演習： ・高度な検索方法 ・HTML ・Word 1	WebやSNSの注意点を理解したうえで使用する。 P2PやSkypeの特徴を知り、適切な通信手段を選べる。 検索エンジンの仕組みを理解し、欲しい情報を検索できる。 著作権など、情報を利用する際の注意点を認識する。
		5週	高度情報化社会に関する諸問題2 (担当：前田隆二) 講義： 高度情報化社会に伴う問題の把握 演習： ・インターネットを用いて情報収集の仕方 ・著作権や知的財産権等のについて検索し、それについて話し合う	情報化に伴う問題点について説明できる。 その問題点に対する具体的な対策(著作権、知的財産権、個人情報保護法等)を説明できる。 また、その対策が身の回りでどのような場合に関係してくるのか説明できる。
		6週	アナログとデジタル 演習： ・ファイル操作 ・GUIとCUI ・2進数 ・Word 2	情報の量の単位を学び、ファイルの作成やコピーができる。 デジタルデータの特徴を理解したうえで使用する。
		7週	コンピュータの仕組み 演習： ・パソコンの性能確認 ・周辺機器の接続 ・Word 3	コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの役割を把握する。 コンピュータの進化に加え、現在のトレンドを知る。
		8週	情報のデジタル表現 演習： ・画像と動画のデータ量計算 ・データの圧縮率の計算 ・画像ファイル形式の違い ・画像ファイルの拡大縮小 ・画像のHTMLへの埋め込み ・Excel 1	画像、音声、動画をデジタル化する仕組みを理解する。 HTMLファイルに埋め込んでブラウザで表示できる。
	2ndQ	9週	中間試験	
		10週	通信手段の歴史 演習： ・通信手段の違いによる受信時間の違い ・Excel 2	通信手段の歴史とその特徴を把握する。 通信速度の違いを理解し、転送時間を計算できる。
		11週	インターネットの仕組みと様々なサービス 演習： ・IPアドレスの確認 ・ドメイン名からIPアドレスを調べる ・メールの設定の確認 ・Excel 3	IPアドレス、ポート番号などインターネットを構成する仕組みを理解する。 電子メールやWebアプリケーションの仕組みを説明できる。
		12週	社会における情報システム 演習： ・身近な情報システムを考えて話し合う ・PowerPoint 1	情報システムの種類だけでなく、最新の情報システムの変化を知る。 情報システムによって社会にどのような変化をもたらしているのかを知る。
		13週	情報社会の特徴と問題 情報社会と個人 演習： ・ネット上の情報モラル教材を視聴 ・PowerPoint 2	コンピュータを使ううえでの注意点を理解する。 特に犯罪につながりかねない使い方をしないように注意する。 個人情報などインターネットを利用する上でのリスクを知る。 また、無線LANなど便利な機能について知る。

		14週	セキュリティ対策 情報社会と技術者 演習： ・ウイルス感染被害疑似体験 ・修正プログラムがないか調べる ・IoTで期待させている分野と注意点を話し合 う ・ PowerPoint 3	ウイルスや暗号、パスワードの管理などセキュリティの基本を理解する。 脆弱性について理解し、修正プログラムの適用が必要な理由を考える。 情報社会の未来を考え、将来の仕事やIT業界をイメージする。 また、どのような法律があるのかを知り、意識すべきことを考える。
		15週	安全への知恵（担当：横山温和） 講義： 安全への意識を高める 演習： トラブルに遭遇した際の対応方法や自他の安全を確保するための行動について話し合う	情報を正しく安全に活用できる知識や技術を身に付ける。 また、その際に生じ得る危険(自他の安全や健康等)を予測し、被害予防できる。
		16週		

評価割合

	試験	課題	確認テスト	合計
総合評価割合	40	30	30	100
基礎的能力	40	30	30	100

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学
科目基礎情報					
科目番号	0032		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	化学基礎/化学(東京書籍)、フォトサイエンス化学図録(数研出版)、センサー総合化学(啓林館)				
担当教員	横山 溫和				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 酸化・還元理論を正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。 2. 気体の法則を正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。 3. 溶解度、モル濃度を正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。 4. 熱化学方程式を正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。 5. 実験器具の使い方を正しく理解し、安全に実験を行うことができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)	酸化還元に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。また、それらの問題を適切に解くことができる。	酸化還元に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。	酸化還元に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則をほとんど理解していない。		
評価項目2 (到達目標2, 3)	物質の状態、気体の性質、溶液の性質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。また、それらの問題を適切に解くことができる。	物質の状態、気体の性質、溶液の性質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。	物質の状態、気体の性質、溶液の性質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則をほとんど理解していない。		
評価項目3 (到達目標4)	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。また、それらの問題を適切に解くことができる。	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則をほとんど理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我々の身の回りに満ちあふれている「物質」を科学的に考察し、特に物質の構造と化学変化を理解するための基礎理論を学習する。これらの知識をもとに実験・演習を数多く経験することにより、将来必要となる化学的思考力・問題解決力を身につける。				
授業の進め方・方法	予備知識：1年で学習したモルの考え方、化学結合、化学反応式に関する知識を整理・復習しておくこと。 講義室：2M教室 授業形態：講義と演習、学生実験、適宜教師実験も行う。 学生が用意するもの：ノート(100枚綴)、関数電卓、レポート用紙、A4サイズファイル				
注意点	評価方法：中間・期末の定期試験(4回)を80%、演習・レポート等を20%により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：授業の前日までに教科書を熟読し、疑問点などをノートしておく。教科書の問、練習問題などを自力で解いて完全に理解しておく。また、演習問題および小テストなどを予習し、解説終了後、更に復習すること。 なお「コロイド」の範囲に関しては、授業内では取り扱わず、冬季休業の宿題として取り扱う。 オフィスアワー：水曜日 16:00～17:00、金曜日 16:00～17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	酸化・還元とは何か、酸化・還元とO, Hの授受	酸化・還元とO, Hの授受について理解し、説明できる。	
		2週	酸化・還元と電子の授受、酸化数の定義	酸化・還元と電子の授受、酸化数の定義について理解し、説明できる。	
		3週	酸化数の計算、酸化数の変化	酸化数の計算ができ、酸化数の変化について理解している。	
		4週	酸化・還元の判定、酸化剤・還元剤	酸化・還元の判定ができ、酸化剤・還元剤について説明できる。	
		5週	半反応式による酸化・還元反応の説明(I)	半反応式による酸化・還元反応を正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。	
		6週	半反応式による酸化・還元反応の説明(II)	半反応式による酸化・還元反応を正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。	
		7週	イオン化と電子の授受、イオン化傾向と単体金属の性質(I)	イオン化と電子の授受、イオン化傾向と単体金属の性質を理解し、説明できる。	
		8週	イオン化と電子の授受、イオン化傾向と単体金属の性質(II)	イオン化と電子の授受、イオン化傾向と単体金属の性質を理解し、説明できる。	
	2ndQ	9週	中間テスト		
		10週	ボルタ電池、ダニエル電池の構造と電流の流れるしくみ	ボルタ電池・ダニエル電池の構造と電流の流れるしくみを理解している。	
		11週	鉛蓄電池、燃料電池の構造と電流の流れるしくみ	鉛蓄電池・燃料電池の構造と電流の流れるしくみを理解している。	
		12週	電気分解とファラデーの法則	電気分解とファラデーの法則を理解し、これらを問題解決のために使うことができる。	
		13週	拡散と粒子の熱運動	拡散と粒子の熱運動を理解している。	
		14週	分子間力、気液平衡	分子間力、気液平衡を理解している。	
		15週	飽和蒸気圧、沸騰	飽和蒸気圧、沸騰のしくみを理解している。	

		16週		
後期	3rdQ	1週	気体とは何か、気体の三要素、ボイルの法則	気体の三要素を理解し、ボイルの法則を使って計算できる。
		2週	シャルルの法則と絶対温度、ボイル・シャルルの法則	シャルルの法則、絶対温度、ボイル・シャルルの法則について理解し、式を用いて計算できる。
		3週	気体の状態方程式と演習、全圧と分圧	気体の状態方程式を理解し、式を用いて計算できる。全圧と分圧を理解している。
		4週	ドルトンの分圧の法則、実在気体と理想気体	ドルトンの分圧の法則、実在気体と理想気体について理解し、式を用いて計算できる。
		5週	溶解のしくみ、水和物を含む固体の溶解度	溶解のしくみ、溶解度を理解し、式を用いて計算できる。
		6週	気体の溶解度(ヘンリーの法則)	ヘンリーの法則を理解し、式を用いて計算できる。
		7週	いろいろな濃度、体積モル濃度と質量モル濃度	体積モル濃度と質量モル濃度を理解し、これらを問題解決のために使うことができる。
		8週	中間テスト	
	4thQ	9週	沸点上昇と凝固熱降下	沸点上昇と凝固熱降下を理解している。
		10週	浸透圧	浸透圧について正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。
		11週	化学反応に伴う熱の出入り、発熱反応、吸熱反応	発熱反応、吸熱反応について正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。
		12週	燃焼熱、生成熱、溶解熱	燃焼熱、生成熱、溶解熱について正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。
		13週	中和熱、熱化学方程式	中和熱、熱化学方程式について正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。
		14週	状態の変化、化学反応と熱化学方程式	状態の変化、化学反応と熱化学方程式について正しく理解し、これらを問題解決のために使うことができる。
		15週	ヘスの法則	ヘスの法則を理解し、熱化学方程式を用いた計算ができる。
		16週		

評価割合

	試験	演習問題・小テスト	ノート	出席	合計
総合評価割合	80	10	5	5	100
基礎的能力	80	10	5	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	0038		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	『精選国語総合』(東京書籍)、『書いて覚える漢字練習ノート』(京都書房)、国語辞典				
担当教員	大坪 舞				
到達目標					
<p>1. 評論文を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解することができる。</p> <p>2. 近代の小説を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解することができる。</p> <p>3. 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。</p> <p>4. 語句の意味、常用漢字、ことわざ、慣用句などの基礎知識についての理解を深め、その特徴を認識することができる。</p> <p>5. 代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		論理の展開を理解し、要旨を把握して、それに対する自分の意見を持つことができる。	文意を理解した上で、要点とそうでない箇所を区分することができる。	文意を理解できず、要点を見つけられない。	
評価項目2		優れた表現に着目するとともに、表現の奥に潜む筆者の意図を考察することができる。	場面や情景を理解し、人物の行動の意味や心情を理解することができる。	場面の情景を理解できず、人物の行動の意味や心情を理解できない。	
評価項目3		古典の面白さと意義を理解し、伝統的な言語文化に興味・関心を持つことができる。	古典を学ぶための基本事項を理解し、古典に親しむ素地を作ることができる。	古典を学ぶための基本事項を理解できず、古典に親しむための素地を作ることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	読む・考えるという日本語の能力を育成することにより、社会において求められる論理的かつ多角的な理解力、柔軟な思考力を培う。また、古典を含む文学的文章の鑑賞を通して日本語の言語文化についての理解を深める。				
授業の進め方・方法	授業は教員からの講義と、学生同士のピア活動を並行して行う。主体的に取り組み、他者の意見を取り込むことで自らの思考を深めることを強く求める。提出した文章などを、授業内で公開することも往々にしてあるため、これを念頭に取り組むこと。また漢字テストは毎週行い、成績評価に含める。また、Blackboardにて資料提供を行う。				
注意点	試験の平均点の3割に満たない者については、成績不振者のための追試験を実施しない。各授業項目および授業時間の配分は、学生の理解・習得の状況を確かめながら、変更することがあり得る。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	内田樹「届く言葉」①	授業の概要や到達目標、評価方法・基準などを理解する。	
		2週	内田樹「届く言葉」②	随想の対比構造をとらえ、筆者の論旨を理解できる。	
		3週	山崎正和「水の東西」	対比構造の説明文の読解を通して、日本文化に対する知見を深める。	
		4週	史話「管飽之交」①	句法にしたがって訓読できる。	
		5週	史話「管飽之交」②	句法を踏まえて内容を正確に理解できる。	
		6週	史話「臥薪嘗胆」①	作品内での人物関係や話の展開を理解し、自分で整理することができる。	
		7週	史話「臥薪嘗胆」②	日本文化への漢文の影響を理解できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	和歌の修辞	和歌の修辞を理解できる。	
		10週	和歌「万葉集」	「万葉集」の文学史的な位置づけと作品特性を理解できる。	
		11週	和歌「古今和歌集」	「古今和歌集」の文学史的な位置づけと作品特性を理解できる。	
		12週	和歌「新古今和歌集」	「新古今和歌集」の文学史的な位置づけと作品特性を理解できる。	
		13週	鷲田清一「真の自立とは」①	文章の概要を自分でまとめることができる。	
		14週	鷲田清一「真の自立とは」②	他者との意見交換を通して文章理解を深めることができる。	
		15週	鷲田清一「真の自立とは」③	筆者の主張に対する意見文を書くことができる。	
		16週	試験返却		
後期	3rdQ	1週	松尾芭蕉「奥の細道」①	松尾芭蕉の作品とその文学史的な位置を理解できる。	
		2週	松尾芭蕉「奥の細道」①	古典文法にしたがって内容を理解できる。	
		3週	松尾芭蕉「奥の細道」①	句の解釈から作者の心情を理解できる。	
		4週	松尾芭蕉「奥の細道」①	松尾芭蕉が旅・自然をどのようにとらえているか理解できる。	
		5週	十五の心—短歌抄—①	和歌と俳諧、短歌、俳句の特性を理解できる。	
		6週	十五の心—短歌抄—②	短歌を鑑賞し、内容を理解できる。	
		7週	白牡丹—俳句抄—	俳句を鑑賞し、内容を理解できる。	
		8週	中間試験		

4thQ	9週	兼好「徒然草」①	「徒然草」と作者兼好の文学史的な位置づけを理解できる。
	10週	兼好「徒然草」②	本文内容を文法的に理解できる。
	11週	兼好「徒然草」③	本文の趣旨を理解し、作品を味読することができる。
	12週	兼好「徒然草」④	兼好の思想をもとに、日本文化に対する知見を深めることができる。
	13週	太宰治「富嶽百景」①	太宰治とその代表作を理解している。
	14週	太宰治「富嶽百景」②	小説の舞台設定や登場人物の心理と行動の変化を把握できる。
	15週	太宰治「富嶽百景」③	小説における「私」と作者の違いを理解できる。
	16週	試験返却	

評価割合

	試験	小テスト	提出物	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史
科目基礎情報					
科目番号	0039		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	『世界史B』 (東京書籍)				
担当教員	堀江 潔				
到達目標					
1. ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。(B1)					
2. ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。(B1)					
3. 世界の諸宗教・諸思想、代表的な哲学者・思想家の思想を理解できる。(B1)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。		ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略をほとんど説明できる。		ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できない。
評価項目2	ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。		ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略をほとんど説明できる。		ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できない。
評価項目3	世界の諸宗教・諸思想、代表的な哲学者・思想家の思想を理解できる。		世界の諸宗教・諸思想、代表的な哲学者・思想家の思想をほとんど理解できる。		世界の諸宗教・諸思想、代表的な哲学者・思想家の思想を理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代社会に生きる私たちにとってつながりの深い、中世から近代に至る欧米諸国の世界史の流れの概略について学習する。また、世界の諸宗教・諸思想および代表的な哲学者・思想家の思想の概略を学習する。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校社会科の歴史分野で学習した内容。 講義室：2年各HR教室。 授業形式：講義形式。 学生が用意するもの：教科書、配布プリント、ノート、筆記用具。				
注意点	自己学習の指針：①授業内容を確実に理解するため、授業内容と関係する教科書の記述を予習・復習しておくこと。 ②ノート・自学課題を提出期限までに仕上げるとともに、ノート提出に備え、授業中の板書・教科書の記述などをまとめておくこと。 オフィスアワー：水曜日16:00~17:00、木曜日16:00~17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業概要説明	学習目標や授業方法、評価方法について理解できる。	
		2週	ルネサンス	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		3週	大航海時代	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		4週	宗教改革	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		5週	絶対王政	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		6週	イギリスの市民革命	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		7週	アメリカ独立革命	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		8週	欧米諸国の植民地獲得競争	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週	フランス革命の始まり	ヨーロッパの市民革命およびそれに至る過程の諸事象のヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		2週	ナポレオンのヨーロッパ支配	ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		3週	産業革命と資本主義	ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		4週	ウィーン体制下のヨーロッパ	ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	
		5週	フランス革命の進展と影響	ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。	

		6週	第一次世界大戦前後	ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。
		7週	第二次世界大戦	ヨーロッパの近代国家・近代社会成立の背景・特徴・意義を理解し、概略を説明できる。
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	提出物	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	政治経済
科目基礎情報					
科目番号	0040	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	間宮 洋介ほか著、『政治・経済』、東京書籍				
担当教員	前田 隆二				
到達目標					
1. 民主主義の基本原則と発展の概略を説明することができる。 2. 日本国憲法の基本原則に基づいた民主政治の概略を説明することができる。 3. 現在の日本の政治制度や経済を理解し、さらにそれらを国際的な視野で理解し、それらの概略を説明できる。 4. 民主主義の本質、今日における政治や経済の基本的なしくみ、それに至る過程を理解し、それらの概略を説明できる。 5. 1～4を踏まえたうえで、現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、それらの概略を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	民主主義と日本国憲法の基本原則を踏まえ、民主政治を説明できる。	民主主義と日本国憲法の基本原則を踏まえ、民主政治をほとんど説明できる。	民主主義と日本国憲法の基本原則を踏まえ、民主政治を説明できない。		
評価項目2	現在の日本の政治制度や経済を理解し、国際的な視点からも説明できる。	現在の日本の政治制度や経済を理解し、国際的な視点からもほとんど説明できる。	現在の日本の政治制度や経済を理解し、国際的な視点からも説明できない。		
評価項目3	現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、説明できる。	現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、ほとんど説明できる。	現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、説明できない。		
評価項目4	民主主義の本質、今日における政治や経済の基本的なしくみ、それに至る過程を理解し、それらの概略を説明できる。	民主主義の本質、今日における政治や経済の基本的なしくみ、それに至る過程を理解し、それらの概略をほとんど説明できる。	民主主義の本質、今日における政治や経済の基本的なしくみ、それに至る過程を理解し、それらの概略を説明できない。		
評価項目5	1～4を踏まえたうえで、現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、それらの概略を説明できる。	1～4を踏まえたうえで、現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、それらの概略をほとんど説明できる。	1～4を踏まえたうえで、現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、それらの概略を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代社会の政治や経済に関して、民主主義や資本主義の考え方や意義を学ぶ。また、それらの主義が現代における日本の社会にどう関わるかを学ぶ。これらを通じ、国際的な視野を持ち、現代の政治や経済の問題点を広い視野から理解し、考える力を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校レベルの公民分野の知識があること 講義室：二年各教室 授業形式：講義 学生が用意するもの：教科書、ノート、ファイル(配布資料用)				
注意点	評価方法：定期試験(合計2回)、出席状況、授業態度、必要に応じて提出物を総合的に判断する。評価基準は、定期試験の成績が80%、その他が20%とし、総成績60点以上を単位取得とする。 自己学習の指針：予習については、授業の前日に教科書を熟読し、理解を深めてください。その内容を授業中に確認しながら、講義に集中してください。さらに、復習においては、授業後の当日にプリントや教科書などで再度確認し、週末にもう一度確認してください。また、ニュース・新聞を読む習慣をつけ、政治問題や経済問題に対する知識・考え方を身につけてください。 オフィスアワー：木曜日 16:00～17:00 金曜日 16:00～17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 民主政治のあゆみ	学習目標や方法・評価などを理解する。	
		2週	法の機能と支配	法ができた過程と法の役割について理解できる。	
		3週	基本的人権の確立	様々な権利について理解できる。	
		4週	民主政治の発展	民主主義の下での政治の流れを理解できる。	
		5週	政治体制の比較	各国の政治体制を理解し、比較できる。	
		6週	日本国憲法の制定と基本原理	日本国憲法の内容を理解できる。	
		7週	基本的人権の保障(1)	人権とは何かを理解できる。	
		8週	基本的人権の保障(2)	人権がどのように関わっているかを理解できる。	
	2ndQ	9週	日本国憲法の平和主義	憲法9条等を通して、平和主義を理解できる。	
		10週	国会と立法のしくみと役割	国会の役割について理解できる。	
		11週	内閣と行政のしくみと役割	内閣の役割について理解できる。	
		12週	裁判所と司法のしくみと役割	裁判所の役割について理解できる。	
		13週	地方自治の役割	地方自治体のしくみについて理解できる。	
		14週	政党政治と選挙制度のしくみ	政治のしくみについて理解できる。	
		15週	国際関係と地球環境問題	日本と世界との関係および環境問題について理解できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	資本主義体制の成立と発展	資本主義社会の本質について理解できる。	
		2週	現代経済の特質	社会主義との比較をしながら、資本主義を理解できる。	

		3週	経済主体と経済循環	経済主体がどのように循環しているのかを理解できる。	
		4週	生産と市場経済(1)	需要と供給の関係を説明できる。	
		5週	生産と市場経済(2)	生産と市場の関係性を理解できる。	
		6週	金融のしくみと機能	銀行の役割を説明できる。	
		7週	財政のしくみと機能	国や地方自治体の運営方法を理解できる。	
		8週	日本経済の変化(1)	戦後以降の日本経済の変化を理解できる。	
		4thQ	9週	日本経済の変化(2)	現在に至るまでの日本経済について理解できる。
			10週	消費者・農業・食料問題	時代の流れとともに変化していく法や制度について理解できる。
	11週		労働環境と問題(1)	労働するにあたり必要な事項について理解できる。	
	12週		労働環境と問題(2)	労働問題について理解できる。	
	13週		社会保障と福祉(1)	社会保障について理解できる。	
	14週		社会保障と福祉(2)	社会保障に伴う福祉について理解できる。	
	15週		国際貿易	日本と世界との関係を貿易の面から理解できる。	
	16週				

評価割合

	試験	提出物等	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎線形代数
科目基礎情報					
科目番号	0041		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	「線形代数」森北出版, 「線形代数問題集」森北出版				
担当教員	大浦 龍二				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> ベクトルの概念が理解でき, 平面・空間と図形の関係が理解できる. 行列の概念が理解でき, 連立方程式の問題を行列を使って考えることができる. 4次以下の行列式の計算ができる. 行列によって, 拡大, 対称変換や原点のまわりの回転が表せることを理解できる. 行列の固有値の意味が理解でき, 3次以下の行列の対角化の計算ができる. 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ベクトルの概念が理解でき, 平面・空間と図形の関係が理解できる.	ベクトルの概念が理解でき, 平面・空間と図形の関係がほぼ理解できる.	ベクトルの概念が理解でき, 平面・空間と図形の関係が理解できない.		
評価項目2	行列の概念が理解でき, 連立方程式の問題を行列を使って考えることができる.	行列の概念が理解でき, 連立方程式の問題を行列を使って考えることができる.	行列の概念が理解でき, 連立方程式の問題を行列を使って考えることができない.		
評価項目3	4次以下の行列式の計算ができる.	4次以下の行列式の計算がほぼできる.	4次以下の行列式の計算ができない.		
評価項目4	行列によって, 拡大, 対称変換や原点のまわりの回転が表せることを理解できる.	行列によって, 拡大, 対称変換や原点のまわりの回転が表せることをほぼ理解できる.	行列によって, 拡大, 対称変換や原点のまわりの回転が表せることを理解できない.		
評価項目5	行列の固有値の意味が理解でき, 3次以下の行列の対角化の計算ができる.	行列の固有値の意味が理解でき, 3次以下の行列の対角化の計算がほぼできる.	行列の固有値の意味が理解でき, 3次以下の行列の対角化の計算ができない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	工学上重要な概念であるベクトルと行列について学ぶ.				
授業の進め方・方法	予備知識: 1年生の代数・幾何の知識 講義室: 2S教室 授業形式: 講義と演習 学生が用意するもの: 講義用と課題用ノート				
注意点	評価方法: 中間試験・定期試験 (70%), 実力試験もしくは課題テスト (20%), 課題 (10%) により評価し, 60点以上を合格とする. ただし, 状況によっては上と変わることがあるが, そのときは担当者が指示する. 自己学習の指針: 毎回の授業で課題を出すので, 次回の授業までに解いておくこと. オフィスアワー: 授業担当者が明示する.				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ベクトルの概念とその演算	与えられたベクトルの和・差・スカラー倍を図示できる	
		2週	ベクトルの成分表示・大きさ	成分表示されたベクトルの和・差や大きさが計算できる	
		3週	方向ベクトルと直線の関係	直線を3つの方法で表すことができる	
		4週	ベクトルの内積とその性質	内積を用いてベクトルの大きさ, なす角を計算できる	
		5週	直線・平面の方程式	方向・法線ベクトルで, 平行や垂直を述べることができる	
		6週	円・球面の方程式	両端の座標から球面の方程式を求めることができる	
		7週	中間試験範囲の演習	座標空間における問題をベクトルを用いて解ける	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	行列とその演算, 逆行列	与えられた行列の和・積・逆行列 (2次の場合) を計算できる	
		10週	連立2元1次方程式, クラメル公式	行列を用いて連立2元1次方程式を解くことができる	
		11週	3次正方行列の行列式	クラメル公式を用いて連立3元1次方程式を解ける	
		12週	n次正方行列の行列式とその性質	行列式の定義とその性質を理解できる	
		13週	基本変形による行列式の計算	基本変形を用いて4次正方行列の行列式を計算できる	
		14週	行列式の展開, 余因子と逆行列	展開を用いて4次正方行列の行列式を計算できる	
		15週	定期試験範囲の演習	簡単な行列のn乗の計算ができる	
		16週			
後期	3rdQ	1週	ベクトルの外積	ベクトルの外積の意味を理解し, 実際に計算できる	
		2週	基本変形による連立1次方程式の解法	基本変形を用いて連立3元1次方程式を解くことができる	
		3週	基本変形による逆行列の計算	基本変形を用いて3次正方行列の逆行列を計算できる	
		4週	行列の階数と連立方程式	行列の階数と連立方程式の解の関係を理解できる	
		5週	ベクトルの線形独立と線形従属	3次元ベクトルの線形独立と線形従属の判定ができる	
		6週	線形変換と表現行列	線形変換の定義が理解でき, 表現行列を計算できる	
		7週	中間試験範囲の演習	文字を含んだ簡単な行列式の計算ができる	

4thQ	8週	中間試験	
	9週	合成変換と逆変換	合成と逆変換の定義が理解でき、表現行列を計算できる
	10週	直交行列とその変換	直交変換の性質が理解できる
	11週	2次正方行列の固有値と対角化	2次正方行列の対角化ができる
	12週	3次正方行列の固有値と対角化	3次正方行列の対角化ができる
	13週	対角化できない正方行列の固有値と固有ベクトル	正方行列が対角化可能であるか否か判定できる
	14週	行列の対角化の応用	行列のn乗、2次形式の標準形が計算できる
	15週	定期試験範囲の演習	線形変換に関する様々な問題を解くことができる
	16週		

評価割合

	中間・定期試験	実力試験	課題	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	微積分
科目基礎情報					
科目番号	0042		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	「微積分1」森北出版 / 「微積分1問題集」森北出版				
担当教員	眞部 広紀				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 数列の一般項や和について理解し、計算できる。 2. 関数の導関数や不定積分が求められる。 3. 微分を応用して基本的な関数の接線の問題やグラフに関する問題が解ける。 4. 微分または積分を応用した速度、加速度、位置に関する問題が解ける。 5. 定積分の応用として、面積や体積の問題が解ける。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
数列の一般項や和について理解し、計算できる。	いろいろな数列の一般項や和、漸化式で定義された数列に関する問題が解ける。	基本的な数列の一般項や和について理解し、計算できる。	基本的な数列の一般項や和について理解し、計算できない。		
関数の導関数や不定積分が求められる。	いろいろな関数の導関数や不定積分を求めることができる。	基本的な関数の導関数や不定積分が求められる。	基本的な関数の導関数や不定積分が求められることができない。		
微分を応用して接線の問題や関数のグラフに関する問題が解ける。	微分を応用して少し複雑な関数の接線の問題やグラフに関する問題が解ける。	微分を応用して基本的な関数の接線の問題やグラフに関する問題が解ける。	微分を応用して基本的な関数の接線の問題やグラフに関する問題が解けない。		
微積分を応用して速度、加速度、位置に関する問題が解ける。	微分と積分を両方応用した速度、加速度、位置に関する問題が解ける。	微分または積分を応用した速度、加速度、位置に関する問題が解ける。	微分または積分を応用した速度、加速度、位置に関する問題が解けない。		
定積分を応用して、面積や体積の問題が解ける。	少し複雑な図形の面積や立体の体積を積分で求めることができる。	定積分を応用して、面積や体積の問題が解ける。	定積分を応用して、面積や体積の問題が解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	「量を測る」ということは工学において必要不可欠な事である。このための数学的手法である微分法と積分法との概念と計算方法について学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識：高専1年までに学習した数学の内容 講義室：ホームルーム 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：講義用のノートと演習用ノートを用意することが望ましい。				
注意点	評価方法：定期考査（中間考査2回・定期考査2回）80%、実力試験5%、小テスト10%、課題5% 自己学習の指針：・毎回宿題を出すので、次の授業までに解き、必ず答え合わせをしておくこと。 オフィスアワー：月曜日16:30～17:30、水曜日16:30～17:30 ☆担当者により、授業内容の順序・授業方法・評価方法に違いがあるので、授業最初のガイダンスで確認をすること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	数列の定義・等差数列	等差数列の一般項やその和を求めることができる。	
		2週	等比数列	等比数列の一般項やその和を求めることができる。	
		3週	いろいろな数列の和	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。	
		4週	無限数列の極限・級数	無限等比級数等の基本的な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	
		5週	数列の漸化式・数学的帰納法	数列の漸化式を理解している。数学的帰納法による証明の方法を理解している。	
		6週	関数の収束と発散・関数の連続性	いろいろな関数の極限を求めることができる。関数の連続性について理解している。	
		7週	平均変化率と微分係数・導関数	微分係数の意味を理解し、求めることができる。導関数の定義を理解している。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	合成関数と関数の積の導関数	合成関数の導関数を求めることができる。積・商の導関数の公式を使うことができる。	
		10週	関数のグラフの接線	多項式関数のグラフにおける接線を求めることができる。	
		11週	導関数の符号と関数の増減	多項式関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	
		12週	第2導関数の符号と関数の凹凸・関数の最大値・最小値	多項式関数の凹凸を調べることができる。多項式関数の最大値・最小値を求めることができる。	
		13週	分数関数と無理関数の導関数	分数関数・無理関数の導関数を求めることができる。	
		14週	対数関数の導関数・指数関数の導関数	指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	
		15週	三角関数の導関数・逆三角関数の導関数	逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。	
		16週	前期定期試験		
後期	3rdQ	1週	不定形の極限・関数の増減と変曲点	不定形の極限値を求めることができる。いろいろな関数の増減と変曲点を調べることができる。	

		2週	関数の最大値・最小値	いろいろな関数の最大値・最小値を求めることができる。
		3週	微分と近似・いろいろな変化率	微分による変化量の近似値を求めることができる。 速度・加速度などの変化率を求めることができる。
		4週	定積分の定義	定積分の定義（区分求積法）を理解している。 微積分の基本定理を理解している。
		5週	定積分の計算と面積	定積分の基本的な計算ができる。
		6週	定積分の置換積分法・定積分の部分積分法	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		7週	いろいろな定積分	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。
		8週	後期中間試験	
		4thQ	9週	面積
	10週		体積	立体の体積を積分を利用して求めることができる。
	11週		速度と位置	数直線上を運動している点の速度と位置の関係を理解している。
	12週		不定積分	不定積分の定義を理解している。
	13週		不定積分の公式	不定積分の公式を利用した計算ができる。
	14週		不定積分の置換積分法	置換積分を用いて、不定積分を求めることができる。
	15週		不定積分の部分積分法	部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。
	16週		後期定期試験	

評価割合

	定期試験	実力試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合	80	5	10	5	100
基礎的能力	80	5	10	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理
科目基礎情報					
科目番号	0044		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	「総合物理1」(数研出版)、「センサー総合物理」(啓林館)				
担当教員	森 保仁				
到達目標					
1. 等加速度直線運動の考え方を理解できる。 2. 物体にはたらく力、力のつり合い、運動方程式の考え方を理解できる。 3. 仕事とエネルギーの関係、力学的エネルギー保存則の考え方を理解できる。 4. 力積と運動量、運動量保存則、反発係数の考え方を理解できる。 5. 等速円運動、単振動の考え方を理解できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)	平面的な相対速度をベクトル的に理解できる。等加速度直線運動の式(変位、速度、時間の関係式)を用いて、斜方投射運動のやや複雑な問題を解くことができる。	一直線上の相対速度をベクトル的に理解できる。等加速度直線運動の式(変位、速度、時間の関係式)を用いて、自由落下や投射運動の簡単な問題を解くことができる。	相対速度をベクトル的に理解できない。等加速度直線運動の式(変位、速度、時間の関係式)を用いて、自由落下や投射運動の問題を解くことができない。		
評価項目2 (到達目標2)	等速運動する物体の力のつり合いを理解できる。粗い斜面上をすべる物体やひもでつながれた2物体の運動のような、やや複雑な問題を解くことができる。	物体にはたらく力の矢印を記述できる。静止した物体の力のつり合いを理解できる。等加速度運動する物体の運動方程式を立てることができる。	物体にはたらく力の矢印を記述できない。静止した物体の力のつり合いを理解できない。等加速度運動する物体の運動方程式を立てることができない。		
評価項目3 (到達目標3)	運動エネルギーや位置エネルギーの式を導出できる。力学的エネルギーが保存されない場合のやや複雑な問題を解くことができる。	仕事とエネルギーの関係式を理解できる。力学的エネルギーが保存される場合の簡単な問題を解くことができる。	仕事とエネルギーの関係式を理解できない。力学的エネルギーが保存される場合の簡単な問題を解くことができない。		
評価項目4 (到達目標4)	運動量が保存されない場合や2物体が平面上で衝突する場合のやや複雑な問題を解くことができる。	力積と運動量の関係式を理解できる。衝突の問題において運動量保存則や反発係数を用いた簡単な計算ができる。	力積と運動量の関係式を理解できない。衝突の問題において運動量保存則や反発係数を用いた簡単な計算ができない。		
評価項目5 (到達目標5)	等速円運動する物体の加速度を導出できる。ばね振り子や単振り子の周期を導出できる。	等速円運動や単振動の簡単な問題を解くことができる。ばね振り子や単振り子の周期を計算できる。	等速円運動や単振動の簡単な問題を解くことができない。ばね振り子や単振り子の周期を計算できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自然界の「なぜ?」を解き明かすために必要な「科学的に考える力」を身に付けるため、主に「力学」に関する講義および講義実験を中心に授業を展開する。さらに自然界に成り立つ物理法則を学生実験を通して実感することにより、科学的自然観を育てる。				
授業の進め方・方法	予備知識: 中学校で学習した理科(特に第一分野)の内容 講義室: 物理実験室 授業形式: 講義、講義実験(自作の実験装置など)、物理学実験(年間6テーマ) 学生が用意するもの: 授業ノート、自習ノート、電卓、定規、色つきのペン				
注意点	評価方法: 定期試験は、テスト(75~95%)、学生実験レポート・宿題(25~5%)の割合で評価し、60点以上を合格とする。追試験は、定期テストの素点が60点未満の学生を対象として行う。 自己学習の指針: 問題集や授業中に配布した演習プリントを自習ノートにする。物理学実験のレポートの予習をし、実験後にレポートを仕上げる。 オフィスアワー: 月曜日16:00~17:00、金曜日16:00~17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	物理とは何か、等速直線運動	等速直線運動の考え方を理解できる	
		2週	平均の速さ、瞬間の速さ、変位と速度	平均の速さ、瞬間の速さ、変位と速度の考え方を理解できる。	
		3週	速度の合成・分解、相対速度とは何か	速度の合成・分解、相対速度の考え方を理解できる。	
		4週	加速度とは何か、瞬間の加速度、等加速度直線運動	加速度、等加速度直線運動の考え方を理解できる。	
		5週	負の加速度、自由落下	負の加速度、自由落下の考え方を理解できる。	
		6週	鉛直投げ上げ、鉛直投げ下ろし、水平投射	鉛直投げ上げ、鉛直投げ下ろし、水平投射の考え方を理解できる。	
		7週	斜方投射(モンキーハンティング)、演習	斜方投射(モンキーハンティング)の考え方を理解できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	テスト返却、質量と重さ、物体にはたらく力	質量と重さ、物体にはたらく力の考え方を理解できる。	
		10週	いろいろな力(重力、垂直抗力、張力、弾性力)、圧力と水圧	いろいろな力(重力、垂直抗力、張力、弾性力)、圧力と水圧の考え方を理解できる。	
		11週	力の合成・分解、力のつり合い	力の合成・分解、力のつり合いの考え方を理解できる。	
		12週	作用・反作用の法則、慣性の法則と運動の法則	作用・反作用の法則、慣性の法則、運動の法則の考え方を理解できる。	
		13週	運動方程式	運動方程式の考え方を理解できる。	

		14週	静止摩擦力、動摩擦力	静止摩擦力、動摩擦力の考え方を理解できる。
		15週	浮力、演習	浮力の考え方を理解できる。
		16週	前期期末試験	
後期	3rdQ	1週	テスト返却、仕事とエネルギー	仕事とエネルギーの関係を理解できる。
		2週	物理学実験 [I]	物理学実験を通して力に関する理解を深める。
		3週	物理学実験 [I]、仕事の原理、仕事率	同上、仕事の原理および仕事率の考え方を理解できる。
		4週	運動エネルギー、位置エネルギー	運動エネルギーと位置エネルギーの考え方を理解できる。
		5週	弾性エネルギー、保存力	弾性エネルギーおよび保存力の考え方を理解できる。
		6週	力学的エネルギー保存の法則	力学的エネルギー保存の法則の考え方を理解できる。
		7週	力学的エネルギーが保存されない場合、演習	力学的エネルギーが保存されない場合の考え方を理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	テスト返却、力積と運動量	力積と運動量の関係を理解できる。
		10週	運動量保存の法則（正面衝突、斜め衝突）	運動量保存の法則（正面衝突、斜め衝突）の考え方を理解できる。
		11週	反発係数（正面衝突、斜め衝突）	反発係数（正面衝突、斜め衝突）の考え方を理解できる。
		12週	等速円運動、単振動	等速円運動と単振動の考え方を理解できる。
		13週	物理学実験 [II]	物理学実験を通してエネルギー、運動量、単振動に関する理解を深める。
		14週	物理学実験 [II]、ばね振り子	同上、ばね振り子の考え方を理解できる。
		15週	単振り子、演習	単振り子の考え方を理解できる。
		16週	後期期末試験	

評価割合

	試験	ノート	レポート		合計
総合評価割合	80	8	12	0	100
基礎的能力	80	8	12	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育
科目基礎情報					
科目番号	0045		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	最新スポーツルール (大修館) / 必要に応じてプリント、ビデオ等を使用する。				
担当教員	吉塚 一典				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団行動についてより発展した行動様式を実践できる。 2. ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、サッカーについて基本技能を基にしたゲームができる。 3. 新体力テスト、12分間走により、自己の体力の確認と比較ができる。 4. 身体組成、有酸素能力の測定により運動と健康との関連について理解できる。 5. 心肺蘇生等の応急処置、ストレスについて理解できる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
集団行動についてより発展した行動様式を実践できる。	<p>基本的な集団行動規範に基づいて行動でき、他者(チームやクラス)への指示や協力ができる。</p> <p>授業や各種目のルールに則って安全に進行ができる。また、授業で使う道具や施設の準備を行ったり、それらを安全に配置することができる。</p> <p>他者との協力協調してチームのために参加・応援・補助をする活動ができる。</p>	<p>整列、体操、実技中の行動において、基本的な集団行動規範に基づいて行動できる。</p> <p>授業や各種目のルールに則って安全に行動ができる。また、授業で使う道具や施設を適切に使用することができる。</p> <p>自分本位な活動にならないように参加・応援・補助をすることができる。</p>	<p>整列、体操、実技中の行動において、基本的な集団行動規範に基づいて行動できない。</p> <p>授業や各種目のルールに則った行動や安全に配慮したプレー・活動ができない。また、授業で使う道具や施設を安全に適切に使用できない。</p> <p>個人活動の割合が多くなったり、自分本位な活動ばかりを行う。</p>		
ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、サッカーについて基本技能を基にしたゲームができる。	<p>基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、積極的に練習や試合を運営することができる。</p> <p>経験者はチームやクラスメイト学生(未経験者)に指導をし、その学生の技能を高めることができる。</p>	<p>基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、練習や試合に参加できる。</p> <p>経験者はチームやクラスメイト学生(未経験者)に技能向上に関する指導をすることができる。また、競技やゲーム運営の手法として活動することができる。</p>	<p>基本的な技術を身につけたり、ルールを覚えることが殆ど出来ず、練習や試合に対して消極的な態度で参加している。</p> <p>経験者でありながらチームやクラスメイト学生(未経験者)に技能向上に関する指導や競技やゲーム運営及び補助を行わない。</p>		
新体力テスト、12分間走により、自己の体力の確認と比較ができる。	<p>新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を大きく上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。</p> <p>全国統一の評価表に基づいて、平均値を超えるパフォーマンスを発揮することができる。</p>	<p>新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。</p> <p>全国統一の評価表に基づいて、平均値に到達することができる。</p>	<p>新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を上回っていくことができない。自己の体力を調べるために、測定に全力をもって挑んでいない。</p>		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種目の基本技能を高め、ゲームの質を発展させるとともに、自己の体力を確認し、向上を目指す。また、ルールや規則を守り、安全に留意し、運動を通じて健全な人間関係を保つ態度を養う。				
授業の進め方・方法	<p>授業場所：第二体育館かグラウンドにて行う。その他、必要に応じて総合グラウンドや教室でも実施する。</p> <p>授業形式：実技を中心に進め、前期と後期にそれぞれ講義と筆記試験を1回ずつ実施する。</p> <p>用意するもの：学生が各自で指定の体操服と体育館シューズ、グラウンドシューズを用意しておくこと。</p> <p>主な授業内容：</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団行動：集団での行進、整列等の行動様式を確認する。体育祭の練習も兼ねる。 2. ソフトボール：基本技能の復習を行い、攻撃と守備の連携などの観点からチームづくりをする。また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。 3. バレーボール：基本技能の復習を行い、攻撃と守備の連携などの観点からチームづくりをする。また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。 4. 新体力テスト：「握力」・「反復横跳び」・「長座体前屈」・「上体起こし」の4種類を測定する。 5. 保健理論：身体組成の測定・調査を行う。また、応急処置および心肺蘇生について学び筆記試験を行う。 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体力テスト：50m走、立ち幅跳、ハンドボール投げ、持久走の記録を測定する。 2. バスケットボール：基本技能の復習を行い、攻撃と守備の連携などの観点からチームづくりをする。また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。 3. サッカー：基本技能の復習を行い、チームでの役割などを考慮し、チームづくりをする。また、試合形式の活動の中でチームプレーを実践し、ゲームの楽しさを知る。 4. 保健理論：12分間走から自己の有酸素能力を推定する。また、心身の相関とストレスについて学び筆記試験を行う。 				
注意点	<p>評価方法：実技試験、体力テスト、12分間走による評価70%、筆記試験、レポート等15%、授業への取り組み等15%で評価を行い、60点以上を合格とする。</p> <p>自己学習の指針：最新スポーツルール(大修館)を活用し、授業内容の理解がより深まるように各種目の技術やルールを予習・復習する。また、生涯を通じてスポーツに親しむ(する・見る・支える)資質を養うために、各種目の起源(歴史)や特徴(楽しさ)を学ぶ。</p> <p>予備知識：1年時に学習した各運動種目の基本技能及びルール</p> <p>その他：担当者により、授業内容の順序・授業方法・評価方法に違いがあるので、授業最初のガイダンスで確認すること。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	年間の授業の流れと評価方法を把握する。種目ごとに必要なチーム分けを行う。	
		2週	リーグ戦①	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	

後期	1stQ	3週	リーグ戦②	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
		4週	リーグ戦③	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
		5週	体育祭の練習	体育祭の練習を通して、協調性を高める。	
		6週	リーグ戦④	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
		7週	リーグ戦⑤	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
		8週	身体組成	身体組成を測定をすることで、自己の体格の変化を把握する。	
	2ndQ	9週	新体カテスト 練習	上体起こし・長座体前屈・握力・反復横跳びの練習をする。	
		10週	新体カテスト 本番	上体起こし・長座体前屈・握力・反復横跳びの測定をする。	
		11週	講義, リーグ戦⑥	応急処置に関する知識を深める。	
		12週	筆記試験, リーグ戦⑦	応急処置に関する知識を確かめる。	
		13週	実技練習	実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。	
		14週	実技試験①	実技試験の課題をクリアする。	
		15週	実技試験②	実技試験の課題をクリアする。	
		16週	実技試験予備日		
	後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	後期の授業の流れを把握し、評価方法、受講方法を再確認する。
			2週	新体カテスト 練習	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・持久走の練習をする。
3週			新体カテスト 本番①(持久走練習)	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳びの測定をする。	
4週			新体カテスト 本番② リーグ戦①	持久走の測定をする。	
5週			リーグ戦②	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
6週			リーグ戦③	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
7週			リーグ戦④	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
8週			リーグ戦⑤	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。	
4thQ		9週	競技大会の練習	球技大会に向けて、協力して、それぞれの技能を高める。	
		10週	リーグ戦⑥、講義	ストレスに関する知識を深める。	
		11週	リーグ戦⑦、筆記試験	ストレスに関する知識を確かめる。	
		12週	12分間走の練習、実技練習	12分間走の練習をする。実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。	
		13週	12分間走の本番	12分間走の測定をする。	
		14週	実技試験①	実技試験の課題をクリアする。	
		15週	実技試験②	実技試験の課題をクリアする。	
		16週	実技試験予備日		

評価割合				
	実技試験	筆記試験	取り組み・態度	合計
総合評価割合	70	15	15	100
基礎的能力	70	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0046		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	Grove English Communication II (桐原書店), Grove English Communication Work Book, Fill In Notebook, 『基本英単語熟語 DataBase 3000 4th Edition』 (桐原書店)				
担当教員	上田 真梨子				
到達目標					
<p>1)高専1年次までに学習する文法事項・語彙の再確認を行い、それを土台としてさらに新しい情報を積み上げていくことができる。</p> <p>2)パラグラフの構造や展開についての理解を深め、内容把握ができる。</p> <p>3)内容を理解した英文について、発音に留意しながら音読することができる。</p> <p>4)2,400語程度レベルまでの語彙を習得し、読解活動や聞き取り活動に活用できる。</p> <p>5)英検準2級レベルの英語力取得に向けて、自学自習の習慣を確立することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1(到達目標1)	新出の文法事項・語彙を用いて、既習事項を踏まえながら英文読解に取り組むことができる。	新出の文法事項・語彙について、その用法を理解することができる。	新出の文法事項・語彙について、その用法を理解できない。		
評価項目2(到達目標2)	パラグラフの構成を理解し、その知識を英文読解に利用することができる。	パラグラフの構成について理解することができる。	パラグラフの構成について理解できない。		
評価項目3(到達目標3)	内容を理解した英文について、聞き手に伝わるように適切なリズム・イントネーションで表現することができる。	内容を理解した英文について、発音やリズム・イントネーションに留意しながら音読することができる。	まとまりのある英文について、発音やリズム等に留意しながら音読することができない。		
評価項目4(到達目標4)	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りの際、十分活用することができる。	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際、辞書等を使用しながら活用することができる。	十分な語彙を習得することができない。		
評価項目5(到達目標5)	英検準2級に合格するための学習習慣が確立できる。	英検準2級に合格する学習習慣について情報を集めることができる。	英検準2級に合格するための学習習慣を確立することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文で書かれた様々な内容の題材を通じて、幅広いものの見方や考え方を読み取っていく。同時に、書き手の意図を把握できるリーディング能力を伸ばすためのタスク活動に取り組むのに加え、リスニング能力を育成するためのタスク活動に取り組む。				
授業の進め方・方法	予備知識：高専1年生までに修得した文法事項・語彙、またそれを簡単な情報のやり取りのコミュニケーションに用いる技能。 講義室：各HR教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：教科書・ノート・授業配布プリント・辞書				
注意点	評価方法：後期中間試験は定期試験75%、課題テスト10%、提出物・小テスト15%で評価し、その他3回の定期試験85%、提出物・小テスト15%で評価する。それら4回の平均点が60点以上を合格とする。 自己学習の指針：1.『基本英単語熟語 DataBase 3000 4th Edition』を積極的に活用し、語彙力増強に努める。 2.学習事項(本文内容・文法・表現)を確実に身に付けるために、予習・復習・音読活動に積極的に取り組む。 オフィスアワー：木曜日15:00~16:00 *授業計画における中間試験実施週に関しては、その時期が早まる場合があります。その際は、授業の中で連絡をします。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Hello, Hollywood! 文型	学習の到達目標、学習内容、留意点を理解できる。また、テキストの内容について正しく読み取ることができる。		
	2週	Lesson 1 Hello, Hollywood! 文型	日本人俳優のハリウッドでの活動について理解することができる。また、文法項目について理解を深める。		
	3週	Lesson 1の総復習とLesson 2 Asian Culture and Life の導入	英語学習の可能性について理解することができる。また、文法項目に理解を深める。		
	4週	Lesson 2 Asian Culture and Life 動詞の時制	アジアの国々の文化と生活スタイルを正しく理解することができる。また文法項目に理解を深める。		
	5週	Lesson 2 Asian Culture and Life 動詞の時制	アジアの国々の文化と生活スタイルについて理解を深めることができる。また、文法項目に理解を深める。		
	6週	Lesson 2 Asian Culture and Life 総復習	レッスン2の内容について理解を深めることができる。また、文法項目に理解を深める。		
	7週	Lesson 1 & 2の総復習	既習事項の内容を確認し、不足があればその補充をすることができる。		
	8週	前期中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。		
	9週	Lesson 3 A Penguin Called Happy Feet 助動詞 It is said that 節、関係代名詞	迷子のペンギン Happy Feetと人々の出会いについて正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。		
	10週	Lesson 3 A Penguin Called Happy Feet 助動詞 It is said that 節、関係代名詞	迷子のペンギンが自然に戻る過程について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。		

後期		11週	Lesson 3 の総復習と Lesson 4 The Spirit is in My Bodyの導入	レッスン3の内容について確認するとともに、レッスン4のあらすじについて理解することができる。。また、文法項目に理解を深める。		
		12週	Lesson 4 The Spirit is in My Body 比較	障害を持ったアスリートの幼年時代について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。		
		13週	Lesson 4 The Spirit is in My Body 比較	モニックさんの夢について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。		
		14週	Lesson 4 の総復習	レッスン4について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。		
		15週	Lesson 3 & 4 の総復習	既習事項を復習し、何か不足があればその補充をすることができる。		
		16週	前期定期試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。		
	3rdQ		1週	Lesson 5 Guerrilla Gardening 助動詞、受動態	ロンドンのある花壇の成立について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
			2週	Lesson 5 Guerrilla Gardening 助動詞、受動態	レナルズさんの活動の広がりについて正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
			3週	Lesson 5 総復習 と Lesson 6 Iceland の導入 受身形・関係代名詞・時制	レッスン5の内容を確認するとともに、レッスン6のあらすじについて正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
			4週	Lesson 6 Iceland 不定詞、動名詞	アイスランドの歴史、特徴について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
			5週	Lesson 6 Iceland 不定詞、動名詞	アイスランドと火山のつきあい方について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
			6週	Lesson 6 の総復習	レッスン6について、理解を深めることができる。また、文法項目に理解を深める。	
			7週	Lesson 5 & 6 の総復習	既習事項を復習し、何か不足があればその補充をすることができる。	
			8週	後期中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。	
		4thQ		9週	Lesson 7 Which Jam Would you Like? 関係代名詞、分詞 第5文型・時制・仮定法	お店を使った実験の目的と方法について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。
				10週	Lesson 7 Which Jam Would you Like? 関係代名詞、分詞 第5文型・時制・仮定法	お店を使った実験結果について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。
11週				Lesson 7 の総復習と Lesson 8 Paper Buildingsの導入 第5文型・時制・仮定法	レッスン7の内容を確認するとともに、レッスン8のあらすじについて正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
12週				Lesson 8 Paper Buildings 分詞、関係代名詞	紙官を使った建築についてその目的を読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
13週				Lesson 8 Paper Buildings 分詞、関係代名詞	自然災害発生時の紙官を使った建築について正しく読み取ることができる。また、文法項目に理解を深める。	
14週				Lesson 8 の総復習	レッスン8について理解を深めることができる。また、文法項目に理解を深める。	
15週	Lesson 7 & 8 の総復習			既習事項の復習し、何か不足があれば補充することができる。		
16週	後期定期試験			定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。		

評価割合				
	試験	小テスト・提出物		合計
総合評価割合	85	15	0	100
基礎的能力	85	15	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英作文
科目基礎情報					
科目番号	0047		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	Vision Quest English Expression、Vision Quest English Grammar & Workbook (啓林館)、高校総合英語Vision Quest、プリント教材				
担当教員	中村 更花				
到達目標					
<p>① 1年次までに習得した、また高専2年次で学習する文法事項を理解し、それを用いて自分の意思を英語で表現することができる。</p> <p>② 英文を聞き、あるいは読み、情報や考えを的確に理解することができる。</p> <p>③ 内容を理解した英文について、発音に留意しながら表現し、その内容を英語で書くことができる。</p> <p>④ 2400語レベルまでの語彙を習得し、読解や聞き取りに活用できる。</p> <p>⑤ 自学自習の習慣を確立し、英検準2級及び英検2級の合格を目指す。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標①)	進出の文法事項を用いて、既習事項も踏まえながら自分の考えや意図を表現することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解できない。		
評価項目2 (到達目標②)	英文を聞き、あるいは読み、情報や考えを的確に理解することができる。	英文を聞き、あるいは読み、大意をとらえることができる。	英文を聞いても、あるいは読んでも大意をとらえることができない。		
評価項目3 (到達目標③)	内容を理解した英文について、聞き手に伝わるように適切なリズム・イントネーションで表現することができる。また、その内容を読み手にわかりやすい適切な英語で書くことができる。	内容を理解した英文について、発音やリズム・イントネーションに留意しながら音読することができる。また、その内容を英語で表現することができる。	まとまりのある英文について、発音やリズム等に留意しながら音読をしたり、その内容を英語で表現したりすることができない。		
評価項目4 (到達目標④)	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に十分に活用することができる。	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に辞書等を使用しながら最低限活用することができる。	語彙習得に対する自学自習の習慣が確立されていない。		
評価項目5 (到達目標⑤)	英検準2級及び英検2級に合格する。	英検準2級もしくは英検3級を取得し、英検2級もしくは準2級合格に向けて自学自習の習慣を確立する。	英検3級を取得するための学習習慣が確立されていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年時に引き続き、英語の学習において必要不可欠な英文法の基本的なルールを体系的に学習し、これからの高専における英語学習の基礎をしっかりと築くことを目的とする。また、自分の考えや意見を英語で表現できるようにするための土台作りも行う。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校・高専1年生で習得した文型・文法事項・語彙、また簡単な英文を表現するためにそれらを用いる技術。講義室：各HR教室 授業形式：講義、演習 学生が用意するもの：テキスト、ノート、授業配布プリント				
注意点	評価方法：年4回の定期試験(80%)、小テスト・提出物(20%)で評価し、60点以上を合格とする。自己評価の指針：授業で学習した内容の復習に基づき、指示された箇所の演習問題や課題に取り組んでください。また、次の授業の予習も行ってください。理解不足の箇所があれば、参考書を確認したり、教員に質問することで解決してください。オフィスアワー：木曜				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Vision Quest Les.7 不定詞①②	不定詞の3つの用法、また不定詞を用いた表現を理解できる。	
		2週	Vision Quest Les.7 不定詞③	不定詞を用いた慣用表現を理解できる。	
		3週	Vision Quest 47 不定詞①②	不定詞の特徴に注意して、その文法知識を適切に活用することができる。	
		4週	Vision Quest 47 不定詞③④	不定詞の特徴に注意して、その文法知識を適切に活用することができる。	
		5週	Vision Quest Les.8 動名詞①	動名詞の用法、ならびに動名詞を用いた表現を理解できる。	
		6週	Vision Quest Les.8 動名詞②	動名詞・不定詞を目的語とする動詞の区別を理解できる。	
		7週	既習事項の復習	既習事項の内容を適切に活用することができる。	
		8週	中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。	
	2ndQ	9週	Vision Quest 47 動名詞①②	動名詞に注意して、その文法知識を適切に利用できる。	
		10週	Vision Quest Les.9 分詞①	分詞の用法を理解することができる。	
		11週	Vision Quest Les.9 分詞②	分詞を用いたさまざまな表現を理解することができる。	
		12週	Vision Quest 47 分詞①②	分詞に注意して、その文法知識を適切に利用できる。	
		13週	Vision Quest Les.10 関係代名詞①②	関係代名詞の基本的な使い分けを理解することができる。	
		14週	Vision Quest Les.10 関係代名詞③	関係副詞・複合関係詞の基本的な用法を理解できる。	

		15週	既習事項の復習	既習事項の内容を適切に活用することができる。
		16週	前期定期試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。
後期	3rdQ	1週	Vision Quest 47 関係詞①②	関係代名詞・副詞を適切に使い分けすることができる。
		2週	Vision Quest 47 関係詞②③	関係詞の省略について理解することができる。
		3週	Vision Quest 47 関係詞③④	複合関係詞を適切に使い分けすることができる。
		4週	Vision Quest Les.11 比較①	比較表現の基本的な構造を理解できる。
		5週	Vision Quest Les.11 比較②	比較表現を用いた特殊な構文の意味を理解できる。
		6週	既習事項の復習	既習事項の内容について正しく理解し、適切に活用することができる。
		7週	既習事項の復習	既習事項の内容について正しく理解し、適切に活用することができる。
		8週	中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。
	4thQ	9週	Vision Quest 47 比較①②	原級・比較級・最上級を必要に応じて使い分けすることができる。
		10週	Vision Quest 47 比較②③	比較を用いた特殊表現を使い分けすることができる。
		11週	Vision Quest Les.12 仮定法①	仮定法過去・過去分詞の基本的な意味と型を理解できる。
		12週	Vision Quest Les.12 仮定法②特	特殊な仮定法のパターンを理解できる。
		13週	Vision Quest 47 仮定法①②	基本的な仮定法のパターンを使い分けすることができる。
		14週	Vision Quest 47 仮定法②③	特殊な仮定法のパターンを使い分けすることができる。
		15週	既習事項の復習	既習事項の内容を適切に活用することができる。
		16週	後期定期試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。

評価割合

	試験	小テストや課題への取り組み	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	0048		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	English Firsthand Success (Pearson/Longman Publishing)				
担当教員	ニコラス アンドリュー・ケイン				
到達目標					
The confident use of basic spoken English and the reinforcement of grammar and vocabulary previously studied. Communication and participation factors high in the calculation of the grade. Students are required to prepare a textbook and notebook and writing implement for each class(C3).					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
The confident use of basic spoken English	very good		average		not good
the reinforcement of grammar and vocabulary previously studied	very good		average		not good
Communication factors	high		average		low
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	Use of conversation, communication techniques and other medium for the purpose of studying spoken and written English conversation in a communicative environment. Computer and technology-based learning will be adopted throughout the program, but previous experience of this approach is not necessary.				
授業の進め方・方法	Textbook based conversation and communication activities. Slideshow presentations. Students will also have the opportunity to use popular media (e.g. music) for the purpose of studying English. All homework activities from the textbook are completed using an Online Resource Center.				
注意点	Students must be willing to learn and participate in class and should try to communicate with each other in English during the lesson. Students are expected to engage and prepare for each class through review/preview and are also required to meet all homework deadlines. Evaluation is as follows: Participation 60%, Final Examination 40% Passing grade is 60% or higher.				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Welcome and Introductions	Learners can introduce themselves and their classmates.	
		2週	Unit 7	Learners can tell a short narrative using the past simple	
		3週	Unit 7	Learners can talk about a trip or vacation and personal experiences	
		4週	Unit 7	U7 Review activities	
		5週	Unit 7	Follow-up task	
		6週	Unit 8	Learners can use comparatives and superlatives to give information on a range of topics.	
		7週	Unit 8	Learners can use comparatives and superlatives to make a quiz.	
		8週	Mid-semester test	In-class test (Listening/Speaking)	
	2ndQ	9週	Unit 8	Review activities	
		10週	Unit 8	Follow-up task	
		11週	Unit 9	Learners can talk about their abilities and skills	
		12週	Unit 9	Learners can ask others about their skills	
		13週	Unit 9	U9 Review activities	
		14週	Unit 9	Follow-up task	
		15週	Units 7-9	Review and preparation for end-of-semester test	
		16週	End-of-semester test	In-class test (Listening)	
後期	3rdQ	1週	Review	2nd Semester Introductory activities	
		2週	Unit 10	Learners can talk about their likes, dislikes and free time	
		3週	Unit 10	Learners can make and respond to invitations	
		4週	Unit 10	Unit 10 Review activities	
		5週	Unit 10	Follow-up task	
		6週	Unit 11	Learners can talk about rules and give advice	
		7週	Unit 11	Learners can communicate meaning with gestures and give advice	
	8週	Mid-semester test	In-class test (Listening/Speaking)		
	4thQ	9週	Unit 11	Unit 11 Review activities	
		10週	Unit 11	Follow-up task	
		11週	Unit 12	Learners can understand and re-tell a story using a picture	

	12週	Unit 12	Learners can create and tell two original "mini-stories"
	13週	Unit 12	U12 Review activities
	14週	Unit 12	Follow-up task
	15週	Units 10-12	Review and preparation for end-of-semester test
	16週	End-of-semester test	In-class test (Listening)

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	60	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	60	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	音楽
科目基礎情報					
科目番号	0049		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	MOUSA 1 (教育芸術社)、音楽ノート、配布プリント				
担当教員	伊藤 康博				
到達目標					
1. 歌唱による自己表現ができる。 2. 鑑賞によりイメージを文章にして表現できる。 3. 鑑賞の態度を身につけることができる。 4. 音楽を楽しむことができる。 5. 色々なジャンル・国々の音楽を受け入れることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1, 2)	デュナーミク・アゴーギクを理解して、楽譜に忠実に歌う事ができる。	デュナーミク・アゴーギクを理解して歌う事ができる。	デュナーミク・アゴーギクを感じる事ができない。		
評価項目2 (到達目標 3)	長い曲でも集中して聴くことができ、感じる事を文章で表現する事ができる。	好みがかかれていて、感じる事を文章で表現する事ができる。	集中して鑑賞ができない。文章での表現ができない。		
評価項目3 (到達目標 4, 5)	元氣よく歌い、感受性も高く、いかなる時代のどこの国の音楽も受け入れる事ができる。	いかなる時代のどこの国の音楽も受け入れる事ができる。	好みをはっきりと分かれ偏りがある。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	色々な国、色々なジャンルの音楽に触れる。				
授業の進め方・方法	予備知識：小、中学校での基礎 講義室：大講義室 授業形式：ピアノ、VHS、LD、DVD、CD等を使用 学生が用意するもの：教科書				
注意点	評価方法：歌唱試験(25%)、小テスト(ノート含む)(25%)、授業態度(50%)により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：テキストを中心として、毎回授業の予習・復習に取り組むと同時に、普段から音楽に興味を持ち、鑑賞する機会を見つけてください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	音楽の基礎知識の確認(翼をください歌唱)	・音名・音符の確認と認識。 ・確認した音符等を楽譜上で理解を高める。	
		2週	「少年時代」歌唱	・正しい音程で歌える。(斉唱) ・正しい表現ができる。(二部合唱)	
		3週	「オーケストラって何？」DVD鑑賞	・色々な楽器の名前を理解でき、色々な楽器の音色の違いを理解できる。	
		4週	「ミュージカル」鑑賞・オペラ座の怪人	ミュージカルの特徴を理解できる。	
		5週	「ミュージカル」鑑賞・オペラ座の怪人	ミュージカルの楽しみ方を理解できる。	
		6週	「ふるさと」・「オーソレ・ミヨ」歌唱	日本語とイタリア語の発音の違い、歌唱の違いを理解できる。	
		7週	イタリアオペラ鑑賞	ミュージカルとの違いを理解し、総合芸術を理解する。	
		8週	イタリアオペラ鑑賞・涙そうそう歌唱	イタリアオペラを理解する。	
	2ndQ	9週	「オペラ」鑑賞・カルメン	国によって、作曲家によっての音楽の違いを理解する。	
		10週	「オペラ」鑑賞・カルメン	言葉の違いと表現の違いを理解する。	
		11週	Oh Happy Day歌唱	ジャズを理解する。	
		12週	「のぼら」歌唱(ドイツ語)	シューベルトとウェルナーの違いを理解する。	
		13週	「のぼら」歌唱(ドイツ語)	イタリア歌曲とドイツリートの特徴を理解できる。	
		14週	歌唱試験	歌唱力の確認する。	
		15週	前期復習	研究ノートを使用して理解度を確認する。	
		16週			
評価割合					
	歌唱試験	小テスト(ノート含む)	授業態度	合計	
総合評価割合	25	25	50	100	
基礎的能力	25	25	0	50	

専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	50	50

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	美術
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	高校美術 1				
担当教員	栗山 奉文				
到達目標					
既成概念にとらわれず、自由な表現を試み、表現の楽しさを体験する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	テーマに合った表現方法を見つけ、人に感動を与える作品を作る。		テーマに沿って自分と向き合い作品を作り上げる		テーマを考えられず、作品を作ることが出来ない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	美術を通して自分の意識、思考、感情を作品として自由に表現させる。				
授業の進め方・方法	予備知識：小・中学校での基礎。 講義室：多目的教室 学生が用意するもの：アクリル絵具一式、スケッチブック、切り出しナイフ、手鏡				
注意点	評価方法：作品が80%、授業態度（作品に取り組む姿勢、意識）が20%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：普段より芸術作品を鑑賞する機会を作り、感動する楽しさを体験する。				
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	オリエンテーション 鉛筆研ぎ	一年間の授業の流れ、作品への取り組み方を理解する 鉛筆を工芸の意識を持って研ぐ	
		2週	目のデッサン	目の形、構造を理解し自分の目を見つめアウトラインを描く	
		3週	制作	目を見つめ正確に描写する	
		4週	制作	目を見つめ正確に描写する	
		5週	制作 個別評価	作品を客観的に見つめなおす	
		6週	抽象絵画	いろんな抽象作品を鑑賞しテーマを決める	
		7週	下絵制作	テーマに沿って下絵を作る	
	8週	制作	いろんな表現方法を試して制作してみる		
	2ndQ	9週	制作	自分に合った表現方法で制作する	
		10週	制作	作品を完成に近づける	
		11週	制作 個別評価	作品を客観的に見つめなおす	
		12週	自由課題	美術の中から好きなジャンルを選び作品を作ってみる	
		13週	制作	自分のテーマに沿っているか確かめる	
		14週	制作	作品を完成に近づける	
		15週	制作 個別評価	作品を客観的に見つめなおす	
16週					
評価割合					
	作品	授業態度(作品に取り組む姿勢、意識)	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	80	20	100		
専門的能力	0	0	0		
分野横断的能力	0	0	0		

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	書道
科目基礎情報					
科目番号	0051		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	書道 I (東京書籍)				
担当教員	朝永 恵子				
到達目標					
<p>1. 「漢字の書」の「楷書」では、幅広い時代や書風の古典を比較しつつ、それぞれの特徴を表現できる。</p> <p>2. 「漢字の書」の「行書」では、「蘭亭序」を通して行書の特徴が理解できる。</p> <p>3. 「漢字の書」の「隷書」では、「曹全碑」を通して隷書の特徴が理解出来る。</p> <p>4. 「漢字仮名交じりの書」では、「生活の中の書」を通して日常生活に応用できるようにする。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1(到達目標 1)	楷書のそれぞれの古典の特徴を理解し表現できる。		楷書のそれぞれの古典の特徴を理解し、ほぼ表現できる。		楷書のそれぞれの古典の特徴を理解できない
評価項目2(到達目標 2, 3)	蘭亭序の表現を通して行書の特徴を理解し表現できる。曹全碑の表現を通して、隷書の特徴を理解し表現できる。		蘭亭序の表現を通して行書の特徴を理解し、ほぼ表現できる。曹全碑の表現を通して隷書の特徴を理解し、ほぼ表現できる。		蘭亭序の表現を通して行書の特徴が理解できない。曹全碑の表現を通して、隷書の特徴を理解できない。
評価項目3(到達目標 4)	生活の中の書を通して日常生活で使用する表現が出来る。		生活の中の書を通して日常生活の中で使用する表現がほぼできる。		生活の中の書を通して日常生活で使用する表現が出来ない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	書の表現の多様性を創造する充実感を体得する。				
授業の進め方・方法	<p>予備知識：小・中学校での技術的な基礎とあわせ表現活動の多様性の美感和創造力の育成。</p> <p>講義室：視聴覚室</p> <p>授業形式：指定した座席により学習、各自がそれぞれ準備し各時間の学習テーマにそって学習</p> <p>学生が用意するもの：教科書、用具・用材</p>				
注意点	<p>評価方法：提出作品が80%、平常点(授業中の取り組む熱意、マナーなど)が20%で評価し、60点以上で合格とする。</p> <p>技術的なことよりいかに目標に意欲的に取り組むかをより重点的に評価する。</p> <p>自己学習の指針：テキストを中心に毎回授業の予習・復習に取り組むのに加えて、普段より「書道作品」を鑑賞する機会を見つけてください。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	中学校までの書写の学習の確認 用具、用材、姿勢、執筆について	中学校までの書写で学習した文字を正しく整えて書く事ができる。 用具、用材、姿勢、執筆について理解できる。	
		2週	書写から書道へ 漢字仮名交じりの書を書く。 いろいろな線による表現を試みる。	漢字と仮名を調和させて書くことができる。 漢字と仮名を調和させて書くことができる。	
		3週	楷書の用筆法、結構法について 唐時代の楷書について	楷書の用筆法、結構法を理解する。 唐時代の楷書の特徴が理解できる。	
		4週	「九成宮醴泉銘」を臨書する 「有無」を書く 清書	「九成宮醴泉銘」の書の特徴を捉えて臨書する。	
		5週	「孔子廟堂碑」を臨書する 「史書」を書く 清書	「孔子廟堂碑」の書の特徴を捉えて臨書する。	
		6週	北魏時代の楷書について 「牛けつ造像記」を臨書する 二字書 清書	北魏時代の楷書の特徴が理解できる。 「牛けつ造像記」の書の特徴を捉えて臨書する。	
		7週	「鄭義下碑」を臨書する 二字書 清書	「鄭義下碑」の書の特徴を捉えて臨書する。	
		8週	行書の特徴について	行書の特徴が理解できる。	
	2ndQ	9週	「蘭亭序」(王羲之)について 「天朗」を書く 清書	「蘭亭序」の臨書、鑑賞を通して特徴を把握する。	
		10週	二字書を書く 清書	二字熟語を「蘭亭序」の特徴を生かして表現する。	
		11週	隷書の成立と特徴について 清書	隷書の成立と特徴が理解できる。	
		12週	「曹全碑」を臨書する 「敬意」	「曹全碑」の書の特徴を捉えて臨書する。	
		13週	二字書を書く 清書	二字熟語を「曹全碑」の特徴を生かして表現する。	
		14週	小筆による実用書 清書	小筆による実用書の書き方を体得する。	
		15週	硬筆による実用書	硬筆による実用書の書き方を体得する。	
		16週			
評価割合					
		提出作品	平常点(授業中の取り組む熱意、マナーなど)	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	0	80	
分野横断的能力		0	20	20	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	製図		
科目基礎情報							
科目番号	0034	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	電子制御工学科	対象学年	2				
開設期	前期	週時間数	前期:1				
教科書/教材	電子製図 (実教出版) / 基礎電気・電子製図練習ノート (実教出版)						
担当教員	前田 貴信						
到達目標							
1. 図形の投影図の見方、書き方を理解し、できること 2. 三角定規、コンパスを用いて、機械部品 (ねじ、ボルト) の作図ができること 3. 3次元CADを操作し、自分が作りたいものを具体的に表現し、図面を作成できること 4. 電子回路CADを操作し、簡単な回路図、実体配線図をつくること							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
図形の投影図の見方、書き方を理解し、できること	十分に理解できる	ある程度理解できる	できない				
三角定規、コンパスを用いて、機械部品 (ねじ、ボルト) の作図ができること	十分にできる	ある程度できる	できない				
3次元CADを操作し、自分が作りたいものを具体的に表現し、図面を作成できること	十分にできる	ある程度できる	できない				
電子回路CADを操作し、簡単な回路図、実体配線図をつくること	十分にできる	ある程度できる	できない				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	製図に関する規格と基礎的な知識を習得し、電子機器の製作図を正しく製図し、かつ、読図することのできる能力を養う。さらに、3次元CADの使い方を習得しての製図手法の基礎を身につける。						
授業の進め方・方法	予備知識：1学年・図学 (前期) および製図 (後期) の内容、特に第三角法による図面の作成について理解しておくこと。 パソコンおよびOSの基礎知識を身につけておくこと。 講義室：2S教室 (手書きによる図面作成時)、ICT教室 (CADによる図面作成時) 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：製図道具一式、USBメモリ						
注意点	評価方法：提出作品の点数の平均点を90%、および平常の忘れ物・授業態度による評価を10%とし、60点以上を合格とする。 注意！ 提出課題は提出率が6割を切る場合、59点以下の評点とする。 自己学習の指針：図面作成の演習は基本的に授業中に行う。丁寧さを求めるので、時間をかけても構わないが、自宅・学寮でも作成して提出期限に間に合うようにすること。3D CADは放課後等を利用し、さまざまな利用法を自分で探ることが望ましい。 オフィスアワー：月曜日、水曜日の16:00～17:00						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	製図に関する総合演習基礎知識 (復習)	第三角法図学の図面の読み方を理解できること			
		2週	図面の作り方と能率化	第三角法により簡単な立体の図面を作成できること			
		3週	機械要素 (ボルト・ナット) の規格と製図	機械要素 (ねじ・ボルト・ナット) の規格を理解し説明できること			
		4週	機械要素、製図 1	ねじ・ボルト・ナットの図面を正確に書くことができること			
		5週	機械要素、製図 2	ねじ・ボルト・ナットの図面を正確に書くことができること			
		6週	3次元CADの基本操作方法	CADの基本的な操作法を理解し、簡単な作図ができること			
		7週	CADによる機械要素の製図 1	基本的なモデルをチュートリアルに従って作成できること			
		8週	製図に関する総合演習	これまでに学習した第三角法図学に関する理解を深めること			
	2ndQ	9週	CADによる機械要素の製図 2	機械要素による組立 (アセンブル) ができること			
		10週	3次元CADによる設計 1 (自由課題)	自分が作りたい製品のアイデアを具体的に			
		11週	3次元CADによる設計 2	製品を分解しどのような部品が有るか分析ができること			
		12週	3次元CADによる設計 3	製品を構成する部品を立体図で表現できること			
		13週	3次元CADによる設計 4	アセンブリにより組立図の作成ができること			
		14週	電気・電子に関する規格、電気用図記号	電気・電子部品と対応する図記号を書くことができること			
		15週	電子機器の設計例、電子回路CAD	電子系CADの使い方を理解し、簡単な電子回路を作成できること			
		16週					
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	90	0	10	0	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	0	90	0	10	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報処理
科目基礎情報					
科目番号	0035		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	C言語によるプログラミング 基礎編 (オーム社、内田智史監修)				
担当教員	中村 嘉男				
到達目標					
1. 配列を用いるプログラムが作成ができる。(A3) 2. ポインタを用いるプログラムが作成できる。(A3) 3. 構造体を用いるプログラムが作成できる。(A3) 4. 文字列処理のプログラムが作成できる。(A3) 5. ファイルオープンによるデータ書き込み、読み込みができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1(到達目標1)	1次元、2時限配列を用いたデータの入出力とプログラム作成ができる。	1次元、2時限配列を用いたデータの入出力と簡単なプログラム作成ができる。	1次元、2時限配列を用いたデータの入出力ができない。		
評価項目2(到達目標2)	ポインタ及びダブルポインタを用いたデータの入出力及び、プログラムの作成ができる。	ポインタ及びダブルポインタを用いたデータの入出力及び、簡単なプログラムの作成ができる。	ポインタ及びダブルポインタを用いたデータの入出力及び、簡単なプログラムの作成ができない。		
評価項目3(到達目標3)	配列、ポインタを用いた構造体変数のデータ入出力及び、プログラムが作成できる。	配列、ポインタを用いた構造体変数のデータ入出力及び、簡単なプログラムが作成できる。	配列、ポインタを用いた構造体変数のデータ入出力及び、簡単なプログラムが作成できない。		
評価項目4(到達目標4)	配列、ポインタを用いた文字列処理及び、ファイル操作ができる。	配列、ポインタを用いた文字列処理及び、簡単なプログラムでのファイル操作ができる。	配列、ポインタを用いた文字列処理及び、簡単なプログラムでのファイル操作ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年生で学んだ情報処理を基本に、配列とポインタ、構造体と共用体の使い方、文字列操作ならびにメモリ操作を学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識：1年までの情報処理(演算と型、プログラムの流れ) 講義室：ICT室 授業形式：講義と演習(授業の最後に、学習した内容の演習を行う) 学生が用意するもの：特に無し				
注意点	評価方法：中間、定期試験(4回)60点以上を合格とする 自己学習の指針：演習問題のプログラムを作成できること!他の教材等を自学学習し、次のステップにすすめること。 オフィスアワー：(木)14:00-17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1-1.はじめに	講義の進め方、情報処理、情報倫理について理解できる	
		2週	1-2.キーボードからのデータ入力	各種データのscanf,printfの使い方を修得する	
		3週	1-3.簡単な数学問題の解法1	直線の交点、複素数の計算プログラムを作成できる	
		4週	1-4.簡単な数学問題の解法2	角度(度数-ラジアン)の変換、数列を求めるプログラムを作成できる	
		5週	1-5.簡単な数学問題の解法3	数列、面積、表面積、体積を求めるプログラムを作成できる	
		6週	1-6.簡単な文字列の解析1	集合、文字列処理のプログラムが作成できる	
		7週	1-7.簡単な文字列の解析2	文字列処理(並び替え)のプログラムが作成できる	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	2-1.配列とは? 配列へのアクセス1	各種宣言の配列要素へのデータアクセスができる	
		10週	2-1.配列とは? 配列へのアクセス2	char型のデータと文字列を理解できる	
		11週	2-2.2次元配列	2次元配列とアクセス法ができる	
		12週	2-3.ポインタとアドレス	ポインタとアドレスの概念を理解している	
		13週	2-4.ポインタ変数	ポインタの演算子、データのアクセス法を理解している	
		14週	2-5.ポインタと配列1	ポインタ変数を用いて、配列[]にアクセスする方法が理解でき、使うことができる	
		15週	2-5.ポインタと配列2	ポインタと配列の関係を理解している	
		16週	期末試験		
後期	3rdQ	1週	構造体とは?	構造体とは何か?構造体の書式、宣言を理解できる	
		2週	構造体に領域を割りあてる1	構造体の使い方を理解し、利用できる	
		3週	構造体に領域を割りあてる2	構造体の領域割り当てを理解し、利用できる	
		4週	構造体のメンバにアクセスする	構造体のメンバへのアクセス法を理解し、使うことができる	
		5週	共用体	共用体とは何か?理解できる	
		6週	ビット単位の割り当て	ビットフィールドとは何か?理解できる	
		7週	型の別名定義	typedefの利用法が理解でき、使うことができる	

4thQ	8週	中間試験	
	9週	ファイル操作	ファイルのオープン、クローズが理解でき、使うことができる
	10週	ストリーム、ファイルの読み書き	文字単位のファイル入出力が理解でき、使うことができる
	11週	行単位のファイル入出力	行単位のファイル入出力を使うことができる
	12週	メモリ領域の種類、動的メモリ	メモリ領域の種類と構成が理解できる
	13週	メモリ操作	動的メモリの確保、割り当て、解放が理解でき、使うことができる
	14週	動的メモリのサイズ変更	動的メモリのサイズの変更が理解でき、使うことができる
	15週	まとめ	構造体のデータをファイルに入出力することが理解でき、使うことができる
16週	期末試験		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気工学
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	電気基礎(上) (下) (コロナ社)				
担当教員	中村 嘉男,唐沢 俊一				
到達目標					
1. クーロンの法則・電界と電位が説明できること。(A2) 2. コンデンサの直並列回路を解けること。(A2) 3. 複素数を用いて交流回路の計算ができること。(A2) 4. 重ね合わせの理, テブナンの定理が理解できること。(A2)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 (到達目標 1)	クーロンの法則・電界と電位が説明および、計算ができる。		クーロンの法則・電界と電位が説明でき、簡単な計算がほほできる。		クーロンの法則・電界と電位が説明および、計算ができない。
評価項目2 (到達目標 2)	コンデンサの直並列回路の問題を解ける。		コンデンサの簡単な直並列回路の問題を解ける。		コンデンサの直並列回路の問題が解けない。
評価項目3 (到達目標 3)	複素数を用いて交流回路の計算ができる。		複素数を用いて簡単な交流回路の計算がほほできる。		複素数を用いて交流回路の計算ができない。
評価項目4 (到達目標 4)	キルヒホッフ、重ね合わせの理、テブナンの定理が理解でき、計算ができる。		キルヒホッフ、重ね合わせの理、テブナンの定理が理解でき、簡単な回路の計算ができる。		重ね合わせの理、テブナンの定理が理解できず、また、計算ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	直流回路の拡張としての交流回路を学ぶ。複素数を道具として使い、位相、実効値、インピーダンスを学ぶ。また、複素数を使って簡単な交流回路の計算を行う。更に、回路の諸法則(重ね合わせの理、テブナンの定理等)を学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識：基礎電気(1年開講)で学んだオームの法則、キルヒホッフの法則を理解していること。また、抵抗の合成、簡単な直流回路の計算、複素数の和、差、積、除の計算ができること。 講義室：教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：ノート、電卓				
注意点	評価方法：4回の試験を70%、演習・課題等を30%で評価し、60点以上を合格とする 自己学習の指針：毎回の授業で自習課題を課すので、自分で解けるようにすること。試験時には、例題及び自習課題を理解できていること。 オフィスアワー：中村(火、金 午後4-5時) 唐沢(木、金 午後4-5時)				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	はじめに(講義の進め方、到達目標の説明、静電気について)	静電気の特徴を理解している	
		2週	3.1 静電力	クーロンの法則、静電誘導、静電遮蔽を理解できること。	
		3週	3.2 電界1	電界の強さ、電界内の電荷の受ける力、電束と電束密度が理解できること。	
		4週	3.2 電界2	電位と電位差、平等電界内の電位差、等電位面が理解できること。	
		5週	3.3 コンデンサ、静電容量	コンデンサの構造/性質、静電容量、および静電容量を求める式の導出も理解できること。	
		6週	3.3 コンデンサの接続、蓄えられるエネルギー	コンデンサの直列、並列接続の式が理解でき、演習問題ができること。またコンデンサーに蓄えられる静電エネルギーについても理解できること。	
		7週	まとめ1	演習問題ができること。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	3.4 放電現象	絶縁破壊、火花放電、コロナ放電、グロー放電、アーク放電、放電現象の応用について理解できること。	
		10週	4.1 正弦波交流	直流と交流の違い、整流と脈動電流、正弦波交流について理解できること。	
		11週	4.1 正弦波交流の取扱い	瞬時値、最大値、平均値、実効値、ピークピーク値、周期と周波数、弧度法と角周波数、角周波数による瞬時式の表現、位相と位相差について理解できること。	
		12週	4.1 交流の発生原理	交流の発生原理、最大値、周波数、角速度、角周波数が理解できること。	
		13週	4.2 正弦波交流とベクトル	正弦波交流をベクトルを用いて表すことが可能であり、位相差の計算について理解できること。	
		14週	4.2 正弦波交流のベクトルの表示方法	直交座標表示と極座標表示が理解できること。	
		15週	4.2 正弦波交流について まとめ2	交流における各法則がわかり、演習問題ができること	
		16週	期末試験		
後期	3rdQ	1週	4.3 交流回路の計算	抵抗、インダクタンス、静電容量だけの3回路のリアクタンス、電流の実効値、電流の瞬時値などの計算ができること。	
		2週	4.3 交流回路の計算	R,L,C直列回路のインピーダンス、各部分の電圧のベクトル表記、位相差の計算ができること。	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工学実験・実習
科目基礎情報					
科目番号	0037		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	機械工作法 (職業能力開発総合大学校能力開発研究センター編), 電子制御工学科作成の実験書				
担当教員	兼田 一幸, 榎田 諭, 中村 嘉男, 坂口 彰浩, 唐沢 俊一				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目標を理解し、安全確保のためにすべきことがわかる 2. 実習の内容をレポートにまとめることができる 3. 溶接作業および仕上げ作業を安全に行うことができる 4. 鋳造作業の手順がわかる 5. 旋盤作業およびフライス盤作業を安全に行うことができる 6. マイコンの基本的な使い方が理解できる 7. これまでに学んだ電子回路の特性を実習を通してより深く理解できる 8. 実験データの整理・解析方法を学び、報告書にまとめることができる 					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
実習の目標を理解し、安全確保のためにすべきことがわかる		十分わかる	ある程度わかる	わからない	
実習の内容をレポートにまとめることができる		十分にできる	ある程度できる	できない	
溶接作業および仕上げ作業を安全に行うことができる		十分にできる	ある程度できる	できない	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>機械工作実習では、工作機械・計測機器・工具の扱い方を学び、実際にモノを作ることの面白さと難しさを体験的に学習する。実技を習得することにより、学習効果を高める。物作りの基礎である各種工作法を体験し、詳細な観察を行い、理論的な考察力と独創性を養う。</p> <p>電子工作実習では、マイコンの組立て・基本的な使い方及び基本的な周辺回路の特性について学習する。</p>				
授業の進め方・方法	<p>予備知識：生産加工 I, 基礎電気工学, C 言語の内容を理解しておくこと</p> <p>講義室：実習工場, 電子制御工学科 B 棟実験室</p> <p>授業形式：実験・実習</p> <p>学生が用意するもの：実習服, 安全靴, 実験書, 電卓, グラフ用紙, USBフラッシュメモリなどの記憶媒体</p>				
注意点	<p>評価方法：【前期】出席状況および実習態度 (60%), レポート (20%), 作品の出来栄 (20%) で総合評価し、60点以上を合格とする。ただし、レポートが1つでも未提出の場合は不合格とする。</p> <p>【後期】実験の準備(服装・実験書等)が20%, 実験態度(積極性・協調性・適格性)が30%, 報告書(提出・内容)が50%で評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>自己学習の指針：【前期】実習実施日ごとに使用機械・工具・作業内容をまとめ、各部門ごとのレポートを提出すること。参考書や自己で調査できる資料を参照すること。</p> <p>【後期】実験・実習前に実験書を読んで実験手順などを予習しておくこと。また、実験・実習の目的・理論・方法は、実験・実習前にレポートにまとめておくこと。</p> <p>オフィスアワー：各担当教員のオフィスアワーを確認すること。</p> <p>備考：実習服, 帽子, ベルト, 安全靴を着用していない学生は実習を受けることができない。実験・実習欠席者に対しては補講を実施する。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	鋳造基本作業：安全教育, 鋳物砂の突き固め方と木型の抜き方	鋳物砂の取り扱い方がわかる	
		2週	鋳型製作：合枠型の鋳型製作 (丸棒, ディスタンスピース)	鋳型の製作ができる	
		3週	溶解・鋳込み作業：ホワイトメタルの鋳込み	鋳込みの方法がわかる	
		4週	溶接基本作業：安全教育, 被覆アーク溶接機の取り扱い方, アークの発生方法	アーク溶接機, アーク溶接棒の取り扱い方がわかる	
		5週	基本アーク溶接：ビード練習 (ストレートビード, ウィーピングビード)	アーク溶接の基本作業ができる	
		6週	アーク溶接の試験：下向き突合せ溶接, 破面検査	溶接溶接を行い, 材料の試験ができる	
		7週	仕上げ基本作業：安全教育, 工具, 測定機器の説明	仕上げ用工具および測定機器の名称と用途がわかる	
		8週	測定機器の取り扱い	測定機器の取り扱い方がわかる	
前期	2ndQ	9週	ねじ立て作業 (タップ・ダイス)	ねじ立て工具を用いてねじを切ることができる	
		10週	旋盤基本作業：安全教育, 工具, 構造, 旋盤の操作練習	旋盤の構造と機能がわかる	
		11週	段付きねじ棒製作 (1) : 外周荒削り作業	旋盤の基本操作を習得し, 外周削り, 段付き削りなどの作業ができる	
		12週	段付きねじ棒製作 (2) : 仕上げ切削作業, ねじ切り作業 (メートルねじ, ピッチ3mm)	旋盤の基本操作を習得し, 仕上げ加工, ねじ切りができる	
		13週	フライス盤基本作業：安全教育, 各種機械の説明, フライス盤操作	フライス盤の構造と機能がわかる	
		14週	フライス切削加工：正六面体の平面加工	フライス盤の基本操作を習得し, 平面削りなどの作業ができる	
		15週	フライス切削加工：正六面体の平面加工：ボール盤の操作 (穴あけ) : ケガキ作業	ボール盤の基本操作を習得し, 穴あけなどの作業ができる	
		16週			

後期	3rdQ	1週	組込みシステムの基礎 (1)	半田付けにより回路の作製が行える。
		2週	組込みシステムの基礎 (2)	マイコンを製作し、マイコンの動作確認が行える。
		3週	組込みシステムの基礎 (3)	マイコンを製作し、マイコンの動作確認が行える。
		4週	組込みシステムの基礎 (4)	シリアル通信、デジタル出力の動作確認が行える。
		5週	組込みシステムの基礎 (5)	デジタル入力、アナログ入力の動作確認が行える。
		6週	組込みシステムの基礎 (6)	PWMによるモータの制御の動作確認が行える。
		7週	組込みシステムの基礎 (7)	簡単なシステムを作製できる。
		8週	レポート作成	論理的な記述のレポートを製作できる。
	4thQ	9週	電子回路実習 (1)	オシロスコープにより各種データを計測できる。
		10週	電子回路実習 (2)	キルヒホッフの法則の実験を理解できる。
		11週	電子回路実習 (3)	重ね合わせの理の実験を理解できる。
		12週	電子回路実習 (4)	電位降下法によるL, Cの測定を理解できる。
		13週	電子回路実習 (5)	オームの法則の実験を理解できる。
		14週	電子回路実習 (6)	ホイートストンブリッジによる抵抗の測定の実験を理解できる。
		15週	レポート作成	レポート作成論理的な記述のレポートを製作できる。
		16週		

評価割合

	作品の出来栄	レポート	実験準備	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	10	35	10	45	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	10	35	10	45	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	0054		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	精選現代文B (三省堂)				
担当教員	川口 良治				
到達目標					
1. 18歳(選挙権年齢)相応の漢字熟語や慣用表現などを身につけ、正確に表記、使用できる。 2. 比喩的、象徴的な表現に込められた含意を理解し、文学作品を鑑賞できる。 3. 現代評論の論旨を、身近で具体的な問題と関連付けて、正確に理解できる。 4. 文章の読解を通して、論理的に論旨を組み立て、表現することができるようになる。 5. 文学作品の読解を通して、想像力や感受性を培い、豊かな心を養うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	18歳(選挙権年齢)相応の漢字熟語や慣用表現等の語彙を習得し、正確に表記、使用できる。	習得している語彙が18歳(選挙権年齢)相応には不足しているが、身につけようとする意識が高い。	習得している語彙が18歳(選挙権年齢)相応に達しておらず、身につけようとする意識も乏しい。		
評価項目2	比喩的、象徴的な表現に込められた含意を理解し、文学作品を鑑賞できる。	比喩的、象徴的な表現に込められた含意の理解に関心があり、文学作品を鑑賞できる。	比喩的、象徴的な表現に込められた含意の理解に関心がなく、文学作品を鑑賞できない。		
評価項目3	現代評論の論旨を、身近で具体的な問題と関連付けて、正確に理解できる。	現代評論の論旨を、身近で具体的な問題と関連付ける意識を持ち、理解できる。	現代評論の論旨を、身近で具体的な問題と関連付けることに関心がなく、理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	近現代の優れた文学作品を味読・鑑賞し、比喩的、象徴的な表現に込められた含意を汲み取り、日本語による表現の可能性を探る。現代評論、中でも科学技術に関する評論を読み、論旨を正確に理解し、工業高等専門学校で学ぶ知識、技術を社会的な文脈に位置づける。現代文の読解を通して、自らが使用できる日本語の語彙・表現を増やし、漢字熟語の読み書きを正確なものとする。文学作品の読解、現代評論の理解については、感想文の提出、定期試験において確認し、成績評価とする。				
授業の進め方・方法	授業の開始時に漢字熟語・慣用句等の小テストを実施する。その後、座学形式で教材文の読解を進めていく。適宜、発問をし回答を求める。				
注意点	漢字・慣用句等の小テストは、成績評価に10%加味する。また、感想文等の提出物は成績評価に10%加味する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	学習目標および評価などを理解できる。	
		2週	評論「最初のペンギン」茂木健一郎	論理的な文章を読み、筆者の考えやその展開の仕方などについて理解する。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	
		3週	評論「わかりやすいはわかりにくい？」鷲田清一	論旨を正確に追いつきながら、筆者の言う「思考」における「肺活量」が持つ意味について読み取る。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	
		4週	評論「わかりやすいはわかりにくい？」鷲田清一	逆説による表現の効果を知り、筆者の主張を理解できる。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	
		5週	小説「山月記」中島敦	小説の登場人物の心理を、言葉による描写に則して把握することができる。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	
		6週	小説「山月記」中島敦	小説の登場人物の心理を、言葉による描写に則して把握することができる。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	
		7週	小説「山月記」中島敦	小説の登場人物の心理を、言葉による描写に則して把握することができる。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	評論「未来世代への責任」岩井克人	「倫理」を否定するところから出発した経済学が、再び「倫理」の必要性へと到達する逆説を読み取る。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	
		10週	評論「未来世代への責任」岩井克人	文中で論じられていることを自らの周囲における具体的な事実に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句(漢字熟語、外来語、慣用句等)の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。	

		11週	評論「メディアと歴史」若林幹夫	人間が生み出した道具や技術によって、私たちが拡張された身体と社会を生活しているということの意味を読み取る。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		12週	評論「メディアと歴史」若林幹夫	文中で論じられていることを自らの周囲における具体的事実に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		13週	評論「メディアと歴史」若林幹夫	文中で論じられていることを自らの周囲における具体的事実に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		14週	詩「二十億光年の孤独」谷川俊太郎、「パンの話」吉原幸子、「永訣の朝」宮澤賢治	象徴的、比喩的な表現に込められた意味を理解し、詩を鑑賞することができる。
		15週	詩「二十億光年の孤独」谷川俊太郎、「パンの話」吉原幸子、「永訣の朝」宮澤賢治	象徴的、比喩的な表現に込められた意味を理解し、詩を鑑賞することができる。
		16週	前期定期試験	
後期	3rdQ	1週	小説「こころ」夏目漱石	小説の時代背景や登場人物の心理を、言葉による描写に則して把握することができる。作品を多様な視点から解釈、鑑賞することができる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		2週	小説「こころ」夏目漱石	小説の時代背景や登場人物の心理を、言葉による描写に則して把握することができる。作品を多様な視点から解釈、鑑賞することができる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		3週	小説「こころ」夏目漱石	小説の時代背景や登場人物の心理を、言葉による描写に則して把握することができる。作品を多様な視点から解釈、鑑賞することができる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		4週	小説「こころ」夏目漱石	小説の時代背景や登場人物の心理を、言葉による描写に則して把握することができる。作品を多様な視点から解釈、鑑賞することができる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		5週	評論「戦争の〈不可能性〉」西谷修	核兵器によって、不可能な戦争の中に「宙吊り」になっている現代世界のありようについて読み取る。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		6週	評論「戦争の〈不可能性〉」西谷修	文中で論じられていることを自らが学ぶ工学等に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		7週	評論「戦争の〈不可能性〉」西谷修	文中で論じられていることを自らが学ぶ工学等に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	評論「選べる社会の難しさ」松田美佐	「選べる」社会が同時に「選ばざるを得ない」困難を伴う社会であることを理解する。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		10週	評論「選べる社会の難しさ」松田美佐	現代社会が抱える問題を自らの周囲における具体的事実に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		11週	評論「選べる社会の難しさ」松田美佐	現代社会が抱える問題を自らの周囲における具体的事実に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		12週	評論「木の葉と光」日高敏隆	「環境」ではない「環世界」への注視という筆者の意図を読み取る。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		13週	評論「木の葉と光」日高敏隆	現代社会が抱える問題を自らの周囲における具体的事実に関連付けながら理解できる。本文中に使用されている語句（漢字熟語、外来語、慣用句等）の意味を理解し、自らの表現においても使用できる。
		14週	短歌「木に花咲き一短歌十五首」	近代から現代の代表的作者の手になる十五首の歌を読み味わい、そこに描かれている情景や作者の心理を読み取る力を養う。
		15週	短歌「木に花咲き一短歌十五首」	近代から現代の代表的作者の手になる十五首の歌を読み味わい、そこに描かれている情景や作者の心理を読み取る力を養う。
		16週	後期定期試験	

評価割合

	試験	小テスト	提出物	合計
総合評価割合	80	10	10	100
基礎的能力	80	10	10	100

專門的能力	0	0	0	0
-------	---	---	---	---

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史
科目基礎情報					
科目番号	0055		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	『新選日本史B』 (東京書籍)				
担当教員	堀江 潔				
到達目標					
1. 原始社会・古代国家・中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。(B1)					
2. 近世武士政権・近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。(B1)					
3. 各時期の代表的な文化財とその特徴について理解できる。(B1)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	原始社会・古代国家・中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。		原始社会・古代国家・中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略をほとんど説明できる。		原始社会・古代国家・中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できない。
評価項目2	近世武士政権・近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。		近世武士政権・近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略をほとんど説明できる。		近世武士政権・近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できない。
評価項目3	各時期の代表的な文化財とその特徴について理解できる。		各時期の代表的な文化財とその特徴についてほとんど理解できる。		各時期の代表的な文化財とその特徴について理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	人類がたどってきた歴史的過程について、特に政治的側面を中心として、原始・古代から近代までを学習する。また、各時期の文化財とその特徴を学習する。3年次では、日本の歴史を中心に取り上げる。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校社会科の歴史分野で学習した内容。2年次の「歴史」で学習した内容。 講義室：3年各HR教室。 授業形式：講義形式。 学生が用紙するもの：教科書、配布プリント、ノート、筆記用具。				
注意点	自己学習の指針：授業内容を確実に理解するため、授業内容と関係する教科書の記述を予習・復習しておくこと。 自学課題を提出期限までに仕上げることも、ノート提出に備え、授業中の板書・教科書の記述などをまとめておくこと。 オフィスアワー：水曜日16:00~17:00、木曜日16:00~17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業概要説明	学習目標や授業方法、評価方法について理解できる。	
		2週	旧石器時代・縄文時代の人びとの暮らし	原始社会の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		3週	弥生時代の特質と邪馬台国の成立	原始社会の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		4週	大和政権の成立と対外関係	古代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		5週	飛鳥時代の政治・外交	古代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		6週	律令国家の成立過程	古代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		7週	奈良時代の政治・外交	古代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		8週	前期中間試験	前期中間試験	
	2ndQ	9週	平安時代初期の政治改革	古代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		10週	摂関政治と武士の発生	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		11週	武士団の成長と院政	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		12週	平氏政権の成立	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		13週	鎌倉幕府の成立と執権政治	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		14週	モンゴル襲来と鎌倉幕府の滅亡	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		15週	建武の新政と南北朝時代	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	守護大名の成立と一揆の頻発	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		2週	戦国大名の台頭	中世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	
		3週	織田信長の天下統一事業	近世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。	

4thQ	4週	豊臣秀吉の天下統一政策	近世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	5週	江戸時代初期の政治と外交	近世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	6週	幕政改革と藩政改革	近世武士政権の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	7週	開国から大政奉還へ	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	8週	(後期中間試験)	
	9週	明治新政府の成立	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	10週	立憲政治の形成と外交問題	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	11週	日清・日露戦争	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	12週	第一次世界大戦	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	13週	政党政治と大正デモクラシー	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	14週	世界恐慌とファシズムの台頭	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	15週	日中戦争から太平洋戦争へ	近代国家の成立および発展・変質過程を理解し、概略を説明できる。
	16週		

評価割合

	試験	提出物	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	微積分
科目基礎情報					
科目番号	0056		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	微積分2 (森北出版) / 微積分2 問題集 (森北出版) , 配布プリント				
担当教員	眞部 広紀				
到達目標					
①媒介変数表示された曲線の長さや曲線に囲まれた図形の面積を求めることができる。②数値積分や広義積分の計算ができる。③関数のマクローリン展開ができ、近似値の計算に応用できる。④2変数関数の簡単な極値問題が解ける。⑤簡単な2重積分の計算ができる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
①媒介変数表示された曲線の長さや曲線に囲まれた図形の面積を求めることができる。	いろいろな媒介変数表示された曲線の長さや曲線に囲まれた図形の面積を求めることができる。	基本的な媒介変数表示された曲線の長さや曲線に囲まれた図形の面積を求めることができる。	基本的な媒介変数表示された曲線の長さや曲線に囲まれた図形の面積を求めることができる。	基本的な媒介変数表示された曲線の長さや曲線に囲まれた図形の面積を求めることができない。	
②数値積分や広義積分の計算ができる。	いろいろな数値積分や広義積分の計算ができる。	基本的な数値積分や広義積分の計算ができる。	基本的な数値積分や広義積分の計算ができる。	基本的な数値積分や広義積分の計算ができない。	
③関数のマクローリン展開ができ、近似値の計算に応用できる。	微分を応用していろいろな関数のマクローリン展開や、近似値の計算に応用できる。	基本的な関数のマクローリン展開や、近似値の計算に応用できる。	基本的な関数のマクローリン展開や、近似値の計算に応用できる。	基本的な関数のマクローリン展開や、近似値の計算に応用できない。	
④2変数関数の簡単な極値問題が解ける。	いろいろな2変数関数の極値問題が解ける。	基本的な2変数関数の極値問題が解ける。	基本的な2変数関数の極値問題が解ける。	基本的な2変数関数の極値問題が解けない。	
⑤簡単な2重積分の計算ができる。	いろいろな2重積分の計算ができる。	基本的な2重積分の計算ができる。	基本的な2重積分の計算ができる。	基本的な2重積分の計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	前期は微分法の基礎定理の平均値の定理を理解し、その応用であるテイラーの定理を学ぶ。また、少し難度の高い不定積分の計算方法について学ぶ。後期は偏微分法、重積分法を定義し、2変数関数の構造について学ぶ				
授業の進め方・方法	予備知識：高専1年までに学習した数学の内容 講義室：ホームルーム 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：講義用のノートと演習用ノートを用意することが望ましい。学生が用意するもの：講義用のノートと演習用ノートを用意することが望ましい。				
注意点	評価方法：定期考査（中間考査2回・定期考査2回）80%、実力試験5%、小テスト10%、課題5% 自己学習の指針：・毎回宿題を出すので、次の授業までに解き、必ず答え合わせをしておくこと。 オフィスアワー：月曜日16:30～17:30、水曜日16:30～17:30 ☆担当者により、授業内容の順序・授業方法・評価方法・オフィスアワーに違いがあるので、授業最初☆担当者により、授業内容の順序・授業方法・評価方法に違いがあるので、授業最初のガイダンスで確認をすること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	曲線の媒介変数表示について学ぶ。	媒介変数表示された曲線の概形がわかる。	
		2週	媒介変数表示と微分法について学ぶ	媒介変数表示された曲線の接線の方程式を求めることができる。	
		3週	媒介変数表示と積分法について学ぶ	媒介変数表示された曲線の長さや曲線に囲まれた図形の面積を求めることができる。	
		4週	演習	関数のグラフで表された曲線などの問題が解ける。	
		5週	極座標と極方程式について学ぶ	極座標と極方程式で表された基本的な曲線の概形がわかる。	
		6週	極方程式と積分法について学ぶ	極方程式で表された図形の面積や曲線の長さを求めることができる	
		7週	演習	いろいろな極方程式で表された曲線に関する問題を解くことができる。導関数の定義を理解している。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	数値積分について学ぶ	数値積分の考え方を理解し、図形の面積の数値計算ができる。	
		10週	広義積分について学ぶ	広義積分の計算方法を理解し、計算問題を解くことができる。	
		11週	演習	定積分と数値積分・広義積分との違いを意識して問題を解くことができる。	
		12週	高次導関数とべき級数について学ぶ	高次導関数を求めることができ、べき級数の取り扱いができる。	
		13週	マクローリンの定理とマクローリン展開について学ぶ	マクローリンの定理を理解し、マクローリン展開ができる。	
		14週	マクローリン多項式と関数の近似について学ぶ	マクローリン多項式を利用し、近似値の計算ができる。	
		15週	演習	オイラーの公式、拡張された二項定理などの応用問題を解くことができる。	
		16週	前期定期試験		
後期	3rdQ	1週	2変数関数と偏導関数について学ぶ	2変数関数を理解し、偏微分の計算ができる。	

		2週	合成関数の導関数・偏導関数について学ぶ	合成関数の微分・偏微分の計算ができる。
		3週	接平面と全微分・近似について学ぶ	2変数関数のグラフの接平面を求めることができ、全微分による近似計算ができる。
		4週	演習	様々な2変数関数の微分に関する問題を解くことができる。
		5週	2変数関数の極値と判定法について学ぶ。	2変数関数の極値を求めることができる。
		6週	陰関数の微分法について学ぶ。	陰関数の微分ができる。
		7週	条件付き極値問題について学ぶ。	条件付き極値問題を解くことができる。
		8週	後期中間試験	
		4thQ	9週	2重積分について学ぶ。
	10週		変数変換について学ぶ。	変数変換を用いて2重積分を計算することができる。
	11週		2重積分の応用について学ぶ。	立体の体積を2重積分を用いて求めることができる。
	12週		演習	図形の重心など、2重積分の応用問題が解ける。
	13週		総合演習	代数、幾何で学習した内容を復習し、その重要性を確認する。
	14週		総合演習	微積分、基礎線形で学習した内容を復習し、その重要性を確認する。
	15週		総合演習	部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。
	16週		後期定期試験	多変数関数の微積分の内容を復習し、今後の展開を考える。

評価割合

	定期試験	実力試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合	80	5	10	5	100
基礎的能力	80	5	10	5	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理
科目基礎情報					
科目番号	0057	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	「総合物理1」と「総合物理2」(数研出版)、「センサー総合物理」(啓林館)				
担当教員	森 保仁				
到達目標					
1. 万有引力の法則、万有引力による位置エネルギーの考え方を理解できる。 2. 比熱と熱容量、熱量保存則、理想気体の状態方程式、熱力学第一法則、気体の状態変化の考え方を理解できる。 3. 波の基本的性質(波の伝わり方、横波と縦波、ホイヘンスの原理、重ね合わせの原理、定常波など)の考え方を理解できる。 4. 音波の基本的性質(音速、弦や気柱の振動、音のドップラー効果、音の干渉など)の考え方を理解できる。 5. 光波の基本的性質(光速、光の三原色、絶対屈折率、全反射、偏光、光の散乱、光の干渉など)の考え方を理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)	ケプラーの法則を説明できる。万有引力の式と万有引力による位置エネルギーの式を導出できる。	万有引力の式や万有引力による位置エネルギーの式を用いた簡単な問題を解くことができる。	万有引力の式や万有引力による位置エネルギーの式を用いた簡単な問題を解くことができない。		
評価項目2 (到達目標2)	潜熱を含む熱量保存則のやや複雑な問題を解くことができる。理想気体の状態方程式や内部エネルギーの式を導出できる。	比熱と熱容量の概念を理解できる。熱量保存則、理想気体の状態方程式を用いた簡単な問題を解くことができる。熱力学第一法則の概念を理解できる。	比熱と熱容量の概念を理解できない。熱量保存則や理想気体の状態方程式を用いた簡単な問題を解くことができる。熱力学第一法則の概念を理解できない。		
評価項目3 (到達目標3)	波の空間的伝播の図と時間的伝播の図の関係を求めるような、やや複雑な問題を解くことができる。	縦波の横波表示を記述できる。ホイヘンスの原理を用いて屈折波面を作図できる。干渉の条件を用いた簡単な問題を解くことができる。	縦波の横波表示を記述できない。ホイヘンスの原理を用いて屈折波面を作図できない。干渉の条件を用いた簡単な問題を解くことができない。		
評価項目4 (到達目標4)	ドップラー効果の式を導出できる。音さの向きが異なる弦の振動のような、やや複雑な問題を解くことができる。	弦や気柱の振動、音のドップラー効果、音の干渉に関する簡単な問題を解くことができる。	弦や気柱の振動、音のドップラー効果、音の干渉に関する簡単な問題を解くことができない。		
評価項目5 (到達目標5)	光路長を用いた複雑な光の干渉の問題を解くことができる。	光波の反射や屈折を作図でき、物質の絶対屈折率を計算できる。全反射条件の式を用いて臨界角を計算できる。	光波の反射や屈折を作図できず、物質の絶対屈折率を計算できない。全反射条件の式を用いて臨界角を計算できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自然界の「なぜ？」を解き明かすために必要な「科学的に考える力」を身につけるため、主に「宇宙、熱、波動」に関する講義および講義実験を中心に授業を展開する。さらに自然界に成り立つ物理法則を学生実験を通して実感することにより、科学的自然観を育てる。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学校で学習した理科(特に第一分野)の内容、高専第2学年で学習した「物理」の内容 講義室：物理実験室 授業形式：講義、講義実験(自作の実験装置など)、物理学実験(年間6テーマ) 学生が用意するもの：授業ノート、自習ノート、電卓、定規、色つきのペン				
注意点	評価方法：定期試験は、テスト(75~95%)、学生実験レポート・宿題(25~5%)の割合で評価し、60点以上を合格とする。追試験は、定期テストの素点が60点未満の学生を対象として行う。 自己学習の指針：問題集や授業中に配布した演習プリントを自習ノートにする。物理学実験のレポートの予習をし、実験後にレポートを仕上げる。 オフィスアワー：月曜日16:00~17:00、金曜日16:00~17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	3年物理の概略説明、慣性力と遠心力	慣性力と遠心力の考え方を理解できる	
		2週	円すい振り子、円筒面内を運動する物体	円すい振り子と円筒面内を運動する物体の考え方を理解できる。	
		3週	天動説から地動説へ、ケプラーの法則	科学史の流れの中でケプラーの法則を理解できる。	
		4週	万有引力の法則、第一宇宙速度	万有引力および万有引力と重力の関係を理解できる。	
		5週	万有引力による位置エネルギー、第二宇宙速度	万有引力による位置エネルギーの考え方を理解できる。	
		6週	熱と温度、熱量、比熱と熱容量	熱量、比熱、熱容量の考え方を理解できる。	
		7週	熱量保存の法則、融解熱と気化熱	熱量保存の法則および潜熱の考え方を理解できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	テスト返却、ボイル・シャルルの法則	ボイル・シャルルの法則の考え方について理解できる。	
		10週	物理学実験 [Ⅲ]	物理学実験を通して熱に関する理解を深める。	
		11週	物理学実験 [Ⅲ]、理想気体の状態方程式	同上、理想気体の状態方程式の考え方を理解できる。	
		12週	気体の分子運動論、温度と運動エネルギー	気体分子の運動エネルギーと気体の温度の関係を理解できる。	
		13週	内部エネルギー、熱力学第一法則	内部エネルギーおよび熱力学第一法則の考え方を理解できる。	
		14週	混合気体、定圧変化、定積変化	混合気体および気体の状態変化(定圧、定積)の考え方を理解できる。	
		15週	等温変化、断熱変化、熱機関の効率	気体の状態変化(等温、断熱)および熱機関の考え方を理解できる。	

		16週	前期期末試験	
後期	3rdQ	1週	テスト返却、波とは何か	波とは何かという考え方を理解できる。
		2週	縦波の横波表示、重ね合わせの原理	横波と縦波および重ねあわせの原理の考え方を理解できる。
		3週	波の干渉、定常波、自由端と固定端	波の干渉、定常波、自由端反射と固定端反射の考え方を理解できる。
		4週	ホイヘンスの原理、波の反射・屈折・回折	ホイヘンスの原理を用いて波の反射・屈折・回折の考え方を理解できる。
		5週	音波の速さ、音の反射・屈折・回折・干渉	音波の反射・屈折・回折・干渉の考え方を理解できる。
		6週	うなり、音のドップラー効果	音のうなりおよびドップラー効果の考え方を理解できる。
		7週	音のドップラー効果	ドップラー効果について理解を深めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	テスト返却、弦の振動	弦の中にできる定常波の考え方を理解できる。
		10週	弦の振動、気柱の振動	弦および気柱内にできる定常波の考え方を理解できる。
		11週	気柱の振動、光の種類、光の速さ、偏光	気柱内にできる定常波、および光波の基本的な考え方を理解できる。
		12週	光の反射・屈折、全反射	光の反射、屈折、全反射の考え方を理解できる。
		13週	物理学実験 [IV]	物理学実験を通して波に関する理解を深める。
		14週	物理学実験 [IV]、光の散乱・分散	同上、光の散乱および分散の考え方を理解できる。
		15週	ヤングの実験、回折格子	光の干渉（ヤングの実験、回折格子）の考え方を理解できる。
		16週	後期期末試験	

評価割合

	試験	ノート	レポート		合計
総合評価割合	80	8	12	0	100
基礎的能力	80	8	12	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育
科目基礎情報					
科目番号	0058		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	最新スポーツルール (大修館) / 必要に応じてプリント、ビデオ等を使用する。				
担当教員	宮良 俊行				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 多種の運動種目を経験することにより生涯スポーツとしての取り組み方が理解できる。 2. 卓球、バドミントン、テニス、ゴルフについて種目の特性と基本的ルールが理解できる。 3. 新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認と比較ができる。 4. 運動と体カトレーニングについて理解できる。 5. 身体組成、有酸素能の測定により健康との関連や、環境問題について理解できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
多種の運動種目を経験することにより生涯スポーツとしての取り組み方が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年生で身につけた基本的な動作ができ、各種目のルールに則ってゲームを運営できる。授業で使う道具や施設の準備を行ったり、それらを安全に配置したり、安全に授業を進行することができる。 他者と協力協調して、チームのために参加・応援・補助をすることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年生で身につけた基本的な動作ができ、各種目のルールに則ってゲームを運営できる。また、生涯スポーツに必要な、体力に応じてスポーツを楽しむ事、残全に配慮して取り組むことができる。自分本位な活動にならないようにに参加・応援・補助をすることができる。 	<p>各種目のルールに則った行動や安全に配慮したプレー・活動・ゲーム運営ができない。また、生涯スポーツに必要な、体力に応じてスポーツを楽しむ事、残全に配慮して取り組むことができない。授業で使う道具や施設を安全に適切に使用できない。個人活動の割合が多くなったり、自分本位な活動ばかりを行う。</p>		
卓球、バドミントン、テニス、ゴルフについて種目の特性と基本的ルールが理解できる。	<p>基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、積極的に練習や試合を運営することができる。</p> <p>経験者はチームやクラスメイト学生 (未経験者) に指導をし、その学生の技能を高めることができる。</p>	<p>基本的な技術を身につけ、ルールを覚え、各チームで協力し、練習や試合に参加できる。</p> <p>経験者はチームやクラスメイト学生 (未経験者) に技能向上に関する指導をすることができる。また、競技やゲーム運営の手法として活動することができる。</p>	<p>基本的な技術を身につけたり、ルールを覚えることが殆ど出来ず、練習や試合に対して消極的な態度で参加して。</p> <p>経験者でありながらチームやクラスメイト学生 (未経験者) に技能向上に関する指導や競技やゲーム運営及び補助を行わない。</p>		
新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認と比較ができる。	<p>新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を大きく上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。</p> <p>全国統一の評価表に基づいて、平均値を超えるパフォーマンスを発揮することができる。</p>	<p>新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。</p> <p>全国統一の評価表に基づいて、平均値に到達することができる。</p>	<p>新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力を上回っていくことができない。自己の体力を調べるために、測定に全力をもって挑んでいない。</p>		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	個人スポーツ種目の基本技能を修得に重点を置き、ゲームまで発展させる。集団スポーツは、戦術を高め、ゲームのレベル向上を目指す。また、3年時から始める種目 (バドミントン、卓球、硬式テニス、ゴルフ) については、ルールとゲームの進め方を学ぶ。				
授業の進め方・方法	<p>授業場所：第一体育館かグラウンドにて行う。その他、必要に応じて第二体育館、総合グラウンド、教室でも実施する。</p> <p>授業形式：実技を中心に進め、前期と後期にそれぞれ講義と筆記試験を1回ずつ実施する。</p> <p>用意するもの：学生が各自で指定の体操服と体育館シューズ、グラウンドシューズを用意しておくこと。</p> <p>主な授業内容：</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 種目練習：クラスを4グループに分けて、全種目を均等に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 晴天時・・・ソフト、バレー、テニス、ゴルフ 雨天時・・・バレー、バドミントン、卓球 <ul style="list-style-type: none"> ラケット種目は、ラケットの持ち方からフォアストローク、バックストロークを中心に修得する。 ゴルフは、グリップからスイング、ショートアイアンの練習。 集団スポーツは、ゲームを中心に技能を高め、レベルの向上を目指す。 2. 新体力テスト：握力、反復横跳び、長座体前屈、上体起こしの測定を行い、体力の確認と向上を目指す。 3. 保健理論：身体組成の測定、調査を行う。運動と体カトレーニングについて学び筆記試験を行う。 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 種目練習：クラスを4グループに分けて、全種目を均等に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 晴天時・・・サッカー、バスケット、テニス、ゴルフ 雨天時・・・バスケット、バドミントン、卓球 <ul style="list-style-type: none"> 個人スポーツは、ラリー、サービスからゲームへと発展させる。 集団スポーツは、ゲームを中心に技能を高め、レベルの向上を目指す。 2. 新体力テスト：50m走、立ち幅跳、ハンドボール投げ、持久走の測定を行い、体力の確認と向上を目指す。 3. 保健理論：12分間走から自己の有酸素能力を推定する。環境問題について学び筆記試験を行う。 				
注意点	<p>評価方法：実技試験、体力テスト、12分間走による評価70%、筆記試験、レポート等15%、授業への取り組み等15%で評価を行い、60点以上を合格とする。</p> <p>自己学習の指針：最新スポーツルール (大修館) を活用し、授業内容の理解がより深まるように各種目の技術やルールを予習・復習する (3年次から種目がバドミントン、卓球、硬式テニス、ゴルフが増える)。また、生涯を通じてスポーツに親しむ (する・見る・支える) 資質を養うために、各種目の起源 (歴史) や特徴 (楽しさ) を学ぶ。</p> <p>その他：担当者により、授業内容の順序・授業方法・評価方法に違いがあるので、授業最初のガイダンスで確認をすること。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、選択種目	年間の授業の流れと評価方法を把握する。選択種目を決めチーム分けを行う。	

後期	2ndQ	2週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		3週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		4週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		5週	体育祭の練習	体育祭の練習を通して、協調性を高める。
		6週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		7週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		8週	身体組成	身体組成を測定をすることで、自己の体格の変化を把握する。
		9週	新体カテスト 練習	上体起こし・長座体前屈・握力・反復横跳びの練習をする。
	10週	新体カテスト 本番	上体起こし・長座体前屈・握力・反復横跳びの測定をする。	
	11週	講義, 選択種目	運動と体力に関する知識を深める。	
	12週	筆記試験, 選択種目	運動と体力に関する知識を確かめる。	
	13週	実技練習	実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。	
	14週	実技試験①	実技試験の課題をクリアする。	
	15週	実技試験②	実技試験の課題をクリアする。	
	16週	実技試験予備日		
	後期	3rdQ	1週	オリエンテーション
2週			新体カテスト 練習	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・持久走の練習をする。
3週			新体カテスト 本番 (持久走練習)	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳びの測定をする。
4週			新体カテスト 本番	持久走の測定をする。
5週			選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
6週			選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
7週			選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
8週			選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
4thQ		9週	競技大会の練習	球技大会に向けて、協力して、それぞれの技能を高める。
		10週	講義, 選択種目	環境問題に関する知識を深める。
		11週	筆記試験, 選択種目	環境問題に関する知識を確かめる。
		12週	12分間走の練習、実技練習	12分間走の練習をする。実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。
		13週	12分間走の本番	12分間走の測定をする。
		14週	実技試験①	実技試験の課題をクリアする。
		15週	実技試験②	実技試験の課題をクリアする。
		16週	実技試験予備日	

評価割合

	実技試験	筆記試験	取り組み・態度	合計
総合評価割合	70	15	15	100
基礎的能力	70	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0059		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	Power On English Communication Ⅲ、Power on English Communication Workbook (東京書籍)、プリント教材、フェイスバレット英単語・熟語 コーパス3000 (東京書籍)				
担当教員	上田 真梨子				
到達目標					
<p>①高専3年次までに学習する文法事項、パラグラフの構造や展開について理解し、自分の意思を英語で表現することができる。</p> <p>②英文を聞き、あるいは読み、大意をとらえ、情報、考えや話し手(書き手)の意図を的確に理解することができる。</p> <p>③内容を理解した英文について、発音に留意しながら表現し、その内容を英語で書くことができる。</p> <p>④3000語レベルまでの語彙を習得し、読解や聞き取りに活用できる。また、TOEIC関係の基礎語彙を習得できる。</p> <p>⑤自学自習の習慣を確立し、英検準2級を取得するとともに、英検2級以上合格やTOEIC400点を目指す。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標①)	新出の文法事項を用いて、既習事項も踏まえながら自分の考えや意図を表現することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解することができる。	新出の文法事項について、その用法を理解できない。		
評価項目2 (到達目標②)	英文を聞き、あるいは読み、情報や考え、話し手(書き手)の意図を的確に理解することができる。	英文を聞き、あるいは読み、大意をとらえることができる。	英文を聞いても、あるいは読んでも大意をとらえることができない。		
評価項目3 (到達目標③)	内容を理解した英文について、聞き手に伝わるように適切なリズム・イントネーションで表現することができる。また、その内容を読み手にわかりやすい適切な英語で書くことができる。	内容を理解した英文について、発音やリズム・イントネーションに留意しながら音読することができる。また、その内容を英語で表現することができる。	まとまりのある英文について、発音やリズム等に留意しながら音読をしたり、その内容を英語で表現したりすることができない。		
評価項目4 (到達目標④)	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に十分に活用することができる。	自主的に語彙習得を行い、読解や聞き取りをする際に辞書等を使用しながら最低限活用することができる。	語彙習得に対する自学自習の習慣が確立されていない。		
評価項目5 (到達目標⑤)	英検2級に合格する。TOEICで400点を取得する。	英検準2級を取得し、英検2級合格もしくはTOEIC400点取得に向けて自学自習の習慣を確立する。	英検準2級を取得するための学習習慣が確立されていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文で書かれた文章を読み、情報や書き手の意向を理解する能力を伸ばすとともに、その能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。TOEIC形式の演習にも取り組み、素早く必要な情報を理解する能力を育てる。				
授業の進め方・方法	予備知識：高専1・2年生で習得した英語の基礎力(英文法・語彙)を必要とする。講義室：各HR教室 授業形式：講義・演習 学生が用意するもの：英和辞典(電子辞書)・ノート・授業配布プリント				
注意点	評価方法：前期中間・前期期末は、筆記(85%) + 提出物・小テスト(15%)で評価。後期中間は筆記(75%) + 課題試験・提出物・小テスト(25%)で評価。後期期末は筆記(75%) + ACEテスト・提出物・小テスト(25%)で評価。4つの試験平均60点以上で合格。自己学習の指針：毎授業、英単語の意味調べや本文の内容把握などの予習をしておくこと。また、学習した文法事項や英語表現に関しては、自己表現ができるように復習に取り組むこと。オフィスアワー：木曜日15時～16時				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業概要説明 + Lesson 1	時間順序の展開に使われる語句に注目しながら、英文を読み進め、その内容をとらえることができる。	
		2週	Lesson 1	英国で紅茶が飲まれる頻度について本文の内容にそって説明することができる。	
		3週	Lesson 1	紅茶にまつわる歴史的経緯について本文の内容にそって説明できる。	
		4週	Lesson 2	例示や順序を示すディスコースマーカーに注目しながら、英文を読み進め、その内容をとらえることができる。	
		5週	Lesson 2	動物歯科医の意義や治療内容について本文の内容にそって説明できる。	
		6週	Lesson 2	動物歯科医の仕事についての信念を本文の内容にそって説明することができる。	
		7週	Lesson 1, Lesson 2の復習	既存事項を復習し、学習内容の理解を深めることができる。	
		8週	中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。	
	2ndQ	9週	Lesson 3	原因や結果を示すディスコースマーカーに注目しながら、英文を読み進め、その内容をとらえることができる。	
		10週	Lesson 3	エコツアーの内容やガイドの仕事について本文の内容にそって説明できる。	
		11週	Lesson 3	エコツアーが環境に与える影響とガイドの役割について本文の内容にそって説明することができる。	

後期		12週	Lesson 4	対比を示すディスコースマーカーに注目しながら、英文を読み進め、その内容をとらえることができる。
		13週	Lesson 4	トップクラスの音楽学校の研究からの示唆を本文の内容にそって説明することができる。
		14週	Lesson 4	本文の具体例をもとに10000時間の法則について説明することができる。
		15週	Lesson 3,4の復習	既存事項を復習し、学習内容の理解を深めることができる。
		16週	前期定期試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。
	3rdQ	1週	Lesson 5	ズーニン博士の発見した対人コミュニケーションにおける最初の4分間について本文にそって説明できる。
		2週	Lesson 5	コミュニケーションの最初の4分間の重要性について本文にそって説明できる。
		3週	Lesson 5	最初の4分間で重要な2つの要素について本文にそって説明できる。
		4週	Lesson 5	家庭における最初の4分間の役割について本文にそって説明できる。
		5週	Lesson 6	睡眠に関する調査や10代の睡眠の実態について本文にそって説明できる。
		6週	Lesson 6	レム睡眠とノンレム睡眠について本文にそって説明できる。
		7週	Lesson 5,6(Part1,2)の復習	既存事項を復習し、学習内容の理解を深めることができる。
		8週	中間試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。
	4thQ	9週	Lesson 6	寝言や夢遊病などの睡眠中の行動について本文にそって説明できる。
		10週	Lesson 6	睡眠の謎について本文にそって説明できる。
		11週	Lesson 7	フットボールのエピソードから筆者が伝えたいことを本文にそって説明できる。
12週		Lesson 7	最初のペンギンのエピソードから筆者が伝えたいことを本文にそって説明できる。	
13週		Lesson 7	ディズニーワールドのエピソードからの教訓を本文にそって説明できる。	
14週		Lesson 7	パウシュ教授の最後の講義の意義について読み取り、自分の感想を発表することができる。	
15週		Lesson 6(part3,4),7の復習	既存事項を復習し、学習内容の理解を深めることができる。	
16週		後期定期試験	定着度をテストで確認し、定着できていない部分の強化を図る。	

評価割合

	試験	小テストや課題への取り組み	合計
総合評価割合	85	15	100
基礎的能力	85	15	100
専門的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	0060		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	Smart Choice Level 1 (2nd Edition), Oxford University Press				
担当教員	ジェイ ストッカー				
到達目標					
1. Students can choose appropriate topics to start the conversation. 2. Students can express themselves in simulated daily conversation. 3. Students can realize the relationship between contexts and languages. 4. Students can function well in each conversational situation paying atten to its context. 5. Students can continue their conversation for a while.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1, 2, 3)	短い会話について、自分の言いたいことを伝えることができる。	簡単な会話において、大きな間違いをすることなく、おおよそのアウトラインを伝えることができる。	会話において、自分の言いたいことを伝えることができない。		
評価項目2 (到達目標 4)	短い会話においてその場面を正しく理解し、会話を進めることができる。	会話においてその場面の情報をおおよそ理解し、大きな間違いをすることなく会話を進めることができる。	会話を進めるにおいて、その場面の果たす役割を理解できない。		
評価項目3 (到達目標 5)	情報を与えるに十分な会話を継続することができる。	会話の流暢さには課題があるが、伝えたい内容をおおよそ伝えることができる。	伝える内容に必要な会話を継続することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	This communication class will help students to improve English through a variety of conversational tasks. Grammatical structure will be given with its meaning by linking them with appropriate social language and context.				
授業の進め方・方法	予備知識: Students are expected to know how to start daily conversation and to carry out easy verbal interaction without much trouble. 講義室: LL 教室 授業形式: 講義と演習 学生が用意するもの: テキスト・配布プリント				
注意点	評価方法: 20% quizzes, 20% In class activities, 60% midterm and final exams 自己学習の指針: Using textbooks, students are expected to engage in review and preview for each class. オフィスアワー: 授業の前後、または個別に指定された時間 (英語科森下へ連絡) *授業計画における中間試験実施週に関しては、予定より早まる場合があります。その際は、授業において連絡をします。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Course Introduction and Unit 1: Nice to meet you	Students can introduce themselves to others and ask questions.	
		2週	Unit 2: What do you do?	Students can talk about various jobs and ask wh-questions.	
		3週	Unit 3: Do you like spicy food?	Students can talk about the kinds of food they like or not and order at a restaurant.	
		4週	Unit 4: How often do you do yoga?	Students can talk about hobbies and routines related to sports and exercises.	
		5週	Mid-term examination	In class test	
		6週	Unit 5: What are you watching?	Students can use the present continuous to talk about their daily lives.	
		7週	Unit 6: Where were you yesterday?	Students can use the simple past of be verbs to talk about past events.	
		8週	Final-examination	In class test	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
	試験	クイズ	インクラス活動	合計	
総合評価割合	60	20	20	100	
基礎的能力	60	20	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	コミュニケーション基礎	
科目基礎情報						
科目番号	0061		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	TOEIC Test: Workout 300 (南雲堂)					
担当教員	松尾 秀樹					
到達目標						
①TOEIC (Bridge)受験に必要な語彙を理解し、その語彙を的確に使用することができる。 ②日常的に使用されるレベルの英語を聞いて、その概略を把握することができる。 ③日常生活で使用されるレベルの英文を速読し、その大意を把握することができる。 ④TOEIC (Bridge)の問題演習を通じて、その問題形式や解法に習熟し、TOEIC形式の問題を解くことができる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
TOEIC (Bridge)受験に必要な語彙を理解し、その語彙を的確に使用することができる。	十分にできる	ある程度できる	できない			
日常的に使用されるレベルの英語を聞いて、その概略を把握することができる。	十分にできる	ある程度できる	できない			
日常生活で使用されるレベルの英文を速読し、その大意を把握することができる。	十分にできる	ある程度できる	できない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	実践的英語力の定着を図るために、教科書を用いた講義、演習に加えて、音読指導・ディクテーション等のトレーニング活動を行う。基本的な文法事項の復習や語彙増強のための活動を随時取り入れる。					
授業の進め方・方法	講義、演習					
注意点	評価方法は、定期試験90%、小テスト・提出物10%で評価する。それら4回の平均点が60点以上を合格とする。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	オリエンテーション・Unit 1	授業概要の理解とTOEICの概要を理解する。			
	2週	Unit 1	「どんな人」が「何をしているか」など人物中心の写真問題に慣れ、表現できるようになる。			
	3週	Unit 1	動詞の変化形に注意し、動作を表す～ingを理解し、主語と時制の基礎を修得する。			
	4週	Unit 2	「応答問題」になれ、問いかけとその応答をすべて聞き、正しい応答ができるようになる。			
	5週	Unit 2	動詞に関して、原形になる場合や、未来の表現など、動詞の形を決める要素を理解し使えるようになる。			
	6週	Unit 3	店頭での会話を聞き、「どこで」「どんな人が」話しているか聞き取れるようになる。			
	7週	Unit 3	Unit 1 とUnit 2で学んだ「動詞の形とそれを決める要素」を復習し簡単なビジネスレターを読み取れるようになる。			
	8週	Unit 4	公共の場での案内放送に関して、場所をイメージし、放送の目的を理解し、案内放送が聞き取れるようになる。			
	2ndQ	9週	Unit 4	公共施設での掲示文に慣れ、書かれている内容を読み取れるようになる。		
		10週	中間試験			
		11週	Unit 5	物の様子や位置に関する英文を聞き取り、「何」が「どんな様子」で「どこにあるか」表現できるようになる。		
		12週	Unit 5	時と場所を表す前置詞に使い方を理解し、使えるようになる。		
		13週	Unit 5 / Unit 6	Unit 5の続き。Unit 6では、Yes/No 疑問文に対して、きちんと返答ができるようになる。		
		14週	Unit 6	語句や節をつなげたい時に使う「接続詞」の役割や意味を理解し、使えるようになる。		
		15週	Unit 6	上記の続き。		
		16週	Unit 5 Unit 6の復習			
後期	3rdQ	1週	Unit 7	電話の会話に慣れ、誰が、どんな用件で電話をしてきたかを確実に聞き取れるようになる。		
		2週	Unit 7	Unit 5/6で扱った内容を復習しつつ、「広告文」を読み取れるようになる。		
		3週	Unit 7 / Unit 8	Unit 7の続き。Unit 8では、電話の録音のメッセージに慣れ、「聞き手に求める行動」を聞き取れるようになる。		
		4週	Unit 8	社員向けの連絡事項である「社内メモ」を読み取れるようになる。		

4thQ	5週	Unit 8	上記の続き。
	6週	Unit 9	人物と背景の描写に関する英文を聞き取れるようになる。
	7週	Unit 9	人や物の代わりに代名詞を使えるようになる。
	8週	Unit 7 ~ Unit 9の復習	
	9週	中間試験	
	10週	Unit 10	勧誘や依頼に関する表現を修得し、使えるようになる。
	11週	Unit 10	英語のいろいろな品詞の使い分けができるようになる。
	12週	Unit 11	同僚との会話の聞き取りの練習を通じて、「誰が」「どんな問題を抱えているか」を確実に聞き取れるようになる。
	13週	Unit 11	いままでに出てきた文法の品詞の理解をもとに、「説明書・保証書」の英文が理解できるようになる。
	14週	Unit 12	身近なラジオ放送の聞き取り練習を通じて、具体的な情報が聞き取れるようになる。
	15週	Unit 12	ダブルパッセージという問題の形式に慣れ、TOEIC 問題への対応ができるようになる。
	16週	Unit 10 ~ Unit 12の復習	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語
科目基礎情報					
科目番号	0062		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	「時代を読み解く上級日本語 (第2版)」				
担当教員	堀上 志都子				
到達目標					
1. 中級後期～上級段階の文型・語句を習得する。 2. 長文 (新聞記事等) の内容を的確に把握できるようになる。 3. 長文の内容について教師の質問に答えられるようになる。 4. 長文の内容に関連して自分の考えが記述できるようになる。 5. 長文の内容を自国の状況と比較して説明できるようになる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1(達成目標1)	本文中の文型・語句を使って、自由に短作文できる。	本文中の文型・語句を使って、似た文章を作ることができる。	本文中の文型・語句を使って、自由に短作文できない。		
評価項目2(達成目標2, 3)	本文の内容を的確に把握し、教師の質問にキーワードを使って答えることができる。	本文の内容を把握し、教師の質問の箇所を理解し、答えることができる。	本文の内容をが分からず、教師の質問に答えることができない。		
評価項目3(達成目標4, 5)	本文の内容を自国の状況と比較して説明でき、それを長文にまとめることができる。	本文の内容を自国の状況と比較して質疑応答でき、それを長文にまとめることができる。	本文の内容を自国の状況と比較して質疑応答でき、それを長文にまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本社会の現状について書かれた文章を題材として、日本語の語句の意味・用法を学習するとともに、読解力・発話力・作文力の向上を図る。				
授業の進め方・方法	予備知識：日本語中級前期までの文型・語句の知識 講義室： 授業形式：演習形式 学生が用意するもの：辞書、ノート、テキスト				
注意点	評価方法：出席・授業態度(20%)、中間・期末試験(40%)、発表・レポート等(40%)で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：テキストを中心として毎回授業の予習・復習に取り組み、積極的に質問してください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・1課	現代日本女性の仕事環境について考える。	
		2週	1課 働く女性、「なでしこ」に続け	"	
		3週	4課 一人暮らしを心配する、学生の親たち	親離れ、子離れについて考える。	
		4週	"	"	
		5週	5課 生活音トラブル	母国と日本の生活音トラブルについて考える。	
		6週	"	"	
		7週	総合練習	復習と作文 (長文)	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	6課 なぜ少子化が社会問題なのか	少子化についてその問題点と解決策を考える。	
		10週	"	"	
		11週	8課 「買い物難民」を救え	買い物難民について、今住んでいる町の状況で考える。	
		12週	"	"	
		13週	11課 「教育危機」	母国と日本の教育について考える。	
		14週	総合練習	復習と作文 (長文)	
		15週	期末試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	13課 学歴とは別のものさしで	母国と日本での「学歴」の重要性について考える。	
		2週	"	"	
		3週	17課 在宅勤務	職場の新しい形について考える。	
		4週	"	"	
		5週	18課 父親の育児参加	母国と日本の「父親の育児参加」について考える。	
		6週	"	"	
		7週	総合練習	復習と作文 (長文)	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	20課 インターネットの隆盛	インターネットの問題点について考える。	
		10週	"	"	
		11週	21課 ネット依存と人間関係	自身のネット依存度について考える。	
		12週	"	"	
		13週	22課 ロボットの活用	医療、介護用ロボットの実用化について考える。	
		14週	総合練習	復習と作文 (長文)	

		15週	期末試験	
		16週		
評価割合				
	出席	中間・期末試験	発表・レポート等	合計
総合評価割合	20	40	40	100
基礎的能力	0	40	40	80
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	20

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理特講
科目基礎情報					
科目番号	0063		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	「センサー総合物理」(啓林館)、「総合物理1」および「総合物理2」(数研出版)				
担当教員	森 保仁				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 等加速度直線運動、力のつり合い、運動方程式の問題を解くことができる。 2. 仕事とエネルギーの関係、力学的エネルギー保存則の問題を解くことができる。 3. 力積と運動量の関係、運動量保存則、反発係数の問題を解くことができる。 4. 等速円運動、単振動の問題を解くことができる。 5. 3年生で学習する物理の内容を復習または予習して、その考え方を理解できる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1, 2)	等加速度直線運動、運動方程式、力学的エネルギー保存則に関するやや複雑な問題を解くことができる。	等加速度直線運動、運動方程式、力学的エネルギー保存則に関する簡単な問題を解くことができる。	等加速度直線運動、運動方程式、力学的エネルギー保存則に関する簡単な問題を解くことができない。		
評価項目2 (到達目標3, 4)	運動量保存則、反発係数、等速円運動、単振動に関するやや複雑な問題を解くことができる。	運動量保存則、反発係数、等速円運動、単振動に関する簡単な問題を解くことができる。	運動量保存則、反発係数、等速円運動、単振動に関する簡単な問題を解くことができない。		
評価項目3 (到達目標5)	3年生で学習する内容に関するやや複雑な問題を解くことができる。	3年生で学習する内容に関する簡単な問題を解くことができる。	3年生で学習する内容に関する簡単な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	3年生に編入した留学生を対象として、2年生物理で学習する内容の問題を解くことを中心に授業を展開する。3年生の物理の復習(遠心力、万有引力、熱力学)および予習(波の基礎)をして、より理解を深めることも授業目的の一つである。				
授業の進め方・方法	予備知識: 母国および高専編入前に日本で学習した「物理」の内容 講義室: 物理実験室 授業形式: 問題演習および講義 学生が用意するもの: 授業ノート、電卓				
注意点	評価方法: 3年生の前期中間試験と前期期末試験の成績、および2年生の内容理解を確認する小テストで評価し60点以上を合格とする。 自己学習の指針: 問題集の問題を授業ノートに解き、分からないところは学寮でしっかりと復習する。 オフィスアワー: 月曜日16:00~17:00、金曜日16:00~17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げ	等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げの問題を解くことができる。	
		2週	水平投射、斜方投射	水平投射、斜方投射の問題を解くことができる。	
		3週	3年物理の復習(遠心力)	3年物理で勉強している遠心力の問題を解くことができる。	
		4週	力のつり合い、フックの法則、運動方程式	力のつり合い、フックの法則、運動方程式の問題を解くことができる。	
		5週	静止摩擦力、動摩擦力、水圧、浮力	静止摩擦力、動摩擦力、水圧、浮力の問題を解くことができる。	
		6週	3年物理の復習(万有引力)	3年物理で勉強している万有引力の問題を解くことができる。	
		7週	3年物理の復習(万有引力、熱力学)	3年物理で勉強している万有引力と熱力学の問題を解くことができる。	
		8週	3年物理の前期中間試験		
	2ndQ	9週	仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則	仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則の問題を解くことができる。	
		10週	3年物理の復習(熱力学)	3年物理で勉強している熱力学の問題を解くことができる。	
		11週	力積と運動量、運動量保存則、反発係数	力積と運動量、運動量保存則、反発係数の問題を解くことができる。	
		12週	等速円運動、単振動、ばね振り子、単振り子	等速円運動、単振動、ばね振り子、単振り子の問題を解くことができる。	
		13週	3年物理の予習(波の基礎)	3年物理で後期に勉強する波の基礎を理解できる。	
		14週	3年物理の予習(波の基礎)	3年物理で後期に勉強する波の基礎を理解できる。	
		15週	3年物理の復習(熱力学)	3年物理で勉強している熱力学の問題を解くことができる。	
		16週	3年物理の前期期末試験		
評価割合					
	定期試験	小テスト	ノート		合計
総合評価割合	40	40	20	0	100
基礎的能力	40	40	20	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用数学 I
科目基礎情報					
科目番号	0046		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	「微分積分2」(森北出版), 「微分積分2問題集」(森北出版)				
担当教員	上原 崇人				
到達目標					
1. 微分方程式の解の意味が理解でき, その解をもつ微分方程式を作ることができる(2). 2. 1階微分方程式を具体的に解き, その解を求めることができる.(2). 3. 1階微分方程式をいろいろな問題に応用できる(2). 4. 2階微分方程式を具体的に解き, その解を求めることができる(2). 5. 2階微分方程式をいろいろな問題に応用できる(2).					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 (到達目標 1)	微分方程式の概念を十分理解し, それらの応用問題が解ける.		微分方程式の概念をほぼ理解し, それらの基本的問題が解ける.		微分方程式の概念の理解が不十分で, それらの基本的問題が解けない.
評価項目2 (到達目標 2, 3)	1階微分方程式の概念を十分理解し, それらの応用問題が解ける.		1階微分方程式の概念をほぼ理解し, それらの基本的問題が解ける.		1階微分方程式の概念の理解が不十分で, それらの基本的問題が解けない.
評価項目3 (到達目標 4, 5)	2階微分方程式の概念を十分理解し, それらの応用問題が解ける.		2階微分方程式の概念をほぼ理解し, それらの基本的問題が解ける.		2階微分方程式の概念の理解が不十分で, それらの基本的問題が解けない.
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	実際の工学上の問題の解析が行えるように, 1階と2階の微分方程式の作り方と解き方を学ぶ.				
授業の進め方・方法	予備知識としては, 2年生までに学んだ微分積分の知識が必要である. 講義室は3Sの教室で行う. 授業は講義と演習を交えて行う. 学生が用意するものとしては, 教科書と問題集およびノートを用意すること.				
注意点	評価方法は, 中間と定期試験(2回)で80%, 小テスト10%, 宿題10%で評価し, 60点以上を合格とする. ただし, 状況によっては上と変わることがあるが, そのときは担当者が指示する. 自己学習の指針としては, 各試験前に学習内容を復習し, 演習問題やその類似問題が解けるようにしておくこと. オフィスアワーは, 授業担当者が明示する.				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	微分方程式の概念を学び, 簡単な微分方程式の作り方を学ぶ.	微分方程式の概念を理解し, 簡単な微分方程式を作る.	
		2週	変数分離形の微分方程式の解法について学ぶ(1).	変数分離形の微分方程式の解法を理解し, 具体的に解ける.	
		3週	変数分離形の微分方程式の解法について学ぶ(2).	変数分離形の微分方程式の解法を理解し, 具体的に解ける.	
		4週	1階線形微分方程式の解法について学ぶ(1).	1階線形微分方程式の解法を理解し, 具体的に解ける.	
		5週	1階線形微分方程式の解法について学ぶ(2).	1階線形微分方程式が具体的に解ける.	
		6週	1階線形微分方程式の解法について学ぶ(3).	1階線形微分方程式が具体的に解ける.	
		7週	前期中間試験範囲の復習を行う.	前期中間試験範囲の学習内容の定着を確認する.	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	斉次2階線形微分方程式の解法について学ぶ(1).	斉次2階線形微分方程式の解法を理解し, 具体的に解ける.	
		10週	斉次2階線形微分方程式の解法について学ぶ(2).	斉次2階線形微分方程式が具体的に解ける.	
		11週	非斉次2階線形微分方程式の解法について学ぶ(1).	非斉次2階線形微分方程式の解法を理解し, 具体的に解ける.	
		12週	非斉次2階線形微分方程式の解法について学ぶ(2).	非斉次2階線形微分方程式が具体的に解ける.	
		13週	2階線形微分方程式の応用として, いろいろな問題の演習を行う(1).	2階線形微分方程式の応用問題が解ける.	
		14週	2階線形微分方程式の応用として, いろいろな問題の演習を行う(2).	2階線形微分方程式の応用問題が解ける.	
		15週	前期定期試験範囲の復習を行う.	前期定期試験範囲の学習内容の定着を確認する.	
		16週	前期定期試験		
評価割合					
	試験	小テスト	課題	合計	
総合評価割合	80	10	10	100	
基礎的能力	80	10	10	100	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	生産加工Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0047		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	機械工作2 (実教出版), 英語でkaizen! トヨタ生産方式 (日刊工業新聞社)				
担当教員	槇田 諭				
到達目標					
1. 各種の加工法を理解し、そのシステム化を検討できる。 2. 生産計画における製品設計、生産計画の枠組みがわかる。 3. 製品設計に必要な基礎的知識を理解し、デザインを創生できる。 4. 工業生産における各管理の目的と方法がわかる。 5. 生産システムの自動化の手段と目的を理解できる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1, 5)	機械工業における各種の加工法をよく理解し、そのシステム化、自動化を検討できる。	機械工業における各種の加工法をおおよそ理解し、そのシステム化、自動化を説明できる。	機械工業における各種の加工法を理解できておらず、そのシステム化、自動化も理解できていない。		
評価項目2 (到達目標2, 3)	生産計画、製品設計に必要な基礎的知識を理解し、独創的なデザインを創生できる。	生産計画、製品設計に必要な基礎的知識をおおよそ理解し、デザインの意義を説明できる。	生産計画、製品設計に必要な基礎的知識を理解できておらず、デザインの意味を説明できない。		
評価項目3 (到達目標2, 4, 5)	工業生産における生産計画、管理、自動化の目的と手段をよく理解し、応用が検討できる。	工業生産における生産計画、管理、自動化の目的と手段をおおよそ理解し、説明できる。	工業生産における生産計画、管理、自動化の目的と手段を理解できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	機械工業における生産技術について、各種の加工法の原理と特徴、用途を理解した上で、機械工業の生産工程および生産システムの概要を理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識：生産加工Ⅰ (1年次) の内容、および工学実験 (2年次) で行った機械加工実習で行った事項。数学、物理、化学の基礎。 講義室：教室 授業形式：講義 学生が用意するもの：参考書「機械工作法 (独立行政法人 雇用・能力開発機構 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター)」				
注意点	評価方法：レポート (30%) と、演習 (20%) ・期末試験 (50%) を行い、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：教科書をよく読み、内容をよく理解するとともに、重要な項目を自身でまとめる。また、関連分野について積極的に調べ、知識を蓄積する。おおよそ授業時間と同時間の予習・復習を実施することが望ましい。 オフィスアワー：金 16:00-17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	概要説明	工業における生産システム・プロセスの重要性を理解できる。	
		2週	生産設計と管理 (1) : 概論	生産設計に必要な基礎的概念を理解できる。	
		3週	生産設計と管理 (2) : 製品計画, 生産計画	製品計画・生産計画における検討事項を説明できる。	
		4週	生産設計と管理 (3) : 製品設計 (1)	製品設計における基本的な設計方針が理解できる。	
		5週	生産設計と管理 (4) : 製品設計 (2)	製品設計における標準化や規格化の重要性を理解できる。	
		6週	生産設計と管理 (5) : デザイン (1)	デザインにおける基本方針、原則を理解できる。	
		7週	生産設計と管理 (6) : デザイン (2)	デザインにおける意匠権や特許の概念・重要性を理解できる。	
		8週	総合演習	生産計画・製品設計の基礎知識を用いてデザインを創造できる。	
	2ndQ	9週	生産システム概論 (1) : 生産の効率化	生産におけるムダやボトルネックを説明できる。	
		10週	生産システム概論 (2) : 生産プロセス	生産プロセスの変遷や各種の手法の特徴を理解できる。	
		11週	生産システム概論 (3) : 改善(1)	改善における基本的なアプローチと要点が理解できる。	
		12週	生産システム概論 (4) : 改善(2)	改善のための各種の方法とその特徴を理解できる。	
		13週	生産システム概論 (5) : システム管理	生産システムにおける管理の基本方針を理解できる。	
		14週	オートメーション概論 (1) : 生産工程の自動化(1)	生産システムにおいて導入可能な自動機械を把握できる。	
		15週	オートメーション概論 (2) : 生産工程の自動化(2)	生産システムの自動化のために必要な措置を検討できる。	
		16週			
評価割合					
	試験	演習	レポート	合計	
総合評価割合	50	20	30	100	
基礎的能力	0	0	0	0	
専門的能力	50	20	30	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	デジタル回路
科目基礎情報					
科目番号	0048	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	デジタル情報回路 第2版				
担当教員	柴田 裕一郎				
到達目標					
1. 任意の2進、8進、10進、16進の変換計算が自由にすることができる。(A4) 2. ブール代数による論理演算を解くことができる。(A4) 3. カルノー図表による論理式の簡単化をすることができる。(A4) 4. フリップフロップを用いた回路やカウンタ回路の論理式、動作を説明することができる。(A4) 5. 簡単なデジタル論理回路の組み合わせ論理回路および順序回路を設計することができる。(A4)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 達成目標1	任意の2進、8進、10進、16進の変換計算が自由にすることができる。	任意の2進、8進、10進、16進の変換計算をある程度行える。	任意の2進、8進、10進、16進の変換計算が行えない。		
評価項目2 達成目標2	ブール代数による論理演算を解くことができる。	主要なブール代数による論理演算をほとんど理解できる	ブール代数による論理演算が理解できない。		
評価項目3 達成目標3	カルノー図表による論理式の簡単化をすることができる。	カルノー図表をほとんど読み取ることができる。	カルノー図表による論理式の簡単化ができない。		
"評価項目4 達成目標4"	フリップフロップを用いた回路やカウンタ回路の論理式、動作を説明することができる。	フリップフロップを用いたカウンタ回路の動作の概要をほとんど説明することができる。	フリップフロップを用いた回路やカウンタ回路の論理式、動作を説明できない。		
"評価項目5 達成目標5"	簡単なデジタル論理回路の組み合わせ論理回路および順序回路を設計することができる。	簡単なデジタル論理回路の組み合わせ論理回路および順序回路を殆ど理解することができる。	簡単なデジタル論理回路の組み合わせ論理回路および順序回路を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	計算機・コンピュータやシーケンス制御等の理解の基礎となる情報の表現方法と解析手法、ならびに目的とする論理を満足する回路の設計手法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識：2年次の情報処理（データの型やビット、2進数） 講義室：3S教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：ノート、電卓、定規				
注意点	評価方法・評価基準：中間、定期試験（計4回）により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：授業で出題する演習問題を自分で解けるようになること（復習）。情報処理技術者試験などの過去問を参考に資格試験取得を目標に自学すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義の目的、アナログ技術とデジタル技術の歴史	デジタル回路・論理回路の概要を説明できる。	
		2週	情報の2進表現、2進数、8進数、16進数表現	整数・小数を2進数、10進数、16進数で表現できる。	
		3週	任意の基数の2進表現と各種符号化、負数の2の補数表現と加減算	基数が異なる数の間で相互に変換できる。	
		4週	2進数における実数の表現	整数・小数をコンピュータのメモリー上でデジタル表現する方法を理解している。	
		5週	集合論と演算、命題算	集合に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。	
		6週	ブール代数の公理と定理	ブール代数に関する基本的な概念を説明できる	
		7週	双対性、標準展開	論理代数と述語論理に関する基本的な概念を説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	排他的論理和	論理代数と述語論理に関する基本的な概念を説明できる。	
		10週	CMOS	電子回路素子による論理代数の動作原理を説明できる。	
		11週	簡単化の必要性とブール代数による簡単化	基本的な論理演算を行うことができる。	
		12週	カルノー図表の原理	カルノー図表による論理式の簡単化の概念を説明できる。	
		13週	カルノー図表を用いた論理式の簡単化	カルノー図表を用いて論理式の簡単化ができる。	
		14週	クワインマクラスキーの方法の簡単化	クワインマクラスキーの方法の簡単化の概念を説明できる。	
		15週	最小論理和形の導出	一般的な論理関数の形式を説明できる。	
		16週	期末試験		
後期	3rdQ	1週	マルチプレクサ、復号器の回路設計	基本的な論理演算を組合わせて、論理関数を論理式として表現できる。	
		2週	NAND素子のみを用いた回路設計	与えられた簡単な組合せ論理回路の機能を説明することができる。	
		3週	NOR素子のみを用いた回路設計	組合せ論理回路を設計することができる。	

		4週	RS-NORラッチの入出力特性、RS-NANDラッチの入出力特性	レジスタやカウンタなどの基本的な順序回路の動作について説明できる。	
		5週	同期式RSフリップフロップ、Dフリップフロップ、JKフリップフロップの入出力特性	フリップフロップなどの順序回路の基本素子について、その動作と特性を説明することができる。	
		6週	比較器、半加算器、全加算器の設計	数値演算を実行する組合せ論理回路を設計することができる。	
		7週	高速桁上げ回路、BCD符号の加算器の設計	組合せ論理回路を設計することができる。	
		8週	中間試験		
		4thQ	9週	順序回路の特徴と非同期カウンタ回路	基本的な順序回路の動作について説明できる。
			10週	任意符号のカウンタ回路の設計	簡単な順序回路（非同期カウンタ）を設計することができる。
			11週	Dフリップフロップによる同期順序回路	簡単な単層同期回路の動作を説明できる。
	12週		順序回路としてのカウンタと状態遷移	簡単な順序回路（同期カウンタ）を設計することができる。	
	13週		ムーア型ステートマシン	ムーア型ステートマシンを設計できる。	
	14週		ミーラー型ステートマシン	ミーラー型ステートマシンを設計できる。	
	15週		順序回路の設計	簡単な順序回路を設計することができる。	
	16週		期末試験		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ソフトウェア科学 I
科目基礎情報					
科目番号	0049		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	C言語によるはじめてのアルゴリズム入門、河西朝雄、技術評論社				
担当教員	柴田 裕一郎				
到達目標					
1. アルゴリズムの効率 (計算量) を理解できる。 (A4) 2. 基本整列法が理解でき、プログラム化できる。 (A4) 3. 2分探索法を理解でき、プログラム化できる。 (A4) 4. 再帰処理について理解でき、プログラム化できる。 (A4) 5. リスト・木構造について理解でき、プログラム化できる。 (A4)					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 達成目標1		アルゴリズムの効率 (計算量) を理解できる。	アルゴリズムの効率 (計算量) 大 体理解できる。	アルゴリズムの効率 (計算量) を 理解できない。	
評価項目2 達成目標2		基本整列法が理解でき、プログラ ム化できる。	基本整列法がおおよそ理解でき、 簡単なプログラムが作成できる。	基本整列法が理解できず、プログ ラム化できない。	
評価項目3 達成目標3		2分探索法を理解でき、プログラ ム化できる。	2分探索法の考え方を大凡理解で き、簡単なプログラムが作成でき る。	2分探索法を理解できず、プログ ラム化できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	C言語の上級コースとして、整列、探索などの基本アルゴリズムから始めて、リスト、木などのデータ構造とそのアル ゴリズムにいたるまでを習得させる。その問題解決技術習得のため、C言語処理系による実習を行い、それらについて のレポートを課す。				
授業の進め方・方法	予備知識：C言語の初級コースである1、2年次の情報処理をきちんと習得しておく必要がある。そのため、各自で復 習しておくこと。 講義室：3S教室 授業形態：講義 および 情報処理センターでの実習 学生が用意するもの：ノート、電卓 参考書・補助教材：アルゴリズムとデータ構造 (石畑 清 岩波書店)				
注意点	評価方法：定期の試験 (4回) 80%、課題レポート20%により評価、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：授業内容を復習し、毎回配布する資料の課題を解くこと。また、プログラミング技術も理解しておく こと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義の目的、開発環境設定	開発環境設定を行うことができる。	
		2週	C言語の復習 (1) 演算子、制御構造	C言語の演算子、制御構造を理解し、利用できる。	
		3週	C言語の復習 (2) 関数、ポインタ	C言語の関数、ポインタを理解し、利用できる。	
		4週	アルゴリズムの効率 (計算量)、設計、解析	アルゴリズムの効率を理解し、その優劣を判断できる。	
		5週	基礎アルゴリズム (1) 漸化式	漸化式を理解し、各種の式の計算ができる。	
		6週	基礎アルゴリズム (2) モンテカルロ法	モンテカルロ法を理解し、面積に 応用計算できる。	
		7週	最大公約数 (ユークリッド互除法)	ユークリッド互除法を用いて、 最大公約数を計算できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	試験答案の返却と解答、整列 (1) 交換法・選択法	整列交換法・選択法を理解し、 数列の整列に応用できる。	
		10週	整列アルゴリズム (2) 挿入法	整列挿入法の動作と高速化の 原理を理解し、応用できる。	
		11週	整列アルゴリズム (3) シェルソート	シェルソートの動作と高速化 の原理を理解し、応用できる。	
		12週	整列アルゴリズム (4) マージソート	マージソートの原理を理解し、 応用できる。	
		13週	探索アルゴリズム (1) 逐次探索	逐次探索法を理解し、探索に 応用できる。	
		14週	探索アルゴリズム (2) 番兵法	探索における番兵の効果 を理解し、応用できる。	
		15週	探索アルゴリズム (3) 2分探索法	2分探索法の原理を理解し、 実際の問題に 応用できる。	
		16週	期末試験		
後期	3rdQ	1週	試験答案の返却と解答、文字列探索アルゴリズム (1) 単純法	文字列探索法の単純法を 理解し、文字列探索に 応用できる。	
		2週	文字列探索アルゴリズム (2) KMP法	文字列探索法の改良版KMP 法を理解し、応用できる。	
		3週	文字列探索アルゴリズム (3) ボイヤ・ムーア法	文字列探索法の改良版ボイ ヤ・ムーア法を理解し、 応用できる。	
		4週	ハッシュ法と衝突	探索法のハッシュ法と衝突 を理解し、文字列探索に 応用できる	
		5週	再帰処理の概要	再帰処理の考え方を理解し、 再帰的な式の計算が できる。	
		6週	再帰解と非再帰解	いくつかの問題について再 帰と非再帰による実装の 得失を理解し 応用できる。	

4thQ	7週	クイックソートの再帰実装	再帰によるクイックソートを理解し整列に応用できる。
	8週	中間試験	
	9週	試験答案の返却と解答、データ構造とアルゴリズム (1) スタック、キュー	データ構造のスタック、キューを理解し、実装することができる。
	10週	データ構造とアルゴリズム (2) リスト構造	データ構造のリスト構造を理解し、簡単な挿入・削除ができる。
	11週	データ構造とアルゴリズム (3) リスト構造	データ構造のリスト構造を、応用することができる。
	12週	データ構造とアルゴリズム (4) 逆ポーランド記法	逆ポーランド記法を理解し、式の計算に応用できる。
	13週	データ構造とアルゴリズム (5) 2分探索木	2分探索木を動的に作成し、文字列の探索に応用できる。
	14週	データ構造とアルゴリズム (6) 2分探索木	2分探索木を再帰的に作成し、文字列探索に応用できる。
	15週	データ構造とアルゴリズム (7) ゲーム木探索への応用	基本的なゲーム木探索を実装できる。
	16週	期末試験	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気回路 I
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	電気回路の基礎、西巻正郎他、森北出版				
担当教員	田中 義人				
到達目標					
1. 瞬時値、フェーザ、複素数を用いて、交流回路の計算ができる。(A4) 2. 交流電力と力率を説明し、これらを計算できる。(A4) 3. 相互誘導回路、理想変成器の説明と計算ができる。(A4) 4. キルヒホッフの法則、重ねの理、テブナンの法則等を説明し、これらを交流回路の計算に用いることができる。(A4) 5. 対称三相回路の電圧・電流・電力の計算ができる。(A4)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 到達目標1	瞬時値、フェーザ、複素数を用いて、交流回路の計算ができる。	瞬時値、フェーザ、複素数を用いて、交流回路の計算が概ねできる。	瞬時値、フェーザ、複素数を用いて、交流回路の計算ができない。		
評価項目2 到達目標2	交流電力と力率を説明し、瞬時値、フェーザを計算できる。	交流電力と力率を説明し、瞬時値、フェーザを計算が概ねできる。	交流電力と力率を説明し、瞬時値、フェーザを計算できない。		
評価項目3 到達目標3	相互誘導回路、理想変成器の説明と計算ができる。	相互誘導回路、理想変成器の説明と計算が概ねできる。	相互誘導回路、理想変成器の説明と計算ができない。		
"評価項目4 到達目標4"	キルヒホッフの法則、重ねの理、テブナンの法則等を説明し、これらを交流回路の計算に用いることができる。	キルヒホッフの法則、重ねの理、テブナンの法則等を説明し、これらを交流回路の計算に用いることができる。	キルヒホッフの法則、重ねの理、テブナンの法則等を説明し、これらを交流回路の計算に用いることができない。		
"評価項目5 到達目標5"	対称三相回路の電圧・電流・電力の計算ができる。	対称三相回路の電圧・電流・電力の計算が概ねできる。	対称三相回路の電圧・電流・電力の計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	2年で学んだ電気工学をさらに発展させ、4年で学ぶ電気回路(交流回路理論)へとつなぎ、特に交流回路に関する基礎的な定理、回路素子の特性、各種電気回路の特性等を学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識：基礎電気工学(1年)、電気工学(2年)で学習した基礎的な回路素子、複素数表示等の知識があること。 また、電気回路に用いる記号、単位等を理解していること。 講義室：3S教室 授業形態：講義と演習(授業の後半に、学習内容の演習、例題を解く) 学生が用意するもの：関数電卓 教科書：電気回路の基礎(西巻正郎他 森北出版)				
注意点	評価方法：試験(前期中間・前期定期・後期中間・後期定期)の平均点を80%、演習・課題を20%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：授業後の復習をしっかり行い、授業中に出現する演習問題を必ず自分で解くこと。また、試験前には、授業中に説明した例題、演習問題等の内容を理解できていること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義の目的、概要、進め方等 直流回路	RLCの基本的性質を理解し、直流回路の計算に用いることができる。	
		2週	正弦波交流回路の基本	正弦波交流の瞬時値表示、フェーザ表示、複素数表示を説明できる。	
		3週	交流電力、実効値と平均値、位相	複素交流電力の実効値、平均値、位相を説明し、計算ができる。	
		4週	正弦波交流のフェーザ表示と複素数表示	フェーザ表示と複素数表示を理解し、計算ができる。	
		5週	正弦波交流における各回路要素の性質と基本関係式(1)	抵抗、インダクタンスの交流回路での性質を理解し、インピーダンスの計算ができる	
		6週	正弦波交流における各回路要素の性質と基本関係式(2)	キャパシタンスの交流回路での性質を理解し、アドミタンスの計算ができる	
		7週	演習問題	簡単な交流回路の計算ができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	交流回路要素における直列接続、インピーダンスとアドミタンス表示	フェーザと複素数を用いて、簡単な交流直列回路の計算ができる。	
		10週	交流回路要素における並列接続、インピーダンスとアドミタンス表示	フェーザと複素数を用いて、簡単な交流並列回路の計算ができる。	
		11週	2端子回路の直列接続	フェーザと複素数を用いて、2端子直列回路網の計算ができる	
		12週	2端子回路の並列接続	フェーザと複素数を用いて、2端子並列回路網の計算ができる	
		13週	交流電力	複素交流電力と力率を説明し、計算ができる。	
		14週	有効電力、無効電力、力率、力率改善	有効電力、無効電力、力率の計算ができ、力率改善の方法を理解する。	
		15週	演習問題	共振回路と交流電力の計算ができる。	
		16週	定期試験		
後期	3rdQ	1週	交流回路網の解析、キルヒホッフ則の適用(1)	交流回路網におけるキルヒホッフの法則の適用ができる。	

		2週	交流回路網の解析、キルヒホッフ則の適用(2)	交流回路網において、キルヒホッフの法則を適用した計算ができる。
		3週	交流回路網の諸定理	重ね合わせの理、テブナンの定理、ノートンの定理を説明し、これを使って交流回路の計算ができる。
		4週	結合回路（1）	相互誘導について説明ができる。
		5週	結合回路（2）	相互誘導回路の計算ができる。
		6週	結合回路（3）	理想変成器について説明ができ、計算ができる。
		7週	演習問題	結合回路と交流回路網の計算ができる。
		8週	中間試験	
		4thQ	9週	交流回路の周波数特性
	10週		共振回路（1）	直列共振回路の計算ができる。
	11週		共振回路（2）	並列共振回路の計算ができる。
	12週		Y- Δ 変換	電源及び負荷の Δ -Y、Y- Δ 変換ができる。
	13週		三相交流回路（1）	対称三相回路の電圧、電流、電力の計算ができる。
	14週		三相交流回路（2）	対称三相回路の電圧、電流、電力の計算ができる。
	15週		演習問題	交流回路網の計算と三相交流回路の計算ができる。
	16週		定期試験	

評価割合

	試験	課題・レポート	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気磁気学 I
科目基礎情報					
科目番号	0051		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	基礎電磁気学 (改訂版) (オーム社)				
担当教員	嶋田 英樹				
到達目標					
1. 種々の帯電体モデルにおいて、ガウスの法則を用いて電界計算ができる。 2. 電位の定義に従って、電位の計算ができる。 3. 平行平板電極、同心導体球等の導体モデルにおいて、静電容量の計算ができる。 4. 電気力線、電束に関して、説明できる。 5. 誘電率の異なる境界面での電界、電束密度の境界条件を説明できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1, 2)	電界、電位の定義を説明でき、ガウスの法則を用いて電界の計算、電位の定義に従って電位の計算ができる。	ガウスの法則を用いて電界の計算、電位の定義に従って電位の計算ができる。	ガウスの法則を用いて電界計算、電位の定義に従って電位の計算ができない。		
評価項目2 (到達目標 3)	静電容量に関して説明でき、静電容量の計算ができる。	静電容量の計算ができる。	静電容量の計算ができない。		
評価項目3 (到達目標 4)	電気力線、電束、電束密度に関して説明でき、簡単な計算ができる。	電気力線、電束、電束密度に関して説明できる。	電気力線、電束、電束密度に関して説明できない。		
評価項目4 (到達目標 5)	誘電率の異なる境界面での電界、電束密度の境界条件を説明でき、境界条件を利用した計算ができる。	誘電率の異なる境界面での電界、電束密度の境界条件を説明できる。	誘電率の異なる境界面での電界、電束密度の境界条件を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	静電界に関する事項を中心に学び、日常遭遇する物理現象との関連性、類似性などについても理解を深める。また、例題、演習を多く取り入れ、電磁気学で用いられる法則をできるかぎり解りやすく解説する。				
授業の進め方・方法	予備知識：これまで学習してきたベクトルに関する簡単な演算、内積の計算等のベクトル計算の基礎が必要である。また、簡単な微分積分の計算ができること。 講義室：3S教室 授業形式：講義・演習 学生が用意するもの：特になし				
注意点	評価方法：4回の試験（前期中間・前期定期・後期中間・後期定期）の平均点で評価し、60点以上を合格とする。自己学習の指針：予習、復習は2時間以上が望ましい。また、試験の前までに授業内容を整理しておくこと。 オフィスアワー：月曜日、金曜日 16:00～17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、電荷、帯電、物質の電気的特性	電荷、帯電、導体、不導体等を説明できる。	
		2週	静電誘導、誘電率、クーロンの法則	クーロンの法則を用いて静電気力の計算ができる。	
		3週	電界、複数個の点電荷による電界	電界の定義を用いて、電界の計算ができる。	
		4週	電気力線、電気力線密度と電界	電気力線、電気力線密度、電界の関係を説明できる。	
		5週	電束と電束密度	電束、電束密度について説明できる。	
		6週	ガウスの法則 (1)	ガウスの法則を用いて、帯電状態の異なる球帯電体での電界計算ができる。	
		7週	ガウスの法則 (2)	ガウスの法則を用いて、直線状帯電体、無限平面での電界計算ができる。	
		8週	中間試験	これまでの内容を理解している。	
	2ndQ	9週	電位、電位差	電位の定義を用いて、電位の計算ができる。	
		10週	電気力線と等電位面	電気力線、等電位面を説明できる。	
		11週	電界、電位の計算 (1)	内部一様に帯電して球の電界、電位計算ができる。	
		12週	電界、電位の計算 (2)	表面一様に帯電した球の電界、電位計算ができる。	
		13週	電界、電位の計算 (3)	内部一様に帯電した無限長円筒の電界、電位差計算ができる。	
		14週	電界、電位の計算 (4)	表面一様に帯電した無限長円筒の電界、電位差計算ができる。	
		15週	電界、電位の計算 (5)	一様に帯電した無限平面の電界、電位差計算ができる。	
		16週	定期試験	これまでの内容を理解している。	
後期	3rdQ	1週	電気双極子	電気双極子の電位、電界計算ができる。	
		2週	導体の電荷分布と電界	帯電した導体の性質を説明できる。	
		3週	導体表面に働く力、静電容量	導体表面に働く力を説明できる。	
		4週	静電容量の計算 (1)	同心球間、同心円筒間の静電容量の計算ができる。	
		5週	静電容量の計算 (2)	平行平板間、平行導線間の静電容量の計算ができる。	
		6週	電位係数と容量係数、誘導係数	電位係数と容量係数、誘導係数の関係を説明できる。	

4thQ	7週	コンデンサの接続	コンデンサの直列，並列接続時の合成静電容量を説明できる。
	8週	中間試験	これまでの内容を理解している。
	9週	電気映像法	簡単モデルにおいて，電気映像法を用いて電界，電位計算ができる。
	10週	静電エネルギー	コンデンサに蓄えられるエネルギーを計算できる。
	11週	誘電体の分極，誘電体中の電界	誘電体の分極，誘電体中の電界を説明できる。
	12週	誘電体中の電束密度，電界	誘電体中の電束密度と電界の関係を説明できる。
	13週	誘電体中の電極間に働く力	誘電体中の電極間に働く力を説明できる。
	14週	誘電体の境界面での条件	誘電体の境界条件を説明できる。
	15週	電流，抵抗，キルヒホッフの法則	電流，電圧，抵抗の計算ができる。
	16週	定期試験	これまでの内容を理解している。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電子回路 I
科目基礎情報					
科目番号	0052	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	電子回路 (コロナ社), 電子回路 (桜庭一郎、森北出版)				
担当教員	兼田 一幸				
到達目標					
1. 電子素子の図記号を書くことができる。(A4) 2. 電子素子の使用法を理解できる。(A4) 3. トランジスタ回路の電圧及び電流の計算を回路図から行うことができる。(A4) 4. トランジスタの特性図, 及びhパラメータを用いて電圧電流の計算を行うことができる。(A4) 5. トランジスタの等価回路を描くことができ、その等価回路を用いた計算ができる。(A4) 簡易な電子回路の創作ができる。(A4)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 達成目標1	多くの電子素子の図記号を自由に書くことができる	電子素子の図記号を書くことができる	電子素子の図記号を書くことができない		
評価項目2 達成目標2	電子素子の使用法を理解できる。	電子素子の使用法を理解できる。	電子素子の使用法がわからない。		
評価項目3 達成目標3	ある程度の複雑なトランジスタ回路の電圧及び電流の計算を回路図から自由に行うことができる。	簡単なトランジスタ回路の電圧及び電流の計算を回路図より行うことができる。	トランジスタ回路の電圧及び電流の計算が回路図から行えない。		
評価項目4 達成目標4	トランジスタの特性図, 及びhパラメータを用いて電圧電流の計算が自由にできる	トランジスタの特性図, 及びhパラメータを利用して、簡単な電圧電流の計算ができる	トランジスタの特性図, 及びhパラメータの意味が分からない		
評価項目5 達成目標5	トランジスタの等価回路を描くことができ、その等価回路を用いた計算ができる。	トランジスタの等価回路を描くことができる。	トランジスタの等価回路を描くけない。		
評価項目6 達成目標6	自分の意向に従って必要とされる簡易な電子回路の創作ができる。	単純な電子回路の創作ができる。	単純な電子回路の創作ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電子回路素子の特性を学ぶ。増幅回路を中心にその回路における素子の動作、効果について学ぶ。演習を通じて電子回路の解析法を習得する。また、電子回路の特性評価方法も学び、工学実験と連携させる。				
授業の進め方・方法	予備知識：基礎電気工学（1年）、電気工学（2年）で学習した基礎的な回路素子、複素数表示等の知識があること。 また、電気回路に用いる記号、単位等を理解していること。 講義室：3S教室 授業形式：講義と演習、電子回路実験、演習レポート 学生が用意するもの：ノート、必要に応じて電卓				
注意点	評価方法・評価基準：中間・定期試験により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：教科書を予習してください。また、授業中の説明内容を把握するよう努めてください。また、章末の演習問題を解いてください。尚、この電子回路の内容は、AR検定やデジタル検定の資格試験と重なる部分が多くあります。この資格試験の勉強にも取り組んでみてください				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	半導体材料の性質、動作	半導体材料の性質を理解し、説明できる。	
		2週	P型半導体、N型半導体	P型半導体、N型半導体の違い、性質を説明できる。	
		3週	ダイオードの構造、性質、特性	ダイオードの構造、性質、特性を理解し、説明できる。	
		4週	簡単なダイオード回路の計算方法、整流動作	簡単なダイオード回路の計算ができる。	
		5週	トランジスタの構造と電気的特性、接続方法	トランジスタの構造とを理解し、回路を作成することができる。	
		6週	一斉実験 (ダイオードの特性測定)	ダイオードの特性を計測できる。	
		7週	簡単なトランジスタ回路の電圧、電流の計算方法	簡単なトランジスタ回路の計算が行える。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	効果トランジスタ (FET) の構造と電気的特性、接続方法	効果トランジスタ (FET) の構造と電気的特性、接続方法を理解し、説明できる。	
		10週	各種半導体素子 (定電圧、可変容量、発光ダイオードなど)	種半導体素子の図記号を理解し、説明できる。	
		11週	シリコン結晶体の生成方法、トランジスタの接地方法	トランジスタの接地方法を説明できる	
		12週	交流信号増幅の原理	トランジスタを用いた交流信号増幅の原理を理解し、利用できる。	
		13週	バイアスを求める演習問題	基本的な電子回路のバイアスを求めることができる。	
		14週	一斉実験 (2) (トランジスタの使用法)	トランジスタを用いて静特性を測定できる。	
		15週	増幅度を求める演習問題	簡単なトランジスタの増幅回路から、増幅度を計算できる	
		16週			
後期	3rdQ	1週	安定化バイアス供給回路	安定化バイアス供給回路を示すことができる。	

4thQ	2週	hパラメータによるトランジスタの等価回路	hパラメータによるトランジスタの等価回路を描くことができる
	3週	等価回路を用いた増幅回路の特性の求め方	等価回路を用いた増幅回路から各部の電流が計算出来る
	4週	FETの等価回路, 電流源、電圧源の変換方法	FETの等価回路をえがくことができる
	5週	差動増幅回路の回路構成	作動増幅の意味を理解できる。
	6週	演算増幅回路での注意事項	演算増幅回路での注意事項を説明できる
	7週	オペアンプICの特徴, 利用法	オペアンプICの特徴を説明でき, 利用することができる。
	8週	中間試験	
	9週	オペアンプICの特徴, 反転増幅, 非反転増幅回路	オペアンプICの特徴, 反転増幅, 非反転増幅回路を構成することができる
	10週	オペアンプICの利用法, 計算法。波形	オペアンプICの利用した波形操作回路動作を説明できる
	11週	演算増幅回路の応用回路, 演習問題	演算増幅回路の応用回路の計算ができる。
	12週	A級電力増幅回路	A級電力増幅回路を説明できる
	13週	A級電力増幅回路のバイアス	A級電力増幅回路のバイアスを計算できる。
	14週	A級電力増幅回路の増幅度	A級電力増幅回路の増幅度が計算できる。
	15週	電子回路の総合演習	電子回路の電圧, 電流計算の考え方を説明できる
	16週	期末前演習	A級電力増幅回路のバイアス

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	60
専門的能力	40	0	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工学実験・実習
科目基礎情報					
科目番号	0053		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	前期:3 後期:2	
教科書/教材	配布テキスト				
担当教員	手島 裕詞,前田 貴信,槇田 諭,唐沢 俊一,兼田 一幸				
到達目標					
1. マイコンの各種機能を動作させることができる。 2. 簡単な回路を作成し、マイコンにより制御できる。 3. 設定された課題を満足できるライトレースカーの作製が行える。 4. 講義で学んだ理論的な事象を実験を通して体験し、理解を深めることができる。 5. 実験データの整理・解析方法を学び、報告書にまとめることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
マイコンの各種機能を動作させることができる	十分にできる	ある程度できる	できない		
簡単な回路を作成し、マイコンにより制御できる	十分にできる	ある程度できる	できない		
設定された課題を満足できるライトレースカーの作製が行える	十分にできる	ある程度できる	できない		
講義で学んだ理論的な事象を実験を通して体験し、理解を深めることができる	十分にできる	ある程度できる	できない		
実験データの整理・解析方法を学び、報告書にまとめることができる	十分にできる	ある程度できる	できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電気・電子工学関連の基礎的な諸実験を行い、実験計測の技術と事象把握の能力を養うと共に、報告書にまとめる能力を習得する。				
授業の進め方・方法	予備知識：1年の基礎電気、2年の電気工学、3年の電気回路、デジタル回路、電子回路などの知識があること。 2年の工学実験で実験の方法、安全対策、データの処理、および報告書の書き方を理解しておくこと。 講義室：電子制御工学科B棟実験室 授業形式：グループ(4～5人)に分かれて各テーマ毎に実験を行う。 学生が用意するもの：実習服、実験書、ノート(実験結果記録用)、グラフ用紙、関数電卓、筆記道具				
注意点	評価方法：実験の準備(服装・実験書等)が20%、実験態度(積極性・協調性・適格性)が30%、報告書(提出・内容)が50%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：実験・実習前に実験書を読んで実験手順などを予習しておくこと。また、実験・実習の目的・理論・方法は、実験・実習前に報告書にまとめておくこと。 オフィスアワー：各担当教員のオフィスアワーを確認すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オシロスコープの操作方法	オシロスコープにより各種データを観測、記録できる。	
		2週	マイコン演習 1	デジタル入出力機能を利用できる。	
		3週	マイコン演習 2	アナログ入出力機能を利用して、各種センサー類をマイコンに接続し、計測することができる。	
		4週	マイコン演習 3	PWMによりモータの速度制御が行える。	
		5週	ライトレースカーの設計	課題を満足するライトレースカーの設計が行える。	
		6週	ライトレースカーの製作 1	設計したライトレースカーを製作できる。	
		7週	ライトレースカーの製作 2	設計したライトレースカーを製作できる。	
		8週	ライトレースカーの製作 3	設計したライトレースカーを製作できる。	
	2ndQ	9週	ライトレースカーの製作 4	設計したライトレースカーを製作できる。	
		10週	ライトレースカーの製作 5	設計したライトレースカーを製作できる。	
		11週	ライトレースカーの製作 6	設計したライトレースカーを製作できる。	
		12週	ライトレースカーの製作 7	設計したライトレースカーを製作できる。	
		13週	ライトレースカーの製作・発表会	製作物について論理的なプレゼンテーションができる。	
		14週	基本論理回路の作成と特性測定	TTL ICを用いて基本的な論理回路作成できる。	
		15週	レポート作成	論理的な記述の報告書を作成することができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	工場見学	工場で製品ができる過程を見学し、工学的な知見から質問することができる。	
		2週	ダイオードの特性測定	ダイオードの特性について調べることができる。	
		3週	トランジスタの静特性の測定	トランジスタの静特性について調べることができる。	
		4週	共振回路の特性測定	共振回路の特性を調べることができる。	
		5週	FETの静特性測定	F E Tの静特性を調べることができる。	
		6週	トランジスタの増幅回路の特性測定	トランジスタを用いた増幅回路の特性を調べることができる。	

4thQ	7週	整流平滑回路の特性測定	整流平滑回路の特性を調べることができる。
	8週	交流ブリッジ	交流ブリッジにより抵抗値や静電容量を調べることができる。
	9週	レポート作成	論理的な記述の報告書を作成することができる。
	10週	OPアンプの特性測定	OPアンプを用いた各種回路の特性を調べることができる。
	11週	組合せ論理解と論理演算	論理回路を用いた演算を行うことができる。
	12週	相反の定理と最大出力条件の実験	相反の定理、および最大出力条件について実験で確認することができる。
	13週	発振回路の特性測定	発振回路の特性を調べることができる。
	14週	微積分回路の実験	微積分回路の特性を調べることができる。
	15週	レポート作成	論理的な記述の報告書を作成することができる。
	16週		

評価割合

	試験	報告書	事前準備	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	20	30	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	20	30	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語と文学
科目基礎情報					
科目番号	0076	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	1		
教科書/教材	配布レジュメ/国語辞典				
担当教員	大坪 舞				
到達目標					
1.日本語の歴史を学び、日本語の特性を理解している。(C1) 2.自分のこれまで、これからについて考えを深める。(C1) 3.ピア活動を通して、他者の意見を取り入れることができる。(C1) 4.自分の考えを文章で伝えることができる。(C1) 5.自分の意見を口頭で伝えることができる。(C1)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	日本語の特性を理解し、場合に応じて正確に使い分けができる。	日本語の特性を理解し、場合に応じた使い分けを意識している。	日本語の特性理解が不十分で、場合に応じて使い分けができない。		
	他者を説得できる文章を書くことができる。	論理破綻の少ない文章を書くことができる。	他者に伝わる文章を書くことができない。		
	自分の特性を見極め、他者に自分を効果的にPRできる。	自分の特性を把握し、他者に自分をPRできる。	他者に自分をPRできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語の効果的な表現方法の手段を学ぶ。また授業を通して自らの考えを深め、文章・口頭両面で伝えることができるようになることを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業は教員からの問題提起と、学生同士でのピア活動を重視して進める。それぞれが受け身ではなく、主体的に討議することを求める。またBlackboard上での情報提供も行うため確認すること。				
注意点	試験の平均点の3割に満たない者については、成績不振者のための追試験を実施しない。各授業項目および授業時間の配分は、学生の理解・習得の状況を確認しながら、変更することがあり得る。また、授業内で提出する文章は、全体に公開することを前提に記すこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 敬語 (1)	授業の目的・進行方法を理解できる。 待遇表現について理解できる。	
		2週	敬語 (2)	尊敬語について理解できる。	
		3週	敬語 (3)	謙譲語・丁寧語について理解できる。	
		4週	敬語 (4)	敬語の誤りなど、実作に則して理解できる。	
		5週	敬語 (5)	文章中における敬語の敬意の対象を理解できる。	
		6週	メール文	メール文を作成できる。	
		7週	手紙文	手紙文を作成できる。	
		8週	ビジネス文書	Wordを利用し、ビジネス文書を作成できる。	
	4thQ	9週	紹介文 (1)	自分のこれまでについて、考えをまとめる。	
		10週	紹介文 (2)	自分のこれまでを適切に紹介することができる。	
		11週	小論文 (1)	テーマに沿って小論文の構成を練ることができる。	
		12週	小論文 (2)	テーマに沿って小論文を書くことができる。	
		13週	志望理由書 (1)	志望理由書の形式を知る。	
		14週	志望理由書 (2)	効果的な志望理由書の書き方を理解できる。	
		15週	志望理由書 (3)	志望理由書を書くことができる。	
		16週	後期定期試験		
評価割合					
		試験	提出物	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	
専門的能力		0	0	0	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国際関係論
科目基礎情報					
科目番号	0077		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	/本質が見えてくる最新現代社会資料集 新版 (第一学習社)				
担当教員	牧野 一成				
到達目標					
1. 国家の基本概念について理解し、説明できる。 2. 現在の日本の社会体制を理解する上で、アメリカ合衆国との関係の重要性を理解し、説明できる。 3. 日米間の国際関係を理解する上で、沖縄がどのように扱われ、その役割を果たしてきたか理解し、説明できる。 4. 戦後の賠償や援助がアジア諸国と日本の経済にどのような役割を果たしてきたか理解し、説明できる。 5. 世界の自由貿易を支える体制がどのように成立し、世界および日本経済に影響を与えてきたか理解し、説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 到達目標1	到達目標1を達成できている	到達目標1をある程度達成できている	到達目標1を達成できていない		
評価項目2 到達目標2,3,4	到達目標2,3,4を達成できている	到達目標2,3,4をある程度達成できている	到達目標2,3,4を達成できていない		
評価項目3 到達目標5	到達目標5を達成できている	到達目標5をある程度達成できている	到達目標5を達成できていない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	国際的な安全保障や世界経済の動きについて学習する。 日米関係を理解する上では、特に沖縄からの視点を盛り込む。 各授業時間に学生数名による発表を盛り込み、現代社会が直面する諸問題について主体的に考え、理解を深める。				
授業の進め方・方法	講義 (一部、ビデオ視聴を含む)、学生による発表 (一人一回5分程度、1週につき4人程度)				
注意点	学生の発表に対して、毎回評価シートの提出を求める 時事的なテーマに関するレポートを評価に加えることもあり得る 自己学習の指針：日頃から、社会の動きに関心を持ち、新聞等のニュースに接するように心がけておくこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	国際関係論で何を学ぶか	学習目標や授業方法について理解できる	
		2週	国家とは何か	国家の基本概念について理解できる	
		3週	日本と最も関係が深い国はどこ？	日本と重要な二国間関係を持つ国を考えることができる	
		4週	日米の安全保障体制	日本とアメリカ合衆国の安全保障体制について理解できる	
		5週	沖縄からみた日米関係 #1	第2次世界大戦末期の沖縄戦について理解できる	
		6週	沖縄からみた日米関係 #2	アメリカによる戦後の沖縄占領統治について理解できる	
		7週	沖縄からみた日米関係 #3	沖縄返還後の日米関係について理解できる	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	第2次世界大戦後の国家間体制	東西冷戦および冷戦後の国家間体制について理解できる	
		10週	日本の戦後復興とアメリカ	日本の戦後復興にアメリカがどう関わったか理解できる	
		11週	日本と周辺諸国との関係	戦後の周辺諸国 (中国・朝鮮半島) との関係を理解できる	
		12週	賠償から援助へ	賠償問題と東南アジア諸国との関係について理解できる	
		13週	日本のODAとアジア諸国との関係	日本の援助がアジア諸国に与えた影響について理解できる	
		14週	自由貿易の進展と世界および日本の経済	自由貿易の進展によって世界がどう動いてきたか理解できる	
		15週	国際社会の将来と日本	日本が国際社会とどう関わっていけばよいか考えることができる	
		16週			
評価割合					
		試験	発表及び評価	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	健康と科学
科目基礎情報					
科目番号	0078		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	最新スポーツルール (大修館) / 必要に応じてプリント、ビデオ等を使用する。				
担当教員	末永 貴久				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 選択した運動種目のルールを理解し、ゲームが出来る。 2. 選択した運動種目について他と協力し、計画的に練習できる。 3. 新体力テストや12分間走を通じて自己の体力を確認し、比較することができる。 4. 身体組成や身体活動量の測定から、体格と健康について説明できる。 5. 心拍数と運動の関係について理解し、自己の運動強度の設定ができる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
選択した運動種目のルールを理解し、ゲームが出来る。	3年生までに身につけた動作ができ、各種目のルールを理解してルールに則ってゲームを運営できる。授業で使う道具や施設の準備を行ったり、それらを安全に配置したり、安全に授業・ゲームを進行することができる。	3年生までに身につけた基本動作ができ、各種目のルールに則ってゲームができる。経験者はチームやクラスメイト学生 (未経験者) に必要な、体力に応じてスポーツを楽しむ事、完全に配慮して取り組むことができる。	各種目のルールに則った行動や安全に配慮したプレー・活動・ゲーム運営ができない。また、生涯スポーツに必要な、体力に応じてスポーツを楽しむ事、完全に配慮して取り組むことができない。授業で使う道具や施設を安全に適切に使用できない。		
選択した運動種目について他と協力し、計画的に練習できる。	他者・他チームと協力協調して、ゲームの参加・応援・補助・運営を計画的に実施し、練習することができる。経験者はチームやクラスメイト学生 (未経験者) に指導をし、その学生の技能を高めることができる。	他者・他チームと協力協調して、計画的に練習することができる。経験者はチームやクラスメイト学生 (未経験者) に技能向上に関する指導をすることができる。また、競技やゲーム運営の手法として活動することができる。	他者・他チームと協力協調して、計画的に練習することができない。経験者でありながらチームやクラスメイト学生 (未経験者) に技能向上に関する指導や競技やゲーム運営及び補助を行わない。個人活動の割合が多くなったり、自分本位な活動ばかりを行う。		
新体力テストや12分間走を通じて自己の体力を確認し、比較することができる。	新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力との比較をし大きく上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。全国統一の評価表に基づいて、平均値を超えるパフォーマンスを発揮することができる。	新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認ができ、過去の体力との比較をし上回っていくことができる。また、上回るために測定に積極的に参加し向上していこうという意欲がある。全国統一の評価表に基づいて、平均値に到達することができる。	新体力テスト、12分間走により自己の体力の確認・比較ができず、過去の体力を上回っていくことができない。自己の体力を調べるために、測定に全力をもって挑んでいない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	自己の身体組成や栄養問題、さらに選択種目の運動強度・活動量などについて学ぶ。また、選択した運動種目について、戦術、ルール、審判法を学び、より高いレベルに発展させる。				
授業の進め方・方法	<p>授業場所：第一体育館かグラウンドにて行う。その他、必要に応じて第二体育館、総合グラウンド、教室でも実施する。</p> <p>授業形式：実技を中心に進め、前期と後期にそれぞれ講義と筆記試験を1回ずつ実施する。</p> <p>用意するもの：学生が各自で指定の体操服と体育館シューズ、グラウンドシューズを用意しておくこと。</p> <p>主な授業内容：</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選択種目：団体種目および個人種目から2種目以上を選択し、練習方法を学び、技術・ルール、審判法を習得してゲームを行う。 <p>また、その種目が持つ楽しさを学ぶ。</p> <p>【団体種目】：ソフトボール、バレーボール</p> <p>【個人種目】：テニス、ゴルフ、バドミントン、卓球</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 新体力テスト：「握力」「反復横跳び」「長座体前屈」「上体起こし」の4種類の測定を行う。 3. 健康科学演習：身体組成 (身長、体重、BMI、体脂肪率) の測定を行い、体格と健康について学ぶ。 <p>また、栄養および消費エネルギーについて学び筆記試験を行う。</p> <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選択種目：団体種目および個人種目から2種目以上を選択し、練習方法を学び、技術・ルール、審判法を習得してゲームを行う。 <p>また、その種目が持つ楽しさを学ぶ。</p> <p>【団体種目】：サッカー、バスケットボール</p> <p>【個人種目】：テニス、ゴルフ、バドミントン、卓球</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 新体力テスト：「50m走」「立幅跳」「ハンドボール投げ」「持久走」の4種類の測定を行う。 3. 健康科学演習：12分間走を実施し、有酸素能力を測定する。 <p>有酸素運動、運動と心拍数および運動強度について学び筆記試験を行う。</p>				
注意点	<p>評価方法：実技試験、体力テスト、12分間走による評価65%、筆記試験、レポート等20%、授業への取り組み等15%で評価を行い、60点以上を合格とする。</p> <p>自己学習の指針：最新スポーツルール (大修館) を活用し、授業内容の理解がより深まるように各種目の技術やルールを予習・復習する。また、生涯を通じてスポーツに親しむ (する・見る・支える) 資質を養うために、各種目の起源 (歴史) や特徴 (楽しさ) を学ぶ。</p> <p>予備知識：3年時までに実施した運動種目のルール等、および運動生理学の基礎知識。</p> <p>その他：担当者により、授業内容の順序・授業方法・評価方法に違いがあるので、授業最初のガイダンスで確認をすること。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		

前期	1stQ	1週	オリエンテーション、選択種目	年間の授業の流れと評価方法を把握する。選択種目を決めチーム分けを行う。
		2週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		3週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		4週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		5週	体育祭の練習	体育祭の練習を通して、協調性を高める。
		6週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		7週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		8週	身体組成	身体組成を測定をすることで、自己の体格の変化を把握する。
	2ndQ	9週	新体カテスト 練習	上体起こし・長座体前屈・握力・反復横跳びの練習をする。
		10週	新体カテスト 本番	上体起こし・長座体前屈・握力・反復横跳びの測定をする。
		11週	講義、選択種目	運動と消費カロリーに関する知識を深める。
		12週	筆記試験、選択種目	運動と消費カロリーに関する知識を確かめる。
		13週	実技練習	実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。
		14週	実技試験①	実技試験の課題をクリアする。
		15週	実技試験②	実技試験の課題をクリアする。
		16週	実技試験予備日	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	後期の授業の流れを把握し、評価方法、受講方法を再確認する。
		2週	新体カテスト 練習	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・持久走の練習をする。
		3週	新体カテスト 本番 (持久走練習)	50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳びの測定をする。
		4週	新体カテスト 本番	持久走の測定をする。
		5週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		6週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		7週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
		8週	選択種目	選択種目のルール・試合方法・技術を実践・理解できる。
	4thQ	9週	競技大会の練習	球技大会に向けて、協力して、それぞれの技能を高める。
		10週	講義、選択種目	運動処方に関する知識を深める。
		11週	筆記試験、選択種目	運動処方に関する知識を確かめる。
		12週	12分間走の練習、実技練習	12分間走の練習をする。実技試験の課題に沿った練習を行い、技能を高める。
		13週	12分間走の本番	12分間走の測定をする。
		14週	実技試験①	実技試験の課題をクリアする。
		15週	実技試験②	実技試験の課題をクリアする。
		16週	実技試験予備日	

評価割合

	実技試験	筆記試験	取り組み・態度	合計
総合評価割合	65	20	15	100
基礎的能力	25	0	0	25
専門的能力	40	20	0	60
分野横断的能力	0	0	15	15

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0079		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	1	
教科書/教材	Reading Radius (三修社)				
担当教員	大里 浩文				
到達目標					
① 必要な情報を英文から読み取ることができる。(C3) ② 学習した文法知識を演習解決に利用できる。(C3) ③ 短い英文を聞き、その概要を理解することができる。(C3) ④ 自らの意図が伝わるだけの英文を作成することができる。(C3) ⑤ 自らの英語力を向上させる目的で自主的に自学自習に取り組むことができる。(C3)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標①)	必要な情報を英文から十分に読み取ることができる。	必要な情報を英文からある程度読み取ることができる。	必要な情報を英文からほとんど読み取ることができない。		
評価項目2 (到達目標②)	学習した文法知識を演習解決に十分利用できる。	学習した文法知識を演習解決にある程度利用できる。	学習した文法知識を演習解決にほとんど利用できない。		
評価項目3 (到達目標③)	短い英文を聞き、その概要を十分理解できる。	短い英文を聞き、その概要をある程度理解できる。	短い英文を聞いても、その概要をほとんど理解できない。		
評価項目4 (到達目標④)	自らの意図が伝わるのに十分な英文を作成することができる。	自らの意図をある程度伝えられる英文を作成することができる。	自らの意図を伝えられる英文をほとんど作成することができない。		
評価項目5 (到達目標⑤)	自らの英語力向上を目指し、自主的に自学自習に取り組むことができる。	自らの英語力向上を目指し、ある程度自学自習に取り組むことができる。	自らの英語力向上を目指すことなく、ほとんど自学自習に取り組むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	科学技術的内容や一般教養的な内容を含むリーディング教材を読み、課題解決に必要な情報を英文から見つける能力を育成していく。 また、TOEICの練習問題に取り組むことで、各学習者の実践的英語能力の現状を確認しながら、そのレベル向上を目指す。				
授業の進め方・方法	予備知識：高専3年間で習得した文法事項・語彙 講義室：各HR教室 授業形式：講義・演習 学生が用意するもの：英和辞書（電子辞書を含む）、配布プリント、The Ultimate Approach for the TOEIC Test (成美堂)				
注意点	評価方法：試験（80点）および単語小テストや取り組み状況など（20点）の計100点で評価する。2回の定期試験の平均が60点以上で合格とする。 自己学習の指針：予習として新出単語の語義調べや全体の概要把握を行うこと。復習として、単語を覚えることや、構文の理解を深めることなどを心がけ、英語力向上に努めること。また、TOEICにも対応できるよう継続して自学自習に取り組むこと。 オフィスアワー：月・水 16:10～17:10				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス/Unit 9 Child Proof Technology: A Disaster Waiting to Happen	授業の概要を理解できる。技術者倫理の分野では代表的な事例について背景を理解できる。	
		2週	Unit 9 Child Proof Technology: A Disaster Waiting to Happen	六本木ヒルズの回転ドアに関する英文を読み内容が理解できる。	
		3週	Unit 9 Child Proof Technology: A Disaster Waiting to Happen	六本木ヒルズの回転ドアに関する英文を読み内容が理解できる。	
		4週	Unit 1 Elegant Demolition	従来のビルの解体工事とは異なる画期的な工法についての英文を読み内容が理解できるようになる。	
		5週	Unit 1 Elegant Demolition	従来のビルの解体工事とは異なる画期的な工法についての英文を読み内容が理解できるようになる。	
		6週	Unit 2 Ayato Takada and the Ebola Virus	エボラウィルスの研究の第一人者の高田教授に関する英文を読み内容が理解できるようになる。	
		7週	Unit 2 Ayato Takada and the Ebola Virus	エボラウィルスの研究の第一人者の高田教授に関する英文を読み内容が理解できるようになる。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	中間試験の返却および解説 Unit 3 Japanese Rocket Science	北海道の小さな会社で進められているロケット開発に関する英文を読み内容が理解できるようになる。	
		10週	Unit 3 Japanese Rocket Science	北海道の小さな会社で進められているロケット開発に関する英文を読み内容が理解できるようになる。	
		11週	Unit 3 Japanese Rocket Science	北海道の小さな会社で進められているロケット開発に関する英文を読み内容が理解できるようになる。	
		12週	Unit 4 Drones	社会問題になってきたドローンの使用についての英文を読み、内容が理解できるようになる。	
		13週	Unit 4 Drones	社会問題になってきたドローンの使用についての英文を読み、内容が理解できるようになる。	
		14週	Unit 5 Whistleblower Engineer Fights Giant Monsters and Wins!	東京電力のトラブル隠しを内部告発したケイ・スガオカ氏に関する英文を読み、内容が理解できるようになる。	

	15週	Unit 5 Whistleblower Engineer Fights Giant Monsters and Wins!	東京電力のトラブル隠しを内部告発したケイ・スガオカ氏に関する英文を読み、内容が理解できるようになる。
	16週		

評価割合

	試験	課題に対する取り組み状況	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	コミュニケーション
科目基礎情報					
科目番号	0080	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	1		
教科書/教材	ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST (成美堂)				
担当教員	大里 浩文				
到達目標					
① TOEIC受験に必要な語彙力を増強するため様々な活動に取り組み、その語彙を使用できるようになる。(C3) ② 既習の文法項目を復習する様々な活動に取り組み、その文法項目を使用できるようになる。(C3) ③ 日常的に使われるレベルの英語を聞いてその概略を把握することができる。(C3) ④ 日常的に使用されるレベルの英文を読み、その大意を把握することができる。(C3) ⑤ 自らの英語力向上を目指し、自主的に自習自習に取り組むことができる。(C3)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標①)	日常的に使用される語彙を十分に使用することができる。	日常的に使用される語彙を最低限使用することができる。	日常的に使用される語彙をほとんど使用することができない。		
評価項目2 (到達目標②)	日常的に使用される文法を十分に使用することができる。	日常的に使用される文法を最低限使用することができる。	日常的に使用される文法をほとんど使用することができない。		
評価項目3 (到達目標③)	日常的に使われるレベルの英語を聞き、その概要が十分に理解できる。	日常的に使われるレベルの英語を聞き、その概要が最低限理解できる。	日常的に使われるレベルの英語を聞いても、その概要がほぼ理解できない。		
評価項目4 (到達目標④)	日常的に使用されるレベルの英文を時間をかけずに読み、大意を十分に把握することができる。	日常的に使用されるレベルの英文を時間をかけずに読み、大意を最低限把握することができる。	日常的に使用されるレベルの英文を時間をかけても読めず、大意をほとんど把握することができない。		
評価項目5 (到達目標⑤)	自らの英語力向上を目指し、自主的に自習自習に取り組むことができる。	自らの英語力向上を目指し、ある程度自習自習に取り組むことができる。	自らの英語力向上を目指すことなく、ほとんど自習自習に取り組むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	読解能力とリスニング能力を、TOEIC教材を用いて育成していく。また、英語力の土台となる語彙力増強に取り組む。				
授業の進め方・方法	予備知識：高専3年生までに蓄えた英語に関する知識と、実用英語検定試験準2級合格レベルのリスニング能力 講義室：各HR教室 授業形式：講義・演習 学生が用意するもの：英和辞書（電子辞書を含む）、配布プリント				
注意点	評価方法：中間試験に関しては、試験（80点）＋単語小テストや取り組み状況など（20点）で評価する。期末試験は、試験（70点）＋単語小テストや取り組み状況など（20点）＋TOEIC IPの結果（10点）の計100点で評価する。2回の定期試験の平均が60点以上で合格とする。 自己学習の指針：リスニング力向上のため、各自が自由時間を使って付属のCDを意識的に聞き、予習・復習に努めること。毎回の授業でTOEICに対応できる自習課題を配布し、翌週の授業で提出を求める。自習課題は試験範囲の一部とする。 オフィスアワー：月・水 16:10～17:10				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス Unit 1 Airport	授業及びTOEICの概要を理解できる。	
		2週	Unit 1 Airport	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。 	
		3週	Unit 2 Train Station	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。 	
		4週	Unit 2 Train Station Unit 3 Department Store	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。 	
		5週	Unit 3 Department Store	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。 	
		6週	Unit 4 Restaurant	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。 	
		7週	Unit 4 Restaurant Unit 1～4の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。 	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験の返却および解説 Unit 5 Hotel	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。 	

	10週	Unit 5 Hotel Unit 6 Hospital	・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。
	11週	Unit 6 Hospital	・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。
	12週	Unit 7 Bank	・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。
	13週	Unit 7 Bank Unit 8 Workplace	・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。
	14週	Unit 8 Workplace	・演習を通して既習の文法・語彙を復習し、問題を解く上での対処法の基本を習得できる。 ・ディクテーションおよび音読を通して、ナチュラルスピードの音声に慣れることができる。
	15週	Unit 5～8の復習	
	16週		

評価割合

	試験	小テスト・課題の取り組み状況	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地理学
科目基礎情報					
科目番号	0081		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	使用しない				
担当教員	牧野 一成				
到達目標					
<p>1.近い将来に、地域創生の一端となるイノベーションを実現できるような、起業家マインドに溢れる人材となる。そのためにも必要な地域特性の理解力を高め、地域の人々とふれあう行動力を身につける。 (到達目標2以降は、到達目標1実現のための下位目標)</p> <p>2.地域特性の理解に必要な統計情報を収集することができる</p> <p>3.収集した統計情報を二次加工するなど適切な処理や、グラフ化などができる</p> <p>4.自ら収集したデータやその分析を通して、人口問題や産業構造の特性などを理解することができる。</p> <p>5.大風呂敷でも構わないので、地域の活性化に貢献できるプロジェクトを考案し、プレゼンテーションを行うことができる</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		地域を理解するために必要な統計情報の収集や処理ができる	地域を理解するために必要な統計情報の収集や処理がある程度できる	地域を理解するために必要な統計情報の収集や処理ができない	
評価項目2		データ処理を通して、日本の人口問題や産業構造の特性を理解できる	データ処理を通して、日本の人口問題や産業構造の特性をある程度理解できる	データ処理を通して、日本の人口問題や産業構造の特性を理解できない	
評価項目3		地域の特性を理解し、地域創生を担う人材としての起業家精神を持ち、地域活性化に対して魅力的な提言ができる	地域の特性を理解し、地域活性化に対して考えることができる	地域の特性が理解できず、地域活性化に対するイメージを持つことができない	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	統計資料データを自ら収集、加工、分析を施すことによって、様々な社会的事象の理解を深める。併せて情報リテラシーの向上を図る。起業家精神を喚起するような地域創生につながるテーマを自ら設定し、これまでに身に着けたスキルを発揮して調査・考察・総括を行う。これらの成果を公表するため「歴史学」「経済学」を受講する学生との合同プレゼンテーションを行う。				
授業の進め方・方法	インターネットに接続できるPCが各自に準備された教室を使用予定。各授業毎に(場合によっては数週にまたがる)課題に取り組む形式の授業。 一部の週については、フィールドワークを実施したい(補講日等で好条件が整えば、90分の枠を超えて実施したいが、詳細未定。時期を変更することもある)。				
注意点	随時提出を求めるレポート60%、プレゼンテーションおよびこれに関連するレポート類40%、以上を総合評価。60点以上を合格とする。 ICT演習室の利用ルールを守ること。PCの基本操作については習熟しておくことが望ましい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスとネットワーク利用の基礎	授業で情報共有に活用するOffice365等を使いこなすことができる	
		2週	統計の基礎と演習 #1	統計的考え方や基本的記述統計(標本、変数の種類、平均、分散、標準偏差...)を理解できる	
		3週	統計の基礎と演習 #2	度数分布表、ヒストグラムを正しく理解できる	
		4週	統計の基礎と演習 #3	Excelを利用して大量のデータを効率的に演算できる	
		5週	統計の基礎と演習 #4	相関係数や回帰直線を理解できる。	
		6週	日本の人口問題(急速な少子高齢化)	最新のデータを活用し、日本の人口問題を理解できる	
		7週	人口統計の活用とデータ処理	web上に存在する膨大なデータから必要な資料を入手できる 入手したデータを単純なグラフに表すことができる	
		8週	中間試験は実施しない予定		
	2ndQ	9週	人口推計に向けての準備	人口を推計するための手順と必要なデータを理解できる	
		10週	日本の将来人口の推計	推計の基本原則を自ら設定し、人口推計ができる また、人口構成を表すグラフをExcelで描くことができる	
		11週	データからみた産業構造の変化	データからみた産業構造の変化	
		12週	日本の産業構造からみた地域性	産業構造を表すデータを収集し、自分なりの加工ができる。これらのデータから地域性を読み取ることができる。	
		13週	身近な地域(佐世保市および周辺地域)が抱える問題を考える #1	身近な地域が抱える問題に関心を持つことができる	
		14週	身近な地域が抱える問題を考える #2(野外調査)	対象地域に足を運び、そこで営まれている人々の暮らしを理解することができる	
		15週	身近な地域が抱える問題を考える #3	身近な地域が抱える問題をどうすれば解決できるかを考えることができる	
		16週			
後期	3rdQ	1週	地域特性(基本的には受講生の地元)の理解 #1	対象地域の自然的特性を理解することができる	
		2週	地域特性の理解 #2	対象地域の歴史的・文化的特性を理解することができる	

4thQ	3週	地域活性化につながる事業・イベントなど夢のある企画を立案し、起業家精神を育成する演習（以下、大風呂敷プロジェクトと略す）#1	起業家精神を持つことの意義を理解できる
	4週	大風呂敷プロジェクト #2	地元の地域振興につながる企画を考えることができる
	5週	大風呂敷プロジェクト #3	設定したテーマに関連した必要な資料収集を行うことができる
	6週	大風呂敷プロジェクト #4	設定したテーマに関連した各種分析を行うことができる
	7週	大風呂敷プロジェクト #5	これまでに収集・分析した成果の作表・グラフ作成・PowerPoint資料の作成ができる
	8週	中間試験は実施しない予定	
	9週	野外調査	対象地域に足を運び、そこで営まれている人々の暮らしを理解することができる 現地の人からの聞き取り調査ができる
	10週	合同プレゼンテーション #1	分かりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。また、人の発表を聞いて、適切な質問や評価ができる。
	11週	合同プレゼンテーション #2	分かりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。また、人の発表を聞いて、適切な質問や評価ができる。
	12週	合同プレゼンテーション #3	分かりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。また、人の発表を聞いて、適切な質問や評価ができる。
	13週	合同プレゼンテーション #4	分かりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。また、人の発表を聞いて、適切な質問や評価ができる。
	14週	合同プレゼンテーション #5	分かりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。また、人の発表を聞いて、適切な質問や評価ができる。
	15週	合同プレゼンテーション #6 (総合討議)	分かりやすく、説得力のあるプレゼンテーションができる。また、人の発表を聞いて、適切な質問や評価ができる。 地元の地域振興に向けたテーマで討議に参加できる
	16週		

評価割合

	レポート	発表	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	0	60
総合的能力	0	40	40

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学
科目基礎情報					
科目番号	0082		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	適宜必要な資料を配布します。				
担当教員	池田 宏子				
到達目標					
基本的な人権に関する知識と過去の有名な判例を学び、これからの社会に必要な人権について考える作業を通して、自身の力で物事を考え、意見をまとめる力を身につけることを目標とします。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		わが国の基本構造と役割を、他国との比較を交えて説明できる。	国の基本構造を理解し、その役割を説明できる。	基本的な国の仕組み、三権分立や裁判員制度を正確に理解する。	
評価項目2		主要判例について、争点となった問題や社会的影響を説明できる。	主要判例の争点と判決内容を説明できる。	主要判例の判決内容を説明できる。	
評価項目3		自身の意見を説得力をもって論理的に主張し、他者と議論できる。	自身の意見を論理的に説明できる。	自身の意見を発言できる。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	人権の保障について、時代や宗教地域的な差異を知り、人間らしく生きるために必要な基本的人権とは何かを考えます。現代に必要なとされる新たな人権についての議論を検証し、理解を深めます。また人権保障に不可欠な法律の仕組みについても学習します。				
授業の進め方・方法	予備知識：中学卒業程度の社会の知識を持ち、ニュースや新聞を読み、理解する能力を必要とします。 講義室： 授業形式：講義（グループ討議を含む） 学生が用意するもの：ノート、必要資料				
注意点	評価方法：学習態度の積極性 10%、レポート20%、前期・後期試験 70% 自己学習の指針：平日頃から日々のニュースや新聞を見聞きし、情報を積極的に収集しましょう。 新たな人権問題や社会問題について興味・関心を持つよう心掛けてください。 オフィスアワー：授業前、授業終了後に対応します。随時メールでも質問を受け付けます。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	人権とは何か？	権利の意味、役割を知る	
		2週	人権の歴史	権利の歴史的変遷を学ぶ	
		3週	動物に権利はあるか？	権利の享有主体を学ぶ	
		4週	諸外国との違い	権利の地域格差を知る	
		5週	発展する権利	権利の性質を学ぶ	
		6週	権利保障の必要性	権利行使にかかわる課題を知る	
		7週	法律ができるまで	法律の成立過程を学ぶ	
		8週	新しい人権	代理母出産などの新たな権利を学ぶ	
	2ndQ	9週	発展する権利	安楽死の権利の必要性を考える	
		10週	DVD鑑賞・ミニレポート作成		
		11週	意見交換		
		12週	時事問題の検証	新聞から得た題材を元に人権問題を考える	
		13週	人権訴訟の判例	過去の有名な判例を知る	
		14週	前半の復習		
		15週	定期試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	近代の人権	最近の人権問題を検証する	
		2週	男女共同参画社会	男女共同参画社会の意味を知る	
		3週	性別役割分担意識	社会の中の固定観念を知る	
		4週	「〇〇らしさ」の問題点	固定観念のつくる差別意識を考える	
		5週	セクシュアルハラスメント		
		6週	DV・ストーカー行為		
		7週	法律による人権の制限	権利の行使と濫用の違いについて学ぶ	
		8週	労働の場での平等	パワーハラスメント・ジェンダーハラスメントを学ぶ	
	4thQ	9週	家庭内での人権保障	男性の家庭参画を考える	
		10週	DVD鑑賞・ミニレポート作成		
		11週	意見交換		
		12週	人間らしい生き方	性差を超えた基本的人権を考える	
		13週	人権保障に必要な制度	アフターマティブアクションについて学ぶ	
		14週	全体のまとめ		
		15週	定期試験		
		16週			

評価割合				
	学習態度の積極性	レポート	試験	合計
総合評価割合	10	20	70	100
基礎的能力	0	20	70	90
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	10

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学
科目基礎情報					
科目番号	0083		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	伊藤元重著『入門経済学(第4版)』				
担当教員	前田 隆二				
到達目標					
1. 経済学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。 2. 経済学の基礎知識を理解・説明できる。 3. 新聞・雑誌等の経済学用語を理解し、説明できる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		経済学の基礎知識を理解・説明できる。	経済学の基礎知識をほとんど理解・説明できる。	経済学の基礎知識を理解・説明できない。	
評価項目2		経済学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。	経済学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理をほとんど理解・説明できる。	経済学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できない。	
評価項目3		新聞・雑誌等の経済学用語を理解し、説明できる。	新聞・雑誌等の経済学用語をほとんど理解し、説明できる。	新聞・雑誌等の経済学用語を理解し、説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	経済というものに興味を持つよう促し、経済学を学習することの意義を体得し、基本的な概念や経済学用語等を理解し、説明できることを目的とする。講義の内容としては、2つの分野について学習する。さらに、学生自身が現在の経済問題について疑問を投げかけたり、発したりできればよいと考えている。				
授業の進め方・方法	予備知識：二年で行われる「政治経済」で習得した経済学の用語を把握している。 講義室：4年生S教室 授業形式：講義、発表 学生が用意するもの：教科書、ノート、ファイル(配布資料用)				
注意点	評価方法：発表、出席状況、授業態度、必要に応じて提出物を総合的に判断する。評価基準は、発表の成績が60%、論文が30%、その他が10%とし、総合成績60点以上を単位取得とする。 自己学習の指針：毎回の講義でノートをしっかりとるようにしてください。また、日頃から新聞やニュースを通じて経済に関する時事問題に触れてください。 オフィスアワー：木曜日 16:00～17:00 金曜日 16:00～17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 経済学の意義 需要と供給	学習目標や方法・評価などを理解できる。市場の取引を理解できる。	
		2週	需要曲線と消費者行動(1)	消費者行動と需要の関連性を理解できる。	
		3週	需要曲線と消費者行動(2)	市場と消費者の関連性を把握できる。	
		4週	費用の構造と供給行動(1)	企業行動と供給の関連性を理解できる。	
		5週	費用の構造と供給行動(2)	市場と企業の関連性を理解できる。	
		6週	市場取引と資源配分	市場メカニズム・余剰分析を理解できる。	
		7週	合同プレゼンテーション1	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。	
		8週	独占と競争の理論(1)	独占企業について理解できる。	
	2ndQ	9週	独占と競争の理論(2)	競争市場について理解できる。	
		10週	市場の失敗(1)	外部効果について説明できる。	
		11週	市場の失敗(2)	公共財、費用逓減産業について説明できる。	
		12週	不確実性と不完全情報の世界(1)	不確実性と経済現象を理解できる。	
		13週	不確実性と不完全情報の世界(2)	不完全情報と経済現象を理解できる。	
		14週	合同プレゼンテーション2	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。	
		15週	合同プレゼンテーション3	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	経済をマクロからとらえる 有効需要と乗数メカニズム	マクロの視点で需要、均衡について理解できる。	
		2週	貨幣の機能	マネーストックのメカニズム、貨幣供給と市場の関係性を理解できる。	
		3週	マクロ経済政策	金融政策と市場の関係性を理解できる。	
		4週	インフレ・デフレと失業(1)	インフレ・デフレを説明できる。	
		5週	インフレ・デフレと失業(2)	インフレ・デフレと失業の関連性を説明できる。	
		6週	高齢社会の経済運営	高齢化における財政運営を通して、長期的な観点から見た財政収支の問題について説明できる。	
		7週	経済成長と経済発展	経済成長の重要性和資本蓄積、経済成長の関係性を理解できる。	
		8週	国際経済学(1)	為替レートと貿易の関係性を理解できる。	
	4thQ	9週	国際経済学(2)	比較優位の概念を説明できる。	

	10週	合同プレゼンテーション4	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。
	11週	合同プレゼンテーション5	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。
	12週	合同プレゼンテーション6	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。
	13週	合同プレゼンテーション7	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。
	14週	合同プレゼンテーション8	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。
	15週	合同プレゼンテーション9	これまでの学習を踏まえて、身近な経済活動を分析する。
	16週		

評価割合

	発表	論文	提出物等	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史学
科目基礎情報					
科目番号	0084		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	瀬野精一郎他著『県史4 2 長崎県の歴史』(第2版、山川出版社)				
担当教員	堀江 潔				
到達目標					
1. 原始・古代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。(B1)					
2. 中世・近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。(B1)					
3. 近現代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。(B1)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	原始・古代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。		原始・古代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略をほとんど説明できる。		原始・古代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できない。
評価項目2	中世・近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。		中世・近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略をほとんど説明できる。		中世・近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できない。
評価項目3	近現代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。		近現代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略をほとんど説明できる。		近現代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	長崎県域の古来よりの歴史的推移および歴史的特質・歴史の課題について理解を深め、学生による口頭発表・質疑応答、および学生個々が自ら興味を持った問題を見つけて課題レポートを作成することを通じ、論理的思考力を高めることを目標とする。佐賀・福岡県域の歴史についても、補足的に取り上げたい。				
授業の進め方・方法	予備知識：2・3年の「歴史」授業で学習した内容。 講義室：視聴覚室。 授業形式：学生による発表・質疑応答を授業の中心とし、教員が補足的に説明を行う。 学生が用意するもの：教科書、配布プリント、筆記用具。				
注意点	自己学習の指針：①2・3年次に履修した歴史の内容について復習しておくこと。 ②新聞・テレビ等を通じて、長崎県域の歴史について興味・関心を高めておくこと。 ③口頭発表や課題レポート、特別プレゼンテーションに向け、発表準備や予備調査などで授業時間と同じ時間の自学を心掛けること。 オフィスアワー：水曜日16:00~17:00、木曜日16:00~17:00 ※受講学生の多寡等により、授業形態・授業内容の一部を変更する場合がある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業概要説明	学習目標や授業方法、評価方法について理解できる。	
		2週	縄文・弥生時代	原始・古代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		3週	大和政権と地域の首長	原始・古代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		4週	遣唐使の時代	原始・古代の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		5週	荘園制と武士団の成立	中世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		6週	モンゴル襲来	中世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		7週	課題論文の書き方合同説明会	課題論文の書き方や評価方法について理解できる。	
		8週	南北朝時代	中世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
	2ndQ	9週	日朝貿易・勘合貿易	中世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		10週	戦国時代の始まり	近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		11週	戦国大名と南蛮貿易	近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		12週	天下統一と禁教の始まり	近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		13週	貿易都市平戸・長崎の発展	近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		14週	課題論文構想合同発表会 1	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。	
		15週	課題論文構想合同発表会 2	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	島原の乱と鎖国体制の成立	近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		2週	小藩領の成立と発展	近世の長崎県域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	

		3週	海と人びとの生活	近世の長崎地域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		4週	情報・文化・教育の結節点	近世の長崎地域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		5週	欧米列強の接近と開国	近現代の長崎地域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		6週	大政奉還から廃藩置県へ	近現代の長崎地域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		7週	近代産業の成立と発展	近現代の長崎地域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		8週	戦争の時代	近現代の長崎地域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。	
		4thQ	9週	近現代の長崎の課題	近現代の長崎地域の歴史的推移・歴史的特質について理解し、概略を説明できる。
			10週	合同プレゼンテーション 1	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。
	11週		合同プレゼンテーション 2	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。	
	12週		合同プレゼンテーション 3	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。	
	13週		合同プレゼンテーション 4	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。	
	14週		合同プレゼンテーション 5	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。	
	15週		合同プレゼンテーション 6	自ら課題を見つけ調査し、論理的筋道をつけて説明できる。他者の発表を傾聴し積極的に質問できる。	
	16週				

評価割合

	口頭発表	質疑応答	課題論文	課題論文プレゼン	合同プレゼン	合計
総合評価割合	25	15	30	10	20	100
基礎的能力	25	15	30	10	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学特論
科目基礎情報					
科目番号	0085		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材					
担当教員	松谷 茂樹				
到達目標					
1. 線型代数と関数空間の関係を理解し、説明できる 2. 熱伝導方程式の差分法、有限要素法と線型代数との関係を理解し、説明できる 3. ガウス光学を通して、線型群を理解し、説明できる 4. フラクタル幾何を通して、位相幾何の重要性や技術と数学の関係を理解し、説明できる 5. 数学と現象との関わり合いを通して、自然現象のモデル化の考え方を理解し、説明できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	線形空間の定義に従って線型代数と関数空間の関係を理解し、説明できる	線型代数と関数空間の関係を理解し、説明できる	線型代数と関数空間の関係を説明できない		
評価項目2	熱伝導方程式の差分法、有限要素法と線型代数との関係を理解し、方程式を構築できる	熱伝導方程式の差分法、有限要素法と線型代数との関係を理解し、説明できる	熱伝導方程式の差分法、有限要素法と線型代数との関係を説明できない		
評価項目3	ガウス光学を通して、線型群を理解し、定式化できる	ガウス光学を通して、線型群を理解し、説明できる	ガウス光学を通して、線型群を説明できない		
評価項目4	フラクタル幾何を通して、位相幾何の重要性や技術と数学の関係を理解し、適用した例を挙げることができる	フラクタル幾何を通して、位相幾何の重要性や技術と数学の関係を理解し説明できる	フラクタル幾何を通して、位相幾何の重要性や技術と数学の関係を説明できない		
評価項目5	数学と現象との関わり合いを通して、自然現象のモデル化の考え方を理解し、例を挙げて解説できる	与えられた問題に対する解決方法(アルゴリズム)をプログラミングできる	与えられた問題に対する解決方法(アルゴリズム)をプログラミングできない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	線型代数を基礎として、熱伝導方程式の差分法、有限要素法、ガウス光学、フラクタルなどを通して、どのように数学が現実の現象と結びつき、またどのように産業に役立つのかをその歴史的背景なども含めて理解する				
授業の進め方・方法	予備知識： 平面ベクトル、空間ベクトル、行列 及び行列式の計算ができている 講義室： 4 M 授業形式： 講義 学生が用意するもの： ファイルバインダー、ノート				
注意点	評価方法： 授業中に課す演習課題（40%）・期末試験（60%）により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針： 授業で課題を課すので、自分で解けるようにすること 授業でのノート、配布資料の内容が理解できるようにすること オフィスアワー： 月曜日 14:30～17:00 金曜日 14:30～17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ベクトル空間の復習	空間のベクトルの復習が出来ている	
		2週	線型代数と離散空間での関数、次元	関数空間と高次元のベクトル空間との関係を理解している	
		3週	フーリエの法則と差分熱伝導方程式	フーリエの法則を理解することで差分熱伝導方程式を導く	
		4週	写像と線型写像	写像と線形写像の理解ができ、例が挙げられる	
		5週	線型写像と行列表現	線型写像の行列表現とその積を導出できる	
		6週	線型写像としての差分と微分	差分と微分の線型写像としての性質を理解している	
		7週	差分熱伝導方程式の行列表現	差分熱伝導方程式の時間発展を計算できる	
		8週	中間試験	これまでの学習内容に関する問題が解ける	
	2ndQ	9週	双対空間と積分	積分を双対空間として理解している	
		10週	双対空間と種々の内積	双対空間と内積の違いと種々の内積を理解している	
		11週	1次元有限要素法	有限要素法を理解している	
		12週	最小原理（最小原理の歴史）	オイラーラグランジュ方程式を導くことができる	
		13週	アミダクジと置換群	置換群を隣接互換群を通して理解している	
		14週	行列式	行列式の性質が列挙できる	
		15週	小行列式、逆行列	小行列式により逆行列が構成できるようになっている	
		16週			
後期	3rdQ	1週	線型変換群	線型変換群の定義が列挙できる	
		2週	SO(3)とSO(2)	SO(3)とSO(2)の関係を理解している	
		3週	Sp(2)とSL(2, R)とガウス光学	ガウス光学とSL(2, R)の関係を理解している	
		4週	線形光学	ガウス光学の一般化を理解している	
		5週	シンプレクティック幾何	シンプレクティック構造を理解している	

4thQ	6週	ガウス括弧	ガウス括弧の計算アルゴリズムを理解し、計算できる
	7週	光学系と力学系	光学系と力学系の対応関係を理解している
	8週	後期中間試験	後期いままでのところまでの学習内容に関する問題が解ける
	9週	フラクタル幾何	フラクタル幾何の例と概念を理解している
	10週	ε - δ フラクタル幾何	ε - δ とフラクタル幾何での実用例を理解している
	11週	位相幾何 動機	位相幾何の必要性を理解している
	12週	位相幾何、定義	位相幾何、定義を理解している
	13週	開近傍	開近傍を理解している
	14週	様々な開近傍	様々な開近傍の例が挙げられる
	15週	一般設計論と位相幾何	一般設計論と位相幾何の関係について理解している
16週			

評価割合

	試験	課題・レポート	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	自然科学概論
科目基礎情報					
科目番号	0086		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	高校で教わらなかった化学 渡辺正・北条博彦著 (日本評論社)				
担当教員	横山 温和				
到達目標					
1. 各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」を身につけることができる。(A1) 2. 各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」ができるようになる。(A1) 3. 各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」を意識することができるようになる。(A1) 4. 各種の講義や実験を通して、「自然科学への興味・関心」がより一層高まるようになる。(A1) 5. 講義を通して、初歩的な化学結合論を理解できるようになる。(A1)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)	各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」が身につけている。またそれを問題解決のために用いることができる。	各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」が身につけている。	各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」がほとんど身につけていない。		
評価項目2 (到達目標2)	各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」ができる。またそれを問題解決のために用いることができる。	各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」ができる。	各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」がほとんどできない。		
評価項目3 (到達目標3)	各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」を意識することができる。またそれを問題解決のために用いることができる。	各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」を意識することができる。	各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」をほとんど意識することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	講義と実験を織り交ぜた授業を行う。講義では大学初級レベルの化学結合論を取り扱う。また身近にある材料を用いて実験を多く行い、教科書で学習した法則・理論・現象を体験を通して理解する。またそれらの実験結果をレポートにまとめる練習を行い、口頭発表により人に伝える訓練を行う。自然科学に重要な意味をもつ論文の輪講を原本(英文)を用いて行い、リアルタイムで発行される世界最先端の論文も適宜取り入れる。				
授業の進め方・方法	予備知識：本科3年までに学習した自然科学(物理、化学、生物)と数学(代数、幾何)の知識があれば十分である。 講義室：化学実験室 授業形式：講義と学生実験を行う。適宜、演習(問題解決と論文輪講)も行う。 学生が用意するもの：A4ノート(100枚綴)、関数電卓、A4サイズファイル、レポート用紙				
注意点	評価方法：定期試験を80%、演習、レポート、発表、出席点を20%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：レポート作成方法を自主学習する。特に実験の考察方法を学習し、卒業論文作成を見越した訓練を各自で行うこと。演習問題の内容を十分に理解し、講義での議論が活発に行えるように努めること。論文原稿(英文)の検索方法を十分に理解し、自分の興味が湧く論文を自分で選べるようにしておくこと。 オフィスアワー：水曜日 16:00~17:00、金曜日 16:00~17:00 ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	高校で教わらない化学・科学への導入、基本的で基礎的な疑問点と問題点	高校の化学、生物の教科書に見る疑問点と問題点を理解し、今後の授業の方向性を理解している。	
		2週	原子の構造、原子模型(トムソンモデル、ボーアモデル)	原子模型であるトムソンモデルとボーアモデルを理解している。	
		3週	光の性質(エネルギーと波長・振動数)	光の性質(エネルギーと波長・振動数)を理解している。	
		4週	ボーアの原子モデルとエネルギー準位	ボーアの原子モデルとエネルギー準位を理解し、説明できる。	
		5週	量子論という考え方	量子論という考え方を理解している。	
		6週	波動方程式と不確定性原理	波動方程式と不確定性原理を理解している。	
		7週	軌道と原子の構造、周期表	軌道と原子の構造、周期表を理解している。	
		8週	物質の状態と状態変化、物理化学的理解	物質の状態と状態変化について、物理化学を用いて理解できる。	
	2ndQ	9週	中間テスト		
		10週	物質の三態と状態変化、過冷却実験、過飽和実験	物質の三態と状態変化を理解し、原子・分子の運動をもとにそれらを説明できる。実験を行い、レポートを作成できる。	
		11週	熱と化学反応	カルメ焼きを通して熱と化学反応の関係を理解する。	
		12週	熱と化学反応	線香花火を通して熱と化学反応の関係を理解する。	
		13週	論文検索方法の紹介	ウェブブラウザを利用した論文検索方法を理解し、論文を検索することができる。	
		14週	論文輪講	自分で検索した英文論文を読み、その内容を理解できる。	
		15週	論文輪講	自分で検索した英文論文を読み、その内容を理解できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	化学結合(共有結合)	共有結合における原子価結合法、分子軌道法を理解している。	

4thQ	2週	化学結合(イオン結合、金属結合)	共有結合、イオン結合、金属結合の違いを理解し、説明できる。
	3週	化学結合(等核二原子分子と軌道エネルギー)	等核二原子分子を理解し、軌道エネルギーを用いて説明することができる。
	4週	気体の性質(ボイルの法則、シャルルの法則)	気体の性質(ボイルの法則、シャルルの法則)を理解し、実験を通してその内容を説明できる。
	5週	気体の性質(液体窒素・液体酸素と磁性)	気体の性質(液体窒素・液体酸素と磁性)を理解し、実験を通してその内容を説明できる。
	6週	論文輪講	英文論文を読み、その内容を理解できる。(内容が適切であれば、その年のノーベル化学賞の原著論文を取り扱う)
	7週	論文輪講	英文論文を読み、その内容を理解できる。(内容が適切であれば、その年のノーベル化学賞の原著論文を取り扱う)
	8週	中間テスト	
	9週	酸と塩基	酸と塩基の本質を理解し、いろいろな物質のpHを測定できる。
	10週	中和反応	カメレオン焼きそばにおける中和反応を理解し、説明できる。
	11週	酸化還元反応、電池(ボルタ電池、ダニエル電池、鉛蓄電池)	酸化還元反応を理解し、説明することができる。電池(ボルタ電池、ダニエル電池、鉛蓄電池)の構造と仕組みを理解できる。
	12週	電池(ボルタ電池、ダニエル電池、鉛蓄電池)	電池を作成することができ、起電力について理解している。
	13週	DNAの構造と役割	DNAの構造を理解し、生物におけるDNAのもつ意味を理解する。
	14週	タンパク質の構造と活性中心	タンパク質の構造を理解し、活性中心における反応機構を理解する。
	15週	タンパク質の構造と活性中心	タンパク質の構造データをPDB(Protein Data Bank)よりダウンロードし、その構造を理解するとともにグラフィックソフトを用いて画像書き出しができる。
	16週		

評価割合

	試験	発表	レポート	出席	合計
総合評価割合	80	8	8	4	100
基礎的能力	80	8	8	4	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	0087		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	Smart Choice Level 2, Oxford University Press				
担当教員	ジェイ ストッカー				
到達目標					
1. Students can recognize and mimic American Conversational English pronunciation, slang, idioms, and colloquial expressions. (C-3)					
2. Students can find appropriate topics to start conversation. (C-3)					
3. Students can understand the meaning and start to pay attention to contextual information. (C-3)					
4. Students can engage in comprehension check by themselves if they are not sure the content of the message. (C-3)					
5. Students can carry out conversation for a while without much trouble. (C-3)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1)	日常会話に取り組むのに必要な語彙・表現を修得し、利用することができる。	日常会話に必要な語彙・表現をすべて修得しているわけではないが、知っている語彙・表現を使って簡単な会話をすることができる。	会話をするに際して、語彙・表現ともに十分なレベルの会話に取り組むめる内容を習得していない。		
評価項目2 (到達目標 2, 3)	日常会話に取り組む際、その場面の意義を正しく理解し、それを会話に反映させることができる。	場面が与える情報を、大きな間違いをすることなく、おおよそ理解することができる。	場面が与える情報を理解することができない。		
評価項目3 (到達目標 4, 5)	日常会話に取り組む際、必要に応じてストラテジーを利用することができる。	効率的な作業のための、ストラテジーの意義を正しく理解することができる。	ストラテジーの役割を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	This communication class will help students to improve English through a variety of conversational tasks. Grammatical structure will be given with its meaning by linking them with appropriate social language and context.				
授業の進め方・方法	予備知識： Students are expected to know how to start daily conversation and to carry out easy verbal interaction without much trouble. 講義室： L L 教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの」テキスト・配布プリント				
注意点	評価方法： 20% quizzes, 20% In class activities, 60% midterm and final exams 自己学習の指針： Using textbooks, students are expected to engage in review and preview of what they learn. Students are expected to work on their assignments. Students are expected to study on their own as many hours as classes. オフイスアワー： 授業の前後、または個別に指定された時間 (英語科森下へ連絡) *授業計画における中間試験実施週に関しては、予定より早まる場合があります。その際は、授業の中で連絡をします。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Course Introduction	Students can understand what the course is about and what they are expected to do.	
		2週	Unit1:How was your vacation?	Students can talk about things to do on vacations.	
		3週	Unit 1:	Students can talk about things to do on vacation.	
		4週	Unit 2: I think it is exciting!	Students can express their opinions about movies and music.	
		5週	Unit 2:	Students can express their opinions about movies and music.	
		6週	Unit 3:Do it before you're 30!	Students can talk about their personal experiences.	
		7週	Unit 3:	Students can talk about their personal experiences.	
		8週	Midterm Examination	In class test	
	2ndQ	9週	Unit 4: The best place in the world!	Students can describe places and geographical features.	
		10週	Unit 4:	Students can describe places and geographical features.	
		11週	Unit 5: Where's the party?	Students can talk about special events and celebrations.	
		12週	Unit 5:	Students can talk about special events and celebrations.	
		13週	Unit 6: You should try it!	Students can make suggestions and recommendations, and talk about obligations.	
		14週	Unit 6:	Students can make suggestions and recommendations, and talk about obligations.	
		15週	Final Examination	In class test	
		16週			
後期	3rdQ	1週	Unit 7: There are too many stores!	Students can make complaints while shopping.	
		2週	Unit 7:	Students can make complaints while shopping.	
		3週	Unit 8:I like guys who are smart.	Students can describe the appearance and personality of people they know.	

		4週	Unit 8:	Students can describe the appearance and personality of people they know.
		5週	Unit 9: What are you doing?	Students can make reports about accidents and injuries.
		6週	Unit 9:	Students can make reports about accidents and injuries.
		7週	Review	Students will be expected to review what they have learned so far and get caught up on homework.
		8週	Midterm Examination	In class test
	4thQ	9週	Unit 10: It must be an earthquake!	Students can talk about extreme natural events and speculate about future weather.
		10週	Unit 10:	Students can talk about extreme natural events and speculate about future weather.
		11週	Unit 11: I used to sing.	Students can talk about school activities and past habits.
		12週	Unit 11:	Students can talk about school activities and past habits.
		13週	Unit 12: Living in a pyramid.	Students can talk about housing options and places to live.
		14週	Unit 12:	Students can talk about housing options and places to live.
		15週	Final-term Examination	In class test
	16週			

評価割合

	試験	クイズ	インクラス活動	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ドイツ語
科目基礎情報					
科目番号	0088		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	Deutschinformation neu 2/独和辞書 (希望者)、プリント				
担当教員	山崎 勝幸				
到達目標					
1. [聴く] 教科書のドイツ文の音声を聴いて、正しく発音することができる。 2. [読む] 教科書のドイツ文を語彙表を使って日本語訳し、ドイツ語文法を含め理解することができる。 3. [話す] 教科書のドイツ文を正しく発音し、会話することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
[聴く] ドイツ語圏 (ドイツ、オーストリア、スイス、リヒテンシュタイン) の人々の言語に慣れ親しむ。	ドイツ語の音を正しく聴き取る事ができる。	ドイツ語の音を概ね聴き取る事ができる。	ドイツ語の音を正しく聴き取る事が出来ない。		
[読む] ドイツ語の基礎を学ぶ、また大学編入レベルのドイツ語理解力を得る。	語彙表を用いて正しく読む事ができる。	語彙表を用いて、時間をかけ、考えながら読む事ができる。	語彙表を用いても正しく読む事が出来ない。		
[話す] 授業の演習ではたくさんのドイツ語を話し、話すことの楽しさを味わう。	日常会話をドイツ語で表現する事ができる。	日常会話をドイツ語で、時間をかけて考えながら表現する事ができる。	日常会話をドイツで表現する事が出来ない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日常あいさつなど会話で用いられる語彙や表現を学び、実践的な練習をする。ドイツ人になった気持ちでドイツ語会話に積極的に参加し、英語以外の外国語の知識を増やしていく。				
授業の進め方・方法	予備知識：日本語の能力 (国語力) 及びこれまでに修得した総合的な知識 講義室： 授業形式：講義形式と演習形式を完全併用 学生が用意するもの：ノート (ルーズリーフ) (提出用としても使用)				
注意点	評価方法：年4回の定期試験の成績 (70%) とまじめでアクティブかどうかの受講態度及び課題の提出状況 (併せて30%) で総合的に評価する。合格点は60点。 自己学習の指針：テキストを中心として毎回授業の予習・復習に取り組み、必要があれば積極的に質問してください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週		(1週)挨拶・自己紹介、教科書や教材の説明	
		2週	Lektion 0 おはようございます!	(2週)Lektion 0 ドイツ語のあいさつ数詞 ① (0~9)	
		3週	Lektion 1 タナカマコトと申します!	(3週)Lektion 1 ①人称代名詞②動詞の現在人称変化	
		4週		(4週)Lektion 1 ③sein (～である) ④疑問詞	
		5週	Lektion 2 何しているの?	(5週)Lektion 2 ①haben (持っている) ②名詞の性 ③語順	
		6週		(6週)Lektion 2 ④決定疑問文と答え方 数詞 ② (10~19)	
		7週	Lektion 3 その帽子はいくらですか?	(7週)Lektion 3 ①定冠詞と名詞の格変化	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	Lektion 3 その帽子はいくらですか?	(9週)Lektion 3 ②名詞の複数形	
		10週	Lektion 4 コーヒーが一杯欲しい	(10週)Lektion 4 ①不定詞②所有冠詞 (不定冠詞類)	
		11週		(11週)Lektion 4 ③否定冠詞 (不定冠詞類)	
		12週	Lektion 5 こちらザビーネです	(12週)Lektion 5 ①現在人称変化の不規則な動詞②名詞の3格	
		13週		(13週)Lektion 5 ③人を表す疑問代名詞数詞 ③ (20~29)	
		14週	Lektion 6 何を注文する?	(14週)Lektion 6 ①現在人称変化の不規則な動詞 (2)	
		15週		(15週)Lektion 6 ②人称代名詞③非人称のes	
		16週	期末試験		
後期	3rdQ	1週	Lektion 7 市庁舎へはどう行ったらいいですか?	(16週)Lektion 7 ①前置詞	
		2週		(17週)Lektion 7 ②前置詞と定冠詞の融合形、数詞 ④ (30~39)	
		3週	Lektion 8 歩いてホテルまで行くことができますか?	(18週)Lektion 8 ①話法の助動詞②話法の助動詞の現在人称変化	
		4週		(19週)Lektion 8 ③話法の助動詞の主な意味、数詞 ⑤ (40~59)	
		5週	Lektion 9 その列車は何時に発車しますか?	(20週)Lektion 9 ①分離動詞②命令形	
		6週		(21週)Lektion 9 ③時刻表現、数詞 ⑥ (60~100)	

4thQ	7週	Lektion 10 音楽に興味があります	(22週)Lektion10 ①形容詞の格変化
	8週	後期中間試験	
	9週	Lektion 10 音楽に興味があります	(24週)Lektion10 ②再帰代名詞と再帰動詞
	10週	Lektion 11 とてもよかった！	(25週)Lektion11 ①動詞の三基本形
	11週		(26週)Lektion11 ②過去人称変化
	12週		(27週)Lektion11 ①現在完了
	13週	Lektion 12 おいしかった！	(28週)Lektion12 ②分離動詞の現在完了
	14週		(29週)Lektion12 一年間の総まとめ①
	15週		(30週)Lektion12 一年間の総まとめ②
	16週	学年末試験	

評価割合

	試験(年4回の定期試験)	受講態度及び課題の提出状況	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	0	70
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	30	30

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	中国語
科目基礎情報					
科目番号	0089		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	《最新版》1年生のコミュニケーション中国語 (塚本 慶一監修 劉 穎著 白水社出版) / 随時プリント配付				
担当教員	堀江 智子				
到達目標					
1. 声調記号及びローマ字表記を見て、正確に発音でき、また、聞き取ることができる。 2. 中国語の漢字 (簡体字) 及びピンイン (ローマ字表記) を正しく書くことができる。 3. 本文 (会話文) の暗誦ができ、聞き取ることができる。 4. 既習の単語・文型を使って、簡単な応用会話ができる。 5. 中国の文化・中国人の考え方を理解する。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標 1、2)		ピンイン(ローマ字表記及び声調記号)を見て正確に発音でき、聞き取ることができる。また、中国語の漢字を正しく書くことができる。	ピンイン(ローマ字表記及び声調記号)を見て発音でき、大体の発音を聞き取ることができる。また、中国語の漢字を書くことができる。	ピンイン(ローマ字表記及び声調記号)を見て発音できない。また、中国語の漢字を書くことができない。	
評価項目2 (到達目標 3、4)		基本文法を理解し、本文の暗誦及び聴き取りができ、応用会話ができる。	基本文法を理解し、基本文の暗誦ができ、大体の内容が聴き取れ、簡単な会話ができる。	基本文法を理解しておらず、基本文を使った簡単な会話ができない。	
評価項目3 (到達目標 5)		中国の文化・習慣や中国人の考え方を知らぬことにより、状況に応じた会話ができる。	中国の文化・習慣や中国人の考え方を知り、簡単な会話ができる。	中国の文化・習慣や中国人の考え方を理解した会話ができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	中国語の実用的なコミュニケーション力を養う。 会話練習を行うことにより、発音を定着させ、聴解力をつける。 基本文法を学び、応用会話ができる。言語学習を通して、中国の風俗・習慣を理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識：高校卒業程度の日本語能力および一般教養 講義室：多目的教室 授業形式：演習 学生が用意するもの：教科書、ノート、辞書				
注意点	評価方法：定期試験80%、出席・発表・小テスト・提出物等20%、60%以上を合格とする 自己学習の指針：テキストを中心として毎回授業の予習・復習に取り組み、必要があれば積極的に質問してください。 備考：授業内容は前後することがあります。※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	中国語概説、発音	中国語の基本知識を得、発音 (単母音・声調) ができる。	
		2週	発音 (子音・軽声など)、呼称、挨拶	発音 (子音・軽声など) ができ、簡単な挨拶ができる。	
		3週	第1課 自己紹介 文法 (“是”文)・会話	文法 (“是”、助詞、副詞) を理解し、基本会話ができる。	
		4週	第1課復習・応用	練習問題を通して、文法の理解を深め、聴解できる。	
		5週	第2課 これは何ですか? 文法 (“是”の否定と疑問)・会話	文法 (“是”の疑問・否定) を理解し、基本会話ができる。	
		6週	第2課復習・応用	練習問題を通して、文法の理解を深め、聴解できる。	
		7週	第3課これはいかがですか? 文法 (形容詞文)・会話、復習	復習により第3課までの文法の理解を深め、聴解できる。	
		8週	第3課復習・応用	練習問題を通して、文法の理解を深め、聴解できる。	
	2ndQ	9週	中間試験	発音～第3課までの文法理解度を確認し、弱点を補強する。	
		10週	第4課 買い物 文法 (数詞)・会話	数詞・お金の数え方を理解し、買い物の会話ができる。	
		11週	第4課復習・応用	練習問題を通して、文法の理解を深め、聴解できる。	
		12週	第5課 どこにありますか? 文法 (“在”+場所)・会話	動詞“在”を理解し、場所を伝えられる。	
		13週	第5課復習・応用	練習問題を通して、文法を理解し、聴解できる。	
		14週	第6課 何がありますか? 文法 (“有”・助数詞)・会話	助数詞・所有の動詞“有”を理解し、基本会話ができる。	
		15週	復習	復習により第6課までの文法の理解を深め、聴解できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	第6課復習・応用	練習問題を通して、文法を理解し、聴解できる。	
		2週	第7課 ホテルにチェックイン 文法 (“了”)・会話	完了の“了”の否定・疑問を理解し、基本会話ができる。	
		3週	第7課復習・応用	練習問題を通して、文法を理解し、聴解できる。	
		4週	第8課文法 何時に行きますか? (“”・時間詞)・会話	経験の“”を理解し、時を伝えられる。	
		5週	第8課復習・応用	練習問題を通して、文法を理解し、聴解できる。	

4thQ	6週	第9課 タクシーに乗る)・会話	文法 (時間の長さ	時と時間の長さの表現の違いを理解し、基本会話ができる。
	7週	第9課復習・応用		復習により第9課までの文法の理解を深め、聴解できる。
	8週	中間試験		第9課までの文法事項の理解度を確認し、弱点を補強する。
	9週	第10課 試着と支払い)・会話	文法 (“会”“能”・“在”	助動詞「できる」・“在”+場所+動詞を理解し、会話ができる。
	10週	第10課復習・応用		練習問題を通して、文法を理解し、聴解できる。
	11週	第11課 苦情を訴える)・会話	文法 (名詞述語文	名詞述語文の否定・疑問を理解し、基本会話ができる。
	12週	第11課復習・応用		練習問題を通して、文法を理解し、聴解できる。
	13週	第12課 紛失届を出す)・会話	文法 (“是～的”文)	“是～的”文を理解し、基本会話ができる。
	14週	第12課復習・応用		練習問題を通して、文法を理解し、聴解できる。
	15週	復習		復習により第12課までの文法の理解を深め、聴解できる。
16週				

評価割合

	試験	出席・発表・小 テスト・提出物 等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語
科目基礎情報					
科目番号	0090		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	「時代を読み解く上級日本語 (第2版)」				
担当教員	堀上 志都子				
到達目標					
1. 中級後期～上級段階の文型・語句を習得する。 2. 長文 (新聞記事等) の内容を的確に把握できるようになる。(速読を含む) 3. 長文の内容について教師の質問に答えられるようになる。 4. 長文の内容に関連して自分の考えが記述できるようになる。 5. 長文の内容を自国の状況と比較して説明できるようになる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1(達成目標1)	本文中の文型・語句を使って、自由に短作文できる。	本文中の文型・語句を使って、似た文章を作ることができる。	本文中の文型・語句を使って、自由に短作文できない。		
評価項目2(達成目標2, 3)	本文の内容を的確に把握し、教師の質問にキーワードを使って答えることができる。	本文の内容を把握し、教師の質問の箇所を理解し、答えることができる。	本文の内容をが分からず、教師の質問に答えることができない。		
評価項目3(達成目標4, 5)	本文の内容を自国の状況と比較して説明でき、それを長文にまとめることができる。	本文の内容を自国の状況と比較して質疑応答でき、それを長文にまとめることができる。	本文の内容を自国の状況と比較して質疑応答でき、それを長文にまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本社会の現状について書かれた文章を題材として、日本語の語句の意味・用法を学習するとともに、読解力・発話力・作文力の向上を図る。				
授業の進め方・方法	予備知識：日本語中級前期までの文型・語句の知識 講義室： 授業形式：演習形式 学生が用意するもの：辞書、ノート、テキスト				
注意点	評価方法：出席・授業態度(20%)、中間・期末試験(40%)、発表・レポート等(40%)で評価し、60点以上を合格とする 自己学習の指針：テキストを中心として毎回授業の予習・復習に取り組み、積極的に質問してください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・2課	新しい結婚の形を考える	
		2週	2課 遠距離結婚	"	
		3週	3課 未婚の男性が急増	母国と日本の未婚男性について考える。	
		4週	"	"	
		5週	7課 ノーマライゼーションの地域を作る	地域再生について考える	
		6週	"	"	
		7週	総合練習	復習と作文 (長文)	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	9課 野菜産地の悩み	外国人労働者受け入れの現状について学ぶ。	
		10週	"	"	
		11週	10課 高齢社会は怖くない	高齢化社会について、その問題点と解決策を考える。	
		12週	"	"	
		13週	12課 問われる学力観	母国と日本の「学力観」について考える。	
		14週	総合練習	復習と作文 (長文)	
		15週	期末試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	14課 メディア機器・IT機器の影響	インターネット等の子供への影響について考える。	
		2週	"	"	
		3週	15課 日本型雇用システム(1)	母国と日本の「雇用契約」について考える。	
		4週	"	"	
		5週	16課 日本型雇用システム(2)	母国と日本の「賃金制度」について考える。	
		6週	"	"	
		7週	総合練習	復習と作文 (長文)	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	19課 新卒外国人が変える日本	企業の外国人採用について考える。	
		10週	"	"	
		11週	23課 人間のおごり	東日本大震災時から今までの科学に対する認識の変化をまとめる。	
		12週	"	"	
		13週	24課 エビデンスと現実の直視	「エビデンス」の必要性について考える。	
		14週	総合練習	復習と作文 (長文)	

		15週	期末試験	
		16週		
評価割合				
	出席	中間・期末試験	発表・レポート等	合計
総合評価割合	20	40	40	100
基礎的能力	0	40	40	80
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	20

佐世保工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ハングル語
科目基礎情報				
科目番号	0091	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科	対象学年	4	
開設期	通年	週時間数	前期:1 後期:1	
教科書/教材	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版 (木内明 著 国書刊行会) / 随時プリント配付			
担当教員	キム キャロライン・ミヒ			
到達目標				
1. 韓国語 (ハングル) の読み書きと聴き取りができるようになる。 2. 本文 (会話文) を読んで、内容を理解することができるようになる。 3. 基本文法・文型を理解し、状況に応じて基本的な会話ができるようになる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標1)	ハングルを正確な発音で読むことができ、聴き取ることができる。また、ハングルの正しく書くことができる。	ハングルをある程度理解し、簡単な単語及び文章について読み書き・聞き取りができる。	ハングルの理解しておらず、読み書き・聞き取りができない。	
評価項目2 (到達目標2)	本文 (会話文) を読んで、内容を正確に理解することができる。	本文 (会話文) を読んで、内容をある程度理解することができる。	本文 (会話文) の内容を理解することができない。	
評価項目3 (到達目標3)	基本文法・文型を理解し、状況に応じて会話ができる。	基本文法・文型をある程度理解し、簡単な会話ができる。	基本的な文法を理解しておらず、簡単な会話ができない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	主に初心者を対象に、韓国語を初歩から体系的に学んでいくことを目的とする。基礎的な文字と発音から始め、簡単な文法と基本文型を身に付け、読み・書き・聞く・話す能力を養う。日常あいさつなど会話で用いられる語彙や表現を学び、実践的な練習をする。韓国の文化・習慣や韓国人の考え方を理解して効率的に通じる・伝わる会話能力の向上を目指す。			
授業の進め方・方法	予備知識：高校卒業程度の日本語能力および一般教養 講義室：4 C教室 授業形式：講義形式と演習形式を完全併用 学生が用意するもの：テキスト、ノート (提出用としても使用)、ホルダー (プリント用) 【学習方法】 ハングル文字を習う時は、プリントを使用。文法と会話はテキストに沿って勉強する。 【学習形態】 まず、簡単な文法の説明を聞き、活用の練習をする。次に講師の発音を聞き、何度も読み返す。5分ぐらい1人で練習し、2人または3人で会話をする。次に習った文章を応用して練習問題を解く。			
注意点	正確かつ自然な韓国語の習得を目指し、伝わる喜びを味わってもらう為、口頭練習を重視する。発音やイントネーションは勿論、常に日本語との違いを念頭に置き、その都度確認を行いながら進む。学生の皆さんには、率先して声を出してもらうなど、積極的な参加を望む。 学生自身が用意する準備物の徹底。 課題の提出期限厳守。			
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	基礎・第1課：韓国語について 挨拶	語順と語彙 文字(ハングル)の仕組み 簡単な挨拶
		2週	基礎・第2課：基本の母音	ハングルの母音10個を学ぶ： ,,,,,,,,
		3週	基礎・第3課：基本の子音(平音)	ハングルの子音14個の中で平音(9個)：,,,,,,,,
		4週	基礎・第3課：基本の子音 (激音と濃音)	ハングルの子音14個の中で激音(5個)：,,,, 複合子音5個：,,,,
		5週	まとめ (基本の母音と子音)	復習
		6週	基礎・第4課：複合母音	複合母音11個を学ぶ (,,,,,,,,)
		7週	基礎・第5課：パッチム	パッチムの発音
		8週	中間試験範囲の確認と復習	
	2ndQ	9週	前期中間試験	テスト範囲：基礎・第1課～第4課
		10週	基礎・第5課：パッチム	パッチムの発音 2つのパッチムの発音
		11週	基礎・第6課：発音の変化1	
		12週	基礎・第6課：発音の変化2	
		13週	基礎・第7課：あいさつ 第1課	～は：/ ～です：名詞+
		14週	第2課	～が：/ ～ですか：名詞+?
		15週	前期定期試験範囲の確認と復習	

		16週	前期定期試験	テスト範囲：基礎・第5課－第2課
後期	3rdQ	1週	前期まとめ	復習
		2週	第3課	～ではありません：/ ～ではありませんか：
		3週	第4課	います・あります： いません・ありません：
		4週	第5課	します・しますか：/ 何：
		5週	第7課 (※第6課と順を入れ替える)	用言の活用：/
		6週	第8課	用言の活用：体 ～しに：()
		7週	第6課 後期中間試験範囲の確認と復習	用言の活用：体
		8週	後期中間試験	テスト範囲：第3課－第8課
	4thQ	9週	第9課	漢数字
		10週	第10課	固有数字
		11週	第11課	敬語
		12週	第12課	動詞や形容詞の否定文
		13週	第13課	過去形・敬語の過去形
		14週	第17課	～したい：～ ～してください：～
		15週	第18課 後期定期試験範囲の確認と復習	～してもいい：～ ～しないでください：～
		16週	後期定期試験	テスト範囲：第9課－第18課

評価割合

	試験	課題	態度	語彙クイズ	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	60	20	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用数学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0061		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	「新応用数学」(大日本図書)「新応用数学問題集」(大日本図書)				
担当教員	丸山 幸宏				
到達目標					
1. 具体的な関数のラプラス変換およびその逆変換が計算できる(2,A-1,c). 2. ラプラス変換を微分方程式の解の構成に応用できる(2,A-1,c). 3. 行列の分解(特にLU分解)を理解できる(2,A-1,c). 4. 行列の固有値を求めることができる(2,A-1,c). 5. 運動の行列表現の応用について理解できる(2,A-1,c).					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 (到達目標 1)	関数のラプラス変換およびその逆変換について十分理解し、その応用問題が解ける。		関数のラプラス変換およびその逆変換についてほぼ理解し、その基本的問題が解ける。		関数のラプラス変換およびその逆変換についての理解が不十分で、その基本的問題も解けない。
評価項目2 (到達目標 2)	ラプラス変換およびその逆変換を十分理解し、その応用として微分方程式の解の構成ができる。		ラプラス変換およびその逆変換をほぼ理解し、基本的な微分方程式の解の構成ができる。		ラプラス変換およびその逆変換について理解が不十分で、微分方程式の解の構成もできない。
評価項目3 (到達目標 3, 4, 5)	行列の固有値や分解について十分理解し、その応用問題が解ける。		行列の固有値や分解についてほぼ理解し、その基本的問題が解ける。		行列の固有値や分解について理解が不十分で、その基本的問題も解けない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	前期は信号処理、波形解析、微分方程式の解法などの工学の問題を取り扱う上で必要な道具であるラプラス変換およびその逆変換の基礎について学ぶ。後期は行列の固有値や分解、その応用について学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識としては、2年生までに学んだ微分積分や行列の知識が必要である。講義室は4Sの教室で行う。授業は講義と演習を交えて行う。学生が用意するものとしては、教科書と問題集および授業用ノート、演習用ノートを用意すること。				
注意点	評価方法は、中間と定期試験(4回)で90%、小テストや宿題などで10%で評価し、60点以上を合格とする。ただし、状況によっては上と変わることがあるが、そのときは担当者が指示する。自己学習の指針としては、各試験前に学習内容を復習し、演習問題やその類似問題が解けるようにしておくこと。オフィスアワーは、非常勤講師のため設定しない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ラプラス変換の定義と広義積分の復習を行う。	ラプラス変換の定義について理解できる。	
		2週	具体的な関数のラプラス変換の求め方を学ぶ。	具体的な関数のラプラス変換を求めることができる。	
		3週	ラプラス変換の性質について学ぶ(1)。	ラプラス変換の基本的性質に理解でき、その問題に応用できる。	
		4週	ラプラス変換の性質について学ぶ(2)。	ラプラス変換の基本的性質に理解でき、その問題に応用できる。	
		5週	ラプラス変換表の作成について学ぶ。	ラプラス変換表の作成を通して、ラプラス変換の定着を確認できる。	
		6週	逆ラプラス変換の求め方を学び、その計算練習を行う。	逆ラプラス変換について理解でき、それを求めることができる。	
		7週	前期中間試験範囲の復習を行う。	前期中間試験範囲の学習内容の定着を確認する。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	ラプラス変換とその逆変換の1階微分方程式への応用について学ぶ(1)。	ラプラス変換とその逆変換の応用として、1階微分方程式の解法を理解できる。	
		10週	ラプラス変換とその逆変換の1階微分方程式への応用について学ぶ(2)。	ラプラス変換とその逆変換の応用として、1階微分方程式の解法を理解できる。	
		11週	ラプラス変換とその逆変換の2階微分方程式への応用について学ぶ(1)。	ラプラス変換とその逆変換の応用として、2階微分方程式の解法を理解できる。	
		12週	ラプラス変換とその逆変換の2階微分方程式への応用について学ぶ(2)。	ラプラス変換とその逆変換の応用として、2階微分方程式の解法を理解できる。	
		13週	たたみこみ積分とラプラス変換との関係について学ぶ。	ラプラス変換を用いて、たたみこみ積分の値を求めることができる。	
		14週	ラプラス変換の応用として、線形システムの伝達関数について学ぶ。	ラプラス変換の応用として、線形システムへの応用が理解できる。	
		15週	前期定期試験範囲の復習を行う。	前期定期試験範囲の学習内容の定着を確認する。	
		16週	前期定期試験		
後期	3rdQ	1週	行列のLU分解について学ぶ。	行列のLU分解が理解できる。	
		2週	行列のLU分解を用いた連立方程式の解法について学ぶ。	行列のLU分解を用いて、連立方程式を解ける。	
		3週	行列の固有値について学ぶ(1)。	行列の固有値について理解し、固有値を具体的に求めることができる。	
		4週	行列の固有値について学ぶ(2)。	行列の固有値について理解し、固有値を具体的に求めることができる。	
		5週	絶対値最大の固有値の求め方について学ぶ。	絶対値最大の固有値の求め方について理解できる。	
		6週	3重対角行列について学ぶ。	3重対角行列について理解し、その固有値を求めることができる。	

4thQ	7週	後期中間試験範囲の復習を行う。	後期中間試験範囲の学習内容の定着を確認する。
	8週	後期中間試験	
	9週	ハミルトン・ケーリーの定理について学ぶ。	ハミルトン・ケーリーの定理を理解できる。
	10週	行列の固有値の個数と行列のタイプとの関係について学ぶ。	行列の固有値の個数と行列のタイプとの関係を理解できる。
	11週	運動の行列表現について学ぶ。	運動の行列表現（ザイツ演算子）について理解できる。
	12週	ザイツ演算子と同次座標との関係について学ぶ。	ザイツ演算子の行列表現について理解できる。
	13週	高次元空間の低次元空間への投影，映像の表現空間(1)について学ぶ。	高次元空間の表現を低次元空間に投影することができる。
	14週	映像の表示空間(2)について学ぶ。	映像のコンピュータ上での表現方法を理解できる。
	15週	後期定期試験範囲の復習を行う。	後期定期試験範囲の学習内容の定着を確認する。
	16週	後期定期試験	

評価割合

	試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合	90	5	5	100
基礎的能力	90	5	5	100

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用数学Ⅲ	
科目基礎情報						
科目番号	0062		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	1		
教科書/教材	「新確率統計」大日本図書, 「新確率統計問題集」大日本図書					
担当教員	濱田 裕康					
到達目標						
1. 具体的なデータを処理し, 平均や分散, 相関係数, 回帰直線を算出できる. 2. 離散型確率変数の場合の類似として, 連続型確率変数の場合をとらえることができる. 3. 分布(2項分布, 正規分布, χ^2 乗分布, t分布)が理解できる. 4. 代表的な区間推定ができる. 5. 代表的な仮説検定ができる.						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	具体的なデータを処理し, 平均や分散, 相関係数, 回帰直線を算出できる.	具体的なデータを処理し, 平均や分散, 相関係数, 回帰直線をほぼ算出できる.	具体的なデータを処理し, 平均や分散, 相関係数, 回帰直線を算出できない.			
評価項目2	離散型確率変数の場合の類似として, 連続型確率変数の場合をとらえることができる.	離散型確率変数の場合の類似として, 連続型確率変数の場合をとらえることがほぼできる.	離散型確率変数の場合の類似として, 連続型確率変数の場合をとらえることができない.			
評価項目3	分布(2項分布, 正規分布, χ^2 乗分布, t分布)が理解できる.	分布(2項分布, 正規分布, χ^2 乗分布, t分布)がほぼ理解できる.	分布(2項分布, 正規分布, χ^2 乗分布, t分布)が理解できない.			
評価項目4	代表的な区間推定ができる.	代表的な区間推定がほぼできる.	代表的な区間推定ができない.			
評価項目5	代表的な仮説検定ができる.	代表的な仮説検定がほぼできる.	代表的な仮説検定ができない.			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	データ処理で必要となる基本的な手法を活用できるように統計学の基礎を学ぶ. また統計的推測の基礎を学び, 実際の統計処理に活用できるようにする.					
授業の進め方・方法	予備知識: 1年生で学んだ順列・組合せの知識, 2年生で学んだ Σ の計算の知識, 2・3年生で学んだ積分(重積分を含む)知識. 講義室: 4S教室 授業形式: 講義と演習 学生が用意するもの: 配布プリント保存用のファイル, 課題用ノート, 電卓					
注意点	評価方法: 自己学習の指針: 毎回の授業で課題を出すので, 次回の授業までに解いておくこと. オフィスアワー: 月曜日 16:00~17:00 金曜日 16:00~17:00					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	順列・組合せの復習	様々な場合の数を計算できる		
		2週	確率の定義と性質	様々な確率を計算できる		
		3週	条件つき確率と乗法定理	様々な条件つき確率を計算できる		
		4週	事象の独立, 反復試行	事象が独立であるか判定できる		
		5週	確率変数と確率分布, 二項分布	離散型確率変数の平均や分散を計算できる		
		6週	1次元データの整理	データの標準偏差を計算できる		
		7週	2次元データの整理	回帰直線を求めることができる		
		8週	連続型確率分布	連続型確率変数の平均や分散を計算できる		
	4thQ	9週	中間試験			
		10週	正規分布, 統計量と標本分布	正規分布に従う確率変数を含む確率の計算ができる, 標本平均の意味が理解できる		
		11週	χ^2 乗分布, t分布	χ^2 乗分布, t分布に従う確率変数を含む確率の計算ができる		
		12週	点推定, 母平均の区間推定	母平均の区間推定ができる		
		13週	母分散の区間推定	母分散の区間推定ができる		
		14週	母平均の検定	母平均の検定ができる		
		15週	母分散の検定	母分散の検定ができる		
		16週				
評価割合						
	試験	課題	合計			
総合評価割合	90	10	100			
基礎的能力	90	10	100			

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	一般物理
科目基礎情報					
科目番号	0063		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	基礎物理学 (原 康夫, 学術図書出版)				
担当教員	小野 文慈				
到達目標					
1. 質点の運動に関して運動方程式を立てることができる。(A1) 2. 剛体の運動に関して運動方程式を立てることができる。(A1) 3. それぞれの初期条件を使って運動方程式を解くことができる。(A1) 4. エネルギーを正しく理解し、数学的取り扱いができる。(A1) 5. その他の基本法則を正しく理解し、数学的取り扱いができる。(A1)					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		質点の運動に関して運動方程式を十分に立てることができる。	質点の運動に関して運動方程式を立てることができる。	質点の運動に関して運動方程式を立てることができない。	
評価項目2		剛体の運動に関して運動方程式を十分に立てることができる。	剛体の運動に関して運動方程式を立てることができる。	剛体の運動に関して運動方程式を立てることができない。	
評価項目3		それぞれの初期条件を使って運動方程式を十分に解くことができる。	それぞれの初期条件を使って運動方程式を解くことができる。	それぞれの初期条件を使って運動方程式を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	質点や質点系の運動, エネルギーなどの物理現象をどのように数学的に表現し、それをどう解くか、そしてその結果をどのように理解するか学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識： 低学年時に学んだ「力と運動」(運動の法則, 運動量保存, 仕事とエネルギー, いろいろな運動)に関する知識の整理・復習しておくこと。 講義室：教室 授業形式：講義形式 学生が用意するもの：特になし				
注意点	評価方法：中間・定期試験により60点以上を合格とする。 自己学習の指針： 予習・復習・授業時に提示する演習問題を独力で取り組むこと。試験前には、ノートの内容や演習問題を十分に理解すること。 これらの自己学習時間は、半期で15時間以上を確保することが望ましい。 オフィスアワー：水曜日、木曜日の16:00~17:00 注意：追試験は必要に応じて行うが、授業ノートを期日を守って提出しない人は追試験を受けることができない。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	物理学とは(物理学の全体像)、評価方法の説明	物理学の全体像を掴むことができる。	
		2週	力の表し方、合力と分力	力が分解、合成できることを認識する。	
		3週	ベクトルと成分	力をベクトルで表現することが理解できる。	
		4週	位置、速度、加速度	位置、速度、加速度をベクトル表示できる。	
		5週	座標変換	直交座標から極座標への変換ができる。	
		6週	速直線運動、等加速度直線運動、自由落下運動、鉛直投げ上げ運動	いろいろな運動の違いが理解できる。	
		7週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことが出来る	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	位置エネルギーと運動エネルギー	運動とエネルギーの関係を表現することができる。	
		10週	運動の第1法則、運動の第2法則	運動の法則が理解できる。	
		11週	運動の第3法則	運動の法則が理解できる。	
		12週	等速円運動	等速円運動の仕組みが理解できる。	
		13週	放物運動	回転座標系を認識することができる。	
		14週	雨滴の落下、ストークスの法則	粘性抵抗を考慮した運動方程式が理解できる。	
		15週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことが出来る	
		16週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	単振動、ばねの運動	ばねの運動方程式を立て、解くことができる。	
		2週	力学的エネルギー保存則、仕事率	エネルギー保存則と理解できる。	
		3週	運動量の変化と力積	運動量保存則を導くことができる。	
		4週	運動量保存則、弾性衝突・非弾性衝突	2体問題における運動量保存則を理解できる。	
		5週	非慣性系とみかけの力	慣性系の違いを理解できる。	
		6週	コリオリの力	コリオリの力を理解できる。	
		7週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことが出来る	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	角運動量保存則	角運動量保存則が理解できる。	

	10週	万有引力の法則, ケプラーの法則	万有引力の法則およびケプラーの法則を理解できる.
	11週	剛体とそのつり合い	モーメントを認識し、回転のつり合いの式を立てることができる.
	12週	重心の導出	複雑形状の重心を算出できる.
	13週	固定軸のある剛体の運動	慣性モーメントを導き、回転系の運動方程式を立てることができる.
	14週	斜面を転がる円柱の運動方程式とその解法	さまざまな条件の回転系の運動方程式を解くことができる.
	15週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことができる
	16週	後期末試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	合計
総合評価割合	100	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ソフトウェア科学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0064		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	コンピュータグラフィックス基礎 (共立出版)				
担当教員	手島 裕詞				
到達目標					
1. 各種言語処理プロセッサの特徴を説明でき、また、ソフトウェア開発に必要なツールを説明できる。(A4) 2. コンピュータシステムとその利用形態や特徴を説明できる。(A4) 3. 情報システムやモラルに関連したセキュリティ技術を説明できる(A4) 4. SQLを用いて関係データベースにおけるテーブルの生成やデータ操作ができる。(A4) 5. グラフィックスシステムの処理の流れとその主要技術を説明でき、応用分野を挙げるができる。(A4)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1、2)	コンピュータシステムとその利用形態および特徴を説明できる。各種言語処理プロセッサの特徴を説明でき、また、ソフトウェア開発に必要なツールをそれぞれ説明することができる。	コンピュータシステムとその利用形態および特徴をある程度説明できる。各種言語処理プロセッサの特徴を説明でき、また、ソフトウェア開発に必要なツールをそれぞれある程度説明することができる。	コンピュータシステムとその利用形態および特徴を説明できない。各種言語処理プロセッサの特徴を説明できない。また、ソフトウェア開発に必要なツールをそれぞれ説明できない。		
評価項目2 (到達目標3、4)	セキュリティに関連する技術を説明でき、SQLを用いて関係データベースにおけるテーブルの生成やデータ操作ができる。	セキュリティに関連する技術をある程度説明でき、SQLを用いて関係データベースにおけるテーブルの生成やデータ操作がある程度できる。	セキュリティに関連する技術を説明できない。SQLを用いて関係データベースにおけるテーブルの生成やデータ操作ができない。		
評価項目3 (到達目標5)	グラフィックスシステムの処理の流れとその主要技術(モデリング、レンダリング、アニメーション)の詳細を説明でき、応用分野を挙げるができる。	グラフィックスシステムの処理の流れとその主要技術(モデリング、レンダリング、アニメーション)の詳細をある程度説明でき、応用分野を挙げるができる。	グラフィックスシステム処理の流れとその主要技術(モデリング、レンダリング、アニメーション)を説明できない。応用分野を挙げるができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	ソフトウェア開発に関連する技術を学び、コンピュータシステムの概要についても理解を深める。情報システムやモラルに関連したセキュリティを学び、セキュリティ対策の技術を高める。また、知的システムやアプリケーションを開発するための基礎となるデータベースやグラフィックスの理論を学び、システム開発の技術を高める。				
授業の進め方・方法	予備知識 : これまで学習してきた情報処理関連技術の基礎が必要である。 講義室 : 教室 授業形式 : 講義・実習・グループワーク 学生が用意するもの : 特になし				
注意点	評価方法 : 4回の試験(前期中間・前期定期・後期中間・学年末)の平均点で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針 : 予習、復習時間は2時間以上が望ましい。また、試験の前までに授業内容の重点を整理しておくこと。 オフィスアワー : 水曜日、金曜日の16:00~17:00 ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	コンピュータシステム	コンピュータの仕組みやシステムの利用形態を説明できる。	
		2週	言語処理系	主要な言語処理プロセッサの特徴を説明できる。	
		3週	ソフトウェア開発環境	ソフトウェア開発に必要なツールの種類と機能を説明できる。	
		4週	計算モデルとデータ型(基本型、構造型、ポインタ型)	計算モデルによって言語が分類されていることを理解できる。	
		5週	コンピュータシステムと信頼性	分散処理の特徴を説明でき、信頼性を向上させる機能やシステムを説明できる。	
		6週	クラウドシステム	クラウドコンピューティングの利点や特徴を説明できる。	
		7週	情報セキュリティ(1) ECサイトの脆弱性診断	ECサイトの脆弱性を想定し、解決策を説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	情報セキュリティ(2) ネットワークを利用したプログラム開発	ネットワークを利用したプログラムの脆弱性を想定し、解決策を説明できる。	
		10週	情報セキュリティ(3) セキュリティ3大要素と脅威	セキュリティの3大要素を理解し、セキュリティ上の脅威を説明できる。	
		11週	情報セキュリティ(4) ネットワーク概要とLAN、WAN技術	ネットワークの仕組みを理解し、LAN技術、WAN技術を説明できる。	
		12週	情報セキュリティ(5) IP(インターネットプロトコル)	インターネットプロトコルを理解し、IPアドレスの構成を説明できる。	
		13週	情報セキュリティ(6) IPとWindowsネットワーク	Windowsネットワークを理解し、ドメインコントローラーを説明できる。	
		14週	情報セキュリティ(7) セキュリティ技術	暗号化を理解し、セキュリティに関する技術を説明できる。	

		15週	情報セキュリティ（8） セキュリティ対策	個人と組織レベルでのセキュリティ対策を説明できる。
		16週	定期試験	
後期	3rdQ	1週	データベース概要	データベースシステムの役割について理解できる。
		2週	SQL演習（1）	整合性制約を理解し、複数のテーブルを定義できる。
		3週	SQL演習（2）	複数テーブルから要求された形式でデータを抽出できる。
		4週	コンピュータグラフィックスの応用	CGの役割と有用性について説明できる。
		5週	画像処理	映像生成のための画像処理を説明できる。
		6週	図形描画	ディスプレイへの描画手順を説明できる。
		7週	中間試験	
		8週	モデル表現（1）	CAD・CGシステムで用いられるモデル表現を説明できる。
	4thQ	9週	モデル表現（2）	CAD・CGシステムで用いられるモデル表現を説明でき、モデルによる特徴の違いを比較できる。
		10週	曲線・曲面の生成	陰関数、パラメトリック曲線・曲面を理解でき、曲線を計算によって生成することができる。
		11週	光モデル	CGにおける陰付けのモデルを説明できる。
		12週	大域照明モデル	間接光を用いた高品位画像の生成法を理解できる。
		13週	模様と影の表現	複雑な模様や影をリアルタイムで生成する仕組みを説明できる。
		14週	アニメーション	アニメーション生成に必要な技術や各種エフェクトの実現法を説明できる。
		15週	CGシステム	システム構成に必要なソフトウェア、ハードウェアの役割を説明できる。
		16週	定期試験	

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	100	100
分野横断的能力	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気回路Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0065		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	続 電気回路の基礎 第3版				
担当教員	志久 修, 兼田 一幸, 嶋田 英樹				
到達目標					
1. Z行列、Y行列、F行列の考え方を説明し、計算に用いることができる。(A4) 2. 過渡現象を説明し、計算ができる。(A4) 3. フーリエ級数を説明し、計算ができる。(A4) 4. ひずみ波交流の電流、電圧、電力を説明し、計算ができる。(A4) 5. 直流回路、交流回路の計算ができる。(A4)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	Z行列、Y行列、F行列の考え方を説明し、計算に用いることができる。	Z行列、Y行列、F行列の考え方を説明し、計算に用いることがほとんどできる。	Z行列、Y行列、F行列の考え方を説明し、計算に用いることができない。		
評価項目2	過渡現象を説明し、計算ができる。	過渡現象をほとんど説明でき、かつ計算がほとんどできる。	過渡現象を説明し、計算ができない。		
評価項目3	フーリエ級数およびひずみ波交流について説明と計算ができる。	フーリエ級数およびひずみ波交流について説明と計算がほとんどできる。	フーリエ級数およびひずみ波交流について説明と計算ができない。		
評価項目4	直流回路、交流回路の計算ができる。	直流回路、交流回路の計算がほとんどできる。	直流回路、交流回路の計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電気回路は電気系科目の基礎科目として重要な位置を占める。電気回路の物理的現象の理解、解析能力の習得を目指す。				
授業の進め方・方法	予備知識：3年までの電気回路（オームの法則、キルヒホッフの法則、交流回路など） 講義室：4 S教室 授業形態：講義と演習（授業の後半に、学習内容の演習、例題を解く） 学生が用意するもの：関数電卓 参考書・補助教材：詳細 電気回路演習（上）（下）（大下著 共立出版）				
注意点	評価方法：試験（前期中間・前期定期・後期中間・後期定期）の平均点を80%、演習・課題を20%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：授業後の復習をしっかりと行い、授業中に出現する演習問題を必ず自分で解くこと。また、試験前には、授業中に説明した例題、演習問題等の内容を理解できていること。 オフィスアワー：水曜日、木曜日の16:00～17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義の目的、概要、進め方等 四端子回路（1）	行列の復習と四端子回路の行列表現	
		2週	四端子回路（2）	インピーダンス行列、アドミタンス行列、F行列を説明し、計算に用いることができる。	
		3週	四端子回路（3）	インピーダンス行列、アドミタンス行列、F行列を説明し、計算に用いることができる。	
		4週	四端子回路（4）	四端子回路列の直列接続、並列接続、縦続接続を説明し、計算することができる。	
		5週	過渡現象（1）	RL直列回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	
		6週	過渡現象（2）	RL直列回路の交流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	
		7週	演習問題	四端子回路列と過渡現象の計算ができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	過渡現象（3）	RC直列回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	
		10週	過渡現象（4）	RC直列回路の交流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	
		11週	過渡現象（5）	RLC直列回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	
		12週	過渡現象（6）	RLC直列回路の交流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	
		13週	過渡現象（7）	複雑な回路の直流応答と交流応答を計算することができる。	
		14週	過渡現象（8）	複雑な回路の直流応答と交流応答を計算することができる。	
		15週	演習問題	過渡現象の計算ができる。	
		16週	定期試験		
後期	3rdQ	1週	ひずみ波交流（1）	ひずみ波交流について説明ができる。	
		2週	ひずみ波交流（2）	フーリエ級数によるひずみ波交流の周波数分解が計算できる。	

		3週	ひずみ波交流 (3)	フーリエ級数によるひずみ波交流の周波数分解が計算できる。	
		4週	ひずみ波交流 (4)	ひずみ波交流の実効値とひずみ率を説明し、計算することができる。	
		5週	ひずみ波交流 (5)	ひずみ波交流回路の計算ができる。	
		6週	ひずみ波交流 (6)	ひずみ波交流の電力を計算することができる。	
		7週	演習問題	ひずみ波交流の計算ができる。	
		8週	中間試験		
		4thQ	9週	直流回路の演習	直流回路の計算ができる。
			10週	交流回路の演習	合成インピーダンス、共振回路の計算ができる。
	11週		交流回路の演習	交流ブリッジ、直並列回路の計算ができる。	
	12週		交流回路の演習	交流電力の計算ができる。	
	13週		交流回路の演習	結合回路の計算ができる。	
	14週		交流回路の演習	四端子回路、過渡現象、ひずみ波交流の計算ができる。	
	15週		演習問題	直流回路と交流回路の計算ができる。	
	16週		定期試験		

評価割合

	試験	課題・レポート	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電気磁気学 II
科目基礎情報					
科目番号	0066		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:1	
教科書/教材	基礎電磁気学 (改訂版) (オーム社)				
担当教員	嶋田 英樹				
到達目標					
1. ビオ・サバールの法則, アンペアの周回積分則を用いて磁界の計算ができる. (A3) 2. 磁界中を移動する荷電粒子, 導体, 磁界中を流れる電流に働く力を計算できる. (A3) 3. 自己インダクタンス, 相互インダクタンスの計算ができる. (A3) 4. 磁界, 磁束, 磁束密度, 磁力線ならびに磁性体の境界面における磁界, 磁束密度の境界条件を説明できる. (A3) 5. ベクトルを用いてガウスの法則, アンペアの周回積分則, ファラデーの法則を表現できる. (A3)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)	ビオ・サバールの法則, アンペアの周回積分則を説明でき, これらの法則を用いて磁界の計算ができる.	ビオ・サバールの法則, アンペアの周回積分則を用いて磁界の計算ができる.	ビオ・サバールの法則, アンペアの周回積分則を用いて磁界の計算ができない.		
評価項目2 (到達目標2)	磁界中を移動する荷電粒子, 導体, 磁界中を流れる電流に働く力を説明でき, これらの働く力を計算できる.	磁界中を移動する荷電粒子, 導体, 磁界中を流れる電流に働く力を計算できる.	磁界中を移動する荷電粒子, 導体, 磁界中を流れる電流に働く力を計算できない.		
評価項目3 (到達目標3)	自己インダクタンス, 相互インダクタンスを説明でき, これらの計算ができる.	自己インダクタンス, 相互インダクタンスの計算ができる.	自己インダクタンス, 相互インダクタンスの計算ができない.		
評価項目4 (到達目標4)	磁界, 磁束, 磁束密度, 磁力線の関係を理解し, 説明できる. また, 磁性体の境界面における磁界, 磁束密度の境界条件を説明できる.	磁界, 磁束, 磁束密度, 磁力線ならびに磁性体の境界面における磁界, 磁束密度の境界条件を説明できる.	磁界, 磁束, 磁束密度, 磁力線ならびに磁性体の境界面における磁界, 磁束密度の境界条件を説明できない.		
評価項目5 (到達目標5)	マクスウェルの方程式に関連した, ガウスの法則, アンペアの周回積分則, ファラデーの法則をベクトルを用いて表現できる.	ベクトルを用いてガウスの法則, アンペアの周回積分則, ファラデーの法則を表現できる.	ベクトルを用いてガウスの法則, アンペアの周回積分則, ファラデーの法則を表現できない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電磁界の基本的な考え方を学習する. 授業は, 磁界における法則等の説明, 例題を示しながら解説を行う. また, 前期の週1コマにおいては, 電磁気学に必要な勾配, 発散, 回転等のベクトル演算, マクスウェルの方程式に関して学び, 電磁気学をベクトル解析の観点から説明する.				
授業の進め方・方法	予備知識: 微分積分の物理的意味理解し, 簡単な演算が行えること. 特に, 線積分, 面積分, 体積分について理解しておくこと. また, 3年次に学んだ静電界の内容を復習しておくこと. 講義室: 4S教室 授業形式: 講義・演習 学生が用意するもの: 特になし				
注意点	評価方法: 4回の試験 (前期中間・前期定期・後期中間・後期定期) の平均80%, 演習課題等を20%で評価し, 60点以上を合格とする. 自己学習の指針: 予習, 復習時間は2時間以上が望ましい. また, 試験前には, 授業中に説明した例題等の内容を理解できていること. オフィスアワー: 月曜日, 金曜日 16:00~17:00 ※到達目標の () 内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	磁気現象, 様々な座標系・ベクトルの基本演算	磁気現象の説明ができる. 様々な座標系へ座標変換, 基本演算ができる.	
		2週	磁力線, 磁束, 一次独立・一次従属	磁力線, 磁束の性質を説明できる. ベクトルの一次独立・一次従属の判断ができる.	
		3週	ビオ・サバールの法則 (1), 位置ベクトル・単位ベクトル	無限長電流が作る磁界の計算ができる. 位置ベクトル・単位ベクトルを計算できる.	
		4週	ビオ・サバールの法則 (2), スカラ積	円形電流が作る磁界の計算ができる. スカラ積の計算ができる.	
		5週	ビオ・サバールの法則 (3), ベクトル積	ソレノイドが作る磁界の計算ができる. ベクトル積の計算ができる.	
		6週	アンペアの周回積分則 (1), 三重積	無限長電流が作る磁界の計算ができる. ベクトル三重積の計算ができる.	
		7週	アンペアの周回積分則 (2), ベクトル演習	環状ソレノイドが作る磁界の計算ができる. ベクトルの証明問題, 計算問題ができる.	
		8週	中間試験	これまでの内容を理解できていること.	
	2ndQ	9週	磁位, 磁気双極子, ベクトルの微分	磁気, 磁気双極子を説明できる.	
		10週	磁界中の電流に働く力, 勾配	磁界中の電流に働く力の計算ができる. ベクトルの微分, 勾配を計算できる.	
		11週	磁界中の電子に働く力, コイルに働く力, ベクトルの発散	磁界中の電子の運動, コイルに働く力を説明できる. ベクトルの発散を計算できる.	
		12週	ホール効果, ベクトルの回転	ホール効果を説明できる. ベクトルの微分ができる. ベクトルの回転を計算できる.	

後期		13週	電磁力による仕事, マクスウェルの方程式	電磁力による仕事の計算ができる. マクスウェルの方程式を記述できる.
		14週	ファラデーの法則, 波動方程式	ファラデーの法則を説明できる. 波動方程式を説明できる.
		15週	交流の発生原理, 平面波	交流の発生原理を説明できる. 平面波を説明できる.
		16週	定期試験	これまでの内容を理解できていること.
	3rdQ	1週	電気機械エネルギー変換	電気機械エネルギー変換原理を説明できる.
		2週	渦電流, 演習問題	渦電流を説明できる.
		3週	自己インダクタンス, 相互インダクタンス	自己インダクタンス, 相互インダクタンスを説明できる.
		4週	インダクタンスの計算 (1)	自己インダクタンスの計算ができる.
		5週	インダクタンスの計算 (2)	相互インダクタンスの計算ができる.
		6週	電磁エネルギー	電磁エネルギーを用いて自己インダクタンスを計算できる.
		7週	過渡現象	過渡現象の計算ができる.
		8週	中間試験	これまでの内容を理解できていること.
	4thQ	9週	磁性体	磁性体の種類を説明できる. ストークスの定理を説明できる.
		10週	磁化率, 透磁率	磁化率, 透磁率を説明できる.
		11週	磁化曲線, 臨界温度	磁化曲線, 臨界温度を説明できる.
		12週	磁化エネルギー	磁化エネルギーを説明できる.
13週		ヒステリシス環線, ヒステリシス損失	ヒステリシス環線, ヒステリシス損失を説明できる.	
14週		磁気回路	磁気回路の計算ができる.	
15週		磁性体の境界条件	磁性体の境界条件を説明できる.	
16週		定期試験	これまでの内容を理解できていること.	

評価割合

	試験	演習課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電子工学
科目基礎情報					
科目番号	0067	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	前期:1		
教科書/教材	電子デバイス工学【第2版】(古川静二郎 他, 森北出版)				
担当教員	前田 貴信				
到達目標					
1.原子や電子の性質を説明できる。(A4) 2.結晶構造を理解し、説明できる。(A4) 3.電子のエネルギー帯構造を説明できる。(A4) 4.半導体の構造と動作原理に説明できる。(A4) 5.電子工学の応用分野の動作原理が説明できる。(A4)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	原子や電子の性質を十分に説明できる	原子や電子の性質を説明できる	原子や電子の性質を説明できない		
評価項目2	電子のエネルギー帯構造を十分に説明できる	結晶構造を理解し、説明できる	結晶構造を理解し、説明できない		
評価項目3	電子のエネルギー帯構造を十分に説明できる	電子のエネルギー帯構造を説明できる	結晶内の電子のエネルギー帯構造を十分に説明できない		
評価項目4	半導体の構造と動作原理を十分に説明できる	半導体の構造と動作原理に説明できる	半導体の構造と動作原理を説明できない		
評価項目5	電子工学の応用分野の動作原理が十分に説明できる	電子工学の応用分野の動作原理が説明できる	電子工学の応用分野の動作原理が説明できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電子現象と電子回路(3年次開講)で学んだ半導体の動作原理を電子力学的観点から理解を深める。また、半導体素子の応用分野に関して、原理・特性を理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識:3年次開講の電子回路で学んだダイオード・トランジスタに関する静特性や化学・物理の基礎知識を十分に理解しておくこと。また、基本的な微分方程式、積分の問題を解くことができること。 講義室:教室 授業形式:講義形式 学生が用意するもの:なし				
注意点	評価方法:中間・定期試験を80%,演習,宿題等を20%で評価し,60点以上を合格とする。ただし,提出物の総数が規定の6割未満の場合,59点以下と評価する。 自己学習の指針:予習・復習・授業時に提示する問題を独力で取り組むこと。試験前には,ノートの内容や演習問題を十分に理解すること。 これらの自己学習時間は,半期で15時間以上を確保することが望ましい。 オフィスアワー:水曜日、木曜日の16:20~17:00 ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電子工学の位置付け・歴史的背景	電子工学の位置付けを理解できる。	
		2週	電子と結晶・価電子と結晶	原子の構成要素と電子の振る舞いについて理解し、説明できる。	
		3週	電子と結晶・結晶と結合形式	結晶中の電子の振る舞いと周期律表の関係が理解できる。	
		4週	エネルギー帯と自由電子・エネルギー準位	電子の持つエネルギーの原理を理解し、説明できる。	
		5週	エネルギー帯と自由電子・エネルギー帯の形成	エネルギー帯が形成される原理を理解し、説明できる。	
		6週	半導体・金属・絶縁物のエネルギー帯構造	真性半導体の構造とキャリアの振る舞いを説明できる。	
		7週	半導体とキャリア・真性半導体のキャリア	外因性(不純物)半導体の構造とキャリアの振る舞いを説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	半導体とキャリア・外因性半導体のキャリア	キャリア密度とフェルミ準位について説明できる。	
		10週	キャリア密度とフェルミ準位・真性キャリア密度	キャリア密度の理論式を導出でき、数式を解くことができる。	
		11週	キャリア密度とフェルミ準位・キャリア密度とフェルミ準位	キャリア密度の理論式を導出でき、数式を解くことができる。	
		12週	半導体の電気伝導・ドリフト電流	半導体の電流(ドリフト電流)が生じる原理を説明できる。	
		13週	半導体の電気伝導・拡散電流	半導体の電流(拡散電流)が生じる原理を説明できる。	
		14週	p n 接合とダイオード	p n 接合の構造を理解し説明できる。	
		15週	光半導体デバイス	半導体デバイスの種類と原理を説明できる。	
		16週	前期未定期試験		
評価割合					
	試験	発表	課題	合計	
総合評価割合	80	0	20	100	

基礎的能力	0	0	0	0
專門的能力	80	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電子回路Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0068		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	電子回路 (桜庭一郎 他 森北出版) / 電子回路 (コロナ社: 3年電子回路使用教科書), 配布する手作りプリント・				
担当教員	川下 智幸				
到達目標					
1. トランジスタおよびFETを用いた増幅回路について説明できること. (A4) 2. アナログフィルタの特性について説明できること. (A4) 3. A/D, D/A変換回路の特性について説明できること. (A4) 4. 負帰還回路および発振回路について説明できること. (A4) 5. 波形整形回路について説明できること. (A4)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1(到達目表1, 2)	トランジスタおよびFETを用いた増幅回路, フィルタ特設について回路方程式を求め計算できること.	トランジスタおよびFETを用いた増幅回路, フィルタ回路について回路方程式を導き説明ができること.	トランジスタおよびFETを用いた増幅回路, フィルタ回路について説明ができない.		
評価項目2 (到達目標3)	A/D, D/A変換回路について説明ができ, 回路方程式を求め出力電圧等を計算で求めることができる.	A/D, D/A変換回路について説明ができること.	A/D, D/A変換回路について説明ができない.		
評価項目3 (到達も表4, 5)	負帰還増幅回路および発振回路, 波形整形回路について回路方程式等を用いた計算ができること.	負帰還増幅回路および発振回路, 波形整形回路について動作説明および回路方程式を導くことができること.	負帰還増幅回路および発振回路, 波形整形回路について説明できない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電子回路 (3年開講) で学んだダイオード, トランジスタ, オペアンプなどの能動素子を用いた実用的な各種回路の用途, 原理, 特性を理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識: 電子回路 (3年開講) で学んだ能動素子の基本特性およびキルヒホッフの法則を理解していること. また簡単な線形微分方程式の解法が可能なこと. 講義室: 4S教室 授業形式: 講義と演習, 演習レポート 学生が用意するもの: 電卓を持参すること				
注意点	評価方法: 試験 (中間・定期) で評価し, 60点以上を合格とする. 自己学習の指針: 課題プリントを配布するので自己学習を通して理解すること. また, 授業を進めるには, 以前の知識が基礎になるので, その都度, 授業内容の理解に努めること. これらの学習時間は2時間以上が望ましい. オフィスアワー: 水曜日, 木曜日の16:00~17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義内容・到達目標の説明と電子回路の役割など	産業界の中での, 電子回路の重要性が説明できる.	
		2週	FETの等価回路, トランジスタの等価回路	等価回路を理解し, 回路図を作成できる.	
		3週	増幅特性を低域, 中域, 高域にわける	周波数の違いにより増幅特性が変わることが説明できる.	
		4週	中域, 高域の等価回路とその特性	周波数の違いにより増幅特性が変わることが説明できる.	
		5週	低域の等価回路とその特性およびベクトル軌跡	増幅特性をベクトル軌跡で描くことができる.	
		6週	帯域幅Bと増幅度GおよびGB積	GB積の特性を理解し, 説明できる.	
		7週	受動素子を用いたフィルター回路	フィルター回路の意義と簡単な回路を設計できる.	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	試験答案の解答確認およびフィルターの種類と特性	フィルター回路の意義と簡単な回路を設計できる.	
		10週	A/D, D/A変換回路の種類と精度	A/D, D/A変換回路の利用分野などが説明できる.	
		11週	D/A変換回路の動作原理と基本回路	D/A変換回路の種類と基本回路が説明できる.	
		12週	A/D変換回路の動作原理と基本回路	A/D変換回路の種類と基本回路が説明できる.	
		13週	負帰還増幅回路の理論・原理	負帰還増幅回路の理論と原理が説明できる.	
		14週	負帰還増幅回路の特徴	負帰還増幅回路の種類とその特徴が説明できる.	
		15週	負帰還増幅器の安定性と練習問題	負帰還増幅回路の安定性判別について説明できる.	
		16週	定期試験		
後期	3rdQ	1週	試験問題の解答確認および発振回路の用途・種類	発振回路の用途について説明できる.	
		2週	発振器の発振条件	発振回路の原理が説明できる.	
		3週	LC発振回路の基本回路	LC発振回路を理解し基本回路が描ける.	
		4週	ハートレー回路, コルピッツ回路	ハートレー回路, コルピッツ回路を理解し基本回路が描ける.	
		5週	RC発振回路の基本回路	RC発振回路を理解し基本回路が描ける.	
		6週	位相形RC発振回路, ターマン発振回路	位相形RC, ターマン発振回路を理解し基本回路が描ける.	
		7週	ウィーブリッジ発振回路	ウィーブリッジ発振回路を理解し基本回路が描ける.	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	試験問題の解答確認および水晶発振回路	水晶発振回路を理解し基本回路が描ける.	

	10週	パルス回路の種類と特徴	パルス回路の種類と特徴が説明できる.
	11週	波形整形回路 I (クリップ回路)	クリップ回路を理解し基本回路が描ける.
	12週	波形整形回路 II (クリップ回路、クランプ回路)	クリップ回路、クランプ回路を理解し基本回路が描ける.
	13週	トランジスタパルス回路 (インバータ回路)	インバータ回路を理解し基本回路が描ける.
	14週	比較回路 (ヒステリシス特性含む)	比較回路を理解し基本回路が描ける.
	15週	総合演習問題 (波形整形回路)	各種波形整形回路の理解と設計ができる.
	16週	定期試験	

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	0	0
専門的能力	100	100

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	通信工学
科目基礎情報					
科目番号	0069		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	通信技術 (羽場光俊ほか コロナ社)				
担当教員	兼田 一幸				
到達目標					
1.通信システムの構成を記述できる。(A4) 2.多重通信の原理を理解できる。(A4) 3.データ通信システムの構成を描くことができる。(A4) 4.データ伝送の基礎的なシステムを把握できる。(A4) 5.電波の発生原理を理解できる。(A4) 6.AM、FMの原理を理解できる。(A4)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 達成目標1	通信システムの構成を記述でき、 各々の構成要素を説明することができる。	通信システムの構成の概形を記述 できる	通信システムの構成を記述できな い		
評価項目2 達成目標2	多様な多重通信の原理を説明でき る。	1つの多重通信の原理を説明でき る。	多重通信の原理がわからない		
評価項目3 達成目標3	データ通信システムの構成を描く ことができる。	データ通信システムの構成を描く ことができる。	データ通信システムの構成が掛け ない。		
"評価項目4 達成目標4"	データ伝送の基礎的なシステムを 把握できる。	データ伝送の基礎的なシステムを 大まかに把握できる。	データ伝送の基礎的なシステムが わからない。		
"評価項目5 達成目標5"	電波の発生原理を理解し、電磁気 とのつながりがわかる。	電波の発生原理を理解できる。	電波の発生原理がわからない。		
"評価項目6 達成目標6"	AM、FMの原理を理解できる。	AM、FMの原理をある程度理解でき る。	AM、FMの原理がわからない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	有線通信や無線通信における基本的な事柄について学習し、実際に活用できる能力を養う。データ伝送システム、無線通信システムの構成方法や電波伝搬特性を理解する。また、画像通信における基礎的な事項を学習する。				
授業の進め方・方法	予備知識：電気回路や電子工学、電気磁気学の応用として、通信工学は成り立っているため、三角関数や微積分など基礎的な数学や、電気回路の電圧・電流の計算や、トランジスタなどの電子回路の動作を習得していることが必要である。 講義室：4S教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：ノート、必要に応じて電卓				
注意点	評価方法・評価基準：中間・定期試験により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：復習を中心として講義の内容を確実に把握してください。授業の前後の予習復習をテキストを中心に行ってください。その際に用語の把握と共に章末の問題に取り組んでください。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	通信の歴史。FF、波形操作の原理	通信の歴史を知る。FFの回路の動作を把握する	
		2週	マルチバイブレータ、通信システムの概要、電話網の構成	通信システムのブロック図を説明できる	
		3週	変調方式、単側波帯通信、パルス符号化変調の原理と特徴	変調方式、単側波帯通信、パルス符号化変調の特徴を説明できる。	
		4週	周波数分割多重の原理、多段変調法	周波数分割多重の原理を理解し、多段変調で帯域が移動出来ることを説明できる。	
		5週	時分割多重の原理と特徴	時分割多重の原理を理解する	
		6週	電話器の原理、送話器の原理、受話器の原理、電話機の回路	電話器の原理諸問題を説明できる	
		7週	電話交換機の機能、構成。電子交換機、デジタル交換機	交換機の基本的動作を理解する	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	伝送線路の特性、特性インピーダンス	代表的な伝送線路の構造を説明できる。	
		10週	伝送路上の進行波と反射波、漏話、ケーブルの種類と構造	伝送路上のケーブルの特性インピーダンスを計算できる。	
		11週	データ通信システムの構成、回線交換、パケット交換の原理	データ通信システムの構成を説明できる。パケット交換の原理を説明できる。	
		12週	データ通信の伝送方式、同期方式、伝送速度	トランジスタを用いた交流信号増幅の原理を理解し、利用できる。	
		13週	モデムの変調方式、網制御装置	モデムの変調方式を説明ができる。	
		14週	伝送制御のフェーズ、データ伝送手順、HDLC	HDLC等のデータ伝送手順を説明できる	
		15週	プロトコル、OSI、デジタル統合網	OSIネットワークの構造を修得する。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	光通信の原理、光ファイバー伝送方式	光通信の原理を理解する。	
		2週	無線通信システム、電磁波の発生、電波の種類	電磁波 (電波) の発生原理を説明することが出来る。	
		3週	電離層、電波伝搬の諸現象	電離層を用いた電波伝搬を理解する。	

4thQ	4週	アンテナの動作原理、アンテナの指向性、放射抵抗	アンテナの指向性を理解する。
	5週	アンテナの実例、共振給電線、非共振給電線	アンテナの実例を理解し、波長とアンテナ長の関係を理解する
	6週	アナログ変調、振幅変調AM、SSBとDSB	アナログ変調の振幅変調AMを理解する。単一波で変調した場合の、周波数スペクトルを計算できる。
	7週	周波数変調FM、FM信号の側波帯、占有帯域幅	FMのスペクトルの考え方を理解する。占有帯域を説明することが出来る。
	8週	中間試験	
	9週	AM、FM送信機、PLL発信器、FM送信機の構成	AMの原理、FMの原理を理解する。
	10週	プリエンファシスとディエンファシス、FM変調器	FM変調器におけるプリエンファシスとディエンファシスの効果を説明できる。
	11週	SSB送信機の構成、送信機の性能	SSB送信機のシステムを理解できる。
	12週	AM受信機の構成、スーパーヘテロダイン検波	通信の受信機の構成を理解する。スーパーヘテロダインのシステムを説明できる
	13週	AM復調器、同期検波器、周波数変換器	AMの復調器（検波）器を理解できる。周波数変換の方法を理解できる。
	14週	FM復調器、SSB受信機の構成	FM復調の原理を理解できる。
	15週	衛星通信システム、TVの誤り制御の方法	衛星通信のシステムを理解する。TV信号に用いられている符号化、信号処理方法を理解する。
	16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	計測工学		
科目基礎情報							
科目番号	0070	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	電子制御工学科	対象学年	4				
開設期	後期	週時間数	後期:1				
教科書/教材	小柳栄次: ロボットセンサ入門, オーム社						
担当教員	長嶋 豊						
到達目標							
1. 計測する物理量と計測の原理が理解できる. (A4) 2. 計測の目的と適用が理解できる. (A4) 3. 計測における誤差とその取り扱いが理解できる. (A4) 4. 力学センサの原理と用途が理解できる. (A4) 5. 運動センサの原理と用途が理解できる. (A4) 6. センサ信号の特性を理解し、信号処理の仕方を理解できる. (A4)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
	計測する物理量と計測の原理が理解できる.	計測する物理量と計測の原理が概ね理解できる.	計測する物理量と計測の原理が理解できない.				
	計測の目的と適用が理解できる.	計測の目的と適用がほとんど理解できる.	計測の目的と適用が理解できない.				
	計測における誤差とその取り扱いが理解できる.	計測における誤差とその取り扱いがほとんど理解できる.	計測における誤差とその取り扱いが理解できない.				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ロボットシステムにおけるセンサの役割について、その目的と原理を学ぶ。センサによって計測される物理量とそれを計測する原理、およびセンサ技術の適用を理解する。						
授業の進め方・方法	予備知識: 力学, 電磁気学, 電子回路, デジタル回路, 機械工学の基礎 講義室: 4S教室 授業形態: 講義と演習 学生が用意するもの: 関数電卓 参考書・補助教材: 電子計測と制御, 田所嘉昭, 共立出版; 基礎電子回路, 相田貞蔵, 田中卓史, 中川貴, 松原和宣, 培風館						
注意点	評価方法: 演習課題 (20%) および中間・定期試験 (80%) を実施, 評価し, 60点以上を合格とする。 自己学習の指針: 各センサの原理について理解を深め, 適用例を調べる。おおよそ授業時間と同時間の予習・復習を実施する。 オフィスアワー: 金, 16:00-17:00						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	講義概要、センサの基礎	ロボット, 産業機械などに利用されるセンサを説明できる。			
		2週	計測誤差と精度	計測における誤差と精度の関係を理解できる。			
		3週	センサ信号の特性	各種のセンサに共通する特性 (直線性、ヒステリシス、再現性等) を説明できる。			
		4週	センサ信号処理 (1)	センサ信号を増幅する各種OP-AMP回路を理解できる。			
		5週	センサ信号処理 (2)	センサ信号に含まれる雑音の種類と雑音除去回路を理解できる。			
		6週	位置センサ	機械式、磁気式、光学式位置センサによる計測法を説明できる。			
		7週	変位センサ	ポテンシオメータ、ロータリエンコーダ等による角度、回転方向、回転速度の計測法を説明できる。			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	力センサ	ひずみゲージ等の力覚センサの原理と計測法を説明できる。			
		10週	圧力センサ	機械式、電気式圧力センサの原理と計測法を説明できる。			
		11週	速度センサ・加速度センサ	直線運動や回転運動の速度、加速度センサの原理と計測法を説明できる。			
		12週	角度・角速度センサ・慣性センサ	タコジェネレータ、光学式エンコーダ、慣性センサの原理と計測法を説明できる。			
		13週	距離・画像複合センサ	距離・映像複合センサであるキネクトセンサの原理を説明できる。			
		14週	画像センサとOPEN-CV	CCDカメラを用いた画像センサと処理を行うOPEN-CVソフトについて理解できる。			
		15週	センサ用インターフェース	I2C、SPI、RS232C等のセンサインタフェースについて理解できる。			
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	制御工学
科目基礎情報					
科目番号	0071		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	専門基礎ライブラリー「制御工学」(実教出版)				
担当教員	坂口 彰浩				
到達目標					
1. 制御対象を伝達関数表現、ブロック線図により表現できる。(A3) 2. 時間応答・周波数応答を求めることができる。(A3) 3. 制御対象の安定性について求めることができる。(A3) 4. 古典制御理論に基づいてフィードバック制御系が設計できる。(A3) 5. 簡単な実験を通して古典制御理論の内容を確認できる。(A3)					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標1)		制御対象を伝達関数・ブロック線図により表現できる。	制御対象を伝達関数により表現できる。	制御対象の伝達関数により表現できない。	
評価項目2 (到達目標2, 3)		制御対象の特性を求めることができ、複数の指標から制御対象の特性を評価できる。	制御対象の特性を求めることができる。	制御対象の特性を求めることができない。	
評価項目3 (到達目標4, 5)		簡単な実験を通して古典制御理論の内容を確認でき、それを制御系設計に応用できる。	簡単な実験を通して古典制御理論の内容を確認できる。	簡単な実験を通して古典制御理論の内容を確認できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	古典制御理論を用いて制御系を設計する手法について学習する。また、簡単な実験を通して学んだ制御理論の内容について理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識：基本的な微分積分、及び、基本的な電気回路の内容を理解しておくこと。 講義室：4 S教室、多目的教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：ノートPC、または、タブレットPC等の情報端末				
注意点	評価方法：試験（前期中間・前期定期・後期中間・学年末）の平均点を80%、演習・課題等を20%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：毎回の授業で自習課題を課すので、自分で解けるようにすること。試験時には、例題及び自習課題を理解できていること。これらの自己学習は2時間以上が望ましい。 オフィスアワー：月曜日、金曜日の16:00-17:00 備考：各試験の成績不振者に対する追試は、その試験の平均点の30%以上の学生に限る。演習・課題の未提出者、ノートの未提出者には、追試を行わない。再試験は、前後期に実施した全範囲から出題する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	制御理論の歴史	制御理論の発展の歴史について説明できる。	
		2週	モデリング	電気回路を微分方程式で表現できる。	
		3週	ラプラス変換	数学モデルを伝達関数により表現できる。	
		4週	伝達関数	微分方程式を伝達関数で表現できる。	
		5週	ブロック線図1	ブロック線図により伝達関数を表現できる。	
		6週	ブロック線図2	ブロック線図を単純化できる。	
		7週	時間応答1	基本要素の応答について説明できる。	
		8週	演習課題の実施	これまでの学習内容の理解度を演習課題により確認する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験	これまでの学習内容の理解度を試験により確認する。	
		10週	時間応答2	一次遅れ系の応答について説明できる。	
		11週	時間応答3	二次遅れ系の応答について説明できる。	
		12週	周波数応答1	ボード線図を描くことができる。	
		13週	周波数応答2	ベクトル軌跡を描くことができる。	
		14週	制御工学実験1	簡単な実験を通して制御系の性質について理解できる。	
		15週	演習課題の実施	これまでの学習内容の理解度を演習課題により確認する。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	制御系の安定性	制御系の安定性と極の関係について調べることができる。	
		2週	ラウスの安定判別	ラウスの安定判別法により安定性を調べることができる。	
		3週	フルビッツの安定判別	フルビッツの安定判別法により安定性を調べることができる。	
		4週	ナイキストの安定判別	ナイキストの安定判別法により安定性を調べることができる。	
		5週	安定余裕	制御系の安定余裕を調べることができる。	
		6週	フィードバック系の過渡特性	フィードバック制御系の過渡特性を調べることができる。	

4thQ	7週	演習課題の実施	これまでの学習内容の理解度を演習課題により確認する。
	8週	後期中間試験	これまでの学習内容の理解度を試験により確認する。
	9週	フィードバック系の定常特性	フィードバック制御系の定常特性を調べることができる。
	10週	位相進み補償器の設計	位相進み補償器を設計できる。
	11週	位相遅れ補償器の設計	位相遅れ補償器を設計できる。
	12週	PID制御系の設計	PID制御系を設計できる。
	13週	2自由度制御系の設計	2自由度制御系を設計できる。
	14週	制御工学実験2	簡単な実験を通してPID制御系を設計できる。
	15週	演習課題の実施	これまでの学習内容の理解度を演習課題により確認する。
	16週		

評価割合

	課題	試験					合計
総合評価割合	20	80	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	20	80	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工学実験・実習
科目基礎情報					
科目番号	0072		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	電子制御工学科作成の実験書				
担当教員	嶋田 英樹,坂口 彰浩,手島 裕詞,前田 貴信,唐沢 俊一,兼田 一幸				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> Linux環境で、情報セキュリティ関連の技術を理解し、Webアプリケーションを開発できる。 マルチメディアに関するプログラミングを記述、実行できる。 電気電子に関する実験を通して、理論をより深く理解することができる。 これまで学んだ技術をもとにマイコンの各種機能を実現できる。 実験データの整理・解析方法を学び、報告書にまとめることができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
Linux環境で、情報セキュリティ関連の技術を理解し、Webアプリケーションを開発できる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
マルチメディアに関するプログラミングを記述、実行できる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
電気電子に関する実験を通して、理論をより深く理解することができる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物理の基礎、電子回路、電気回路、情報、計測、制御に関する基礎実験を通して授業内容の理解を深める。また、Linux、windowsを用いた演習を行い、情報セキュリティ、Webアプリケーション、マルチメディアに関するシステムを開発する。				
授業の進め方・方法	予備知識：基礎電気、電気工学、電気回路、論理回路、電子回路の知識が必要であり、これまでに習ったプログラミングも復習しておくこと。 講義室：制御A棟演習室、制御B棟実験室 授業形式：実習 学生が用意するもの：特になし				
注意点	評価方法：実験の準備(服装・実験書等)が20%、実験態度(積極性・協調性・適格性)が30%、報告書(提出・内容)が50%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：実験・実習前に実験書を読んで実験手順などを予習しておくこと。また、実験・実習の目的・理論・方法は、実験・実習前にレポートにまとめておくこと。 オフィスアワー： ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実験ガイダンスと準備	前期実験のテーマの予習と実験環境を理解できる。	
		2週	情報セキュリティ演習(1) 情報セキュリティに関するインシデント調査と対策	セキュリティに関するインシデントを調査し、発表できる。	
		3週	情報セキュリティ演習(2) サーバーエンジニアリング基礎	Linuxコマンドを理解しネットワークを操作できる。	
		4週	情報セキュリティ演習(3) ネットワークハッキング基礎	ハッキングに関する基礎を理解し、コマンドを実行できる。	
		5週	プログラミングとデバッグ	Windows開発環境を用いて、プログラムの記述・修正ができる。	
		6週	画像処理プログラミング(1)	2値画像処理のプログラミングを記述できる。	
		7週	画像処理プログラミング(2)	異常検出のプログラミングを記述できる。	
		8週	レポート作成	論理的なレポートを作成できる。	
	2ndQ	9週	ステッピングモータの実験	ステッピングモータの特性を調べることができる。	
		10週	オートコリメータによる平面度の測定	コートコリメータを用いて平面度を測定できる。	
		11週	マルチバイブレータの実験	マルチバイブレータ回路の特性を調べることができる。	
		12週	波形操作回路の実験	波形回路の特性を調べることができる。	
		13週	シーケンス制御(1)	シーケンス制御ができる。	
		14週	シーケンス制御(2)	シーケンス制御ができる。	
		15週	レポート作成	論理的なレポートを作成できる。	
		16週	まとめ		
後期	3rdQ	1週	実験ガイダンスと準備	後期実験テーマの予習と実験環境を理解できる。	
		2週	情報セキュリティ演習(4) データベースとSQL	SQLを用いて、データベースを作成することができる。	
		3週	情報セキュリティ演習(5) Webアプリケーション開発(1)	PHPを用いて、データベースを操作することができる。	
		4週	情報セキュリティ演習(6) Webアプリケーション開発(2)	SQLインジェクションを実行できる。	
		5週	情報セキュリティ演習(7) フォレンジック、エンコーディング	CTFを用いてセキュリティ関連の問題を解くことができる。	

4thQ	6週	グラフィックスプログラミング	3DCGのプログラミングができる。
	7週	応用プログラミング	応用システムを開発できる。
	8週	レポート作成	論理的なレポートを作成できる。
	9週	マイコン「デジタル入出力」	マイコンを用いたデジタル入出力が実現できる。
	10週	マイコン「アナログ入力」	マイコンを用いたアナログ入力を実現できる。
	11週	マイコン「モータ制御」	マイコンを用いたモータ制御が実現できる。
	12週	マイコン「例外処理」	マイコンを用いた例外処理が実現できる。
	13週	MATLAB演習「ステップ応答」	MATLABでステップ応答を調べることができる。
	14週	MATLAB演習「周波数応答」	MATLABで周波数応答を調べることができる。
	15週	レポート作成	論理的なレポートを作成できる。
	16週	まとめ	

評価割合

	準備	実験態度	報告書	合計
総合評価割合	20	30	50	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	20	30	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工場実習
科目基礎情報					
科目番号	0073		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	嶋田 英樹				
到達目標					
1. 工場実習を通して、技術者の活動内容を把握することができる。(D4, E3) 2. 工場実習を通して、現在学んでいることの意義を説明することができる。(D4, E3) 3. 企業で求められている技術を学び、必要となる知識と能力を把握できる。(D4, E3) 4. 企業での労働の経験や楽しさを他の人に説明することができる。(D4, E3) 5. 企業活動を経験することにより、自己の職業適性を考慮することができる。(D4, E3)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
工場実習を通して、技術者の活動内容を把握することができる。	十分にできる	ある程度できる	できない		
工場実習を通して、現在学んでいることの意義を説明することができる。	十分にできる	ある程度できる	できない		
企業で求められている技術を学び、必要となる知識と能力を把握できる。	十分にできる	ある程度できる	できない		
企業での労働の経験や楽しさを他の人に説明することができる。	十分にできる	ある程度できる	できない		
企業活動を経験することにより、自己の職業適性を考慮することができる。	十分にできる	ある程度できる	できない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	企業等の現場において現実の課題に取り組むことにより実務能力を高める。職業意識の育成を図る。				
授業の進め方・方法	予備知識：専門基礎科目の理解を深めておく。 講義室：企業、工場など（校外） 授業形式：実技 学生が用意するもの：各企業指定のもの				
注意点	評価方法：(1) 受け入れ先からの実習評価（60点）、(2)工場実習報告書評価（20点）、(3)工場実習発表評価（20点）、の合計で評価する。60点以上を合格とする。 自己学習の指針：事前にインターンシップ先の企業について調査しておくこと。 オフィスアワー： ※到達目標の（）内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習先の選定と申込み手続き	実習会社を選定し、応募書類を作成することができる。	
		2週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	実習会社で、挨拶などのコミュニケーションを取ることができる。	
		3週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	技術者としての責任を認識し、行動に生かすことができる	
		4週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	実習内容の意義と注意点を理解することができる。	
		5週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	実習内容と現在学んでいることの繋がりを説明できる。	
		6週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	技術者として必要とされている能力を説明できる	
		7週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	企業で必要となる知識を説明できる。	
		8週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	労働の楽しさと厳しさを説明できる。	
	2ndQ	9週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	企業活動を体験し、自分の適性を考慮することができる。	
		10週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	働くことの意義とその重要性を説明することができる。	
		11週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	企業の良さを説明することができる。	
		12週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	技術者に求められている能力を説明できる。	
		13週	実習報告資料作成（1）	実施した実習内容をまとめて報告書を作成できる。	
		14週	実習報告資料作成（2）	実施した実習内容をまとめてプレゼンテーションの資料を作成できる。	
		15週	実習報告会（発表）	他人に適切に実習内容を説明することができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週			

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
		4thQ	9週	
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			

評価割合

	企業からの評価	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	20	20	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工業技術国際研修
科目基礎情報					
科目番号	0074		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	なし				
担当教員	嶋田 英樹				
到達目標					
(1) 国際的なレベルでの情報収集技術を習得する。 (2) 海外の学校および企業の日本との相違をよく整理する。 (3) 訪問先の人々との交流を通して、異文化交流の実践を経験する。 (4) 公用語としての英語の位置づけを確認する。 (5) 国際的に活動する場合の諸手続や実践技術を習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
国際的なレベルでの情報収集技術を習得する。	十分できる。	ある程度できる。	できない。		
海外の学校および企業の日本との相違をよく整理する。	十分できる。	ある程度できる。	できない。		
訪問先の人々との交流を通して、異文化交流の実践を経験する。	十分できる。	ある程度できる。	できない。		
公用語としての英語の位置づけを確認する。	十分できる。	ある程度できる。	できない。		
国際的に活動する場合の諸手続や実践技術を習得する。	十分できる。	ある程度できる。	できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の画工及び企業との交流を通して国際的な視野と感覚を養い、国内外にとらわれることなく活躍できる国際的技術者としての素養を身につける。				
授業の進め方・方法					
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス (趣旨説明と訪問者体験談を含む) と受講者 (履修者) の確定		
		2週	渡航説明会 (履修者の保護者に対して)		
		3週	旅行会社による海外渡航に関する講義		
		4週	訪問先 (国・学校・記号) の事前踏査 (可能であれば語学研修) (1)		
		5週	訪問先 (国・学校・記号) の事前踏査 (可能であれば語学研修) (2)		
		6週	訪問先 (国・学校・記号) の事前踏査 (可能であれば語学研修) (3)		
		7週	資料 (渡航しおり) の作成		
		8週	研修の実施 (5日間: 30時間)		
	2ndQ	9週	報告会の実施		
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			

		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	レポート&報告書	発表・資料	態度		ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	20	60	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	60	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地域活動ゼミ
科目基礎情報					
科目番号	0075		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	特になし				
担当教員	手島 裕詞				
到達目標					
1.佐世保に興味・関心を持つこと。(E3) 2.将来、佐世保への貢献心を育ませる。(E3) 3.次にあげる人間力向上の研鑽を深める。(C2,D3,E2,E3) <ul style="list-style-type: none"> ・企画を円滑に実施する計画力を向上させる。 ・自己の学習経験に基づいて教授する技術を向上させる。 ・コミュニケーション力を向上させる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	佐世保に興味・関心を十分に持つことができた。	佐世保に興味・関心を持つことができた。	佐世保に興味・関心を持つことができなかった。		
評価項目2	将来、佐世保への貢献心を育ませることが十分にできた。	将来、佐世保への貢献心を育ませることができた。	将来、佐世保への貢献心を育ませることができなかった。		
評価項目3	人間力向上の研鑽を十分に深めることができた。	人間力向上の研鑽を深めることができた。	人間力向上の研鑽を深めることができなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	佐世保をよく知ることで佐世保の魅力を再確認する。また、佐世保の特徴を生かし、離島合宿での自然体験学習を企画・運営し、人間力の向上や企画を円滑に実施する計画力の向上を図る。				
授業の進め方・方法	予備知識：これまで学んだ基礎専門科目の理解を深めておく。 講義室：教室・その他 授業形式：集中講義 学生が用意するもの：特になし				
注意点	評価方法：レポート40%、実地研修による評価60%により総合的に評価する。 自己学習の指針： オフィスアワー：水曜日、木曜日の16:00～17:00 ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	討議1	「佐世保の魅力」について自分の考えが言える。	
		2週	討議2	「リーダーシップ」について自分の考えが言える。	
		3週	科学学習教材の検討1	小学校・中高学年対象の科学学習教材を考え、説明できる。	
		4週	科学学習教材の検討2	小学校・中高学年対象の科学学習教材を考え、説明できる。	
		5週	科学学習教材の検討3	小学校・中高学年対象の科学学習教材を製作することができる。	
		6週	科学学習教材の検討4	小学校・中高学年対象の科学学習教材を製作することができる。	
		7週	実地研修1	参加小学生の安全を確保し、見守ることができる。	
		8週	実地研修2	参加小学生と寝食を共にし、共同生活ができる。	
	2ndQ	9週	実地研修3	他人の気持ちを理解し、責任を持った行動ができる。	
		10週	実地研修4	自分の意見をはっきり言うことができ、他人を注意できる。	
		11週	実地研修5	自らすべきことを見つけて、率先して動くことができる。	
		12週	実地研修6	自分勝手な行動をせず、他人に配慮した行動ができる。	
		13週	実地研修7	グループをまとめることができる。	
		14週	実地研修8	時間管理・健康管理などをができる。	
		15週	討論	反省点を含め、改善点とその具体案を人に伝えることができる。	
		16週			
評価割合					
	集団討論	相互評価	態度	その他	合計
総合評価割合	20	20	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	10	10	30	0	50
分野横断的能力	10	10	30	0	50

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語と文学
科目基礎情報					
科目番号	0075	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	1		
教科書/教材	配布レジュメ/国語辞典				
担当教員	大坪 舞				
到達目標					
1.日本語の歴史を学び、日本語の特性を理解している。(C1) 2.手紙文の形式を習得し、自ら書くことができる。(C1) 3.レポートの目的を理解し、適切な形式を習得する。(C1) 4.ピア活動を通して、読み手を意識したレポートを書くことができる。(C1) 5.文学と社会について学び、現代の問題に還元することができる。(C1)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日本語の特性を理解し、場合に応じて正確に使い分けができる。	日本語の特性を理解し、場合に応じた使い分けを意識している。	日本語の特性理解が不十分で、場合に応じて使い分けができない。		
評価項目2	ピア活動を通じて、他者を説得できる文章を書くことができる。	ピア活動を通じて、論理破綻の少ない文章を書くことができる。	ピア活動をせず、他者に伝わる文章を書くことができない。		
評価項目3	文学が社会に及ぼしてきた影響を理解し、これを現代社会の諸問題に援用することができる。	文学が社会に及ぼしてきた影響を説明することができる。	文学が社会に及ぼしてきた影響を説明することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語の特性を学び、文章表現能力を磨く。また、文学が社会において果たしてきた役割を知ることで、現代社会における文学・メディアのバイアスを考える。				
授業の進め方・方法	授業は教員からの問題提起と、学生同士でのピア活動を重視して進める。それぞれが受け身ではなく、主体的に討議することを求める。またBlackboard上での情報提供も行う。				
注意点	試験の平均点の3割に満たない者については、成績不振者のための追試験を実施しない。各授業項目および授業時間の配分は、学生の理解・習得の状況を確かめながら、変更することがあり得る。また、授業内で提出する文章は、全体に公開することを前提に記すこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 日本語の歴史①	授業の目的を知る。 日本語の変遷を知り、言語特性を理解できる。	
		2週	日本語の歴史②	日本語の変遷を知り、言語特性を理解できる。	
		3週	手紙文を書く①	手紙文の文体を知り、形式を理解できる。	
		4週	手紙文を書く②	目的に応じた手紙文を書くことができる。	
		5週	手紙文を書く③	目的に応じた手紙文を書くことができる。	
		6週	レポートの書き方①	レポートを書くための文体を理解できる。	
		7週	レポートの書き方②	パラグラフライティングを習得する。	
		8週	レポートの書き方③	情報の引用方法を学び、適切に出典を記すことができる。	
	2ndQ	9週	レポートの書き方④	レポートのテーマを考え、構想を練ることができる。	
		10週	レポートの書き方⑤	情報を整理し、信頼性を検討できる。	
		11週	レポートの書き方⑥	レポートの構成を練り、討議できる。	
		12週	レポートの書き方⑦	学んできたことをもとにレポートを執筆できる。	
		13週	文学と社会①	文学作品の社会における位置づけを理解できる。	
		14週	文学と社会②	文学作品の社会における位置づけを理解できる。	
		15週	文学と社会③	文学作品の社会における位置づけを理解できる。	
		16週	試験返却		
評価割合					
		試験	レポート・提出物	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	技術者倫理
科目基礎情報					
科目番号	0076		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	藤本温編著『技術者倫理の世界』 森北出版				
担当教員	前田 隆二				
到達目標					
1. 社会が求める技術者の倫理を説明できる。(B2) 2. 社会に対する技術者の義務を説明できる。(B2) 3. 技術者と社会と組織の関係性を説明できる。(B2) 4. ある事例について様々な視点で捉え、複数の解決策を模索し、グループワークやディスカッションを行うことができる。(B2)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	社会が求める技術者の倫理を説明できる。		社会が求める技術者の倫理をほとんど説明できる。		社会が求める技術者の倫理を説明できない。
評価項目2	社会が求める技術者の義務を説明できる。		社会が求める技術者の義務をほとんど説明できる。		社会が求める技術者の義務を説明できない。
評価項目3	技術者と社会と組織の相互関係を説明できる。		技術者と社会と組織の相互関係をほとんど説明できる。		技術者と社会と組織の相互関係を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技術が発展していく中で、技術者に対して要求される倫理を学び、モノを作り出す上で必要な倫理的知識を修得する。また、技術者がモラルに反しない行動をするために社会との関係性を考察する。グループワークやディスカッション等を通じて、社会に出た後に実践・応用できる倫理観を養う。				
授業の進め方・方法	予備知識：技術が発展していくにつれて、技術者に対する社会的要求が高度になってきていることを自覚し、講義へ望むことが期待される。 講義室：五年各教室または情報セキュリティ演習室 授業形式：講義、事例紹介、グループ討議、発表 学生が用意するもの：教科書、ノート、ファイル(配布資料用)				
注意点	評価方法：定期試験(合計2回)、出席状況、授業態度、提出物等を総合的に判断する。評価基準は、定期試験の成績が50%、その他が50%とし、総合成績60点以上を単位取得とする。 自己学習の指針：討議の前に授業内容に関連した課題を配布するので、それに取り組んでください。 オフィスアワー：木曜日 16:00～17:00 金曜日 16:00～17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション,技術者倫理とは	学習目標や方法・評価などや技術者倫理とは何かを理解できる。	
		2週	チャレンジャー号事故	チャレンジャー号事故の概略を理解できる。	
		3週	グループワーク (チャレンジャー号事故) ～組織の視点から～	組織の観点から様々な意見を聞き、考えることができる。	
		4週	グループワーク (チャレンジャー号事故) ～個人の視点から～	個人の観点から様々な意見を聞き、考えることができる。	
		5週	倫理と法	倫理と法の関係性を理解できる。	
		6週	六本木ヒルズ回転ドアの事故	六本木ヒルズ回転ドアの事故の概略を理解できる。	
		7週	グループワーク (六本木ヒルズ回転ドアの事故)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。	
		8週	コンプライアンスと社会的要請、予防倫理	用語を把握し、技術者との関わり合いを理解できる。	
	2ndQ	9週	倫理規程1	プロに付随する倫理を理解できる。	
		10週	倫理規程2	倫理規程の内容、意味、目的を理解できる。	
		11週	インフォームド・コンセント	JOC臨界事故を把握し、インフォームド・コンセントの重要性を理解できる。	
		12週	グループワーク (JCO臨界事故)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。	
		13週	安全性とリスク1	用語を把握し、危険と安心の感覚を理解し、倫理問題の所在を理解できる。	
		14週	安全性とリスク2 グループワーク (山陽新幹線北九州トンネルのコンクリート崩落事故)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。	
		15週	安全性とリスク3	山陽新幹線北九州トンネルのコンクリート崩落事故を通して、リスク管理の重要性を理解できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	グループワーク (フォード・ピント事件)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。	
		2週	製造物責任法	複数の事例を通して、製造物責任法について理解できる。	
		3週	相反問題	事例を挙げて、ジレンマを理解できる。	
		4週	グループワーク (福島第一原子力発電所海水注入問題)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。	
		5週	倫理的判断の基準	ある物事に対する倫理的判断の基準について理解できる。	

4thQ	6週	組織の問題 1	事例を挙げて、組織と技術者の関係性を理解できる。
	7週	組織の問題2 グループワーク (三菱リコール隠し)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。
	8週	組織の問題3	三菱リコール隠しの問題点に対して様々な視点から理解できる。
	9週	グループワーク (東京電カトラブル隠し)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。
	10週	内部告発1	内部告発の内容を理解できる。
	11週	内部告発2 グループワーク (ギルベインゴールド)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。
	12週	内部告発3	事例を挙げて、内部告発についてさらに深く理解できる。
	13週	グループワーク	ある事例について、ディスカッションを行うことができる。
	14週	優れた技術者をめざして1 グループワーク (シティコープの事例)	グループディスカッションを通して様々な観点から考え、グループワークができる。
	15週	優れた技術者をめざして2	技術者倫理を習得し、実践とのつながりについて理解できる。
16週			

評価割合

	試験	発表等	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0078		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	Explore (三修社)				
担当教員	大里 浩文				
到達目標					
① 必要な情報を英文から読み取ることができる。(C3) ② 学習した文法知識を演習解決に利用できる。(C3) ③ 自らの意図が伝わるだけの英文を作成することができる。(C3) ④ 短い英文を聞き、その概要を理解することができる。(C3) ⑤ 自らの英語力を向上させる目的で自主的に自学自習に取り組むことができる。(C3)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標①)	必要な情報を英文から十分に読み取ることができる。	必要な情報を英文からある程度読み取ることができる。	必要な情報を英文からほとんど読み取ることができない。		
評価項目2 (到達目標②)	学習した文法知識を演習解決に十分利用できる。	学習した文法知識を演習解決にある程度利用できる。	学習した文法知識を演習解決にほとんど利用できない。		
評価項目3 (到達目標③)	自らの意図が伝わるだけの英文を十分に作成することができる。	自らの意図が伝わるだけの英文をある程度作成することができる。	自らの意図が伝わるだけの英文をほとんど作成することができない。		
評価項目4 (到達目標④)	短い英文を聞き、その概要を十分理解できる。	短い英文を聞き、その概要をある程度理解できる。	短い英文を聞いても、その概要をほとんど理解できない。		
評価項目5 (到達目標⑤)	自らの英語力向上を目指し、自主的に自学自習に取り組むことができる。	自らの英語力向上を目指し、ある程度自学自習に取り組むことができる。	自らの英語力向上を目指すことなく、ほとんど自学自習に取り組むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	科学技術的内容や一般教養的内容を含むリーディング教材を読み、課題解決に必要な情報を英文から見つける能力を育成していく。 また、TOEICの練習問題に取り組むことで、各学習者の実践的英語能力の現状を確認しながら、そのレベル向上を目指す。				
授業の進め方・方法	予備知識：高専4年間で習得した文法事項・語彙 講義室：各HR教室 授業形式：講義・演習 学生が用意するもの：英和辞書（電子辞書を含む）、配布プリント				
注意点	評価方法：試験（90点）および課題の取り組み状況など（10点）の計100点で評価する。2回の定期試験の平均が60点以上で合格とする。 自己学習の指針：予習として新出単語の語義調べや全体の概要把握を行うこと。復習として、単語を覚えることや、構文の理解を深めることなどを心がけ、英語力向上に努めること。また、TOEICにも対応できるよう継続して自学自習に取り組むこと。 オフィスアワー：月・水 16:10～17:10				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス Unit 5 Chasing a Dream	授業の概要を理解できる。 ことばの壁を乗り越える技術の開発に関して理解できる。	
		2週	Unit 5 Chasing a Dream	ことばの壁を乗り越える技術の開発に関して理解できる。	
		3週	Unit 5 Chasing a Dream	ことばの壁を乗り越える技術の開発に関して理解できる。	
		4週	Unit 6 Made "with" Japan	最新鋭旅客機などに使われている日本の最先端技術について理解できる。	
		5週	Unit 6 Made "with" Japan	最新鋭旅客機などに使われている日本の最先端技術について理解できる。	
		6週	Unit 6 Made "with" Japan	最新鋭旅客機などに使われている日本の最先端技術について理解できる。	
		7週	Unit 5, Unit 6の復習		
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験返却 Unit 7 Eco Energy	原子力に代わるエネルギー源の可能性について理解できる。	
		10週	Unit 7 Eco Energy	原子力に代わるエネルギー源の可能性について理解できる。	
		11週	Unit 7 Eco Energy	原子力に代わるエネルギー源の可能性について理解できる。	
		12週	Unit 8 Specialist or Politician?	科学者が「政治家」になる時に関して理解できる。	
		13週	Unit 8 Specialist or Politician?	科学者が「政治家」になる時に関して理解できる。	
		14週	Unit 8 Specialist or Politician?	科学者が「政治家」になる時に関して理解できる。	
		15週	Unit 7, Unit 8の復習		
		16週			
評価割合					

	試験	小テストおよび課題に対する取り 組み状況	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	90	10	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	コミュニケーション
科目基礎情報					
科目番号	0079		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	1	
教科書/教材	Present Yourself 1 (Second edition), Cambridge University Press				
担当教員	ジェイ ストッカー				
到達目標					
1. Students can make an appropriate plan for their presentations. (C-3) 2. Students can gather appropriate data for their presentation. (C-3) 3. Students can come up with appropriate visual aids for their presentations. (C-3) 4. Students can make their points clear about their presentation. (C-3) 5. Students can appropriately answer questions about their presentation. (C-3)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1)	プレゼンテーションを計画するに際して、その計画を適切に立てることができる。	プレゼンテーションを計画するにおいて、その構成要素を正しく理解することができる。	プレゼンテーションに関して、考慮すべき事項を理解することができない。		
評価項目2 (到達目標 2, 3)	プレゼンテーションに関して、必要なデータ、資料を用意・提示することができる。	プレゼンテーションに関して、データ・資料の役割について正しく理解することができる。	プレゼンテーションに関して、データ・資料の役割を理解することができない。		
評価項目3 (到達目標 4, 5)	プレゼンテーションに関して、自分の言いたいポイントを正しく伝えることができる。	プレゼンテーションに関して、効率的なポイントの伝える方法を正しく理解することができる。	プレゼンテーションにおいて、自分の伝えたいことを適切に伝える方法を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	This communication class will help students to improve English through a variety of conversational tasks. Grammatical structure will be given with its meaning by linking them with appropriate social language and context.				
授業の進め方・方法	予備知識： Students are expected to know how to start daily conversation and to carry out easy verbal interaction without much trouble. 講義室： L L 教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの」テキスト・配布プリント				
注意点	評価方法： Each presentation 20% x 4 times = 80%, homework and in-class activities = 20% 自己学習の指針： Students are advised, on their own, to prepare for each lesson beforehand using the textbook and review the lesson after class. Students are given assignments based on what they do in class, and they need to work on those assignments for the next class. Students are expected to study on their own as many hours as classes. オフィスアワー：授業の前後、または個別に指定された時間（英語科森下へ連絡） *授業計画の中間試験実施週は、予定より早まる場合があります。その際は、授業の中で連絡をします。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Course Introduction	Students will give small group presentations introducing themselves.	
		2週	Unit 1: A Good Friend	Students will learn about the parts of a good introduction and conclusion and how to make effective note cards.	
		3週	Unit 1:	Students will plan and give a presentation about a good friend.	
		4週	Unit 2: A Favorite Place	Students will learn how to use eye contact and body language for descriptions.	
		5週	The 1st test	Students will give a presentation in front of the class.	
		6週	Unit 2:	Students will plan and give a presentation about a favorite place.	
		7週	Unit 3: A Prized Possession	Students will plan and give a presentation about a prized possession.	
		8週	The 2nd test	Students will give a presentation in front of the class.	
	4thQ	9週	Unit 4: A Memorable Experience	Students will learn how to use voice inflection.	
		10週	Unit 4:	Students will plan and give a presentation about a memorable experience.	
		11週	Unit 5: I'll Show You How	Students will plan and give a demonstration how to do or make something.	
		12週	The 3rd test	Students will give a presentation in front of the class.	
		13週	Unit 6: Screen Magic	Students will plan and give a review about a movie or TV show they have seen.	
		14週	Preview UNits 1-6	Students will review the presentation skills they have acquired in this course.	
		15週	The final test	Students will give a presentation in front of the class.	
		16週			
評価割合					
発表・試験			課題・インクラス活動		合計

総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地域活動ゼミ
科目基礎情報					
科目番号	0060	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	特になし				
担当教員	手島 裕詞				
到達目標					
1.佐世保に興味・関心を持つこと。(E3) 2.将来、佐世保への貢献心を育ませる。(E3) 3.次にあげる人間力向上の研鑽を深める。(C2,D3,E2,E3) <ul style="list-style-type: none"> ・企画を円滑に実施する計画力を向上させる。 ・自己の学習経験に基づいて教授する技術を向上させる。 ・コミュニケーション力を向上させる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	佐世保に興味・関心を十分に持つことができた。	佐世保に興味・関心を持つことができた。	佐世保に興味・関心を持つことができなかった。		
評価項目2	将来、佐世保への貢献心を育ませることが十分にできた。	将来、佐世保への貢献心を育ませることができた。	将来、佐世保への貢献心を育ませることができなかった。		
評価項目3	人間力向上の研鑽を十分に深めることができた。	人間力向上の研鑽を深めることができた。	人間力向上の研鑽を深めることができなかった。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	佐世保をよく知ることで佐世保の魅力を再確認する。また、佐世保の特徴を生かし、離島合宿での自然体験学習を企画・運営し、人間力の向上や企画を円滑に実施する計画力の向上を図る。				
授業の進め方・方法	予備知識：これまで学んだ基礎専門科目の理解を深めておく。 講義室：教室・その他 授業形式：集中講義 学生が用意するもの：特になし				
注意点	評価方法：レポート40%、実地研修による評価60%により総合的に評価する。 自己学習の指針： オフィスアワー：水曜日、木曜日の16:00～17:00 ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	討議1	「佐世保の魅力」について自分の考えが言える。	
		2週	討議2	「リーダーシップ」について自分の考えが言える。	
		3週	科学学習教材の検討1	小学校・中高学年対象の科学学習教材を考え、説明できる。	
		4週	科学学習教材の検討2	小学校・中高学年対象の科学学習教材を考え、説明できる。	
		5週	科学学習教材の検討3	小学校・中高学年対象の科学学習教材を製作することができる。	
		6週	科学学習教材の検討4	小学校・中高学年対象の科学学習教材を製作することができる。	
		7週	実地研修1	参加小学生の安全を確保し、見守ることができる。	
		8週	実地研修2	参加小学生と寝食を共にし、共同生活ができる。	
	2ndQ	9週	実地研修3	他人の気持ちを理解し、責任を持った行動ができる。	
		10週	実地研修4	自分の意見をはっきり言うことができ、他人を注意できる。	
		11週	実地研修5	自らすべきことを見つけて、率先して動くことができる。	
		12週	実地研修6	自分勝手な行動をせず、他人に配慮した行動ができる。	
		13週	実地研修7	グループをまとめることができる。	
		14週	実地研修8	時間管理・健康管理などをができる。	
		15週	討論	反省点を含め、改善点とその具体案を人に伝えることができる。	
		16週			
評価割合					
	集団討論	相互評価	態度	その他	合計
総合評価割合	20	20	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	10	10	30	0	50
分野横断的能力	10	10	30	0	50

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	一般物理
科目基礎情報					
科目番号	0061		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	物理学基礎 (原康夫 学術図書出版)				
担当教員	大隅 秀晃				
到達目標					
1. 振動・波動の現象を正しく理解し、物理的意味を説明できる。(A1) 2. 多体系の運動 (剛体の回転運動を含む) を正しく理解できる。(A1) 3. 熱力学の基本法則を正しく理解し、物理的意味を説明できる。(A1) 4. 現代物理学 (量子論や相対性理論) の基礎を理解し、その物理的意味を説明できる。(A1) 5. ミクロの世界 (原子核、素粒子など) についての基本的な事を理解しその意味を説明できる。(A1)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 達成目標 1	振動・波動の現象を正しく理解し、その物理的意味を理解できる。	振動・波動の現象を概ね正しく理解し、その物理的意味を理解することがある程度できる。	振動・波動の現象を理解することができない。またその物理的意味を理解することができない。		
評価項目2 達成目標 2	多体系の運動 (剛体の回転運動を含む) を正しく理解できる。	多体系の運動 (剛体の回転運動を含む) をある程度正しく理解できる。	多体系の運動 (剛体の回転運動を含む) を理解できない。		
評価項目3 達成目標 3	熱力学の基本法則を正しく理解し、物理的意味を十分に説明できる。	熱力学の基本法則を概ね理解し、物理的意味を概ね説明できる。	熱力学の基本法則を正しく理解できず、物理的意味を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	振動・波動では、基本的な概念と運動方程式、波動方程式の導出、光では、屈折、干渉の物理的意味、熱では、熱力学の第1法則、第2法則、微視的なとらえ方を授業する。後半は現代物理学の初歩 (相対性理論、量子論、シュレディンガー方程式、放射線) に触れる。				
授業の進め方・方法	予備知識：2、3年次の「物理」における「波動」「熱と気体分子運動論」「原子」に関する知識の整理・復習 および、4年次の一般物理における物理的な考え方、解への到達方法の整理・復習 講義室：教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：ノート、必要に応じて電卓				
注意点	評価方法・評価基準：中間・定期試験により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：予習・復習・授業時に提示する問題を独力で取り組むこと。試験前には、ノートの内容や演習問題を十分に理解すること。これらの自己学習時間は、半期で15時間以上を確保することが望ましい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	質点の運動から、2体系、多体系および剛体の運動へ	多体系内部の相対運動、剛体の回転運動に潜むエネルギーや角運動量の存在が理解できる	
		2週	剛体の回転運動と慣性モーメント	剛体の回転運動に伴うエネルギーや角運動量と慣性モーメントの関係が理解できる	
		3週	様々な形状の剛体についての慣性モーメント	様々な形状の剛体に関する慣性モーメントに関する計算ができる	
		4週	物理学におけるさまざまな振動について	単振動に関する運動方程式と類似の方程式に支配されている物理現象が多く存在することを理解する	
		5週	抵抗や外力が働く場合の振動について	減衰運動や強制振動について理解する	
		6週	二つ以上の振動が結合する場合について	連成振動などを理解し、次のステップの弦の振動などの解析にもつながることを理解する	
		7週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことが出来る	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	弦の振動について	波動に関する方程式の理解の第一歩として弦の振動を理解することができる	
		10週	固体を伝わる縦振動について	波動に関する方程式の第二例として固体を伝わる縦振動について理解することができる	
		11週	波動に関する方程式とその解のふるまい	波動に関する方程式およびその解のふるまいについて理解することができる	
		12週	熱と温度	温度の概念を理解できる	
		13週	熱と内部エネルギー (熱力学の第1法則)	熱と内部エネルギーの関係について理解できる	
		14週	熱容量と比熱	定積比熱と定圧比熱を理解できる	
		15週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことが出来る	
		16週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	熱機関と仕事 (熱力学の第二法則)	熱と仕事の関係や熱力学第二法則について理解することができる	
		2週	理想気体の状態方程式	理想気体の内部エネルギーについて理解ができる	
		3週	エントロピーの物理的意味	エントロピーの物理的意味を理解する	
		4週	熱力学関数について	熱力学の拡張と応用に有用な様々な熱力学関数を理解する	
		5週	気体分子運動論について	気体分子運動論と熱力学の関係を理解する	

4thQ	6週	ボルツマン定数を理解する	ボルツマン定数の物理的な意味が理解できる
	7週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことができる
	8週	中間試験	
	9週	ガリレイ変換からローレンツ変換へ	特殊相対性理論の基礎となるローレンツ変換が理解できる
	10週	光と電子について	光の粒子性や電子の波動性などについて理解を深める
	11週	量子論の世界（物質と電子）	量子論の世界について理解を深める
	12週	物質と電子	原子構造と周期律について理解を深める
	13週	原子核と放射線	原子核や原子力エネルギー、放射線についての理解を深める
	14週	素粒子と宇宙	現代科学の最先端の素粒子や宇宙の話題に興味をもつことができる
15週	演習	これまで学習したことを、問題に応用して解くことができる	
16週	後期末試験		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工学基礎概論
科目基礎情報					
科目番号	0062		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	なし				
担当教員	松永 陽一郎				
到達目標					
<p>1. 日本の省エネの歩み、エネルギー需給状況及びエネルギーフローについて理解し、説明できる。</p> <p>2. エネルギーの本質と形態について理解し、説明でき、エネルギー変換の計算ができる。</p> <p>3. 省エネ法、温対法、再生可能エネルギーF I T制度、省エネの手法について理解し、説明でき、原油換算のエネルギー使用量、エネルギー消費原単位、CO₂排出量の計算ができる。</p> <p>4. 設備別の省エネの着目ポイントを理解し、説明でき、省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。</p> <p>5. 省エネを推進する諸制度及び企業での省エネ事例を理解し、説明できる。</p>					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (1)	(到達目標)	日本の省エネの歩み、エネルギー需給状況及びエネルギーフローについて詳しく説明できる。エネルギー白書のエネルギーバランスフローを説明できる。	日本の省エネの歩み、エネルギー需給状況及びエネルギーフローについてほぼ説明できる。	日本の省エネの歩み、エネルギー需給状況及びエネルギーフローについて説明ができない。	
評価項目2 (2)	(到達目標)	エネルギーの本質と形態について詳しく説明できる。エネルギー変換の演習問題を完全に正答できる。	エネルギーの本質と形態についてほぼ説明できる。エネルギー変換の演習問題をほぼ計算できる。	エネルギーの本質と形態について説明ができない。エネルギー変換の演習問題の計算ができない。	
評価項目3 (3)	(到達目標)	省エネ法、温対法、再生可能エネルギーF I T制度、省エネの手法について詳しく説明できる。原油換算のエネルギー使用量、エネルギー消費原単位、CO ₂ 排出量の演習問題を完全に正答できる。	省エネ法、温対法、再生可能エネルギーF I T制度、省エネの手法についてほぼ説明できる。原油換算のエネルギー使用量、エネルギー消費原単位、CO ₂ 排出量の演習問題をほぼ計算できる。	省エネ法、温対法、再生可能エネルギーF I T制度、省エネの手法について説明ができない。	
評価項目4 (4)	(到達目標)	設備別の省エネの着目ポイントを詳しく説明できる。省エネ量、削減コスト、投資回収年等の演習問題を完全に正答できる。	設備別の省エネの着目ポイントをほぼ説明できる。省エネ量、削減コスト、投資回収年等の演習問題をほぼ計算できる。	設備別の省エネの着目ポイントを説明ができない。省エネ量、削減コスト、投資回収年等の演習問題の計算ができない。	
評価項目5 (5)	(到達目標)	省エネを推進する諸制度及び企業での省エネ事例を詳しく説明できる。	省エネを推進する諸制度及び企業での省エネ事例をほぼ説明できる。	省エネを推進する諸制度及び企業での省エネ事例を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本の省エネの歩み、エネルギー需給状況、エネルギーフロー、省エネ法、温対法、再生可能エネルギーF I T制度等、エネルギー問題全般を包括的に把握・理解させるとともに、設備別の省エネの着目ポイントと省エネ量、削減コスト、投資回収年等の計算手法を学ばせることを通して、エネルギーの有効利用(省エネルギー)に関して技術者として必要な基礎的知識と能力を習得させる。				
授業の進め方・方法	<p>予備知識：エネルギーの本質と形態及び省エネルギーの手法を理解するには、電気、熱、流体等の基礎的な知識が必要なものである。これまでで学んできた物理、化学、電気等の基礎的事項を理解していることが望ましい。</p> <p>講義室：5 S 教室</p> <p>授業形式：講義と演習</p> <p>学生が用意するもの：ノート、電卓</p>				
注意点	<p>評価方法：中間試験と定期試験(合計4回)で評価し、平均60点以上を合格とする。</p> <p>自己学習の指針：毎回の講義内容と演習問題を復習して理解すること。</p> <p>オフィスアワー：授業時間以外で質問事項がある場合は、火曜日と木曜日の14:00~18:00にキャリア教育支援室</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本の省エネの歩み、エネルギー需給状況、エネルギーフロー	日本の省エネの歩み、エネルギー需給状況及びエネルギーフローを理解し説明できる。	
		2週	エネルギーの本質と形態	エネルギーの本質と形態を理解し説明できる。エネルギー変換の計算ができる。	
		3週	省エネ法とエネルギー使用量、エネルギー消費原単位	省エネ法を理解し説明できる。原油換算のエネルギー使用量、エネルギー消費原単位の計算ができる。	
		4週	温対法とCO ₂ 排出量	温対法を理解し説明できる。CO ₂ 排出量の計算ができる。	
		5週	新エネルギー、再生可能エネルギーとF I T制度	再生可能エネルギーF I T制度を理解し説明できる。	
		6週	省エネルギーの手法	省エネの手法を理解し説明できる。	
		7週	演習問題(復習)	1~6週の授業内容を演習問題で復習する。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	中間試験の解説、ヒートポンプによる省エネ(1/2)	ヒートポンプによる省エネの着目ポイントを理解し説明できる。	
		10週	ヒートポンプによる省エネ(2/2)	ヒートポンプによる省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。	
		11週	空調設備の省エネ(1/2)	空調設備の省エネの着目ポイントを理解し説明できる。	

後期		12週	空調設備の省エネ（2/2）	空調設備の省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。
		13週	インバータによる省エネ（1/2）	インバータによる省エネの着目ポイントを理解し説明できる。
		14週	インバータによる省エネ（2/2）	インバータによる省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。
		15週	演習問題（復習）	9～14週の授業内容を演習問題で復習する。
		16週	定期試験	
	3rdQ	1週	定期試験の解説、照明設備の省エネ（1/2）	照明設備の省エネの着目ポイントを理解し説明できる。
		2週	照明設備の省エネ（2/2）	照明設備の省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。
		3週	燃焼設備の省エネ（1/2）	燃焼設備の省エネの着目ポイントを理解し説明できる。
		4週	燃焼設備の省エネ（2/2）	燃焼設備の省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。
		5週	受変電設備の省エネ（1/2）	受変電設備の省エネの着目ポイントを理解し説明できる。
		6週	受変電設備の省エネ（2/2）	受変電設備の省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。
		7週	演習問題（復習）	1～6週の授業内容を演習問題で復習する。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	中間試験の解説、 空気圧縮設備の省エネ（1/2）	空気圧縮機設備の省エネの着目ポイントを理解し説明できる。
		10週	空気圧縮設備の省エネ（2/2）	空気圧縮機設備の省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。
		11週	給水・給湯設備の省エネ	給水給湯設備の省エネの着目ポイントを理解し説明できる。省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。
12週		コージェネレーションによる省エネ	コージェネによる省エネの着目ポイントを理解し説明できる。省エネ量、削減コスト、投資回収年等を計算できる。	
13週		省エネを推進する諸制度	省エネを推進する諸制度を理解し説明できる。	
14週		企業での省エネ事例	企業での省エネ事例を理解し説明できる。	
15週		演習問題（復習）	9～14週の授業内容を演習問題で復習する。	
16週		定期試験		
評価割合				
			試験	合計
総合評価割合			100	100
専門的能力			100	100

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数値プログラミング
科目基礎情報					
科目番号	0063		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	C言語による数値計算入門 皆本晃弥 サイエンス社				
担当教員	松谷 茂樹				
到達目標					
1. 直接法、反復法による連立方程式の解を求める計算ができる (A2) 2. 関数の零点の数値的決定や、数値積分計算ができる (A2) 3. 最小二乗法を用いた直線近似計算ができる (A2) 4. 常微分方程式の解を求める計算ができる (A2) 5. 代数的公開鍵暗号の基本となる計算ができる (A2)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	直接法、反復法による連立方程式の解を求める計算が複数種類でき、最良のものを選択できる	直接法、反復法による連立方程式の解を求める計算ができる	直接法、反復法による連立方程式の解を求める計算ができない		
評価項目2	関数の零点の数値的決定や、数値積分計算が、複数種類でき、最良のものを選択できる	関数の零点の数値的決定や、数値積分計算ができる	関数の零点の数値的決定や、数値積分計算ができない		
評価項目3	最小二乗法を用いた近似曲線が計算できる	最小二乗法を用いた直線近似計算ができる	最小二乗法を用いた直線近似計算ができない		
評価項目4	常微分方程式の解を求める計算が複数でき、最良のものが選択できる	常微分方程式の解を求める計算ができる	常微分方程式の解を求める計算ができない		
評価項目5	代数的公開鍵暗号のアルゴリズムを説明できる	代数的公開鍵暗号の基本となる計算ができる	代数的公開鍵暗号の基本となる計算ができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	工学分野で重要となる数値計算法について学習し、C言語を利用し、実際のプログラムを作成、実行することで数値計算の方法を身につける				
授業の進め方・方法	予備知識： Windowsパソコンの操作法、C言語の基本操作、これまでの数学で学んだ内容の理解 講義室： ICT1 授業形式： 講義と演習 学生が用意するもの： ファイルバイндナー、USBメモリ				
注意点	評価方法： 授業中に課す演習課題 (50%) ・期末試験 (50%) により評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針： 毎回の授業で課題を課すので、自分で解けるようにすること 試験時には、例題及び課題を理解できていること オフィスアワー： 月曜日 14:30~17:00 金曜日 14:30~17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス、プログラミング復習	数値解析でのプログラミングを復習する	
		2週	数値計算の基礎、超越関数	Visual C++により行列、ベクトル表示	
		3週	連立一次方程式の直接解法 (1)	直接解法のアルゴリズムを理解している	
		4週	連立一次方程式の直接解法 (2)	直接解法のアルゴリズムのコーディングができる	
		5週	連立一次方程式の反復解法 (1)	反復解法のアルゴリズムを理解している	
		6週	連立一次方程式の反復解法 (2)	反復解法のアルゴリズムのコーディングができる	
		7週	非線形方程式の解法 (1)	二分法のアルゴリズムとコーディングができる	
		8週	非線形方程式の解法 (2)	ニュートン法のアルゴリズムのコーディングができる	
	2ndQ	9週	補間法 (1)	最小二乗法法の導出方法を理解している	
		10週	補間法 (2)	ラグランジュ補間、最小二乗法のコーディングができる	
		11週	数値積分 (1)	数値積分の解法を一つ以上理解している	
		12週	常微分方程式 (1)	オイラー法を理解している	
		13週	常微分方程式 (2)	ニュートン方程式のオイラー法を理解している	
		14週	代数的暗号の基礎(1)	代数的暗号の基礎として、剰余類の基本計算ができる	
		15週	代数的暗号の基礎(2)	公開鍵暗号の基本となるコーディングができる	
		16週			
評価割合					
	試験	課題・レポート	合計		
総合評価割合	50	50	100		
基礎的能力	0	0	0		
専門的能力	50	50	100		
分野横断的能力	0	0	0		

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報通信
科目基礎情報					
科目番号	0064		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	インターネット/加藤とし彦 (コロナ社)、ネットワーク技術の基礎【第2版】/宮保憲治 他 (森北出版)				
担当教員	唐沢 俊一				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 現在の情報通信ネットワークの核である、インターネットの原理を学ぶ。具体的には、インターネットを実現する各種プロトコル (イーサネット、PPP、IP、TCPなど) について理解できるようにする。(A3) 携帯電話ネットワークについても、その原理を学ぶ。具体的には、CELP、QAM、OFDM/A、MiMo、CA、HetNetなどの技術について理解できるようにする。(A3) 固定電話のネットワーク構成についても理解できるようにする。(A3) パケット交換と回線交換の違いについて理解させる。(A3) ICT技術全般について、適用領域、課題、新技術について理解できるようにする。(A3) 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
インターネットの網構成について理解できること。	できる。	部分的にできる。	できない。		
通信プロトコルの概念、OSI参照モデルについて理解できる事。	できる。	部分的にできる。	できない。		
インターネットプロトコルについて理解できること。	できる。	部分的にできる。	できない。		
電話網 (固定、携帯) について理解できること。	できる。	部分的にできる。	できない。		
LAN、WANについて理解できること。	できる。	部分的にできる。	できない。		
LTE、WiMAX、WSN、無線LAN、地上波デジタル放送について理解できること。	できる	部分的にできる。	できない。		
情報通信 (ICT) と社会インフラ (スマートグリッド、ITS、スマートコミュニティ) について理解できること。	できる。	部分的にできる。	できない。		
ICTの新技術、現在の課題について理解できること。	できる。	部分的にできる。	できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	インターネットのプロトコルおよび、インターネットのネットワーク構成について学習する。固定電話ネットワークについても、その構成について学習する。音声や画像の情報符号化、QAM変調、OFDM/Aなどの、現在のデジタル通信の基礎となる技術を学習する。ICT技術全般に関する概要を学習する。現状の課題、将来の新技術についても学習する。				
授業の進め方・方法	予備知識：自分の周りの情報通信環境 (利用している環境) についてまとめておくこと。 講義室：教室 授業形式：情報通信産業全般の理解を目標として学生の理解を確認しつつ進める。適宜プリントを配布し教科書の補完とする。				
注意点	評価方法：ノート・課題・演習を30%で評価。試験は70%で評価。ノートは各試験前に提出すること。自己学習の指針：予習・復習を確実にすること。 オフィスアワー：水、金 16:00~17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 前期講義内容 (前期：インターネット)、進め方、目標、インターネット概説	インターネットの概要、OSI参照モデルについて理解できること。	
		2週	2. インターネット・ネットワークアーキテクチャ	LAN、バックボーン、アクセスネットワーク、光通信、PONについて理解できること。	
		3週	3. イーサネット	イーサネットの原理について理解できること。	
		4週	4. 無線LAN	無線LANの各種方式の特徴。一番最初の規格である802.1bの原理を理解できること。	
		5週	5. IPバージョン4	IPv4アドレス、クラス、IPプロトコルのヘッダフォーマット、各種パラメータが理解できること。	
		6週	5. IPバージョン4	ルーティングやアドレス解決プロトコルについて理解できること。	
		7週	6. ICMPバージョン4	概要、宛先到達付加、エコー要求/応答、Ping、時間超過とtraceroute機能、ルートダイレクトについて理解できること。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	7. IPネットワークを支える関連プロトコル	DHCP、プライベートネットワークとNAT、PPP、ルーティングプロトコルの概要について理解できること。	
		10週	8. UDPとDNS	フォーマット、通信手順、通信例	
		11週	9. HDLC	ITU X.25 LAPBの概要を学び誤り制御、フローコントロールの基本を理解する。	
		12週	10. TCP	ヘッダーフォーマット、コネクションの確立と解放データの送信と受信確認、フロー制御	

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	システム・プログラム論
科目基礎情報					
科目番号	0065		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	Linuxシステムプログラミング (羽山 博 オーム社)				
担当教員	寺山 康教				
到達目標					
1. 五大装置それぞれの役割とこれらの間でのデータの流れとプロセッサ、メモリ、入出力を実現するために考案された主要な技術を説明できる。 2. コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて理解している。 3. オペレーティングシステムの位置づけとプロセス管理機能や記憶管理機能など備えるべき機能を説明できる。 4. 並行プロセスの動作、競合状態とその回避、セマフォ、テッドロックを説明できる。 5. ファイルシステムおよびネットワークとセキュリティについて説明できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1、2)	コンピュータにおける5大装置とそれぞれの役割とそこに使われているさまざまなアーキテクチャの違いを説明でき、システムにおけるアーキテクチャのトレードオフを具体的に説明できる。	コンピュータにおける5大装置とそれぞれの役割を説明でき、システムにおけるアーキテクチャのトレードオフを説明できる。	コンピュータにおける5大装置とそれぞれの役割を説明できず、システムにおけるアーキテクチャのトレードオフについて知らない。		
評価項目2 (到達目標 3、4)	さまざまなOSの特徴を知り、OSの持つ基本的機能とくにマルチタスクOSの動作についてシステムコールを用いてシステムプログラムを組んで動作させることができる。並行プロセスにおける問題点を知り、セマフォによる安全な並行プロセスのシステムプログラムを組んで動作させることができ、テッドロックについてその回避方法を説明できる。	さまざまなOSの名前を知っており、OSの持つ基本的機能とくにマルチタスクOSの動作についてシステムコールを用いてシステムプログラムを動作させることができる。並行プロセスにおける問題点を知り、セマフォによる安全な並行プロセスを実行できテッドロックについて説明できる。	OSの持つ基本的機能を知らず、マルチタスクOSについて並行プロセスの動作を説明できない。並行プロセスにおける問題点を知らず、セマフォ、テッドロックを説明できない。		
評価項目3 (到達目標 5)	ネットワークで結合されたコンピュータシステムについて基本的な知識、技術を知りアーキテクチャのトレードオフを説明できる。現在のコンピュータおよびネットワークにおいて発生または発生するであろうセキュリティ問題について事例と対処法を考察、説明できる。	ネットワークで結合されたコンピュータシステムについて基本的な知識を知り説明できる。コンピュータおよびネットワークにおけるセキュリティについて事例と対処法を説明できる。	ネットワークで結合されたコンピュータシステムについて基本的な用語、技術を説明できない。コンピュータおよびネットワークにおけるセキュリティについて基本的対処法を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	情報処理技術の根幹をなすオペレーティングシステムの基本動作およびコンピュータの様々なハードウェアの理解と、特にUnix系システムでの並行処理プログラムの基本的動作およびネットワーク技術の基本知識に関して講義する。				
授業の進め方・方法	予備知識：Unix系OSの作成言語であるC言語等の知識を中心として、Unix系OSの基本コマンドとツールの使用方法を理解しておく。 講義室：情報処理センター第1演習室 授業形式：講義と実習 学生が用意するもの：教科書、ノート、記憶媒体 (usbメモリ等)				
注意点	評価方法：中間・定期試験の試験の得点を平均して評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の方針：コンピュータ、ネットワーク技術の現状と教科書のシステムプログラム例の挙動を自己学習し、講義中の内容と演習内容について理解すること。 オフィスアワー：なし ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	コンピュータとその周辺機器の現状	五大装置それぞれの役割とこれらの間でのデータの流れを説明できる	
		2週	OSの基本動作の概要	コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置づけを説明できる	
		3週	CPU、メモリ、グラフィックカード、マザーボード、バス等の現状	プロセッサを実現するために考案された主要な技術を説明できる	
		4週	メモリおよび補助記憶装置の現状	メモリシステムを実現するために考案された主要な技術を説明できる	
		5週	周辺機器その他、入力装置、出力装置、ネットワーク機器の現状	入出力を実現するために考案された主要な技術を説明できる	
		6週	コンピュータシステムとアーキテクチャ	コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて理解している	
		7週	システム構築と仕様	システムの構築と必要な仕様を考慮したシステム設計が理解できる	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	プロセスの概念、Unix系OSの管理機能	プロセス管理機能や記憶管理機能などオペレーティングシステムが備えるべき機能を説明できる	
		10週	プロセスの生成、動作としくみ、システムコール	プロセスの生成、動作としくみ、システムコールが説明できる	

		11週	ゾンビプロセス、シェル	ゾンビプロセス、シェルについて挙動を説明できる
		12週	Unix系OSのファイルシステム、パーティション	ファイルシステム、パーティションを説明できる
		13週	ファイル情報	ファイル情報管理について説明できる
		14週	マウントとリンク	マウントとリンクについて説明できる
		15週	他OSとの共通点と相違	他OSとの共通点と相違を理解できる
		16週		
後期	3rdQ	1週	低水準入出力、高水準入出力	低水準入出力、高水準入出力について違いを説明できる
		2週	複数プロセスによるファイル共有	複数プロセスによるファイル共有について問題点を理解できる
		3週	競合状態、危険領域と相互排除	競合状態、危険領域と相互排除を説明できる
		4週	共有メモリ、メッセージ	共有メモリ、メッセージについて説明できる
		5週	共有メモリ、メッセージにおける競合状態	共有メモリ、メッセージにおける競合状態の発生と問題点を理解できる
		6週	セマフォの役割	競合状態の回避とセマフォの役割について説明できる
		7週	プロセス、リソースを考えたセマフォの必要性	プロセス、リソースを考えたセマフォの必要性を理解できる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	デッドロック	デッドロックを説明できる
		10週	シグナル	シグナルについて説明できる
		11週	端末制御	端末制御について説明できる
		12週	サーバとクライアント	サーバとクライアントの相互関係を理解できる
		13週	ソケットとネットワーク	ソケットとネットワークプログラミングについて理解できる
		14週	コンピュータにおけるセキュリティ	コンピュータにおけるセキュリティについて様々な方法を理解できる
		15週	ネットワークとセキュリティ	ネットワークとセキュリティについて様々な方法を理解できる
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	電子制御工学
科目基礎情報					
科目番号	0066		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	線形システム制御論 (著者: 山本・水元, 出版社: 朝倉書店)				
担当教員	坂口 彰浩				
到達目標					
1. 制御対象を状態変数表現により表現できる。(A3) 2. 制御対象の特性や安定性を導くことができる。(A3) 3. 現代制御理論に基づいて制御系の設計が行える。(A3) 4. 適応制御手法を理解し、制御則の導出ができる。(A3) 5. MATLABを用いて簡単な制御系の設計ができる。(A3)					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標1)		様々な制御対象を状態変数表現により表現できる。	制御対象を状態変数表現により表現できる。	制御対象を状態変数表現により表現できない。	
評価項目2 (到達目標2)		様々な制御対象の特性や安定性を導くことができる。	制御対象の特性や安定性を導くことができる。	制御対象の特性や安定性を導くことができない。	
評価項目3 (到達目標3)		現代制御理論に基づいて制御系の設計が適切に行える。	現代制御理論に基づいて制御系の設計がほとんど行える。	現代制御理論に基づいて制御系の設計が行えない。	
評価項目4 (到達目標4)		適応制御手法を理解し、制御則の導出が適切に行える。	適応制御手法をほとんど理解し、制御則の導出が行える。	適応制御手法を理解し、制御則の導出ができない。	
評価項目5 (到達目標5)		MATLABを用いて簡単な制御系の設計が適切に行える。	MATLABを用いて簡単な制御系の設計がほとんど行える。	MATLABを用いて簡単な制御系の設計が行えない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	状態方程式に基づいて時間領域における制御系の解析・設計を行う方法を学ぶ。また、MATLABを用いた基本的な制御系設計方法について学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識: 4年次までに修得した制御工学の基礎知識があること。 講義室: 5S教室 授業形式: 講義と演習 学生が用意するもの: 特になし				
注意点	評価方法: 試験 (前期中間・前期定期・後期中間・学年末) の平均点を70%、演習・課題等を30%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針: 授業で自習課題を課すので、自分で解けるようにすること。試験時には、例題及び自習課題を理解できていること。これらの自己学習は2時間以上が望ましい。 オフィスアワー: 月曜日、金曜日の 16:00-17:00 備考: 各試験の成績不振者に対する追試は、各試験の平均点が30%以上の学生に限る。演習・課題の未提出者、ノートの未提出者には、追試を行わない。再試験は、前後期に実施した全範囲から出題する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	現代制御の概要	現代制御理論の位置づけを説明できる。	
		2週	状態変数表示	制御対象に対する状態変数表示を導出できる。	
		3週	状態変数表示の等価変換	状態変数表示を等価変換できる。	
		4週	伝達関数から状態変数表示	伝達関数を状多変数表示に変換できる。	
		5週	状態変数表示から伝達関数	状態変数表示を伝達関数に変換できる。	
		6週	状態方程式の解法	状態方程式の解を求めることができる。	
		7週	復習と演習	演習問題を解くことができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	可制御性	可制御性を導くことができる。	
		10週	可観測性	可観測性を導くことができる。	
		11週	対角化と可制御・可観測	対角正準形から可制御・可観測性を導くことができる。	
		12週	可制御正準形	可制御正準形に変換できる。	
		13週	可観測正準形	可観測正準形に変換できる。	
		14週	線形システムの安定性	線径システムの安定性を導くことができる。	
		15週	復習と演習	演習問題を解くことができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	ラウスの安定判別法	ラウスの安定判別法により安定性を導くことができる。	
		2週	フルビッツの安定判別法	フルビッツの安定判別法により安定性を導くことができる。	
		3週	有界入出力安定	有界入出力安定性を導くことができる。	
		4週	リヤプノフの安定判別法	リヤプノフの安定判別法により安定性を導くことができる。	
		5週	状態フィードバック制御と極配置	状態フィードバック制御則を導くことができる。	
		6週	直接フィードバック制御	直接フィードバック制御則を導くことができる。	
		7週	復習と演習	演習問題を解くことができる。	

4thQ	8週	中間試験	
	9週	オブザーバによる状態の推定	オブザーバを導出することができる。
	10週	オブザーバを用いたフィードバック制御	併合システムを導出することができる。
	11週	セルフチューニングコントロール	適応制御法について説明できる。
	12週	最小分散制御	最小分散制御則を導出できる。
	13週	一般化最小分散制御	一般化最小分散制御則を導出できる。
	14週	MATLAB演習	MATLABを用いて制御系設計ができる。
	15週	復習と演習	演習問題を解くことができる。
16週			

評価割合

	試験	演習					合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	工学実験・実習
科目基礎情報					
科目番号	0067		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	電子制御工学科作成の実験書				
担当教員	中村 嘉男, 兼田 一幸, 志久 修, 嶋田 英樹, 坂口 彰浩, 手島 裕詞, 前田 貴信, 槇田 諭, 唐沢 俊一, 川下 智幸				
到達目標					
1. Linuxの設定ファイルを理解し、各種設定ができる。 2. Linux上でサーバーを構築することができる。 3. 電気・制御系に関する実験を通して、理論をより深く理解することができる。 4. 複数のセンサーを用いて各種センシングを実現できる。 5. 実験データの整理・解析方法を学び、報告書にまとめることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
Linuxの設定ファイルを理解し、各種設定ができる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
Linux上でサーバーを構築することができる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
電気・制御系に関する実験を通して、理論をより深く理解することができる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
複数のセンサーを用いて各種センシングを実現できる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
実験データの整理・解析方法を学び、報告書にまとめることができる。	十分にできる。	ある程度できる。	できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	電子、情報、計測制御に関連する理論を確認し、工学実験と卒業研究テーマ別の応用実験を行うことで、実践を通じて技術を高める。				
授業の進め方・方法	予備知識 : これまでの授業で学習した電子工学、工作法、制御工学、通信工学、情報処理、応用物理などの基礎的な技術や能力が必要である。 講義室 : 制御A棟演習室、制御B棟実験室 授業形式 : 実習 学生が用意するもの : 特になし				
注意点	評価方法 : 準備(服装10点、実験書10点)、実験態度(積極性・協調性・適格性)30点、報告書(提出期限・内容)50点の合計100点で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針 : 実験・実習前に実験書を読んで実験手順などを予習しておくこと。また、自ら問題解決を探る姿勢をもって実験に取り組むこと。 オフィスアワー : ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実験ガイダンスと準備	工学実験の進め方を理解し、実験に必要な知識を確認できる。	
		2週	振幅変調回路	振幅変調回路を調べることができる。	
		3週	Matlabによる制御系実験	Matlabによる制御系の動作を調べることができる。	
		4週	光ファイバーの伝送損失特性	光ファイバーの伝送損失特性を調べることができる。	
		5週	自然放射線の測定	自然放射線の測定することができる。	
		6週	サーボⅠ (位置と速度検出)	位置と速度を検出することができる。	
		7週	サーボⅡ (周波数特性)	周波数特性を調べることができる。	
		8週	レポート作成	論理的なレポートを作成できる。	
前期	2ndQ	9週	linuxのインストール	RedHat系ディストリビューションをインストールできる。	
		10週	パッケージの管理及びネットワーク設定	ネットワークなどの各種設定と、パッケージを管理できる。	
		11週	サーバー構築実習(1)	(1)Webサーバ、(2)FTP・Mailサーバ、(3)サウンドストリーミングサーバ(4)映像ストリーミングサーバ、(5)Samba・ファイル・プリントサーバ、(6)WebDAVサーバのうち一つを構築できる。	
		12週	サーバー構築実習(2)	(1)Webサーバ、(2)FTP・Mailサーバ、(3)サウンドストリーミングサーバ(4)映像ストリーミングサーバ、(5)Samba・ファイル・プリントサーバ、(6)WebDAVサーバのうち一つを構築できる。	
		13週	サーバー構築実習(3)	(1)Webサーバ、(2)FTP・Mailサーバ、(3)サウンドストリーミングサーバ(4)映像ストリーミングサーバ、(5)Samba・ファイル・プリントサーバ、(6)WebDAVサーバのうち一つを構築できる。	
		14週	プレゼンテーション	実習内容や成果を論理的に伝えることができる。	
		15週	レポート作成	論理的なレポートを作成できる。	
		16週	まとめ		

後期	3rdQ	1週	後期：卒業研究に関連する応用実験	各卒業研究テーマに関する実験を行い、その結果を考察し、分析・評価することで、論理的な結論を述べる ことができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週	まとめ		

評価割合				
	準備	実験態度	報告書	合計
総合評価割合	20	30	50	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	20	30	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	卒業研究
科目基礎情報					
科目番号	0068		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 10	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	前期:5 後期:12	
教科書/教材					
担当教員	中村 嘉男,兼田 一幸,志久 修,嶋田 英樹,坂口 彰浩,手島 裕詞,前田 貴信,槇田 諭,唐沢 俊一				
到達目標					
1. 研究の背景・関連研究について調査し、理解、説明できる。(D1) 2. 研究遂行のための計画や方策を複合的にデザインできる。(D3) 3. 基礎知識をもとに創造性を発揮し、実践的対応ができる。(D2) 4. 研究成果を論文として論理的に記述することができる。(D4) 5. 研究成果を分かり易く発表し、適切な質疑応答ができる。(C1, C2) 6. 自主的にまた長期間継続的に遂行できる。(E1)					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
研究の背景・関連研究についての調査、理解、説明		十分にできる。	ある程度できる。	できない。	
研究遂行のための計画、方策の複合的デザイン		十分にできる。	ある程度できる。	できない。	
基礎知識をもとにした創造性の発揮と実践的対応		十分にできる。	ある程度できる。	できない。	
研究成果を論文として論理的に記述		十分にできる。	ある程度できる。	できない。	
研究成果の発表と質疑応答		十分にできる。	ある程度できる。	できない。	
自主的・継続的な遂行		十分にできる。	ある程度できる。	できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	5年間の総まとめとして、これまでに学んだ一般知識および高度な専門知識や技術を十分に活用し、研究計画、研究方法、論文作成、プレゼンテーション方法を修得する。				
授業の進め方・方法	予備知識 : 英語、数学、国語、専門科目の基礎知識を理解しておくこと。 講義室 : 各研究室 授業形式 : 実習 学生が用意するもの : 特になし				
注意点	評価方法 : 「卒業研究の評価方法について」に記載されている評価方法に従い、指導教官による7項目の評価と研究発表時の3項目の評価を行う。指導教官による評価(70%)、研究発表時の評価(30%)の総合評価で60点以上、かつ、「卒業研究の「学習・教育到達目標」ごとの評価方法について」に記載されている学習・教育到達目標ごとの評価点が5段階評価ですべて3以上を、合格とする。 自己学習の指針 : 指導教員との連携を密にし、自主的に研究に取り組むこと。研究成果を論文としてまとめ、わかりやすく発表できるようにすること。 オフィスアワー : ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	4月 各教員が各自の実験室で研究テーマを説明し、学生の意志を尊重して配属先を決定する。		
		2週	4月から1年間、1テーマあたり学生1~2人で各指導教員の実験室で研究する。		
		3週	2015年度 研究題目		
		4週	ロボットアーム/ハンドによる物体操作の動作計画と制御		
		5週	ローイング・エルゴメーターの操作スキル解析		
		6週	半閉鎖領域の形状に起因する物体閉じ込め性能の違い		
		7週	物体操作のためのRGB-D画像による物体認識		
		8週	距離画像を利用する物体把握の計画		
	2ndQ	9週	ダイヤモンド砥粒の自動選別装置の開発		
		10週	ディーブラーニングによるダイヤモンド砥粒選別に関する研究		
		11週	2波長域画像を用いたダイヤモンド砥粒切れ刃の分散解析システムの開発		
		12週	低精度点群データからボクセルデータへの変換		
		13週	手の動きを用いた対話型システムの開発		
		14週	Persistent Homologyを用いた点群データの評価		
		15週	移動ロボットによる環境計測に関する研究		
		16週	ソシマヤマネコの個体認識システムの開発		
後期	3rdQ	1週	10月 中間発表会:卒業研究の中間発表と質疑応答、電子制御工学科全教員と5Sの全学生が出席		
		2週			
		3週			
		4週			

		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週	2月 卒業論文と論文概要の提出,卒業研究審査会:卒業研究の発表と質疑応答、電子制御工学科全教員と5Sの全学生が出席	

評価割合

	指導教員評価	発表評価	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ロボット工学		
科目基礎情報							
科目番号	0069		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	1			
教科書/教材	基礎から実践まで理解できるロボット・メカトロニクス (山本・永井 共立出版)						
担当教員	山本 郁夫						
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット開発におけるシステム設計の基礎を理解し、説明できること。(到達目標1) ・ロボット構成要素技術の特徴について理解し、説明できること。(到達目標2) ・ロボットの産業界における開発事例、および、失敗と成功の原因を説明できること。(到達目標3) 							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)	ロボットのシステム設計の考え方を理解し、具体的事例について詳細に説明できる。		ロボットのシステム設計の考え方を概念的に理解し、具体的事例について概略的に説明できる。		ロボットのシステム設計の考え方を理解できていない。		
評価項目2 (到達目標2)	ロボットの構成要素技術について、その特徴を理解し、詳細な技術事項を説明できる。		ロボットの構成要素技術について、その特徴を概念的に理解し、基礎的な技術事項を説明できる。		ロボットの構成要素技術を理解できていない。		
評価項目3 (到達目標3)	ロボットの開発事例について、成功例と失敗例の原因を理解して、詳細に説明できる。		ロボットの開発事例について、基本的な技術事項を理解して、概略的に説明できる。		ロボットの開発事例について、説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ロボット工学の基礎と応用の具体例を通して、工学技術がシステム全体にどのように関わっているか、また、開発時の心構えなどを理解する。						
授業の進め方・方法	予備知識：制御工学の基本特性をよく理解しておくこと。また、これまで学んできた機械工学、電気、電子、情報工学の基礎事項について理解できていること。 講義室：5S教室 授業形式：講義と演習（ディスカッション） 学生が用意するもの：特になし						
注意点	評価方法：中間テスト、後期定期テスト（2回）で評価し60点以上を合格とする。 自己学習の指針：教科書を自己学習の中で理解すること。定期試験前には、教科書や配布資料の内容は理解できていること。 オフィスアワー：なし						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	講義の進め方, 到達目標の説明と, 講師の説明				
		2週	ロボットの社会的重要性			ロボットの社会的重要性を事例を用いて説明できる。	
		3週	ロボット開発の心構え			ロボット開発の失敗例と成功例の原因を説明できる。	
		4週	ロボットに必要な機械力学1			ロボット運動を力学的に説明できる。	
		5週	ロボットに必要な機械力学2			ロボット運動の力学的設計ができる。	
		6週	ロボットに必要な制御工学1			ロボット制御系をブロック線図を用いて説明できる。	
		7週	ロボットに必要な制御工学2			ロボット制御系が理解でき、設計できる。	
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	ロボットに必要な電気工学1			ロボット電気系が理解でき、原理を説明できる。	
		10週	ロボットに必要な電気工学2			ロボット電気系が理解でき、設計できる。	
		11週	ロボットに必要なデジタル回路1			ロボットデジタル回路が理解でき、原理を説明できる。	
		12週	ロボットに必要なデジタル回路2			ロボットデジタル回路が理解でき、設計できる。	
		13週	ロボットのソフトウェアとプログラミング			ロボットのソフトウェアとプログラミングが理解でき、説明できる。	
		14週	センサ、アクチュエータ			ロボットのセンサとアクチュエータが理解でき、利用できる。	
		15週	ロボットインテグレーション (まとめ)			ロボットとITの融合を理解でき、事例を用いて説明できる。	
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	制御工学特論
科目基礎情報					
科目番号	0070		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	メカトロニクス入門 (土谷武士, 深谷健一 共著) 森北出版株式会社 / 制御工学 (4 S 使用: 制御工学教科書), 技術者倫理の世界 (森北出版), 必要に応じて手作りプリント				
担当教員	川下 智幸				
到達目標					
1. メカトロニクスの語源や産業界における位置づけを説明できること。(A4) 2. センサー (特にエンコーダ) に関して理解し説明できること。(A4) 3. アクチュエータに関してその動作原理を理解し説明できること。(A4) 4. アクチュエータに関してその制御法を理解し説明できること。(A4) 5. メカトロニクスの産業界における事例に関して説明できること。(A4)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)	メカトロニクスの産業界における位置づけを実例 (工業製品) が説明できることを挙げて説明できること。	メカトロニクスの産業界における位置づけが説明できること。	メカトロニクスの産業界における位置づけが説明できない。		
評価項目2 (到達目標2)	エンコーダの原理と出力信号について説明 (対象物の位置・速度情報として) できること。	エンコーダの原理と出力信号について説明できること。	エンコーダの原理と出力信号について説明できない。		
評価項目3 (到達目標3, 4, 5)	アクチュエータの種類と制御技術 (ブロック線図, 伝達関数等が求められる) について説明できること。	アクチュエータの種類と制御技術について説明できること。	アクチュエータの種類と制御技術について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	制御工学の基本的理論を確認し, ロボット, 家電, 情報機器, 各種自動化機器に実際に用いられているメカトロニクス製品における制御技術 (各要素技術も含み) を理解する。				
授業の進め方・方法	予備知識: 4年生で学んだ制御工学の基本特性をよく理解しておくこと。また, ラプラス変換, 逆ラプラス変換などの基本的な数学の知識があること。 講義室: 5S教室 授業形式: 講義と演習 学生が用意するもの: 電卓を持参すること				
注意点	評価方法: 前期中期・定期試験の2回で評価し, 60点以上を合格とする 自己学習の指針: 課題プリントを配布するので自己学習を通して理解を深める。また, 授業を進めるには, 以前の知識が基礎になるので, その都度, 授業内容の理解に努めること。これらの学習時間は2時間以上が望ましい。 オフィスアワー: 水曜日、木曜日の16:00~17:00				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義内容, 到達目標の説明と産業界における位置づけ	サーボ制御の産業界における活用状況が説明できる。	
		2週	メカトロニクスとは何か, そしてその構成と効果とは	メカトロニクスの各種自動機器における位置付けが説明できる。	
		3週	知的所有権の重要性とメカトロニクス製品 (技術者倫理)	知的所有権が産業機械において如何に重要か説明できる。	
		4週	センサー-1 (位置・速度検出)	位置・速度検出器の種類とその原理が説明できる。	
		5週	センサー-2 (加速度・力検出)	加速度・力検出器の種類とその原理が説明できる。	
		6週	センサー-3 (特殊なセンサーおよび制御系への対応)	各種センサー出力と上位装置との関係が説明できる。	
		7週	アクチュエータの種類	制御に用いられているアクチュエータの種類が説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	試験問題の解答確認およびアクチュエータの制御	計算機を用いたアクチュエータの制御の概要が説明できる。	
		10週	アクチュエータの構造と制御 (導電アクチュエータ)	導電アクチュエータの原理と制御方式について説明できる。	
		11週	アクチュエータの構造と制御 (DCサーボモータ)	DCサーボモータの原理と制御方式について説明できる。	
		12週	アクチュエータの構造と制御 (ACサーボモータ)	ACサーボモータの原理と制御方式について説明できる。	
		13週	アクチュエータの構造と制御 (ステッピングモータ)	ステッピングモータの原理と制御方式について説明できる。	
		14週	ボールネジ機構を有する機械の制御 (NC工作機など)	ボールネジ機構の構造とモータ制御の関係が説明できる。	
		15週	減速機を有する機械の制御 (ロボットなど)	減速機付きモータの制御と機構部制御について説明できる。	
		16週	定期試験		
評価割合					
			試験	合計	
総合評価割合			100	100	
基礎的能力			0	0	

專門的能力	100	100
-------	-----	-----

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	情報通信特論
科目基礎情報					
科目番号	0071		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	PDFファイルおよびWordファイルを配布				
担当教員	中村 嘉男				
到達目標					
1. コンピュータネットワークに用いられるプロトコルの概要を説明できる。(A4)					
2. ネットワーク社会における各種セキュリティの脅威を説明できる。(A4)					
1. コンピュータネットワークに用いられるプロトコルの概要を説明できる。(A4)					
2. ネットワーク社会における各種セキュリティの脅威を説明できる。(A4)					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 (到達目標1)	コンピュータネットワークに用いられるプロトコルの概要を説明できる。		コンピュータネットワークに用いられるプロトコルの概要をほぼ、理解し説明できる。		コンピュータネットワークに用いられるプロトコルの概要をあまり理解していない、説明できない。
評価目標2 (到達目標2)	ネットワーク社会における各種セキュリティの脅威をよく理解し、説明できる。		ネットワーク社会における各種セキュリティの脅威をほぼ、理解し説明できる。		ネットワーク社会における各種セキュリティの脅威をあまり理解していない、説明できない。
"評価項目3 (到達目標3)"	認証、暗号利用技術、アクセス制御等情報セキュリティに必要な基礎技術をよく理解し、説明できる。		認証、暗号利用技術、アクセス制御等情報セキュリティに必要な基礎技術をほぼ、理解し説明できる。		認証、暗号利用技術、アクセス制御等情報セキュリティに必要な基礎技術をあまり理解していない、説明できない。
"評価目標4 (到達目標4)"	情報セキュリティマネジメントの重要性と必要性についてよく理解し、説明できる。		情報セキュリティマネジメントの重要性と必要性についてほぼ、理解し説明できる。		情報セキュリティマネジメントの重要性と必要性についてあまり理解していない、説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	コンピュータネットワークに関する基本的な事項(プロトコル, ネットワークの分類など), インターネット社会における各種攻撃手法, データ解析手法等を学ぶ。				
授業の進め方・方法	予備知識: プログラミングの基礎があること。情報科学の基礎(データ構造とアルゴリズム, ネットワーク基礎, OS基礎, データベース基礎)を理解していること。 講義室: 選択授業講義室 授業形式: 講義と演習, 演習レポート 学生が用意するもの: ノート				
注意点	評価方法: 中間・定期試験により評価し, 60点以上を合格とする。 自己学習の指針: 与えられた課題を調べる。講義の内容を確実に把握する。 オフィスアワー: 中村(火, 金 午後4-5時)				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ネットワークの基礎		情報セキュリティを学習するうえで必要なネットワークの要素について理解し、説明できる。
		2週	情報セキュリティの必要性と定義		ネットワーク社会における情報セキュリティの必要性と重要性を理解し、説明できる。
		3週	情報セキュリティの必要性と定義		情報セキュリティの脅威と対策を理解し、利用できる。
		4週	"情報セキュリティの要素技術(認証、アクセス制御、ソフトウェアのセキュリティ)"		情報セキュリティ技術の全体像を理解し、説明できる。
		5週	情報セキュリティの要素技術(暗号、ログ管理)		暗号利用、PKI、ログ管理のための基礎技術を理解し、利用できる。
		6週	ネットワークの基本的な構成、ネットワークの脆弱性とリスク		TCP/IPとネットワークの基本的な構成、課題とリスク等について理解し、説明できる。
		7週	情報セキュリティにおけるファイアウォールの位置づけと機能		情報セキュリティ対策、ファイアウォールの役割と仕組みについて理解し、利用できる。
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	ネットワークセキュリティを構成する要素技術		NAT機能、VPN機能、IDS/IPSの役割と仕組みについて理解し、利用できる。
		10週	無線LAN環境(規格、暗号化、認証、その他の機能など)		利便性と問題点、セキュリティ技術の仕組みと必要性を理解し、説明できる。
		11週	無線LANの脆弱性		wep,wpa,wpa2規格の脆弱性を理解し、より安全に使用する方法を説明できる。
		12週	Webアプリケーションセキュリティ		Webアプリケーションのセキュリティ、仕組み及びセキュリティ対策の概要を理解し、説明できる。
		13週	"Webアプリケーションに対する代表的な攻撃、SQLインジェクション攻撃"		Webアプリケーションに対する代表的な攻撃、SQLインジェクション攻撃を理解し、利用できる。
		14週	クロスサイト・スクリプティング攻撃、Webアプリケーション開発時の対策		クロスサイト・スクリプティング攻撃、Webアプリケーションにおける設計・実装時の対策を理解し、利用できる。
		15週	バッファオーバーフローによるデータ破壊の危険性		バッファオーバーフローの危険性を理解し、説明できる。
		16週	期末試験		

後期	3rdQ	1週	情報セキュリティマネジメントシステムの基礎知識 1	情報セキュリティ対策の有効性評価および適合性の維持活動を理解し、説明できる。
		2週	情報セキュリティマネジメントシステムの基礎知識 2	情報セキュリティ対策の有効性評価および適合性の維持活動を理解し、説明できる。
		3週	情報セキュリティにおけるリスクアセスメントとリスク対応（総合演習）	"情報セキュリティの対策を効果的に導入および実践するため、リスクアセスメントとリスク対応方法について演習を通じて学習し、利用できる。"
		4週	サイバー攻撃におけるマルウェア感染	マルウェア感染を中心としたサイバー攻撃の概要、観測の重要性を理解し、説明できる。
		5週	ハニーポットでのデータ収集	サイバー攻撃の形態、攻撃の観測について学習し、説明できる。
		6週	ハニーポットの観測環境の手法とデータ解析について理解し、説明できる。	解析環境について理解し、利用できる。
		7週	ハニーポット環境におけるデータ収集	データ収集手法について理解し、説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	Webクライアントへの攻撃	Webクライアントへのマルウェア感染攻撃の特性を理解し、説明できる。
		10週	Webクライアントへの攻撃の観測・解析	Webクライアントへの攻撃の観測・解析方法を理解し、説明できる。
		11週	サーバへの攻撃とデータ解析	Webサーバに対する代表的攻撃を理解し、観測について説明できる。
		12週	パスワードクラッキング	辞書攻撃、フォースアタックの手法の理解と、安全なパスワードについて説明できる。
		13週	フォレンジックとは	デジタルフォレンジックの一般的手法について理解し、説明できる。
		14週	削除データ等の復元方法	HDD等の削除データの復元手法を理解し、説明できる。
		15週	各種ブラウザ等のオペレーション作業の復元	ブラウザ等のオペレーション作業の復元について理解し、説明できる。
		16週	期末試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	知識工学		
科目基礎情報							
科目番号	0072	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1				
開設学科	電子制御工学科	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	1				
教科書/教材	人工知能システムの構成、小倉久和・小高知宏著、近代科学社						
担当教員	佐藤 雅紀						
到達目標							
1. 木や経路の探索を処理手続きに沿って説明できる。(A4) 2. 論理による知識表現が理解できる。(A4) 3. ファジィ論理による知識表現が理解できる。(A4) 4. 人工神経回路網が理解できる。(A4) 5. 進化的・学習アルゴリズムの仕組みと特徴を理解できる。(A4)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1 達成目標1	木や経路の探索を処理手続きに沿って説明できる。	木や経路の探索を処理手続きに沿って大体説明できる。	木や経路の探索を処理手続きに沿って説明できない。				
評価項目2 達成目標2	論理による知識表現が理解できる	論理による知識表現がほとんど理解できる	論理による知識表現が理解できない				
評価項目3 達成目標3	ファジィ論理による知識表現が理解できる。	ファジィ論理による知識表現がほとんど理解できる。	ファジィ論理による知識表現が理解できない				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	人間の情報処理を基盤とした知能システムを構築するための基本的な理論を学ぶ。また、知的システム構築にしばしば利用されるデータベースシステムについても理解を深める。						
授業の進め方・方法	予備知識：情報処理全般について基本を理解している。データ構造とアルゴリズム関連の復習をしておくこと。 授業形態：講義 および 演習 学生が用意するもの：なし 参考書・補助教材：自作プリント						
注意点	評価方法：中間・期末試験で評価し、60点以上を合格とする 自己学習の指針：授業前の予習、授業後の復習はもちろんのこと、授業中に取り組む課題の内容も理解できること。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	知能とシステム	知能システムの基本的なシステムを説明できる			
		2週	試行錯誤のアルゴリズム	試行錯誤のアルゴリズムを説明できる			
		3週	評価を用いた試行錯誤のアルゴリズム	評価関数を設定して目標への経路を探索する試行錯誤アルゴリズムを説明できる			
		4週	知識の表現	知識の表現方法を説明できる			
		5週	論理による知識処理アルゴリズム	知識処理アルゴリズムを理解できる			
		6週	学習のアルゴリズム	GA、ニューラルネットワークなどの各種学習アルゴリズムを説明できる			
		7週	ファジィ理論	評価関数を用いたファジィ理論を説明できる			
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	ニューラルネットワーク	ニューラルネットワークの仕組みを説明できる			
		10週	自己組織化マップ	自己組織化マップを作製できる			
		11週	神経振動子	神経振動子の構造を説明できる			
		12週	進化的アルゴリズム	進化的アルゴリズムの仕組みと更新手順を説明できる			
		13週	自律エージェントと知能	自律エージェントと知能の関係を説明できる			
		14週	生物模倣	生物模倣の工学的モデルを説明できる			
		15週	知能ロボティクス	知能を用いたロボティクス応用を説明できる			
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	画像工学
科目基礎情報					
科目番号	0073		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	配布資料				
担当教員	志久 修				
到達目標					
1. デジタル画像の階調・解像度について理解できること (A4) 2. 画像のフィルタリングを理解できること (A4) 3. 2値画像処理について理解できること (A4) 4. 画像パターン認識の構成を理解できること (A4) 5. クラスタリングについて理解できること (A4)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標 1)	デジタル画像の階調・解像度について説明でき、実際に与えられた画像に対して適切な処理を行うことができる。	デジタル画像の階調・解像度についてほとんど説明でき、実際に与えられた画像に対して処理を行うことができる。	デジタル画像の階調・解像度について説明できない。実際に与えられた画像に対して処理を行うことができない。		
評価項目2 (到達目標 2, 3)	空間フィルタ、2値画像処理の各処理について説明でき、さらに空間フィルタ及び2値画像処理を用いて画像から物体を取り出す方法を説明できる。	空間フィルタ、2値画像処理の各処理についてほとんど説明でき、さらに空間フィルタ及び2値画像処理を用いて画像から物体を取り出す方法をほとんど説明できる。	空間フィルタ、2値画像処理の各処理について説明できない。さらに空間フィルタ及び2値画像処理を用いて画像から物体を取り出す方法を説明できない。		
評価項目3 (到達目標 4, 5)	画像パターン認識、クラスタリングの各処理について説明でき、さらにこれらの処理を組み合わせるための方法を説明できる。	画像パターン認識、クラスタリングの各処理についてほとんど説明でき、さらにこれらの処理を組み合わせるための方法をほとんど説明できる。	画像パターン認識、クラスタリングの各処理について説明できない。さらにこれらの処理を組み合わせるための方法を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	画像データの基礎的な処理技術について学習する。				
授業の進め方・方法	予備知識：情報処理全般について理解しておくこと。 講義室：5 S教室 授業形態：講義と演習 学生が用意するもの：特になし 参考書・補助教材：画像処理工学 (村上伸一 東京電機大学出版局)、デジタル画像処理入門 (酒井幸市 コロナ社)、パターン認識と画像処理 (鳥脇純一郎 コロナ社)				
注意点	評価方法：試験 (中間・定期) の平均点を80%、演習・課題を20%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：授業後の復習をしっかりと行い、授業中に出現する演習問題を必ず自分で解くこと。また、試験前には、授業中に説明した例題、演習問題等の内容を理解できていること。 オフィスアワー：水曜日、木曜日の16:00～17:00				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	画像工学の基礎	画像処理の位置づけ、アナログ画像からデジタル画像への変換を説明できる。	
		2週	画像工学の基礎	濃度ヒストグラム、画像の濃度変換の原理を説明できる	
		3週	画像工学の基礎	画像の拡大・縮小、平行移動、回転などの幾何学的変換を説明できる。補間について説明できる。	
		4週	フィルタリング	雑音除去フィルタ (平均値フィルタ、メディアンフィルタなど) を説明できる。	
		5週	フィルタリング	エッジ検出フィルタ (微分フィルタの係数の導出、エッジ検出) を説明できる。	
		6週	フィルタリング	特徴抽出フィルタを説明できる。	
		7週	2値画像処理	2値化処理、4連結と8連結、ラベリング処理アルゴリズムを説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	2値画像処理	距離変換アルゴリズム、膨張・収縮演算アルゴリズムを説明できる。	
		10週	2値画像処理	輪郭線追跡アルゴリズムを説明できる。	
		11週	画像パターン認識	パターン認識の構成について説明できる。	
		12週	画像パターン認識	パターン間距離、類似度を説明できる。最近傍決定則、線形識別関数を説明できる。	
		13週	画像パターン認識	DPマッチングによるパターン認識を説明でき、距離の計算ができる	
		14週	画像パターン認識	k平均クラスタリング、階層型クラスタリングを説明できる。	
		15週	画像処理システムの実例	文字認識の原理を説明できる。	
		16週	定期試験		
評価割合					
	試験	課題・レポート	その他	合計	

総合評価割合	80	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	システム工学	
科目基礎情報						
科目番号	0074		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	なし					
担当教員	寺山 康教					
到達目標						
1. システムについて設計、管理、最適化の概念を理解することができる 2. ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。 3. 線形、非線形システムの最適化を説明できる。 4. システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している。 5. プロジェクト管理の必要性について説明することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 (到達目標 1、2)	システムに必要な条件と目的をモデル化し具体的な設定、目的関数の最適化を様々な手段で説明し解くことができる。さまざまな一般的なシステムの設計と必要な管理のポイントを系統的に知りシステム設計と管理においての問題および解決方法を考察できる。	システムに必要な条件と目的を設定し目的関数の最適化を説明し解くことができる。さまざまな一般的なシステムの設計と必要な管理のポイントを知りシステム設計の際考慮できる。	システムに必要な条件と目的を設定し目的関数の最適化を説明できず解くことができない。さまざまな一般的なシステムの設計と必要な管理のポイントを知らずシステム設計に取り入れられない。			
評価項目2 (到達目標 3)	線形最適化問題と非線形最適化問題の違いを説明でき、最適化問題について様々な方法がある事を理解しそれを利用して解くことができる。	線形最適化問題と非線形最適化問題の違いを説明し、簡単な最適化問題について解くことができる。	線形最適化問題と非線形最適化問題の違いが説明できず、簡単な最適化問題についても解くことが出来ない。			
評価項目3 (到達目標 4、5)	一般的システムの設計に際しハードウェアとソフトウェアの両面からシステムを考慮の際に出てくる問題を考察でき、対処するためのプロジェクト管理の重要性を説明できる。	一般的システムの設計に際しハードウェアとソフトウェアの両面からシステムを考慮ことができ、運用までのプロジェクト管理の重要性を説明できる。	一般的システムの設計に際しハードウェアとソフトウェアの両面からシステムを考慮することができずプロジェクト管理を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	システムとは何か、システム工学の考え方、システム設計管理および最適化手法を中心にコンピュータが関わるシステムの在り方を学ぶ。					
授業の進め方・方法	予備知識：微分積分、線形代数、確率統計を基礎とし、コンピュータの基本的知識を理解しておくこと。 講義室：5S教室 授業形式：講義と演習 学生が用意するもの：ノート、電卓					
注意点	評価方法：中間・定期試験の試験の得点を平均して評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：授業内容におけるコンピュータとシステム工学の関わりと手法概要を自己学習で把握し、講義中の練習問題と解法について理解すること。 オフィスアワー：なし					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	システムの定義、歴史、考え方	システムの定義とシステム工学の考え方が理解できる		
		2週	システムの様々な例と設計方針	要求と目的に合ったシステムの設計方針と構成の決定の考え方を理解できる		
		3週	システムとモデル	要求に従った様々なシステムモデルと設計プロセスを説明できる		
		4週	システムの設計と管理	プロジェクト管理の必要性について説明することができる		
		5週	コンピュータシステムと数学	コンピュータシステムと数学の関わる例を説明できる		
		6週	シミュレーションと確率分布	コンピュータシミュレーションの必要性を理解できる		
		7週	線形システムの最適化と最小二乗法	線形システムの最適化と最小二乗法について説明できる		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	目的関数と最適化	目的関数と最適化手法の関連性を説明できる		
		10週	順問題と逆問題	順問題と逆問題を理解し逆問題の解法を理解できる		
		11週	逆行列と一般化逆行列	逆行列と一般化逆行列を理解して計算できる		
		12週	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法を説明できる		
		13週	微分法と凸関数	微分法と凸関数の特徴を説明できる		
		14週	線形計画法、シンプレックス法	線形計画法、シンプレックス法を用いて計算できる		
		15週	線形システム最適化のまとめ	さまざまな線形システム最適化について理解できる		
		16週				
後期	3rdQ	1週	線形システムと非線形システム	線形システムと非線形システムの違いを説明できる		
		2週	非線形システムとコンピュータ	非線形システムとコンピュータの関わりを理解できる		
		3週	最急降下法	最急降下法を用いて計算できる		

4thQ	4週	共役勾配法	共役勾配法を用いて計算できる
	5週	勾配法の利点、欠点	勾配法の利点、欠点を説明できる
	6週	シミュレーテッドアニーリング	シミュレーテッドアニーリングを説明できる
	7週	非線形システム最適化のまとめ	さまざまな非線形システム最適化について理解できる
	8週	中間試験	
	9週	動的計画法	動的計画法と多段過程の関わりを説明できる
	10週	ベルマンの最適性の原理	ベルマンの最適性の原理を理解できる
	11週	最短経路問題	最短経路問題を動的計画法を用いて計算できる
	12週	システムとコンピュータ	システムの最適化とコンピュータの関わりについて理解できる
	13週	システムプロジェクト管理	システム設計と計画、工程の管理について理解できる
	14週	システム設計とハードウェア	システム設計に要求される機能をハードウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している
	15週	システム設計とソフトウェア	システム設計に要求される機能をソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している
	16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100